

# 大 学 院 履 修 案 内

平 成 19 年 度  
( 2 0 0 7 年 度 )

慶 應 義 塾 大 学  
文 学 研 究 科

本案内は、大学院文学研究科における履修の方法、手続きと講義内容を記載したものです。学生諸君は本案内を熟読したうえで、履修する授業科目を申告してください。

履修申告を期日に行わない者は、退学の処置にすることがあります（学則 161 条）。

申告後の履修科目変更、追加、取消は認めません。又、履修届の閲覧も認めませんので「履修届」の本人用控え（コピー）を手許に残し、後日送付する確認表と合わせて確認の上、年度末まで必ず保管して下さい。この確認を怠った為に生じた不利益（申告漏れ、科目間違い等）については学校側は一切責任を持ちません。確認期間は送付後約一週間（詳しくは提示により指示します）で、この期間経過後は、確認を終了したものと見做します。

申告をしていない授業科目を受験しても一切無効であり、単位は取得できません。

# 目 次

学事関連スケジュール	4
一般注意事項	6
履修申告方法	18
履修要項	28
講義要綱	33
修士課程設置	
哲学・倫理学専攻	34
美学美術史学専攻	47
史学専攻	57
国文学専攻	68
中国文学専攻	78
英米文学専攻	81
独文学専攻	93
仏文学専攻	99
図書館・情報学専攻	103
博士課程設置	
哲学・倫理学専攻	114
美学美術史学専攻	116
史学専攻	119
国文学専攻	122
中国文学専攻	123
英米文学専攻	125
独文学専攻	127
仏文学専攻	130
図書館・情報学専攻	132
全研究科共通（修士・博士課程共通）	136
他大学大学院との相互科目履修に関する協定	171
関係規程抜粋	173
学位請求論文製本表紙見本	181

## 平成19年度(2007 年度)学事関連スケジュール(三田)

春 学 期	4月2日(月) 12:30~	成績証明書発行開始
	3日(火) 10:45~12:15	情報処理教育室設置講座ガイダンス(516番教室)
	5日(木) 10:45~12:15	国際センター在外研修プログラムガイダンス(526番教室)
	14:45~15:45	教育実習事前指導(2007年度実習予定者)(519番教室)
	18:00~18:30	情報資源管理分野(修士), 図書館・情報学専攻(博士)資料配布(314番教室前)
	18:30~	情報資源管理分野(修士), 図書館・情報学専攻(博士)ガイダンス(314番教室) 図書館・情報学分野(修士)は4月6日(金)に行います。
	6日(金) 9:00~	大学院入学式 西校舎ホール
	11:30~13:00	履修案内等資料配布(133番教室) アート・マネジメント分野(修士), 情報資源管理分野(修士), 図書館・情報学専攻(博士)は除く
	13:30~	文学研究科全体ガイダンス(教室は掲示します) アート・マネジメント分野(修士), 情報資源管理分野(修士), 図書館・情報学専攻(博士)は除く
	18:00~18:30	アート・マネジメント分野(修士)資料配布(313番教室前)
	18:30~	アート・マネジメント分野(修士)ガイダンス(313番教室)
	16:30~18:00	教職課程ガイダンス(大学院生対象)(516番教室)
	18:10~19:10	教育実習ガイダンス(2008年度実習予定者)(311番教室)
	7日(土) 13:00~13:30	アート・センターガイダンス(513番教室)
	9日(月)	春学期授業開始
	13日(金) 10:00~17日(火) 14:00まで	Webによる履修申告期間
	17日(火) 8:45~14:00	用紙による履修申告日
	19日(木) 9:00~ 予定	学事 Webシステム履修科目確認画面稼働開始
	24日(火) ~16:45まで	Webによる履修登録科目一覧提出締切日(学事センター)
	23日(月)	開校記念日【休校】
	27日(金)	在学料等納入期限(全納または春学期分納)
	5月初め	履修申告科目確認表送付(本人宛)
	上・中旬	健康診断
	7日(月)~	修士課程2年生修了見込証明書発行開始
		博士課程3年生単位取得退学見込証明書発行開始
	7日(月)~9日(水) 予定	履修エラー修正期間(期間は履修申告科目確認表に記載)
	下旬	早慶野球戦
	7月10日(火)	春学期土曜代替講義日
	11日(水)	春学期月曜代替講義日
	14日(土)	春学期授業終了
	17日(火)	春学期補講日
18日(水)~26日(木)	春学期末試験(この期間の授業はありません)	
27日(金)~9月21日(金)	夏季休業(8月9日(木)~8月15日(水)三田キャンパス一斉休業)	

秋	9月22日（土）・25日（火）	秋学期ガイダンス ※文学研究科のガイダンスはありません	
	26日（水）	秋学期授業開始	
	28日（金）	9月学位授与式	
	10月31日（水）	在学料等納入期限（秋学期分納）	
	下旬	早慶野球戦	
	11月20日（火）1・2時限	秋学期補講日①	
	20日（火）3時限～26日（月）	三田祭（準備、本祭、後片付けを含む）【休講】	
	30日（金）	休学願提出期限	
	12月23日（日）～1月5日（土）	冬季休業（12月28日（金）～1月6日（日）三田キャンパス一斉休業）	
	1月7日（月）	秋学期授業開始	
	10日（木）	福揮先生誕生記念日【休校】	
	16日（水）	秋学期土曜代替講義日	
	18日（金）	秋学期月曜代替講義日	
	21日（月）	秋学期授業終了	
	22日（火）	秋学期補講日②	
	学 期	23日（水）～2月5日（火）	秋学期末試験（この期間の授業はありません）
		31日（木）10：00～11：30, 12：30～14：00	修士学位論文提出
2月3日（日）		福澤先生命日	
上旬～3月下旬		春季休業	
下旬		博士課程3年生 在学期間延長・所定単位取得退学申請	
		修士論文面接	
3月10日（月）		修士課程修了者発表	
中 旬		学業成績表送付（本人宛）	
	28日（金）	3月学位授与式	

## 注意事項

### ・代替講義日

土曜代替講義日（7月10日（火）、1月16日（水））には、実際の曜日にかかわらず、土曜開講の授業が行われます。月曜代替講義日（7月11日（水）、1月18日（金））には、実際の曜日にかかわらず、月曜開講の授業が行われます。土曜または月曜開講の授業を履修している学生は、それぞれの代替講義日に注意してください（代替講義日には、土曜・月曜以外の曜日の授業は行われません）。

### ・補講日

補講日（7月17日（火）、11月20日（火）午前、1月22日（火））には、実際の授業開講曜日にかかわらず、補講を行うことがあります。補講実施科目については、休講・補講掲示で確認してください（補講日に設定されている火曜日の授業は、補講にならない限り行われません）。また、補講日以外の通常授業時でも補講を行うことがありますので、掲示板をよく確認してください。

- ・土曜・日曜・祝日・義塾が定めた休日および大学事務の休業期間には、学事センター窓口業務を執り行いません。証明書発行等も行わないので注意してください。なお、ここに記載されている期間以外でも窓口を閉めることがあります。随時、掲示およびHPにてお知らせします。

<http://www.gakuji.keio.ac.jp/life/mado/index.html>

- ・諸般の事情により、日程・教室等が変更されることがあります。変更があった場合は、学内掲示板にてお知らせします。掲示に注意しなかったために、自身が不利益をこうむることもありますので、必ず注意してください。

- ・共通掲示板、学部掲示板、諸研究所掲示板等に注意してください。

# 一 般 注 意 事 項

## I 学 生 証（身分証明書）

1. 学生証は、諸君が慶應義塾大学大学院生であることを証明する身分証明書です。同時に慶應義塾大学学生健康保険互助組員証、および本塾図書館入館票を兼ねています。
2. 学生証は次のような場合に必要となるので登校の際常に携帯しなければなりません。
  - (1) 本塾教職員の請求があった場合
  - (2) 各種証明書および学割証の交付を受ける場合
  - (3) 各種試験を受験する場合
  - (4) 通学定期券または学生割引乗車券を購入の際、およびそれを利用して乗車船し係員の請求があった場合
3. 通学定期券の発売区間は、「自宅最寄駅」から「学校最寄駅」の最も経済的な経路による区間に限ります。学生証裏面シールの通学区間欄は、必ず「自宅最寄駅」から「学校最寄駅」を明記してください。住所変更に伴い通学区間が変わった場合は、必ず学事センター窓口にて区間変更手続きを行ってください。なお、通学区間が適正でない場合、通学定期券の発売が停止されます。
4. 再交付手続  
学生証を紛失したり、汚損した場合は、写真（縦4 cm，横3 cm カラー光沢仕上げ）1枚を添えて学事センターで再交付を受けてください。新しい学生証は原則、当日発行いたします。ただし、機械のメンテナンス、故障等により当日発行できないこともありますのでご了承ください。  
学生証の紛失、裏面シールの紛失については、手数料として2,000円が必要です。
5. 返 却  
再交付を受けた後、前の学生証が見つかった場合や退学・修了などで離籍した場合はただちに学事センターへ返却しなければなりません。

## II 掲 示 板

1. 学生諸君への通達事項は、すべて大学院校舎1階の掲示板に掲示されます。毎日機会あるごとに、掲示板に注意してください。掲示に注意しなかったために、諸君自身が非常な不利益を被ることもあります。  
なお、他研究科・学部設置科目を履修した場合は、その科目を設置している研究科・学部の掲示板に注意してください。諸研究所、各センター設置科目・講座等については、各研究科掲示板の右側にある共通掲示板および学部共通掲示板をご覧ください。
2. 主な掲示事項は、授業の休講・補講、時間割の変更、教室の変更等毎日の授業に直接関係ある緊急通達、各試験の実施要領、学事日程、呼出し等です。休講・補講、呼出しについては、インターネット

トに繋がるパソコンまたは携帯電話により学事 Web システム (<http://gakuji2.adst.keio.ac.jp/>)  
においても確認できます。また、試験の実施要領、各種発表・通達の一部については塾生ページ  
(<http://www.gakuji.keio.ac.jp/>) において確認できます。

### Ⅲ 試験・レポート・成績

#### 1. 試験

随時授業時間内に行われます。別途指示がある場合には掲示される場合がありますので、掲示板にも留意してください。

#### 2. レポート

レポート提出は、教室および研究室で直接教員に提出する場合と、学事センターに提出する場合があります。学事センターへの提出を指示された場合は、学事センター指定のレポート提出用紙（2枚複写）に必要事項を記入し、添付してください（2枚とも）。レポート提出用紙は学事センター窓口に備えてあります。

##### 学事センターレポートボックス受付時間

火・水曜日、木・金曜日…… 8時45分～16時45分

※受付曜日・時間等を変更する場合は、掲示等でお知らせします。

#### 3. 学位請求論文（修士論文・博士論文）

履修要項 28 ページを参照してください。

#### 4. 成績通知

修士課程・博士課程とも学業成績表は3月中旬に本人宛に発送します（ただし、取得した科目の成績が成績証明書に記載されるのは、翌年度の4月以降となります）。

### Ⅳ 諸 届

下記事項はすべて学事センターで取り扱います。

#### 1. 休学願・退学届・就学届

本年度休学する場合は、11月末日までに指導教授の許可を得たうえで休学願を学事センターに提出してください。病気を理由に休学する場合は、医師の診断書を添付してください。休学期間は当該年度末（3月31日）までとします。休学が次の年度に及ぶ時は、改めて許可を得なければなりません。

休学および留学の期間が終了した場合は、速やかに就学届を提出してください。

なお、病気を理由に休学をしていた場合には併せて復学を認める医師の診断書を提出してください。

退学予定者は、退学届に本人・保証人の署名捺印の上、学生証を添えて指導教授の許可を得たうえで学事センター窓口に提出してください。

#### 2. 留 学

「研究科委員会が教育上有益と認めたときは、休学することなく外国の大学の大学院に留学することを許可することがある。」（学則第124条）

詳しくは履修要項 30 ページを参照の上、学事センター文学研究科係に問い合わせてください。

3. 住所変更届（本人・保証人），保証人変更届，改姓（名）届，国籍変更

各届とも学事センター所定の用紙に記入のうえ速やかに学事センターへ届け出てください。学生証の記載事項変更も同時に行ってください。郵送および電話による届け出は受け付けません。

必要書類

- ・住所変更届：在学カード
- ・保証人変更届：変更届，在学カード，誓約書（本人・保証人押印），保証人住民票
- ・改姓（名）届：改姓(名)届，在学カード，誓約書(本人・保証人押印)，戸籍抄本，学生証再交付願
- ・国籍変更：戸籍謄本（コピーでも可），住民票

なお，履修上の連絡，あるいはその他の重要な事柄の処理に際し，これらの変更届が出されない場合は，極めて重要な支障をきたすことがありますので，十分に注意してください。



## V 各種証明書

証明書発行，申込み，受け取りはいずれの場合にも学生証が必要です。在学料等が未納の場合は，すべての証明書が発行できません。

【各種証明書一覧】 ※料金は改定されることがあります。

証明書種類		三田	手数料	備考
在学証明書	和文	●	200円	4月2日 12時30分～発行
	英文	●*		
成績証明書	和文	●	200円	5月7日～修士課程2年生のみ発行
	英文	●*		
修士課程修了見込証明書	和文	●	200円	5月7日～修士課程2年生のみ発行
	英文	●*		
修士課程修了見込証明付成績証明書	和文	●	400円	
履修科目証明書	和文	●	200円	6月1日～発行
	英文	○		
健康診断証明書	和文	●	200円	6月中旬～年度末まで発行
	英文	×	—	大学保健管理センターで発行します (詳細は保健管理センターにお問合せください)
教育課程終了見込証明書 (単位取得退学見込証明書)	和文	○	200円	博士課程単位取得退学予定者のみ
	英文	○		
特殊証明書	各種資格試験等受験用単位取得証明書	○	200円	所属キャンパス学事センター窓口で申請してください
	提出先所定の用紙(リクエストフォーム)を要する証明書	○		
	科目等履修生・研究生に関する各種証明書	○		
その他	学割証(JR各社共通)	●	無料	定期健康診断を未受診の場合には発行できません
	通学証明書	◎		学生証で購入できない区間(鉄道会社を3社以上使用する場合)またはバスなど。所属キャンパス学事センター窓口で申請してください
	厳封を必要とするもの(和文・英文)	○	—	厳封が必要な場合は，証明書自動発行機で発行できる証明書でも窓口で申請してください

凡例 ● 自動発行機で即日発行 ◎ 窓口で即日発行 ○ 窓口で数日後発行 × 発行不可

＝注意事項＝

【証明書自動発行機で即日発行する証明書】

<和文>

- ① 学割証は1人1年間10枚まで発行。有効期限は発行日から3か月以内(有効期限内でも学籍を失った場合は無効)。各種学生団体の課外活動に必要な学割証は学事センターに申し出てください。なお、定期健康診断が未受診の場合には、学割証の発行はできません。
- ② 厳封が必要な場合は，学事センター窓口で申し出てください(自動発行機で発行した証明書は厳封できません)。
- ③ 健康診断証明書は6月中旬以降，当該年度の定期診断受診者に発行されます。なお，奨学金申請等で6月中旬以前に証明書が必要な場合は，保健管理センター三田分室受付に相談してください。

## <英文>※

2003年4月以降の入学者は証明書自動発行機で発行できます。それ以前に入学した学生については窓口での発行となります。ただし、2004年4月以降、窓口で一度英文証明書の交付を受ければ、その翌日から証明書自動発行機での発行が可能になります。

### 【学事センター窓口で日数を要して発行する証明書】

特殊証明書等（例：英文履修科目証明書、他大学院受験等のための形式指定の調査書等）の発行に関しては、あらかじめ所属するキャンパスの学事センター窓口で相談のうえ申請してください。なお、交付には、申請してから和文証明書は標準3日、英文証明書は標準7日を要しますので、余裕をもって所属するキャンパスの学事センター窓口にお越しください。

### 【証明書自動発行機稼働時間】

- ・三田キャンパス 学事センター事務室内：月曜日～金曜日 8時45分～16時45分  
(休業期間中の11時30分～12時30分は閉室)
- 南校舎1階：月曜日～土曜日 9時～20時  
(休業期間中の土曜日および休日・大学休業日は除く)

注1) 自動発行機は所属キャンパスに関係なく利用できます。

注2) メンテナンス、故障等により自動発行機を停止することがありますので、HP・掲示板等で確認してください。

### 【前学籍証明書の発行について】

2006年度秋学期より前学籍成績証明書・前学籍卒業（修了）証明書を自動発行機から発行できるようになりました。前学籍証明書発行対象者は慶應義塾の学部・修士課程を卒業・修了した在学生になります。卒業・修了された学部・大学院、また卒業・修了年度によっては発行されない場合があります（下記注1～3を参照してください）。

証明書種類		手数料
前学籍成績証明書（学部）	和文	1通 400円
	英文	
前学籍成績証明書（修士）	和文	1通 400円
	英文	
前学籍卒業証明書（学部）	和文	1通 400円
	英文	
前学籍修了証明書（修士）	和文	1通 400円
	英文	

注1) 所属地区にかかわらず、三田・日吉・矢上・湘南藤沢の証明書自動発行機で発行可能です。なお、証明書自動発行機を使用していない信濃町地区（看護医療学部生を除く）・経営管理研究科は従来どおり、発行できません。

注2) 英文の証明書発行については2003年4月以降の入学者は証明書自動発行機にて発行します。その他の学生については従来どおり窓口での発行となります。ただし、2004年4月以降、窓口で英文証明書の申請・交付を受けたことがある場合は、その翌日から証明書自動発行機での発行が可能となります。

注3) 証明書自動発行機で発行される前学籍証明書は、以下の通りになります。

該当学部・大学院		発行可能卒業・修了年月日
文・経・法・商・社	学部	1978年3月31日以降
	大学院	1991年3月31日以降
理工（工）	学部	1983年3月31日以降
	大学院	1984年3月31日以降
総合・環境・看護・政メ・健マネ	学部	1990年4月1日以降
	大学院	1990年4月1日以降

## VI 学事センターの窓口

### 1. 学事センター事務取り扱い時間

月～金曜日…… 8時45分～16時45分（休業期間中の11時30分～12時30分は閉室）

※土曜、日曜、祝日、義塾が定めた休日および大学事務の休業期間は閉室となります。

※事務取り扱い時間を変更する場合、および事務室の閉室については、掲示等でお知らせします。

### 2. 学事センター窓口業務

- (1) 学籍・成績・履修に関すること
- (2) 授業・試験・レポート等に関すること
- (3) 時間割に関すること
- (4) 休講・補講に関すること
- (5) 追加試験の申込み（学部設置の科目）
- (6) 休学願・国外留学申請・退学届・住所変更届・保証人変更届・改姓（名）届・国籍変更等
- (7) 学生証の発行
- (8) 成績証明書・在学証明書等各種証明書の発行（おもに証明書自動発行機）
- (9) 教室に関すること
- (10) 通学証明書の発行
- (11) 修士課程修了後および博士課程単位取得退学後の各種証明書の発行

落とし物は学生総合センター学生生活支援窓口が取り扱います。

### 3. 教室使用申請について

三田キャンパス

- (1) 受付窓口（利用者により受付窓口が異なりますのでご注意ください）

	利 用 者		
	研 究 会	学 生 団 体	外 部 団 体
授業期間	三田学事センター	三田学生総合センター学生生活支援	管財部管財担当
休業期間	三田学事センター	使用できません	管財部管財担当

### (2) 授業期間中の教室使用申請

- ① 研究会での教室使用の申請は、学事センターに「学内集会届」を提出してください。

- ② 学生団体の場合は、学生総合センター学生生活支援窓口にて「学内集会届」を提出してください。
- ③ 申請は使用予定日の2週間前から3日前まで受け付けます（注）。ただし、土曜・日曜・祝日・義塾が定めた休日および定期試験期間中は原則として申請を受け付けません。
- ④ 「申請者控」は、研究会は学事センター、学生団体は学生総合センター学生生活支援窓口でお受け取りください。
- ⑤ 外部団体が使用する場合は、施設使用費等が必要となりますので、管財担当までお問い合わせください。

（注）土曜、日曜、祝日、義塾が定めた休日および大学事務の休業期間を除いた3日前とします。

### (3) 休業期間中の教室使用申請

- ① 研究会での教室使用の申請は、学事センターに「学内集会届」を提出してください。提出にあたっては、「会長名」欄（3枚複写の3枚とも）に研究会担当専任教員の印またはサインが必要となります。
- ② 学生団体の場合は、原則として使用できません。
- ③ 申請は使用予定日の3日前まで受け付けます（注）。ただし、土曜・日曜・祝日・義塾が定めた休日および大学事務の休業期間中（8月中旬および年末年始）は原則として申請を受け付けません。
- ④ 「申請者控」は、学事センターでお受け取りください。
- ⑤ 外部団体が使用する場合は、施設使用費等が必要となりますので、管財担当までお問い合わせください。

（注）土曜、日曜、祝日、義塾が定めた休日および大学事務の休業期間を除いた3日前とします。

## VII 教員を訪ねる場合

授業のある日に研究室または教員室を訪ねてください。

- 専門科目担当（三田）専任教員（教授・准教授・専任講師・助教）……研究室（三田研究室棟）
- 他地区専任教員および塾外からの出講者（講師）……教員室（南校舎2階）

## VIII 学生総合センター窓口

学生総合センターには、主に課外活動・課外教養・奨学金および学生健康保険互助組合を担当する学生生活支援窓口、就職進路支援を行う就職・進路支援窓口があります。ここでは、学生総合センターの窓口業務について紹介します。

### 学生生活支援窓口

- 学生談話室 A・B の使用申込み受付

授業・ゼミ以外の会合のために学生談話室 A・B を使用したい時は、使用希望日の4日前までに申し込んでください。休日の使用はできません。

- 学生食堂（山食、西校舎学生食堂（生協食堂）、北館学生食堂（ザ・カフェテリア））の使用申込み受付  
公認学生団体・教職員・OB・研究会等が、学生食堂をパーティー等で利用する場合は、学生生

活支援担当が予約受付窓口となります。予約後2週間以内に学内集会届を提出し正式申込をしてください。学内集会届が提出されなかった場合、予約が取り消されることがありますので注意してください。食事の内容等については学内集会届提出後、学生食堂に直接相談してください。なお、日曜・祝日は利用できません。

○学外行事届，団体割引の受付

公認学生団体や研究会で、合宿・コンサート・パーティーなどの学外行事を行う場合には、その4日前（土・日・祝日を除く）までに学外行事届を提出してください。あわせて団体割引が必要な場合は申し出てください。なお、届け出があった活動は傷害保険の対象となります（学生教育研究災害傷害保険の項参照）。

○学内における掲示・配布

ポスターやチラシ・パンフレット等を学内で掲示・配布する場合は、学生生活支援窓口へ届け出て、許可を受けることが必要です。

○備品使用申請の受付

ステッカー、ワイヤレスマイク、塾旗、水差、椅子、机等を借用したい場合は、使用希望日の4日前までに申請してください。

○車輛入構申請の受付

塾生の車輛入構は認められていませんが、やむを得ず車輛入構の必要がある場合は、入構希望日の4日前までに申請してください。

○学生ラウンジの使用

南校舎1階の学生ラウンジは、個人での利用ができます。開室時間は8時45分～21時です。室内での飲食はできません。

○伝言板および「DENGON」の利用

学生ラウンジ横の黒板および、第一校舎南西角の伝言板「DENGON」は、塾生間の連絡用として利用できます。A4用紙1枚のみ掲示可能ですが、必ず伝言者の研究科・学年・氏名・連絡先を明記してください。なお、DENGONに掲示するには学生総合センター窓口へ申し出て掲示物受付簿を記入してください。

○大学生生活懇談会について

学生総合センター「大学生生活懇談会」では、講演会や見学会をはじめスキー企画等さまざまな催物を随時行っています。多くの方のご参加をお待ちしております。企画内容については構内のチラシやポスター、学生総合センターホームページをご参照ください。

○遺失物の取り扱い

届けられた遺失物は学生生活支援窓口にて保管しています。

○その他窓口配付・閲覧関係

窓口には財団法人セミナーハウスの利用案内や展覧会等の割引券・招待券が置いてあります。ボランティア募集や公募関係の案内もファイルされていますのでご自由に閲覧してください。

○奨学金

奨学金窓口において、概ね4月初旬から奨学金案内を配布し、出願受付を行います。

・慶應義塾大学大学院奨学金〔給付〕

5月中旬に出願受付を行います。募集日程は西校舎1階中央ホール学生総合センター掲示板に掲示します。

・日本学生支援機構奨学金〔貸与〕

4月上旬から中旬に出願受付を行います。第一種(無利子)と第二種(きぼう21プラン)(有利子)があります。その他に家計急変者を対象とした緊急採用(第一種)・応急採用(第二種)があります。募集日程は西校舎1階中央ホール学生総合センター掲示板に掲示します。

・地方公共団体、社・財団法人等の各種奨学金〔給付・貸与〕

募集は主に4・5月に行います。募集日程はその都度、西校舎1階中央ホール学生総合センター掲示板に掲示します。

・指定寄付奨学金〔給付〕

募集は主に4月に行います。募集日程はその都度、西校舎1階中央ホール学生総合センター掲示板に掲示します。

○奨学融資制度(利子給付奨学金制度付き学費ローン)

学生諸君の学費の調達の手助けになるよう配慮した制度で、学生本人に金融機関が低金利で学費を直接貸し出しする方式です。在学生であれば、誰でも申請することが可能です。在学中の借りに伴う利子は、規程に従い、慶應義塾が奨学金として給付します。

入学年度等により、適用制度が異なりますので、詳細は奨学金窓口までお問い合わせください。

○学生健康保険互助組合

保険証を提示し、病院や診療所で受診した場合、健康保険が適用された自己負担分の一部について、学生健保から医療費給付が受けられます。給付を受けるための手続きは、医療機関によって異なりますので、以下に従って手続きしてください。なお、給付方法は銀行振込となりますので口座登録が必要です。

(1) 慶應病院で受診した場合

病院で診察を受ける際、保険証と学生証を提示してください。また「医療給付金振込口座届」を学生生活支援窓口へ提出し、振込口座を登録してください。通院は受診月の翌月20日に、入院は翌々月20日に、給付金が振り込まれます。

(2) 一般病院で受診した場合

学生生活支援窓口においてある「医療費領収証明書」に、病院で1か月ごとの診療内容を記入してもらい、塾生記入欄を各自記入して、学生生活支援窓口へ提出してください。ただし、「学生氏名」「保険点数または保険適用金額」「負担割合」の3点が明示された領収証が発行されている場合は領収証の添付でかまいませんが、必ず「医療費領収証明書」に保険者番号、傷病名等を記入して提出してください。受診月を含め、4か月以内に提出されない場合は無効となります。振込日は証明書を提出した月の翌月20日です。

組合ではこのほか、契約旅館に対する宿泊費補助や、海の家、スキーハウスの開設などを行っています。さらに、日吉塾生会館内にトレーニングルームも設置しています。詳しくは、入学時に配付した「健保の手引き」(学生総合センターにも置いてあります)をご参照ください。

## 就職・進路支援

就職・進路支援は、就職活動に関するさまざまな情報を収集して提供しています。企業からの求人票・説明会案内をはじめ、会社案内、OB・OG情報、インターンシップ情報などを、南校舎地下1階の学生総合センター就職・進路支援、1階の就職資料室にて、自由な利用に供しています。また、ホームページでは、求人企業一覧や説明会案内なども掲載しています。

修士1年生に対しては、10月から2月にかけて多様な専門家等による講演会、就職ガイダンス、公務員志望者のための説明会、OB・OGや内定者によるパネルディスカッションなどをキャンパス内で開催しています。また、就職活動の進め方を解説した『就職ガイドブック』を作成し、修士1年生全員に配布しています。皆さんが就職活動をするなかでわからないこと、困ったことがあった場合など、いつでも個別相談にも応じています。

就職・進路支援を皆さんの進路決定や就職活動におおいに利用してください。

### 学生相談室（西校舎地下2階）

学生相談室は、学生生活を送っていく中で出会うさまざまな事柄について、気軽に相談できるところです。相談には、可能な限りその場で応じますが、原則として予約制となります（電話予約可）。相談内容については、固く秘密を守ります。友人や家族と一緒に来談されても結構です。また、相談内容によっては、必要に応じて他部署・他機関への紹介も行います。

また、学生相談室では、カウンセリングだけでなくより豊かで充実したキャンパスライフをおくれるよう、さまざまなグループ企画を用意しています。参加ご希望の方はお問い合わせください。

### 学生総合センター窓口取扱時間

—学生生活支援、就職・進路支援—

月～金曜日……8時45分～16時45分（休業期間中の11時30分～12時30分は閉室）

※都合により閉室することがあります。

土曜日……………閉室

—学生相談室—

月～金曜日……9時30分～16時30分

土曜日……………閉室

昼休み……………11時30分～12時30分

### 学生教育研究災害傷害保険について

諸君の教育研究活動中の不慮の災害事故補償のために、大学で保険料の全額を負担し、日本国際教育支援協会の「学生教育研究災害傷害保険」に加入しています。

この保険の適用を受ける「教育研究活動中」とは次の場合をいいます。

#### ① 正課を受けている間

講義、実験・実習、演習または実技による授業（総称して以下「授業」といいます）を受けている間をいい、次に掲げる間を含みます。

イ. 指導教員の指示に基づき、卒業論文研究または学位論文研究に従事している間。ただし、もっぱら被保険者の私生活にかかわる場所において、これらに従事している間を除きます。

ロ. 指導教員の指示に基づき、授業の準備もしくは後片付けを行っている間、または授業を行う場所、大学の図書館・資料室もしくは語学学習施設において研究活動を行っている間。

② 学校行事に参加している間

大学の主催する入学式、オリエンテーション、卒業式など、教育活動の一環としての各種学校行事に参加している間。

③ ①②以外で学校施設内にいる間

大学が教育活動のために所有、使用または管理している施設内にいる間。ただし、寄宿舍にいる間、大学が禁じた時間もしくは場所にいる間、大学が禁じた行為を行っている間を除きます。

④ 学校施設外で大学に届け出た課外活動を行っている間

大学の規則に則った所定の手続きにより、大学が認めた学内学生団体の管理下で行う文化活動または体育活動を行っている間。ただし山岳登山やハングライダーなどの危険なスポーツを行っている間を除きます。

保険金は本人（被保険者）の申請に基づき支払われますので、上記活動中に万一事故にあった場合は、学生生活支援窓口で相談のうえ、所定の手続きを行ってください。また、本保険の適用を円滑に行うため、ゼミ合宿を学外で行う場合、および公認学生団体が学外で活動する場合は、その都度「学外行事届」を提出してください。

その他この保険に関する詳細については、直接学生生活支援窓口で尋ねてください。

#### 任意加入の補償制度について

任意加入の補償制度としては、保険と共済の2つがあり、加入希望の場合は直接それぞれに申し込んでください。

「学生総合補償制度」は(株)慶應学術事業会（慶應義塾関連会社）に、「学生総合共済」・「学生賠償責任保険」は慶應生活協同組合に、資料請求してください。

連絡先 (株)慶應学術事業会 Tel. 03-3453-6098

慶應生活協同組合 Tel. 045-563-8489

## IX 定期健康診断について

定期健康診断は、学校保健法に基づいて全学年を対象に年1回実施しています。

慶應義塾大学学則第179条にも「学生は毎年健康診断を受けなければならない」と定められていますので、必ず受診してください。

未受診の場合には、「体育実技」の履修および健康診断証明書・学割証（学校学生生徒旅客運賃割引証）の発行はできません。

## X 緊急時における授業の取り扱いについて

交通機関ストライキ、台風・大雨・大雪・地震などの各種自然災害により鉄道等交通機関の運行が停止した場合や、政府や気象庁から「東海地震注意情報」が発せられた場合などの授業の取り扱いは次のとおりとします。

### 1. 鉄道等交通機関運行停止時の授業の取り扱い

#### 【対象事由】

1. 交通機関のストライキ
2. 台風・大雨・大雪・地震などの各種自然災害によるもの



### 【対象路線】

・山手線 ・中央線（東京―高尾間） ・京浜東北線（大宮―大船間） ・東急（電車に限る）  
のいずれか1路線の全区間または一部区間において運行停止となった場合は下記のとおりとします。

### 【時間・対応策】

1. 午前6時30分までに運行を再開した場合は、平常どおり授業を行います。
2. 午前8時までに運行を再開した場合は、第2時限から授業を行います。
3. 午前10時30分までに運行を再開した場合は、第3時限から授業を行います。
4. 正午までに運行を再開した場合は、第4時限から授業を行います。
5. 正午を過ぎても運行が再開されない場合は、当日の授業を休講とします。

### 【その他】

授業開始後に運行停止となるような場合は、状況により授業の短縮や早退など別途措置を講じます。掲示や構内放送、下記のホームページによる大学からの指示に従ってください。

<http://www.gakuji.keio.ac.jp/index.html>

※交通機関の運行状況にかかわらず、大規模な災害や事故等が発生した場合の授業の取り扱いについては、状況によりその都度指示することとします。

## 2. 政府や気象庁から「東海地震注意情報」が発せられた場合の授業の取り扱い

首都圏・東海地方を中心とする大規模な地震発生が予想され、政府や気象庁から「東海地震注意情報」が発せられた場合の授業の取り扱いは下記のとおりとします。

- [1] 「東海地震注意情報」が発せられた場合、ただちに全学休校とします。
- [2] 地震が発生することなく「東海地震注意情報」が解除されたときの対応は、交通機関運行停止時の場合に準じます。

## XI 早慶野球戦が行われる場合の授業について

授業は1時限のみとし、2時限以降は応援のため休講とします（3回戦以降もこれに準じます）。

ただし美学美術史学専攻（アート・マネジメント分野）および図書館・情報学専攻（情報資源管理分野）については、通常通り授業を行います。

雨天等により試合が中止になる時は、神宮球場の判断によります。

神宮テレフォンサービス TEL 03-3236-8000

# 履修申告方法

## 第1 履修申告について

### 1 履修申告方法について

原則として、学事 Web システムにより申告してください。やむをえない場合は履修申告用紙で申告できますが、二つの方法を併用することは出来ません。履修する全ての科目をどちらか一方の申告方法により申告してください。

学事 Web システムにより登録を行うと、即時にエラーチェックおよび一部の学則判定が行われ、メッセージが表示されます（ただし、最終的な履修科目およびエラー等の確認は、本人宛に送付する履修申告科目確認表で行ってください）。

### 2 注意事項

- (1) 履修申告を期日に提出しない者は、退学の処置にすることがあります（学則第 161 条）。
- (2) 履修申告用紙提出後の科目登録の確認を 5 月上旬頃行います。学事センターから履修申告科目確認表を郵送しますので、手元に残した履修申告用紙の控えと科目名、担当者名、曜日、時限、分野等を必ず確認のうえ、年度末まで大切に保管してください。**履修の確認は修正期間（5 月上旬予定）までに行い、修正すべき点または疑問点があれば、修正期間に必ず申し出なければなりません。**この確認を怠ったために生じた不利益（申告漏れ、科目間違いなど）は各自の責任となります。
- (3) 時間割は変更することがありますので、掲示で確認のうえ申告してください。
- (4) 履修申告をしていない授業科目を受験しても一切無効ですので、単位は取得できません。
- (5) 留学（学則 124 条）が認められた者および留学予定の者の履修申告については、学事センター文学研究科係まで問い合わせてください（P. 30「留学について」参照）。

## 第2 履修申告にあたっての注意事項

### 1 A 欄・B 欄について

履修申告欄は、A・B 欄によって構成されています。どちらの欄で申告するかは以下のとおりです。

〈A 欄に記入する科目〉

所属課程・所属専攻設置の科目

〈B 欄に記入する科目〉

上記以外の科目（認定科目、研究所等設置科目、自由科目として申告する科目）

なお B 欄で申告する際は、「2 分野表」の B 欄分野番号を指定の上、登録してください。

## 2 分野表

### 【修士課程在籍者】

修了必要 単位数	種 類	B 欄 分野番号	分野コード	A 欄・B 欄の区別
32単位	文学研究科 修士課程所属専攻 設置科目 (履修案内 p. 34～参照)	—	01-01-01	A 欄で申告すると自動的に 01-01-01 の分野で登録されます。
	上記以外の認定科目 ※指導教授の許可が必要 です	12	01-02-01	B 欄で、B 欄分野番号を指定した上 で登録してください。
	他 大 学 交 流 科 目	—	01-03-01	履修上限：8 単位まで（課程修了に 必要な単位として認定） 他大学大学院設置科目履修申告用紙 に記入の上、期間内に提出してくだ さい。許可された科目の履修申告は 学事センターが行います。
—	自 由 科 目	99	09-01-01	B 欄で、B 欄分野番号を指定した上 で登録してください。

### 【博士課程在籍者】

修了必要 単位数	種 類	B 欄 分野番号	分野コード	A 欄・B 欄の区別
12単位	文学研究科 博士課程所属専攻 設置科目 (履修案内 p.114～参照)	—	01-01-01	A 欄で申告すると自動的に 01-01-01 の分野で登録されます。
	上記以外の認定科目 ※指導教授の許可が必要 です	12	01-02-01	B 欄で、B 欄分野番号を指定した上 で登録してください。
—	自 由 科 目	99	09-01-01	B 欄で、B 欄分野番号を指定した上 で登録してください。

#### 〈認定科目〉(B 欄分野番号12)

研究上適当と認められた場合に限り、大学院学則の修士は11条、博士は18条に定める以外の科目をこの分野で登録出来ます。課程修了に必要な単位として計算されますので、この登録には指導教授の許可が必要となります。履修申告を行う時に、各科目の科目名欄に承認印※を受けてください。許可が無い場合は、自由科目として登録になります。

#### 〈自由科目〉(B 欄分野番号99)

課程修了に必要な単位としては計算されません。

### 3 指導教授の承認印について

履修申告用紙の指導教授印欄に指導教授の承認印が必要です。WEBによる履修申告をした場合、画面を印刷し、その用紙の「指導教員」欄および認定科目（B欄分野番号12）の科目名欄に承認印を受けたものを4月24日（火）16:45までに提出してください。承認印のないものは受けつけません。

※マークシートの場合は、承認印がマーク欄にかからないようにしてください。

B欄		B欄		B欄		B欄		B欄		B欄		B欄		B欄		B欄		B欄		B欄		
登録番号	分野	登録番号	分野	登録番号	分野	登録番号	分野	登録番号	分野	登録番号	分野	登録番号	分野	登録番号	分野	登録番号	分野	登録番号	分野	登録番号	分野	
1	1	2	2	3	3	4	4	5	5	6	6	7	7	8	8	9	9	10	10	11	11	
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

B欄		B欄		B欄		B欄		B欄		B欄		B欄		B欄		B欄		B欄		B欄		
登録番号	分野	登録番号	分野	登録番号	分野	登録番号	分野	登録番号	分野	登録番号	分野	登録番号	分野	登録番号	分野	登録番号	分野	登録番号	分野	登録番号	分野	
1	1	2	2	3	3	4	4	5	5	6	6	7	7	8	8	9	9	10	10	11	11	
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

補足欄

### 第3 学事 WEB システムマニュアル

学内のパソコンからは無論のこと、自宅や海外からでもインターネットに繋がるパソコンがあれば、学事 WEB システム（以下 WEB システム）を利用して履修申告をすることができます。

WEB システムを利用するための ID（学籍番号）とパスワードは、入学時に学生証と一緒に配布されます。このパスワードは途中変更は可能ですが、卒業するまでの間、使用することになります。全て個人管理になるので忘れないように十分注意してください。

WEB システムには以下の5つの機能があります。

- ・履修申告
- ・登録済科目確認
- ・休講補講情報
- ・パスワード変更
- ・学生呼出情報

WEB システムを利用すれば、履修申告期間中に履修登録の修正を何度もすることが可能です。また、履修申告期間終了後は、ある一定の期間で自分の登録した科目を Web 上で確認することができます。さらに、全キャンパスの休講補講情報を、パソコンや携帯電話を使って確認することができます。

#### …注 意…

- ・学事 Web システムは、4月2日（月）から休講情報の確認ができます。必ず4月6日（金）までにログインできることを確認してください。
- ・もし学事 Web システムのパスワードを忘れてしまった場合には、4月6日（金）までに学事センターでパスワード変更申請の手続きを行ってください（2006年度以前に入学した在学生の初期パスワードは、変更していない場合、2007年3月に送付した学業成績表に印字されています）。
- ・学内のパソコンを利用するための Windows パスワードを忘れてしまった場合には、三田インフォメーションテクノロジーセンター（三田 ITC：大学院棟地階）で変更申請の手続きを行ってください。
- ・学事 Web システムのユーザー名とパスワードは、三田 ITC 発行の Windows アカウントのユーザー名とパスワードとは異なりますので注意してください。

学事 Web システムのユーザー名：学籍番号    Windows アカウントのユーザー名：f\*\*\*\*\*

## 1 履修申告

WEB システムを利用した履修申告日程と WEB システムの URL は以下の通りです。

### 〈Web による履修申告期間〉

4月13日（金）10:00～17日（火）14:00

学事 WEB システムの URL : <http://gakuji2.adst.keio.ac.jp/>

※学事 WEB システムは、保守のため午前4時から1時間程度利用できません。

### 〈Web による履修登録科目一覧提出締切日〉

4月24日（火）16:45まで

※履修申告の画面を印刷し、指導教授の承認印を受け取ったうえで提出してください（P.20 参照）

#### ① 学事 Web システムトップページ

上記 URL にアクセスし [ブラウザ用] をクリックしてください。履修申告は「Internet Explorer」や「Netscape」などの標準ブラウザを使用してください。携帯端末用メニューからは操作できません。

#### ② 学事 Web システムブラウザ用トップページ

学事 Web システムの操作方法（特にログインできない場合などの解説）や、よくある質問についての回答などは、このページに用意されています。[ログイン画面へ] ボタンをクリックしてください。

#### ③ ログイン

「ID（学籍番号）」と、事前に通知したパスワードを入力し、[ログイン] ボタンをクリックしてください。画面がうまく表示されない場合は、前述②の画面の「ログインできない時は」のリンク先で、ブラウザの設定方法等を確認してください。

※この画面以降ブラウザの「進む」「戻る」ボタンは使用しないでください。

※複数のブラウザを起動して同時にログインしないでください。

#### ④ トップメニュー画面

「本人住所確認」で登録されている住所を確認してください。ここに登録されている住所宛に履修申告科目確認表を郵送します。住所変更が必要な場合は、学生証を持参のうえ、至急学事センター窓口で住所変更手続きをとってください。

#### ⑤ 履修申告メイン画面

[履修申告] ボタンをクリック後、[Web による履修申告上の注意] をクリックし、必ず注意文を熟読してください。その後、[履修申告メイン画面へ進む] ボタンをクリックしてください。

#### ⑥ 科目の選択

(1) と (2) の 2 通りの方法で科目の選択ができます。

##### (1) 時間割から科目を選択する場合

履修申告メイン画面で、[時間割から選択] ボタンの右側のドロップダウンリストから設置学部・学科・学年を選択してから、[時間割から選択] ボタンをクリックしてください（初期設定では、所属する学部・学科および学年が自動的に指定されています）。

科目選択画面（時間割選択）が表示されますので、曜日時限毎に科目および分野をドロップダウンリストから選択し、最後に [選択を終了] を押してください。

## (2) 登録番号から科目を選択する場合

[登録番号で選択] ボタンをクリックしてください。科目選択画面（登録番号）が表示されますので、時間割表に記載されている5桁の登録番号を入力してください。[科目名を確認] ボタンを押し、〈科目情報〉欄に表示される科目名、曜日時限などの情報を確認したうえで、最後に[選択を終了] を押ししてください。

※(1)(2)いずれの方法も、分野（A・B欄）の選択はマークシート用紙による記入と同様です。

※(1)(2)の手順は、連続して行うことができます。

※同一の曜日時限に春学期と秋学期の科目を一度に選択することはできません。その場合、一度[選択を終了] を押し、再度時間割または登録番号から科目を選択してください。

### ⑦ 選択した科目の確認

⑥で選択した科目が、一覧表示されますので確認してください。ただし、[登録] ボタンを押すまで有効になりません（各科目の右端の〈状態〉欄に「未登録」と表示されています）。

### ⑧ 選択した科目を取り消す場合

⑦の画面から、取り消したい科目の登録 No. の左側にチェックをつけ、[選択の取消] ボタンをクリックしてください。その後、一覧表から削除されたことを確認してください。ただし、[登録] ボタンを押さなければ完全に削除されません。

### ⑨ 選択した科目の登録

選択されている科目を確認したら、画面一番下の[登録] ボタンを押してください。

⑥（選択）および⑧（取消）で行った内容はこの[登録] ボタンを押すまで有効になりません。

### ⑩ 登録結果表示の確認

[登録] ボタンを押すと、選択した科目について、曜日時限の重複や不足科目等のエラーチェックが行われ、その結果が表示されます。各科目の「エラー」の欄にメッセージが表示されていないか確認してください（エラーメッセージの詳細については、⑥の「履修申告メイン画面」のSTEP2の右側にある[エラーの詳細説明] をクリックし、参照してください）。

次に、各科目の右端の「状態」欄が「登録済」と表示されていることを確認してください。エラーがある場合は、「状態」欄が「保留中」と表示されています。「保留中」と表示されている科目は履修申告期間終了後に登録が取り消されます。この画面をプリントアウトして指導教授の承認印を受けたうえで、期日までに提出してください。

登録内容を変更したい場合は、[履修申告画面へ戻る] ボタンをクリックし、⑥からの手続きを再び行ってください。登録内容がこれで良ければ、[履修申告を終了する] ボタンを押してください。

※ここで Web ブラウザーを終了しないでください（ブラウザーの右上の×印をクリックして閉じないでください）。

### ⑪ ログアウト

[ログアウト] ボタンをクリックして、ログアウトしてください。

## 2 登録済科目の確認

履修申告で正しく登録された科目は、以後ある一定の期間で学事 Web システムを利用して再度確認することができます。確認できる日程や詳細などは塾生ページ (<http://www.gakuji.keio.ac.jp/>) に掲載します。ただし、5月上旬に本人宛送付する「履修申告科目確認表」で必ず最終確認を行ってください。

前述1の④（トップメニュー画面）までは、同様の操作です。画面上の[登録済科目確認] ボタンを押して、履修申告科目を確認してください。

### 3 休講・補講情報の確認

学事 Web システムから、全キャンパスの休講・補講情報を確認することができます。またこのサービスは、携帯電話からも同様に見ることができます。

ただし、公式の情報は科目設置の各キャンパスの掲示板とします。休講・補講情報は変更することがありますので、必ず直前に掲示板を確認するようにしてください。

代替講義日の休講は、通常講義と異なり学事 Web システムの休講情報では対応していませんので、塾生ページ (<http://www.gakuji.keio.ac.jp/>) および各キャンパスの掲示板で確認してください。

[ブラウザ編]

- ① 1の①から③までを参照して、学事 Web システムにログインしてください。
- ② 1の④の画面（トップメニュー画面）から [休講補講情報] ボタンをクリックしてください。
- ③ 自分の履修科目、あるいは他キャンパス設置の科目など、検索するキャンパスの対象を選択してください。また、検索期間の選択も同様に行ってください。選択が終了したら、[休講・補講情報を検索する] ボタンをクリックしてください。
- ④ 休講・補講情報を確認してください。科目名のヘッドに【取消】が入っているのは、休講が取り消された（したがって通常通り実施する）科目となりますので注意してください。確認後は [ログアウト] ボタンをクリックして、ログアウトしてください。

[携帯端末編]

- ① 学事 Web システムの URL (<http://gakuji2.adst.keio.ac.jp/>) を携帯電話の画面から入力し、前述1の①の画面上で [携帯端末用メニュー] を選択してください。以後、Web 休講補講情報を繰り返して利用する場合には、上記の学事 Web システムの URL をブックマーク等に登録しておくとう便利です。
  - ② サーバの選択 ([i-mode 専用] もしくは [i-mode 以外の携帯端末] のいずれかを選択してください)
  - ③ [サーバー1] もしくは [サーバー2] のどちらかを選択してください。選択は任意です。
  - ④ 「学籍番号」と(1)で説明のあった「学事 Web システムパスワード」を入力し、[ログイン] ボタンを押してください。
  - ⑤ この画面から [休講情報] [補講情報] ボタンを押してください。
- ※パスワードの変更もこの画面からできますが、ここでは説明を省きます。後述の4を参照してください。
- ⑥ 自分の履修科目の休講・補講情報、あるいは他キャンパス設置の科目など、検索するキャンパスの対象を選択してください。検索期間は検索日から1週間後までの情報が表示されます。休講・補講情報の確認が終了したら、[検索画面へ戻る] ボタンを押してください。

### 4 パスワードの変更

初期パスワードは紙面に印刷されているため、セキュリティ上パスワードを変更することを推奨しています。以下の操作で行ってください。

- ① 前述1の④の画面（トップメニュー画面）から、[パスワード変更] ボタンをクリックしてください。
- ② 「現在のパスワード」を入力し、「新パスワード」を2箇所入力後（再入力欄にも同じものを入力する）、[パスワード変更] ボタンをクリックしてください。

【注意】

パスワードは英数字半角で入力してください（大文字／小文字を区別します）。生年月日や学籍番号など、予想できそうなパスワードは設定しないでください。また変更したパスワードは、必ず忘れないようにしてください。特に、学内のパソコンを利用するための Windows アカウントのパスワードと混同しないよう注意してください。



## 第4 履修申告用紙による方法

Webによる履修申告がやむを得ず出来ない場合には、以下の日程で履修申告用紙（マークシート）を配布します。下記期日に必ず提出してください。

配布日	: 4月10日(火)・11日(水)	8時45分～16時45分
提出日	: 4月17日(火)	8時45分～14時
提出場所	: 学事センター	

なお、履修申告提出後の履修科目の変更・追加・取消は認められません。また、履修申告用紙の閲覧、履修科目の紹介にも応じませんので、各自提出する履修申告用紙の控え（コピー）を必ず手元に残すようにしてください。

### 1 記入時の注意事項

研究科、専攻（分野）、学年、氏名、学籍番号および提出日を記入してください。学籍番号は数字で記入するとともに、該当する数字をマークしてください。修士または博士どちらかに○印をつけてください。なお、学科欄の記入は必要ありません。

- (1) 登録番号は、時間割に記載されている5桁の数です。科目名・教員名・番号が正しく書けていてもマークを間違えると登録されません。
- (2) 一度記入した科目の訂正・変更等は、消しゴムを使用せず、無効マーク欄を塗りつぶして改めて記入してください。
- (3) 提出期限外の受付は一切できません。

### 2 履修科目の記入方法

#### (1) A欄記入上の注意

- ア 時間割に記載されている曜日時限・科目名・教員名・登録番号を記入します。  
複数の教員が担当する科目は時間割上段に記載されている教員名を記入します。
- イ 形態〔春・秋・通年〕を○で囲み、登録番号をマークします。

#### (2) B欄記入上の注意

- ア 時間割に記載されている曜日時限・科目名・教員名・登録番号を記入します。  
複数の教員が担当する科目は時間割上段に記載されている教員名を記入します。
- イ 第2「2分野表」(p.19)を参照しB欄分野番号を記入します。
- ウ 形態〔春・秋・通年〕を○で囲み、登録番号・B欄分野番号をマークします。

#### (3) A・B欄共通の注意

科目名・教員名・登録番号などを記入しても、マークの塗り忘れがあると科目は登録されませんので注意してください。

(4) 無効マーク

無効マークをマークすると、その枠内の登録内容について無効にすることができます。訂正は消しゴムを使用して修正することができますが、跡が残ったり、黒くこすれたりした場合は、無効マークを利用してください。

(5) 履修申告用紙の再交付について

履修申告用紙提出前の科目の訂正および変更等は、なるべくこの欄無効マークを使用して無効にした上で正しい科目を登録してください。それでも訂正し切れない場合は交換しますので、その履修申告用紙を持参の上、学事センターに申し出てください。

交付された履修申告用紙では記入欄が足りない場合も学事センターに申し出てください。

## 第5 「心に関する研究科横断プロジェクト型教育」プロジェクト科目Ⅰ、Ⅱ（修士課程・博士課程共通、文学研究科・社会学研究科共通）

平成18年度より文学研究科哲学・倫理学専攻と社会学研究科心理学専攻、教育学専攻が参加するプロジェクト型科目が開設されました。2研究科の心及び脳の研究に携わる複数専攻教員の共同指導のもとで、学生が主体となって参加するプロジェクト型の授業科目です。

半期ずつの科目となっていますが、併せて通年での登録を原則とします（プロジェクトⅠ（春学期）、Ⅱ（秋学期））。今年度はつぎの4つのプロジェクトを実施します。

プロジェクトA（論理思考に関する論理，行動遺伝学，脳科学，情報科学の融合的学際研究）

担当者：岡田（哲学・倫理学），安藤（教育学），浜野（文学研究科特別研究教員）

プロジェクトB（動物とヒトの推論に関する脳科学）

担当者：岡田（哲学・倫理学），渡辺（心理学），伊澤（文学研究科特別研究教員）

プロジェクトC（倫理的判断と脳内機構）

担当者：樽井（哲学・倫理学），渡辺（心理学），伊澤（文学研究科特別研究教員）

プロジェクトD（ランダムネスの創発）

担当者：西脇（哲学・倫理学），坂上（心理学），浜野（文学研究科特別研究教員）

プロジェクトに登録するには担当教員の許可が必要です。各プロジェクトの遂行に必要な基礎分野のひとつを既に習得していること、および主体的にプロジェクトに参加できることを履修許可の条件としています。詳しくは本科目のガイダンスまたは掲示を参照してください。

## 第6 他大学大学院との相互科目履修

◇修士課程在学中に、8単位を限度として早稲田大学大学院文学研究科・学習院大学大学院人文科学研究科・早稲田大学大学院教育学研究科および上智大学大学院哲学研究科（哲学・倫理学分野のみ）の設置科目を履修することができます。

また、この科目は課程修了に必要な単位とすることができます。

巻末（P.171）に記載されている協定を参照してください。

#### ◇大学院交流手続き方法について

1. 交流学生履修届（本塾学事センター窓口にあります）に必要な事項を記入して、指導教員の承認（サインをA・B・C三片にもらうこと）をうけてください。次に相手校へ赴き、講義担当者の当該授業に出席して承認をうけた後、（A・B・C三片にサインをもらうこと。ただし上智大学の場合は口頭で許可を得ればよいこととする。）相手校事務室へ指示された期間中に提出してください。

【履修届受付期間：4月9日（月）～17日（火）】

2. 履修が許可された場合、本塾学事センター窓口にて、本人用交流履修届（A片）を確認の上、交流学生証を発行します。

3. 相手校の学科目を履修する場合は、必ず予め指導教員の承認をうけてください。これは履修決定以前の聴講の場合でも同様です。

4. 万一、履修を途中でやめるようなときは、速やかに講義担当者、相手方教務部および指導教員、本塾学事センターに連絡してください。

# 履 修 要 項

## 第 1 課程修了にいたるまでの要件

課程修了の認定は、研究科委員会が行う。(学則第 109 条)

### 1 修士課程

文学研究科修士課程に 2 年以上在籍し、32 単位以上の授業科目を修得し、かつ研究上必要な指導を受けた上、修士論文の審査及び最終試験に合格することとする。(学則第 11 条・15 条・109 条参照)

### 2 博士課程

文学研究科後期博士課程に 3 年以上在籍し、原則として各年度 2 科目 4 単位以上を 3 年にわたり履修、指導教授の担当する 2 科目を含め、合計 6 科目 12 単位以上の授業科目を修得した上、学位論文(博士論文)の審査及び最終試験に合格することとする。(学則第 18 条・19 条・109 条参照)

なお、上記要件のうち、学位論文の審査及び最終試験を除き、所定の教育課程を終えた段階で修了する場合「単位取得退学者」として扱われます。(第 4 単位取得退学及び在学期間延長について参照)

## 第 2 学位請求論文の提出について

### 1 修士論文の提出と修士学位の授与

修士の学位は、大学院前期博士課程、大学院修士課程を修了した者に与えられる。(学位規程第 3 条)

第 3 条の規定に基づき修士学位を申請する者は、学位論文 3 部を指導教授を通じて当該研究科委員会に提出するものとする。(同第 7 条 ①)

・修士論文提出及び学位申請に関する手順は次のとおりです。

#### (1) 修士論文題目届

指導教授と相談の上、修士論文の提出が許可された場合は、所定用紙にて論文題目を届出てください。詳細については 10 月中旬に掲示板にて指示します。

なお、この届を提出した後に論文提出を辞退する場合は、必ず文章(様式任意・指導教授承認印が必要)にて学事センターに申し出てください。

#### (2) 論文提出(1 月下旬予定)

提出日、提出方法については掲示板上にて指示します。なお、論文題目については(1)で提出した題目(副題目も含む)と同じものとします。

#### (3) 修士論文面接(2 月下旬～3 月上旬予定)

提出された論文をもとに面接が行われます。面接時間等については論文提出時にお知らせします。

## 2 博士論文の提出と博士学位の授与

### (1) 課程による博士学位の授与（「課程博士」）

博士の学位は、大学院博士課程を修了したものに与えられる。（学位規定第4条）

第4条の規定に基づき博士学位を申請する者は、学位申請書に学位論文3部及び所定の書類を添え、指導教授を通じて当該研究科委員会に提出するものとする。（同第7条②）

なお課程による博士学位は原則として、修了に必要な単位を取得し、在学中に学位論文を提出し、かつ文学研究科委員会にて受理され、合格した場合に与えられますが、**博士課程入学後6年以内**に学位論文が文学研究科委員会にて受理されれば、課程博士として申請することができます。

これは、在学期間内の文学研究科委員会にて論文受理後、審査の途中で退学を希望する場合や、博士課程入学後6年の期間内に学位論文が提出され、同期間内の文学研究科委員会にて受理された場合などが該当します。

### (2) 論文による博士学位の授与（「論文博士」）

博士の学位は、研究科委員会の承認を得て学位論文を提出して論文の審査に合格し、かつ大学院博士課程の修了者と同等以上の学識があることを確認（以下「学識の確認」という）された者に与えられる。（学位規程第5条）

第5条の規定に基づき博士学位を申請する者は、学位申請書に学位論文3部及び所定の書類を添え、その申請する学位の種類を指定して、学長に提出しなければならない。

（同第8条）

・博士論文を提出する場合は、学事センターで手続方法等について確認してください。

## 3 論文体裁について

学位請求論文については三田メディアセンター（図書館）及び国立国会図書館（博士論文のみ）に所蔵しますので、なるべく下記の体裁に整えるよう協力をお願いします。なお、資料等の都合でどうしても規定の大きさに入らない場合は、これに従って表紙を付けて製本してください。

① 本文の縦書き・横書きにかかわらず、原則として縦A4版で製本してください。

（縦書きの場合は右綴じ、横書きの場合は左綴じとなります）

② 表書きは、本文が縦書きの場合は縦書き、横書きの場合は横書きとします。

③ 表紙はハードカバーで黒を原則とし、白文字を使用してください。

④ 製本の背文字は、本文の縦書き、横書きに係わらず縦書きとしてください。

一部英単語が入る場合は、英単語のみ横書きとし、他の日本語は縦書きとしてください。

⑤ 表紙の見本をこの案内の巻末に示します。既に公刊されている書物等を学位請求論文とする場合についてはこの限りではありません。

## 4 三田メディアセンターからの学位論文利用許諾協力依頼

三田メディアセンター（図書館）では学位論文を保存し、利用に供しております。メディアセンターが利用者に提供するサービスのうち以下の項目については、事前に著作権者からの許諾を必要としています。学位論文を学事センターに提出する際に、「学位論文利用許諾書」に必要事項を記入の上、一緒に提出してください。なお、学位授与にいたらなかった場合は、メディアセンターが責任をもつ

て廃棄いたします。

許諾を必要とする項目

- ・修士論文提出者：「館外への貸出」、「複写」、「電子媒体の公衆送信」※
- ・博士論文提出者：「論文全体の2分の1以上の分量の複写」、「電子媒体の公衆送信」※  
(※は将来的に可能性がある利用方法です)

## 第3 留学・休学・退学

### 1 留学について（学則第124条）

留学を希望する場合は原則として、出発3ヶ月前までに次の学内手続きをしてください。

- ① 学事センター窓口で国外留学申請書の交付をうけ、必要事項を記入してください。
- ② 国外留学申請書に記載されている必要書類を用意してください。
- ③ ①と②を合わせて学事センターに提出して検印を受け、これらの書類をもとに国際センターで留学の認定を受けてください。（交換，奨学金，その他の認定）
- ④ 国際センターの認定後，①と②の書類を持参して指導教授と面接し，留学の許可を得てください。
- ⑤ ④による許可を受けた上で，①と②の資料を学事センターに再び提出してください。
- ⑥ 上記の手続きを経た外国の大学院またはそれに準ずる機関への留学が，研究科委員会で教育上有益であると判断された場合は，休学することなく留学することができます。（学則第124条1項）  
また，この場合は1年間に限り留学期間を在学年数に算入することができます。（学則第124条2項）  
なお，留学中に外国の大学院で履修した授業科目の単位のうち10単位を越えない範囲で，修得単位が課程修了に必要な単位として認定されることがあります。（学則第124条3項）  
留学期間の在学年数への算入と単位の認定（いずれかひとつの場合も含む）を希望する場合は，帰国後，就学届を提出する際，その旨を所定用紙にて申し出て研究科委員会の承認を得なければなりません。なお，その際単位認定希望者は，単位修得を証明する書類を添付してください。
- ⑦ 研究科委員会で上記の留学として認定されなかった場合には，休学による留学になります。この場合には留学期間は在学年数に算入されず，外国の大学院で修得した単位も上記の単位認定はされません。
- ⑧ 留学期間を延長する場合，延長理由を詳細に明記したうえで，上記と同様の手続きをとってください。
- ⑨ 帰国した場合は，速やかに就学届等の必要書類を学事センターに提出してください。
- ⑩ 留学期間中の在学料等については学事センター窓口にお問い合わせください。

### 2 休学について（学則第125条）

休学を希望する場合は，指導教授と面接の上，休学する年度の11月末までに休学届を学事センターに提出してください。

## 海外の教育機関に留学する場合の取り扱いについて（文学研究科）

・在学期間中に留学を希望する場合、「留学」と「休学」の2通りに分けられます。

		留 学	休 学
種 類		研究科委員会において適正と認められた海外の大学で正式な手続を経て正規生と同じ授業を受ける場合（「編入制度による留学」「STUDY ABROAD PROGRAM」等）。 なお、留学は①「交換留学」②「奨学金による留学」③「私費留学」の3つに区別しています。	・語学研修（その他左記の留学として認定されない海外研修など） ・病気による休学（医師の診断書を添付してください） ・一身上の都合による休学
期 間	申 請 期 間	「留学」の開始日から半年以上1年まで。 「留学」は年度途中に開始し、年度の途中で終了することが可能です。 (例) 2007.9.22~2008.9.21	休学は1年単位の申請となります（4月1日～翌年3月31日）。 *休学の開始日がいつであっても、その年度は在学期間に算入されません。 *複数年度にわたって休学する場合は、新年度に再度休学願を提出してください。 *休学願の提出締切はその年度の11月末日です（ただし、履修申告をせずに休学する場合は、履修申告期間最終日までに休学願を提出してください）。
	延 長	2回まで可能（最長で留学開始日から3年間まで） それ以降は「休学」となります。 *「留学」を延長する場合は「国外留学申請書（延長）」を提出してください。	留学の延長が出来ない場合（左記の延長期間を過ぎても留学継続を希望する場合など）の休学期間は、直近の留学申請期間終了日翌日より年度末までとなります。
学 費 ・ 渡 航 費	学 費 減 免 措 置	【交換留学・奨学金による留学】 留学1年目は減免措置はありません。「留学」の延長が認められ、その許可された延長期間が留学開始日から起算して1年6カ月以上2年以内の場合は、留学開始日から1年を経過した日の属する年度の授業料（在学料）および実験実習費の半額を免除します。また、留学の再延長が認められ、その許可された延長期間が留学開始日から起算して2年6カ月以上3年以内の場合は、留学開始日から2年を経過した日の属する年度の授業料（在学料）および実験実習費の半額を免除します（減免額が返金されます。留学許可通知と共に申請書類を保証人宛に送付します）。  【私費留学】（留学開始日が平成18年4月1日以降の者のみ適用） 「私費留学」により在学しなかった期間（学期単位）に対し、その学期の属する年度の在学料および実験実習費について、年額の4分の1を学期毎に免除します。免除される期間は最長6学期までです。ただし、留学期間中に交換または奨学金による留学が含まれる場合は、その期間に該当する学期を含んで6学期までとします。詳細は、学事センター窓口にて確認してください。	*語学研修、その他留学と認定されない場合の減免制度はありません。 *ただし、上記以外で特別事情のある者および1年以上の休学者については、別に定めるところにより授業料その他が減免される事があります。詳細は、学生総合センターに確認してください。
	渡 航	「交換留学」および「奨学金による留学」の場合には渡航費が補助される場合があるので、国際センターで所定用紙を受け取ってください。	
単 位 取 得 ・ 認 定	は 留 学 期 間 履 修 を	年度の途中から「留学」する場合は、「留学」前に履修申告をした「通年」科目を「留学」後継続履修し、単位取得することが可能です（ただし、同一科目名・同一担当者に限る※）。必ず「留学」前に各科目担当者へ「留学」終了後に継続して履修する意志があることを伝えてください。 ※教職課程センター設置科目については、継続が認められる場合があります。教職課程センター窓口にて確認してください。	休学中の年度は履修できません。 【年度始めに休学申請をした場合】 履修申告は不要です。休学届を履修申告期間最終日までに提出してください。  【年度途中で休学申請をした場合】 4月に履修申告した科目は全て削除されます。
	単 位 認 定	10単位を超えない範囲で、学則の規定する単位に認定することがあります。認定を希望する場合は、就学後学事センターで所定の用紙を受け取ってください。	単位認定はありません。
就 学 後		「留学」終了後は、速やかに就学届を提出してください。なお、就学後の行事日程については、年度末に郵送される学事関連スケジュール表を参照してください。	「休学」終了後は、速やかに就学届を提出してください（病気による休学については、医師による病気が回復した旨の診断書を添えてください）。なお、就学後の行事日程については、年度末に郵送される学事関連スケジュールを参照してください。
へ 在 学 算 年 入 数		「留学」の期間は1年間に限り在学年数に算入することができます。希望者は「留学」終了後、必要な書類等をそろえて学事センター窓口に出してください。ただし、遡及修了は認められません。	「休学」の期間は在学年数に算入されません。ただし、実質的な在学年数にかかわらず、休学中も最高学年まで進級します。

### 3 退学について（学則第 126 条）

病気その他の事由により退学したい者は、指導教授と相談のうえ、速やかに「退学届」に学生証を添えて学事センターに提出してください。

### 4 再入学について（学則第 127 条）

退学した者が再入学しようとする場合には、事情を考慮した上で認めることがあります。再入学にあたっては、入学考査料および入学金が必要となります。「再入学を伴う退学」が承認されても、無条件で再入学が認められることにはなりません。

文学研究科において、退学後再入学を希望する場合には、退学の時点で文学研究科委員会における承認が必要となります。具体的な手続きに関しては、指導教授および学事センターに問い合わせてください。

### 5 退学処分について（学則第 128 条・第 161 条）

- (1) 修士課程において4年、後期博士課程において6年の在学最長年限を超える者は学則第128条により退学処分となります。ただし、休学期間は在学年数に算入しません。
- (2) 大学の学則もしくは諸規則に違反したと認められた場合、履修申告を期日までに提出せず休学・退学の願い出もなく修学の意志が確認できない場合などには学則第161条により退学処分となります。

## 第4 単位取得退学および在学期間延長について（後期博士課程のみ）

### 1 単位取得退学

大学院後期博士課程修了に必要な単位を取得し、規定の在学年数（3年）を満たした場合、単位取得退学者として教育課程を終了することができます。

年度の途中または年度末で単位取得退学を希望する場合は、指導教授の承認を得たうえで、単位取得退学届を提出してください。

なお、3年以内に博士論文を提出する目処がある場合に限り、三田メディアセンターの図書貸出を受けることができる「塾員貸出券」（有料）を発行しています。詳細は図書館1階メインカウンターまでお尋ねください。

有効期間：申込日より6ヶ月もしくは1年

サービス範囲：三田メディアセンターに関しては大学院生と同等の貸出規則を適用する。

日吉、理工学、湘南藤沢の各メディアセンター、白楽サテライトライブラリーへの入館・閲覧が可能。

他大学図書館への紹介状の発行。

### 2 在学期間延長許可願について

3年間の在学中に博士課程修了に必要な単位を取得した者で、博士論文作成にまだ時間を要する場合、在学最長年限を超えない範囲で、1年を単位として在学期間の延長を許可することができます（通常3回まで）。例年2月末までに指導教授の承認を得たうえで、「在学期間延長許可願」を学事センターに提出することになっています。

なお、在学期間延長中の休学・留学は、在学期間延長の回数にカウントされますので注意してください。



# 講義要綱・シラバス

## 修士課程設置科目

### 哲学・倫理学専攻

#### 哲学特殊講義Ⅰ（春学期）

科学と確率

教授 西脇 与作

##### 授業科目の内容：

科学理論と観測の両方で確率が用いられる場合が多いが、この講義では確率のもつ様々な側面を昨年度と同じように取り上げたい。確率の基本を解説した上で、確率の哲学に関する論文を読みながら、議論したい。

#### 哲学特殊講義Ⅱ（秋学期）

科学と確率

教授 西脇 与作

##### 授業科目の内容：

春学期の継続で、確率に関する主要論文をさらに検討する。

#### 哲学特殊講義Ⅲ（春学期）

教授 岡田 光弘  
特別研究准教授 浜野 正浩

##### 授業科目の内容：

昨年度に引き続き、線形論理、証明論を中心とした現代論理学的手法の導入と、論理哲学、情報科学等への応用を行う。

これと並行して、フッサール論理学の検討会も組み入れる。

#### 哲学特殊講義Ⅳ（秋学期）

教授 岡田 光弘  
特別研究准教授 浜野 正浩

##### 授業科目の内容：

前学期に引き続き、線形論理、証明論を中心とした現代論理学的手法の導入と、論理哲学、情報科学等への応用を行う。

これと並行して、フッサール論理学の検討会も組み入れる。

#### 哲学特殊講義Ⅴ（春学期）

あるコギトの系譜

講師 北村 晋

##### 授業科目の内容：

2500年以上にもわたって連綿とその歴史を紡ぎ出して

きた西洋の哲学思想は、現在、未曾有の局面を迎えつつあるようにも見える。事実、19世紀末のニーチェによる「神の死」と「ニヒリズムの到来」の宣告に次いで、今世紀に入ると「人間の死」（フーコー）や「哲学の終焉」（ハイデガー）までもが宣せられているのである。ところがその一方で、昨今の思想界では、「ポスト構造主義」「ポストモダン」「ポスト形而上学」といったさまざまなトレンドがファッションのごとくに喧伝されている。このような状況を引き起こした哲学思想における近代とは、いったい何なのか。その近代の極北にあって、われわれは何を考へ何を問題にすべきなのだろうか。そもそもロゴス（ことば・論理）の営為たる哲学は、現代において何を問題としうるのだろうか。

この授業では、一般にデカルトの「コギト・エルゴ・スム（私は考える、ゆえに私は在る）」という原理とともに始まったとされる西洋近代・現代の哲学思想を、主として「弁証法的媒介の論理」と「現象学的方法」という相反する二つの視座から再考してみたい。その際取り上げるのは、デカルトをはじめとしてカント、ヘーゲル、フッサール、ハイデガー、サルトル、レヴィナス、アンリ、デリダ、マリオンなどの思想家たちである。ただし、これらの思想家の全体像を扱う余裕はないので、実際にはいくつかの個別的テーマに即して検討することになる。

#### 哲学特殊講義Ⅵ（秋学期）

講師 北村 晋

##### 授業科目の内容：

「哲学特殊講義Ⅴ」と同じ。

#### 哲学特殊講義Ⅶ（春学期）

教授 斎藤 慶典

##### 授業科目の内容：

フッサール現象学にかかわるドイツ語文献の精読を中心に、参加者による研究発表を随時おり込みながら授業を行ないます。今年度の使用テキストは以下の通りです。

#### 哲学特殊講義Ⅷ（秋学期）

教授 斎藤 慶典

##### 授業科目の内容：

「哲学特殊講義Ⅶ」と同じ。

#### 哲学特殊講義Ⅸ（春学期）

集合論

講師 照井 一成

##### 授業科目の内容：

集合論は、現代数学や論理学を学ぶ上で必要不可欠な基礎知識であると同時に、無限とはなにか、集合論的宇宙とは何かを根源的に突き詰めていく、非常にエキサイ

ティングな分野であるといえます。本講義では、まず数学・論理学を学ぶ上での必須知識として、素朴な観点から集合論の解説をします。そうして集合概念についての十分に素朴な直観が得られた後に、より厳密な公理的集合論へと進もうと思います。目標とするのは、次の事柄の十分な理解です(1) 集合の濃度に関するカントール・ベルンシュタインの定理、(2) 選択公理とツォルンの補題、(3) ゲーデルによる連続体仮説・選択公理の相対的無矛盾性証明。

---

#### 哲学特殊講義Ⅹ(秋学期)

講師 照井一成

##### 授業科目の内容:

前学期に引き続き次の集合論の後半部分を進める。

集合論は、現代数学や論理学を学ぶ上で必要不可欠な基礎知識であると同時に、無限とはなにか、集合論的宇宙とは何かを根源的に突き詰めていく、非常にエキサイティングな分野であるといえます。本講義では、まず数学・論理学を学ぶ上での必須知識として、素朴な観点から集合論の解説をします。そうして集合概念についての十分に素朴な直観が得られた後に、より厳密な公理的集合論へと進もうと思います。目標とするのは、次の事柄の十分な理解です(1) 集合の濃度に関するカントール・ベルンシュタインの定理、(2) 選択公理とツォルンの補題、(3) ゲーデルによる連続体仮説・選択公理の相対的無矛盾性証明。

---

#### 哲学特殊講義Ⅺ(春学期)

超越論的自我論の系譜(1)

講師 湯浅正彦

##### 授業科目の内容:

カントによって創始された超越論的哲学の基礎である超越論的自我論を、その淵源であるデカルト哲学、カント哲学の「精神」を体現したフィヒテ哲学との連関のうちに考察します。

---

#### 哲学特殊講義Ⅻ(秋学期)

超越論的自我論の系譜(2)

講師 湯浅正彦

##### 授業科目の内容:

超越論的自我論の現代哲学における継承・展開の様相と、「心の哲学」の或る傾向や、D.ヘンリッヒを領袖とするハイデルベルク学派の自己意識論のうちに探ります。

---

#### 哲学特殊講義ⅩⅢ(春学期)

「創造」に関するヘブル思想史研究

講師 津村俊夫

##### 授業科目の内容:

春学期は、授業の前半は、創世記とオリエントの神話(「エヌマエリシュ」や「バアル神話」と)の比較をしながら「創造」に関するヘブル思想史を講じ、後半はアラム語の文法演習を行なう。

---

#### 哲学特殊講義ⅩⅣ(秋学期)

講師 津村俊夫

##### 授業科目の内容:

秋学期には、授業の前半でアラム語文法演習を継続し、後半で、創世記のアラム語訳〔タルグム〕を講読しながら、ユダヤ教における創世記の翻訳と解釈について考える。

---

#### 哲学特殊講義ⅩⅤ(春学期)

『イデーンⅠ』を読む

教授 斎藤慶典

##### 授業科目の内容:

フッサール『純粹現象学と現象学的哲学のための諸考案・第1巻』(通称『イデーンⅠ』, 1913年刊)より、今年度はその第3編「純粹現象学の方法態度と問題探究のために」を取り上げ、「現象学」という発想がそもそもいかなるものなのか、その可能性と問題点を徹底して洗い出したいと思います。授業は、あらかじめ分担を定められた担当者によるテキスト当該部分のレジュメと問題提起をもとに、参加者全員によるディスカッションを中心に行ないます。テキストは以下の邦訳版を使用し、必要に応じて原著を参照します(ただし、受講者のドイツ語能力を前提にはしません)。

---

#### 哲学特殊講義ⅩⅥ(秋学期)

教授 斎藤慶典

##### 授業科目の内容:

「哲学特殊講義ⅩⅤ」を参照してください。

---

#### 哲学特殊講義演習Ⅰ(春学期)

教授 斎藤慶典

講師 荒金直人

##### 授業科目の内容:

博士課程「哲学特殊研究Ⅲ」と同じ。

---

#### 哲学特殊講義演習Ⅱ(秋学期)

教授 斎藤慶典

講師 荒金直人

##### 授業科目の内容:

博士課程「哲学特殊研究Ⅲ」と同じ。

---

### 哲学特殊講義演習Ⅲ（春学期）

Topics in semantics

言語文化研究所 准教授 タンクレディ クリストファー D.

#### 授業科目の内容：

We will look in-depth at a topic within the field of formal semantics. The topic will be decided on the first day of class based on the interests of the students.

---

### 哲学特殊講義演習Ⅳ（秋学期）

Topics in semantics

言語文化研究所 准教授 タンクレディ クリストファー D.

#### 授業科目の内容：

We will look in-depth at a topic within the field of formal semantics. The topic will be decided on in the first class.

---

### 哲学特殊講義演習Ⅴ（春学期）

中世ユダヤ哲学研究

教授 堀江 聡

#### 授業科目の内容：

アルベルトゥス・マグヌス、トマス・アクィナス、マイスター・エックハルトなど西洋中世盛期スコラ哲学に対し少なからぬ刺激・影響を与えたにも拘らず、現今読まれることの余りない著作として、数年前演習で採り上げたイブン・ガビロール『生の泉』と同様に、マイモニデス（ラビ・モシェー・ベン・マイモン）（コルドヴァ 1138 年生れ — 旧カイロ 1204 年歿）『迷える人々の導き（の書）』（エジプトにて 1185 年 47 歳で執筆開始、1190 年 52 歳で完成）がある。「中世哲学文献の最高峰の一つ」と称される、その（ユダヤ）アラビア語原典を文字・文法未修者をも零から、辞書の引き方を教室で手取り足取り、それこそ「導き」つつ購読する。マイモニデスの生前にイブン・ティツボンによって訳されたヘブライ語訳（1204 年）、並びに現代ヘブライ語訳（1996 & 2002 年）も必要とあらば眺めてみたい。ユダヤ教旧約聖書、タルムードの宗教的伝統に棹差しながらも、アリストテレス哲学を核に、新プラトン派の発出論、アフロディシアスのアレクサンドロスの能動知性論、フィロポノスの創造論、イスラーム哲学者・神学者の神名論をも総合した 3 部構成（76 章+48 章+54 章）の大著から第Ⅰ部は昨年度概観したので、第Ⅱ部・第Ⅲ部を抜粋して講読する。

---

### 哲学特殊講義演習Ⅵ（秋学期）

教授 堀江 聡

#### 授業科目の内容：

秋学期は別のアラビア語文体にも触れるために、17 世紀イランにおける神秘的色彩の強いイスファハーン学派に属するサイド・クンミーの『アリストテレスの神学』註釈』を採り上げてみたい。3 世紀のプロティノス『エン

ネアデス』を万葉集とするならば、その翻案である 9 世紀の『アリストテレスの神学』はさしずめ古今集に、サイド・クンミーによるその注釈は新古今集に相当しよう。本歌取り解釈の要諦は、元歌との同と異を峻別する感性・知性の鋭さを磨くことにある。

---

### 哲学原典研究Ⅰ（春学期）

Analytic versus Continental - Michael Friedman: *A Parting of Ways*

教授 飯田 隆

准教授 エアトル, ヴォルフガング

#### 授業科目の内容：

One of the oddest features of the historiography of 20th century philosophy is the common distinction between analytic and continental philosophy. Although almost everybody is unhappy with the terminology, in particular with the use of a geographic notion (since the fathers of analytic philosophy, Frege and Wittgenstein, were as continental as they could possibly be, geographically speaking), it is equally clear that this division is in some sense well founded. Although both analytic and continental philosophy are rather heterogeneous phenomena being rooted in the most diverse traditions, one immediately obvious difference between the two is the degree of logical rigour they display, with “logic” taken in the broadest sense of the term, i.e. including the views that natural science or that ordinary language is the crucial point of reference for philosophy.

Against this background, attempts to criticise the continental philosophers simply for a lack of logical rigour often leave the impression that, for all their good intentions, there is something deeply wrong and misguided about these charges. The reason for this impression is that the opposite side is not just happening to place a lower emphasis on logic, let alone in general simply committing logical mistakes. Rather, there is a far deeper disagreement about the very importance of logic in philosophical investigations altogether. In the seminar, using Michael Friedman’s acclaimed recent book as a guide, we shall look at one particular source of this disagreement, namely the common background of Neokantianism from which Heidegger and Carnap moved on in entirely different directions.

---

### 哲学原典研究Ⅱ（秋学期）

教授 飯田 隆

#### 授業科目の内容：

参加者による研究発表と討論から成る授業です。

---

**哲学原典研究Ⅲ（春学期）**

---

教授 中川 純 男

**授業科目の内容：**

アウグスティヌス『告白』をラテン語で講読する。ラテン語の読解力と共に哲学文献の分析手法を身につけることを目的とする。

---

**哲学原典研究Ⅳ（秋学期）**

---

教授 中川 純 男

**授業科目の内容：**

アウグスティヌス『告白』をラテン語で講読する。ラテン語の読解力と共に哲学文献の分析手法を身につけることを目的とする。

---

**哲学原典研究Ⅴ（春学期）**

---

プラトン『国家』講読

教授 堀 江 聡  
講師 栗 原 裕 次**授業科目の内容：**

『国家』はプラトン中期の代表作であり、正義論から教育論、文芸批評、心理学、存在論、認識論、政治学、学問論、快樂論ときわめて幅広いテーマを論じる、全10巻の大著である。昨年度に引き続き、第4巻の冒頭、第1章419Aからこの作品を読み進めるが、その際、J. Burnet や J. Adam 以来一世紀を経て新たに出版された最新の校訂(S. R. Slings の OCT 版)を用いる(旧版との異同に特に注意する)。ギリシア語の基本的な読解と内容の理解を柱とし、毎回相当量(2章ずつ)を読みながら、議論していく。

『国家』については、新プラトン主義者プロクロスによる註釈が残っており、本文と並行して関連箇所にあたる必要がある。Procli diadoci, *In Platonis Rem publicam commentarii*, ed., G. Kroll, vol.1, Amsterdam, 1965 (Leipzig, 1889). その翻訳・訳註として, Proclus. *Commentaire sur la République*, traduction et notes par A. J. Festugière, tome I: dissertations I-IV (p.1-111), Paris, 1970. *Proclo. Commento alla Repubblica di Platone*, a cura di Michele Abbate, Testo greco a fronte, Milano, 2004 を参照する

---

**哲学原典研究Ⅵ（秋学期）**

---

プラトン『国家』講読

教授 堀 江 聡  
准教授 納 富 信 留  
講師 栗 原 裕 次**授業科目の内容：**

春学期に引き続いてプラトン『国家』を読みすすめる。第5巻は読み上げる予定である。

---

**倫理学特殊講義ⅠA（春学期）**

---

教授 谷 寿 美

**授業科目の内容：**

“La Russie et l’Eglise Universelle” 1889 Paris: Savine  
露訳 Россия и Вселенская Церковь 1911. Москва  
を中心とするロシア宗教思想関連の文献を講読していきます。

---

**倫理学特殊講義ⅠB（春学期）**

---

J. S. ミルとイギリス哲学

講師 大久保 正 健

**授業科目の内容：**

この講義の目的は、19世紀英国の思想家 J. S. ミルの哲学思想を手がかりにして西洋の哲学や倫理学の伝統を考えることです。この作業を通じて、西洋哲学の骨格や論争点を理解します。近景はイギリス哲学、遠景は古代ギリシア以来の西洋哲学です。その際、ローマ帝国以来の宗教であるキリスト教と哲学の関係もお話します。前期は、思想史的な話、後期はテキストの読みとりを重視した講読になります。

---

**倫理学特殊講義ⅠC（春学期）**

---

近世スペインの神秘主義（1）

講師 鶴 岡 賀 雄

**授業科目の内容：**

十六～十七世紀のスペインは、「黄金世紀」とも呼ばれて、文化的にも政治的にも隆盛を極めました。この時代にイベリア半島には、多彩なキリスト教思潮も花開きましたが、それらにはいわゆる神秘主義的傾向が強く見られ、「スペイン神秘主義」と名づけられます。これは、西洋神秘思想史上では、「ドイツ神秘主義」等と並ぶ重要な宗教運動、思想運動であり、同時代のドイツやフランスやイギリスでの宗教改革運動に対応した、カトリック圏での改革運動でもありました。この講義では、このスペイン神秘主義に属するさまざまな思想について紹介します。

またそれによって、そもそも神秘主義・神秘思想とは何なのか、それは広く宗教や倫理にとってどのような意義をもったのか、今もなおもちうるのか、を考えてみたいと思います。

講義は、春・秋通年で構成され、春学期はその前半部分となりますが、春学期のみの履修も可能です。

---

**倫理学特殊講義ⅡA（秋学期）**

---

教授 谷 寿 美

**授業科目の内容：**

「倫理学特殊講義ⅠA」と同じ。

---

### 倫理学特殊講義ⅡB（秋学期）

J. S. ミルとイギリス哲学

講師 大久保 正 健

#### 授業科目の内容：

この講義の目的は、19世紀英国の思想家J. S. ミルの哲学思想を手がかりにして西洋の哲学や倫理学の伝統を考えることです。この作業を通じて、西洋哲学の骨格や論争点を理解します。近景はイギリス哲学、遠景は古代ギリシア以来の西洋哲学です。その際、ローマ帝国以来の宗教であるキリスト教と哲学の関係もお話します。前期は、思想史的な話、後期はテキストの読みとりを重視した講読になります。

---

### 倫理学特殊講義ⅡC（秋学期）

近世スペインの神秘主義（2）

講師 鶴岡 賀 雄

#### 授業科目の内容：

春学期の「近世スペインの神秘主義（1）」の継続です。

---

### 倫理学特殊講義ⅢA（春学期）

「近世倫理学の基盤」

教授 山内 志 朗

#### 授業科目の内容：

デカルトの『省察』をラテン語テキストとフランス語テキストの両方を使用して読解していく。ラテン語とフランス語によるテキスト読解力を身につけると共に、倫理学の基礎概念の背景を考察する。

---

### 倫理学特殊講義ⅢB（春学期）

Foundations of Kant's Moral Philosophy, part I.

准教授 エアトル, ヴォルフガング

#### 授業科目の内容：

On a par with Aristotle's *Nicomachean Ethics* and John Stuart Mill's *Utilitarianism* Kant's *Grundlegung zur Metaphysik der Sitten (Groundwork for the Metaphysics of Morals)* of 1785 is one of the key texts of Western moral philosophy.

Although it is quite a short book, it is quite demanding to read, since many years of intensive reflection were condensed into a polyphonic text. The task Kant tries to accomplish in the *Grundlegung* is to find and vindicate the highest principle of morality. In his opinion, this highest principle is the famous moral law or categorical imperative. Kant's claim is that the moral law originates in the will of rational beings, i.e. that they have autonomy, and that it is therefore not imposed on us externally, for example by God.

In the seminar we shall try to understand what precisely Kant has in mind with this idea of autonomy, how he goes about uncovering the moral law and why he thinks there

must be a highest moral principle in the first place. We shall concentrate on sections I and II of the *Grundlegung*.

It is very important not to misunderstand the purpose of the *Grundlegung*. It is not at all meant to give a short summary of Kant's moral philosophy as a whole. It has often been read this way and this widespread tendency is partly responsible for the deeply entrenched picture of Kant's ethics as an inflexible and rather bizarre ethics of rules. The seminar will try to show that this is nothing more than a caricature. In reality, Kant offers an ethics of principle which leaves plenty of room for practical wisdom to fill in the blanks. Another factor which contributed to the emergence of a false picture of Kant's ethics is the emphasis which has generally been put on just one formula of the moral law, i.e. the universal law formula and hence on the universalizability test for maxims. In recent years, it has been suggested that it is rather the idea that rational beings are "ends in themselves" which lies at the centre of Kant's program. The point is that their special worth requires them to act appropriately and others to treat them appropriately.

---

### 倫理学特殊講義ⅢC（春学期）

幸福をめぐる問題

商学部 教授 成田 和 信

#### 授業科目の内容：

この授業では、「幸福」をめぐる問題を検討します。まず、Shelly Kagan や Derek Parfit の文献を読むことで、現代の英語圏の哲学においてこの問題がどのように扱われているかを概観し、議論の出発点となる枠組みを獲得します。その後、とりあえずはその枠組みを参考にしながら、幸福に関する心的状態説と欲求充足説を検討します。

---

### 倫理学特殊講義ⅣA（秋学期）

近世倫理学の基盤

教授 山内 志 朗

#### 授業科目の内容：

倫理学特殊講義ⅢAの続講。

---

### 倫理学特殊講義ⅣB（秋学期）

Foundations of Kant's Moral Philosophy, part II.

准教授 エアトル, ヴォルフガング

#### 授業科目の内容：

In this seminar we shall look at section III of the *Grundlegung* and at selected passages of the *Kritik der praktischen Vernunft*. The emphasis will be put on finding out how Kant tries to vindicate the moral law, i.e. how he tries to show that the moral law is in fact the highest normative principle for free actions.

We will have to deal with at a number of difficult, yet

fascinating issues such as Kant's so-called reciprocity thesis, according to which a free will and a will under the moral law are one and the same. Kant's own argument for this claim is disarmingly short and therefore we need to consult material from other, often neglected sources in order to find out what Kant has in mind here. Another famous argument which keeps puzzling Kant's readers is the so-called "deduction of the categorical imperative" which is meant to show that the moral law is valid for rational beings which are also sensuous beings and which act in a world ruled by strict causal laws.

A further important question is as to whether Kant changed his strategies of vindication in the Critique of Practical Reason.

The main purpose of the seminar is to show the intimate connection between Kant's moral philosophy and the metaphysics underlying his transcendental idealism.

---

#### 倫理学特殊講義ⅣC (秋学期)

幸福をめぐる問題

商学部 教授 成田 和信

授業科目の内容：

倫理学特殊講義Ⅲに引き続き「幸福」を検討します。とくに、Thomas Nagel, Bernard Williams, T. M. Scanlon, Stephen Darwall といった現代の哲学者の文献を読むことで、「幸福」ばかりでなく「生きがい」や「主観的価値」といった周辺概念へも話を拡大し、考察を深めていきます。

---

#### 倫理学特殊講義演習ⅠA (春学期)

倫理学の諸問題

教授 樽井 正義  
 教授 谷 寿美  
 教授 山内 志朗  
 准教授 エアトル, ヴォルフガング  
 准教授 柘植 尚則  
 准教授 奈良 雅俊

授業科目の内容：

倫理学専攻のすべての教員と大学院生が参加し、学生による報告と全員による討論という形で授業を行う。学生は、論文の作成に向けた中間発表を行い、その成果を論文として提出することが求められる。

---

#### 倫理学特殊講義演習ⅠB (春学期)

ヘーゲル法哲学研究

教授 樽井 正義

授業科目の内容：

G. W. F. Hegel: Grundlinien der Philosophie des Rechts oder Naturrecht und Staatswissenschaft im Grundriss. 1821 を講読する。昨年度の講読分について簡略に復習したうえ

で、今回は Abstractes Recht を対象とする。

---

#### 倫理学特殊講義演習ⅡA (秋学期)

教授 樽井 正義  
 教授 谷 寿美  
 教授 山内 志朗  
 准教授 エアトル, ヴォルフガング  
 准教授 柘植 尚則  
 准教授 奈良 雅俊

授業科目の内容：

倫理学特殊講義演習ⅠAと同じ。

---

#### 倫理学特殊講義演習ⅡB (秋学期)

社会哲学・生命倫理学研究

教授 樽井 正義

授業科目の内容：

履修者が設定する生命倫理学の個別課題について、基本文献の講読とレポートの報告・討論を通じて、論文作成指導を行う。

---

#### 倫理学特殊講義演習Ⅲ (春学期)

近代イギリス道徳哲学研究

准教授 柘植 尚則

授業科目の内容：

この授業では17～19世紀の近代イギリス道徳哲学について考察する。近代イギリス思想が共通の課題としたのは「人間本性」であった。多くの思想家が人間本性について考察し、それに基づいて倫理・法・政治・経済・社会について考察を進めている。こうした考察は「道徳哲学」と呼ばれており、それが近代イギリス思想の一つの伝統であった。授業では、近代イギリス道徳哲学の古典を講読し、それについて議論しながら、人間本性論を中心に近代イギリス道徳哲学の諸潮流について検討する。本年度は、Adam Smith, *The Theory of Moral Sentiments* を取り上げる。

---

#### 倫理学特殊講義演習Ⅳ (秋学期)

近代イギリス道徳哲学研究

准教授 柘植 尚則

授業科目の内容：

「倫理学特殊講義演習Ⅲ」と同じ

---

#### 倫理学原典研究Ⅰ (春学期)

リクルールの倫理思想の研究

准教授 奈良 雅俊

授業科目の内容：

リクルールの『他としての自己—自身』を原書で講読します。

---

### 倫理学原典研究Ⅱ（秋学期）

リクールの倫理思想の研究

准教授 奈良 雅 俊

#### 授業科目の内容：

倫理学原典研究Ⅰに引き続き、リクールの『他としての自己—自身』を原書で講読します。

---

### 倫理学原典研究Ⅲ（春学期）

教授 飯 田 隆

准教授 エアトル, ヴォルフガング

#### 授業科目の内容：

「哲学原典研究Ⅰ」と同じ。

---

### 倫理学原典研究Ⅳ（秋学期）

Introduction to Contemporary Philosophy of Mind

准教授 エアトル, ヴォルフガング

#### 授業科目の内容：

We all seem to assume that there is something like the mind or mentality (and hence mental properties and events) or at any rate entities which are equipped with a mind, but when it comes to pinning it down theoretically, it turns out to be something rather elusive. The amazing progress made in neuroscience over the recent years renders it even more urgent to come up with a philosophically satisfying account of the mind.

But what is the mind? Part of a plausible strategy for answering this question is to avoid being misled by the surface grammar. We should not simply assume that the mind is a „thing“ such as frogs or trees or cars. Rather, we should start analyzing the mind in terms of capacities and then see how far we get. Furthermore we should enquire whether there is anything which mental properties and mental events have in common. In the history of philosophy there have of course been some voices who claimed that certain capacities presuppose that the mind or something in the mind or at any rate closely connected to it, is indeed a substance.

In the seminar, we shall discuss several answers to these important questions about the mind and mental properties. In contrast to the Cartesian dualist answers which interpret the mind as a *res cogitans* or a thinking thing, behaviourists tend to identify mind and behaviour. Recently, there have also been strong tendencies to consider the mind as identical to the brain, to regard the mind as a computer or, alternatively, to regard the mind as a causal system.

In reviewing these options, the problem of consciousness shall receive special attention. Some philosophers went as far as to say that consciousness is in principle inexplicable for us, just like the rules of multiplication will forever remain a

mystery for guinea pigs.

We will also discuss notions such as emergence, supervenience and reduction, in particular in connection with the problem of mental causation (i.e. the problem whether something mental can cause something in the material world, e.g. whether your decision to come to the seminar may (at least partly) cause your presence there). Other issues to be looked at are reduction, explanation, property dualism and physicalism.

---

## 美学美術史学専攻

---

### 美学特殊講義Ⅰ（春学期）

日本的感性の構造1

講師 佐々木 健 一

#### 授業科目の内容：

感性とは、複雑な要因に基づいて一挙に行う判断である。日本人の「感じ方」には特異なものがあるのではないかと、という仮説から出発し、古典的な和歌を素材として、感性の構造を解明しようと試みる。方法は経験的、実験的です。注目すべき感じ方を示す和歌を順次とりあげてゆき、それらを総覧して構造を考えることにする。全体は「語彙」と「文法」の2つの部分を含む。前者は、要素的な「感じ方」を取り上げる部門であり、そこに知的な操作の加わったのが後者である。前者としては、「花に囲まれる」、「美の残像」、「粘着による世界との一体化」、「心の浄化」、「香りに記憶の残響」などのモチーフがあり、後者としては「ずらしとしての想像力」、「未来完了の詩学」、「技巧としてのシュルレアリスティックな脱／再構築」、「反省的批判のまなざし」などを含む。

---

### 美学特殊講義Ⅱ（秋学期）

日本的感性の構造2

講師 佐々木 健 一

#### 授業科目の内容：

「美学特殊講義Ⅰ」と同じ。

---

### 美学特殊講義演習ⅠA（春学期）

古典詩論研究1

講師 藤 田 一 美

#### 授業科目の内容：

古代哲学における文藝の位置を確認するために主としてプラトンの『国家』やアリストテレスの『詩学』や『弁論術』を注釈を用いながら細かく読んでゆきます。

なお、古典語未習者の参加を認めます。場合によっては日本語文献を主たるテキストとして用います。



---

**美学特殊講義演習 I B (春学期)**

---

教授 大石 昌史

**授業科目の内容:**

美学に関する一定のテーマについて専門的な内容の講義を行う。大学院生を対象とする講義の目的は、定説化した知識の整理や伝達ではなく、参考文献の批判的な紹介やテキスト解釈上の問題点の指摘を通じて、美学研究の具体例を示すことにある。修士論文の作成については随時指導する。

本年度のテーマは、ガイダンスおよび第1回目の授業時に説明する。

---

**美学特殊講義演習 II A (秋学期)**

---

古典詩論研究2

講師 藤田 一美

**授業科目の内容:**

春学期につづき、古代哲学における文藝の位置を確認するために主としてプラトンの『国家』やアリストテレスの『詩学』や『弁論術』を注釈を用いながら細かく読んでゆきます。

なお、古典語未習者の参加を認めます。場合によっては日本語文献を主たるテキストとして用います。

---

**美学特殊講義演習 II B (秋学期)**

---

教授 大石 昌史

**授業科目の内容:**

美学・芸術学における基本的な文献の講読・注釈演習、および、参加者による各自の研究テーマに関する口頭発表という授業形態をとる。参加者各人の関心を考慮しながら、美学および芸術学諸分野から著作・論文を選択し、その講読を通じて、翻訳・注釈の実践的な訓練を行う。また、各人の修士論文のテーマに即した口頭発表の原稿作成に際して、事前事後に、その主張・構成・表現等に関する助言・添削指導を行う。

---

**美術史特殊講義 I (春学期)**

---

教授 林 温

**授業科目の内容:**

東洋・日本美術史学の研究論文を作成する方法を、具体的・実践的に学習します。

---

**美術史特殊講義 II (秋学期)**

---

教授 林 温

**授業科目の内容:**

「美術史特殊講義 I」と同じ。

---

**美術史特殊講義 III (春学期)**

---

西洋美術史研究の視点と方法

教授 末吉 雄二

**授業科目の内容:**

今日、美術史研究の領域は作品・作家研究にとどまらず、拡大・多様化しており、さまざまな研究テーマが重層・錯綜している。研究テーマと研究方法には密接な関連があるので、研究者は自らの研究関心・視点を自覚的に把握し、それにもっとも相応しい方法を選択する必要がある。授業は、担当者および履修者が各自の研究テーマとその研究方法を発表し、履修者全員がそれぞれの視点と比較検討する、質疑応答・討論を通じて、よりの確なテーマと有効な方法を探求する。

---

**美術史特殊講義 IV (秋学期)**

---

西洋美術史研究の視点と方法

教授 末吉 雄二

**授業科目の内容:**

「美術史特殊講義 III」と同様。

---

**美術史特殊講義 V (春学期)**

---

美術と色彩論

教授 前田 富士男

**授業科目の内容:**

本年は、近代の色彩論の特性について多面的に検討する。ゲーテの「色彩論」はじめ、多くの論考にふれ、美術史学と色彩研究との関連に照明をあてる。なお、遠山公一教授の授業と共同ゼミの形式で、近世絵画の色彩観と近代のそれとを対比する試みも実践したい。

---

**美術史特殊講義 VI (秋学期)**

---

美術と色彩論

教授 前田 富士男

**授業科目の内容:**

美術史特殊講義 V の受講を前提とする。参加者は研究領域に即して、美術と色彩をめぐる考察を発表して、討議する。テキストの講読もつづける。

---

**美術史特殊講義演習 I (春学期)**

---

准教授 内藤 正人

**授業科目の内容:**

既存の論文・文献史料の講読を通じて、美術史的な論文作成への多様なアプローチを学ぶ。また、折に触れて実作品や資料の検討などの実践学習を重ねながら、個々の専門性をさらに高める訓練をおこない、論文作成を指導する。

---

### 美術史特殊講義演習Ⅱ（秋学期）

准教授 内藤 正人

#### 授業科目の内容：

既存の論文・文献史料の講読を通じて、美術史的な論文作成への多様なアプローチを学ぶ。また、折に触れて実作品や資料の検討などの実践学習を重ねながら、個々の専門性をさらに高める訓練をおこない、論文作成を指導する。

---

### 美術史特殊講義演習Ⅲ（春学期）

陰影論

教授 遠山 公一

#### 授業科目の内容：

美術における光と影の表現を追う。西洋美術において、基本的造形手段としての陰影（shadeとshadow）・明暗・色彩の文化的・宗教的背景を問題としつつ、陰と影の導入の経緯、歴史を追う。イリュージョニズムの確立と推移が基本的な問題となる。

---

### 美術史特殊講義演習Ⅳ（秋学期）

陰影論

教授 遠山 公一

#### 授業科目の内容：

美術史特殊講義演習Ⅲを履修することを前提とする。

春学期の美術における光と影、色彩に関する議論の延長。西洋美術において、基本的造形手段としての陰影（shadeとshadow）・明暗・色彩における文化的・宗教的背景を問題としつつ、陰と影の導入の経緯、歴史を追う。イリュージョニズムの確立と推移あるいは崩壊が基本的な問題となる。

---

### 音楽学特殊講義Ⅰ（春学期）

音楽学の方法論

教授 三宅 幸夫

#### 授業科目の内容：

本講義は、音楽学で修士論文を書くための研究会と理解してください。論文の題目は自由ですが、学問的方法論を身につけるためには、批判に値する先行研究がある分野が望ましいと思います。また必要な場合は、修士論文の個別指導もおこないます。

---

### 音楽学特殊講義Ⅱ（秋学期）

音楽学の方法論

教授 三宅 幸夫

#### 授業科目の内容：

本講義は、音楽学で修士論文を書くための研究会と理解してください。論文の題目は自由ですが、学問的方法論を身につけるためには、批判に値する先行研究がある

分野が望ましいと思います。また必要な場合は、修士論文の個別指導もおこないます。

---

### 音楽学特殊講義演習Ⅰ（春学期）

音楽文献学の方法

准教授 西川 尚生

#### 授業科目の内容：

音楽作品を扱う上で重要な、いわゆる資料批判（Quellenkritik）の方法についての講義と実習をおこなう。手稿譜（自筆譜、筆写譜）と歴史的印刷譜の調査・読解の方法、および楽譜校訂の方法を身につけてもらうことが目的だが、具体的には以下のような項目を含むものとなるだろう。

##### 講義

- ・自筆譜の文献学的調査：用紙（透かし）、インク、ラストラール
- ・筆跡と作曲年代の問題（筆跡年代学）
- ・自筆譜（スケッチ、草案譜、浄書譜）の読解
- ・筆写譜におけるオーセンティシティー
- ・楽譜出版社と版番号
- ・歴史的印刷譜におけるオーセンティシティー
- ・音楽作品の真偽判定
- ・「全集版」の校訂

##### 実習等

- ・校訂報告書の読解
- ・三田メディアセンター所蔵の楽譜資料（リストの歌曲自筆譜、ベートーヴェンの第9交響曲初版譜等）と担当者所蔵の手稿譜を使つての調査実習
- ・各自の研究テーマに沿った課題によるレポートないし口頭発表

---

### 音楽学特殊講義演習Ⅱ（秋学期）

音楽文献学の方法

准教授 西川 尚生

#### 授業科目の内容：

音楽作品を扱う上で重要な、いわゆる資料批判（Quellenkritik）の方法についての講義と実習をおこなう。手稿譜（自筆譜、筆写譜）と歴史的印刷譜の調査・読解の方法、および楽譜校訂の方法を身につけてもらうことが目的だが、具体的には以下のような項目を含むものとなるだろう。

##### 講義

- ・自筆譜の文献学的調査：用紙（透かし）、インク、ラストラール
- ・筆跡と作曲年代の問題（筆跡年代学）
- ・自筆譜（スケッチ、草案譜、浄書譜）の読解
- ・筆写譜におけるオーセンティシティー
- ・楽譜出版社と版番号

- ・歴史的印刷譜におけるオーセンティシティー
- ・音楽作品の真偽判定
- ・「全集版」の校訂

実習等

- ・校訂報告書の読解
- ・三田メディアセンター所蔵の楽譜資料（リストの歌曲自筆譜、ベートーヴェンの第9交響曲初版譜等）と担当者所蔵の手稿譜を使っての調査実習
- ・各自の研究テーマに沿った課題によるレポートないし口頭発表

---

### 芸術学研究Ⅰ（A）（春学期）

音楽分析

講師 小鍛冶 邦 隆

授業科目の内容：

バッハ〈フーガの技法〉BWV 1080 中のカノン諸作品、および〈音楽の捧げもの〉を取り上げ、バッハ晩年のカノン作品の原理をさぐる。

---

### 芸術学研究Ⅰ（B）（春学期）

近現代における文化芸術消費の特質と構造

教授 美 山 良 夫

授業科目の内容：

近現代における文化芸術消費の特質と構造について検討する。この問題あるいは関連領域にはボードリヤールやブルデューらによる論考がつねに参照されるが、この講義では、歴史的・具体的な事例をもとに考察することにする。博覧会、フェスティバル、アーバン・ツーリズムその他のケースを検証する中で、それらが芸術創造に照射した部分がどこにあったのかを考えることも、講義のねらいである。

---

### 芸術学研究Ⅱ（A）（秋学期）

音楽分析

講師 小鍛冶 邦 隆

授業科目の内容：

ウェーベルンの後期作品中、〈眼の光〉op26、〈カンタータ第1番〉op29、〈カンタータ第2番〉op31の3つのカンタータ作品を分析し、ルネサンスからバッハに至る声楽ポリフォニーの伝統と12音技法の原理の結びつきを解明する。

---

### 芸術学研究Ⅱ（B）（秋学期）

芸術パトロネージの諸相

教授 美 山 良 夫

授業科目の内容：

近現代における芸術パトロネージの諸相について検討する。この問題あるいは関連領域にはすでに文化政策や企業メセナ関連など多くの文献があるが、まず概念の整

理からはじめて、具体的な事例を検証してその広がりや射程を確認する。西洋の事例や観念から説かれることが多いが、ここでは日本における文化学術パトロネージの事例に焦点をあて、そこに通底するものがなにかを検証することを今年度の主たるテーマにする。またそれが芸術創造をうながした部分がどこにあったのかを考えることも、講義のねらいである。

---

### 芸術学研究Ⅲ（春学期）

休 講

---

### 芸術学研究Ⅳ（秋学期）

休 講

---

### 芸術学研究Ⅴ（春学期）

美術と先端技術

講師 布 山 毅

授業科目の内容：

美術分野の研究やプロジェクトにおける、デジタルメディアの利用方法の解説と、実践的な技術の習得。「対象をいかにアーカイヴ化するか？」という視点と、「コンセプトやアイデアをいかに他者に伝えるか？」という二つの視点から、デジタルメディアの活用方法をつくりながら考えてゆく。また、美術と先端技術の境界領域におけるさまざまな事例を紹介し、それらの意味と可能性についてディスカッションを行う。

---

### 芸術学研究Ⅵ（秋学期）

美術と先端技術

講師 布 山 毅

授業科目の内容：

美術分野の研究やプロジェクトにおける、デジタルメディアの利用方法の解説と、実践的な技術の習得。「対象をいかにアーカイヴ化するか？」という視点と、「コンセプトやアイデアをいかに他者に伝えるか？」という二つの視点から、デジタルメディアの活用方法をつくりながら考えてゆく。また、美術と先端技術の境界領域におけるさまざまな事例を紹介し、それらの意味と可能性についてディスカッションを行う。

---

### アート・マネジメント特殊講義Ⅰ（春学期）

教授 美 山 良 夫

授業科目の内容：

アートを社会にひらき、その力を活かすとともに、アートの創造につなげるためには、さまざまなフェーズで、リソース（資源）のより高度なマネジメントが必要です。ここではそのリソースを、人と組織、場と施設、ファイナンス、情報とコミュニケーションに集約し、これらの

柱のひとつにかかわる、あるいはこの4つの柱を横断するマネジメントの基本と今日的課題、その克服について検討します。

文化装置としての美術館・劇場の運営／経営，プログラム評価の理念と実践，各セクターによるアート支援の根拠とプログラムの更新，文化施設・団体の会計管理，パブリック・リレーションとコミュニケーション戦略などが切り口になります。

基本的な文献と事例の理解と検討のほか，ゲストを招聘して討論を予定しています。具体的な内容は，学生のバックグラウンドを勘案して決定します。

---

#### アート・マネジメント特殊講義Ⅱ（春学期）

美術館（博物館）の生き残る道

講師 鈴木 隆 敏

#### 授業科目の内容：

指定管理者制度の導入で揺れる地方自治体の公立美術館，博物館の現状と問題点をはじめ，独立行政法人に移行した国立美術館，博物館，そして法人制度改革で経営形態の変更を迫られている私立美術館の生き残る道をさぐる。

---

#### アート・マネジメント特殊講義Ⅲ（春学期）

休 講

---

#### アート・マネジメント特殊講義Ⅳ（春学期）

休 講

---

#### アート・マネジメント特殊講義演習Ⅰ（春学期）

教授 美 山 良 夫

#### 授業科目の内容：

アート・マネジメントにおけるリソースを人と組織，場と施設，ファイナンス，情報とコミュニケーションに集約し，これらの柱にかかわる，あるいはこの4つの柱を横断するマネジメントの基本と今日的課題，その克服について，検討します。

問題・課題の抽出，分析，まとめサイクルの繰り返しになりますが，受講者はあらかじめ，指示されるケース，データを読み込んだり，ゲストを迎えてのディスカッションの前には関連領域について一定の理解をもつことが求められます。

---

#### アート・マネジメント特殊講義演習Ⅱ（春学期）

都市と共存する美術館のあり方をめぐって

総合政策学部教授 上 山 信 一  
DMC 機構特別研究教授 岩 淵 潤 子

#### 授業科目の内容：

昨今，美術館のあり方がしばしば議論になる。収支や入

館者数，さらにもちろん内容についてである。しかしこれらは単に「美術館の問題」として片づけられない。実は行政の組織や制度，あるいは日本人の社会意識や経済構造と深くかかわっている場合が多い。この授業ではこうした広い文脈の中で美術館と都市の共存のあり方，都市の資源としての美術館のあり方を多角的に探る。

---

#### アート・マネジメント特殊講義演習Ⅲ（春学期）

休 講

---

#### アート・マネジメント特殊講義演習Ⅳ（春学期）

休 講

---

#### アート・マーケティング特殊講義Ⅰ（秋学期）

講師 川 又 啓 子

#### 授業科目の内容：

本講義の目的は，①マーケティングの戦略体系の基礎を理解し，②美術，音楽，演劇などのアート分野におけるマーケティング実践を事例（ケース）を通して学ぶことである。①と②によってアート・マネジャーとしてのノウハウ，能力を高めることが最終的な到達点となる。講義，ケース分析，グループ・フィールド・ワークを中心に授業を進める予定である。

---

#### アート・マーケティング特殊講義Ⅱ（秋学期）

休 講

---

#### アート・マーケティング特殊講義演習Ⅰ（秋学期）

講師 川 又 啓 子

#### 授業科目の内容：

「アート・マーケティング特殊講義Ⅰ」と同じ。

---

#### アート・マーケティング特殊講義演習Ⅱ（秋学期）

休 講

---

#### 知的資産特殊講義（春学期）

アートのリスクマネジメントと保険

講師 箱 守 栄 一

#### 授業科目の内容：

美術展，舞台芸術，オペラ等のアートに係るリスクマネジメントと保険につき解説します。特にリスクマネジメント手法の確立されている美術展を中心に解説します。契約書の中のLiability条項につき理解し，保険条件との関係を解説します。

---

### 知的資産特殊講義演習（春学期）

著作権及び周辺領域に関する発展的検討

講 師 伊 藤 真

#### 授業科目の内容：

著作権やその周辺領域（主にミュージアム・グッズで問題となりやすい肖像権やパブリシティ権）について、いわば発展的・応用問題的な検討を行う。

講義の進め方については、事前に架空の具体的な事例を設定した課題を事前に出題し、それについて順番に数名の受講者に報告（レポート）していただき、受講者の間で討議・検討を行う形を考えている。

また、後半では、事例演習として、屋外モニュメントの製作依頼契約を想定して、発注者と作者との間の契約書の作成を試みる。受講者に発注者と制作者との間に立つディレクター的立場に立っていただき、私が仮想の発注者やアーティストを演じて、どのような事柄に注意を払って交渉を進め、契約書にまとめていくかを模擬体験していただく形で講義を進行させてみたい。

いずれも、答えの存在する問題を学習するのではなく、受講者間の討議・検討を通じて、著作権法等の理解を進めるとともに問題解決のための思考能力を身につけていくことを目標とする。

---

### 芸術著作権演習Ⅰ（春学期）

著作権に関する基礎

講 師 北 村 行 夫

講 師 大 井 法 子

#### 授業科目の内容：

著作権及び著作隣接権について基本的な理解を身につけることを本講義の目標とします。

---

### 芸術著作権演習Ⅱ（春学期）

芸術著作権に関する契約

講 師 大 井 法 子

#### 授業科目の内容：

アートマネージメントにおいて必要な契約を理解することを本講義の目標とします。

---

### 芸術資源デザイン演習Ⅰ（春学期）

芸術関連文献資料検索および目録記述をめぐって

教 授 美 山 良 夫

#### 授業科目の内容：

美術及び舞台芸術とそれらの運営研究に必要な情報（統計データ、内外の研究論文その他）、データベース、資料アーカイブおよび研究機関アクセスなどについての実習。また芸術作品の目録（カタログ）の種類とその理解についての演習をおこなう。資料所蔵機関への見学（履修者の状況を勘案）を別途おこなうことがある。また論文の

執筆に必要な要素と準備についての演習を含む。

---

### 芸術資源デザイン演習Ⅱ（春学期）

休 講

---

### 芸術資源デザイン演習Ⅲ（近代芸術資料研究とアーカイブ運用）（秋学期）

教 授 前 田 富 士 男

教 授 林 温

教 授 三 宅 幸 夫

#### 授業科目の内容：

芸術家自身の手になる制作品（たとえば絵画、楽譜、原稿、手稿、書簡、日記、ノート、メモなど）は、ひろく一次資料と呼ばれる。制作論の関心に立つと、こうした一次資料とともに、制作活動を支えた資料（たとえば収集品、蔵書、定期刊行物記事、写真など）、すなわち制作関連資料も見落とせない。本授業は、一次資料と制作関連資料を統括するアーカイブ・デザインの構築をめぐって講義、討論、見学を行う。

---

### 芸術資源デザイン演習Ⅳ（秋学期）

休 講

---

### アート・プロジェクト総合演習Ⅰ（秋学期）

教 授 美 山 良 夫

講 師 金 子 哲 理

講 師 桜 井 武

#### 授業科目の内容：

この演習は、アート・マネジメント、アート・マーケティング、芸術資源デザイン、知的資産の科目群を学びながら、その知識の確認と実践的な展開をトレーニングする場として位置づけられます。各自が具体的なプロジェクトを構想し提案、その提案についてさまざまな角度から検討します。

この演習は、修士論文のテーマ策定にもつながります。

---

### アート・プロジェクト総合演習Ⅱ（秋学期）

教 授 美 山 良 夫

講 師 金 子 哲 理

講 師 桜 井 武

#### 授業科目の内容：

アート・プロジェクト総合演習Ⅰと同等の内容です。修士論文のテーマの検討や指導を含むことがあります。

---

### アート・プロジェクト総合演習Ⅲ（秋学期）

休 講

---

アート・プロジェクト総合演習Ⅳ（秋学期）

---

休 講

**史学専攻**

---

史学特殊講義Ⅰ（春学期）

---

教 授 神 崎 忠 昭

授業科目の内容：

ヨーロッパ中世のラテン語文献を講読します。なおテキストについては、受講者と相談して決めます。

---

史学特殊講義Ⅱ（秋学期）

---

教 授 神 崎 忠 昭

授業科目の内容：

ヨーロッパ中世のラテン語文献を講読します。なおテキストについては、受講者と相談して決めます。

---

史学特殊講義Ⅲ（春学期）

---

18世紀フランス社会における諸変化

教 授 藤 田 苑 子

授業科目の内容：

「18世紀フランス社会における諸変化」を中心テーマとして、論文、文献の講読をする。

---

史学特殊講義Ⅳ（秋学期）

---

18世紀フランス社会における諸変化

教 授 藤 田 苑 子

授業科目の内容：

「18世紀フランス社会における諸変化」を中心テーマとして、論文、文献の講読をする。

---

古文書学特殊講義Ⅰ（春学期）

---

教 授 田 代 和 生

授業科目の内容：

江戸時代古文書の解読、特に初見での「速読能力」を高めることを目的にしている。加えて、未整理文書の分類、整理法などを実習する。

本授業でテキストとする『伊丹家文書』は、津山藩大坂藩邸の文書で、一紙文書だけである。特に難解な近世書状の解読能力を高める指導を行う。

---

古文書学特殊講義Ⅱ（秋学期）

---

教 授 田 代 和 生

授業科目の内容：

「古文書学特殊講義Ⅰ」と同じ。

---

日本史特殊講義ⅠA（春学期）

---

教 授 長 谷 山 彰

授業科目の内容：

『令集解』の講読を中心に律令制の成立過程や諸制度の運用の実態について考える。

---

日本史特殊講義ⅠB（春学期）

---

准教授 中 島 圭 一

授業科目の内容：

中世史料の講読を進めながら、中世社会の特質について考えていきます。

---

日本史特殊講義ⅡA（秋学期）

---

教 授 長 谷 山 彰

授業科目の内容：

「日本史特殊講義ⅠA」と同じ。

---

日本史特殊講義ⅡB（秋学期）

---

准教授 中 島 圭 一

授業科目の内容：

「日本史特殊講義ⅠB」と同じ。

---

日本史特殊講義ⅢA（春学期）

---

キリシタン史

准教授 浅 見 雅 一

授業科目の内容：

キリシタン関係史料の講読を行なう。修士論文の指導も併せて行う。

---

日本史特殊講義ⅢB（春学期）

---

教 授 井 奥 成 彦

授業科目の内容：

近代日本の社会経済史関係文献及び史料の講読。

---

日本史特殊講義ⅢC（春学期）

---

近世大名家臣団の社会構造

講 師 磯 田 道 史

授業科目の内容：

近世大名家臣団の成立と構造について講義する。中世末期から近世中期にかけて、諸大名で「御家中」とよばれる家臣団が成立・展開する様子について、社会経済史的に分析する。近世武家研究の研究史からはじめて、戦国～近世前期の武家社会史、近世大名家臣の社会史的研究へと、講義をすすめていく。

---

**日本史特殊講義Ⅳ A (秋学期)**

キリシタン史

准教授 浅見 雅一

**授業科目の内容：**

「日本史特殊講義Ⅲ A」と同じ。

---

**日本史特殊講義Ⅳ B (秋学期)**

教授 井奥 成彦

**授業科目の内容：**

「日本史特殊講義Ⅲ B」と同じ。

---

**日本史特殊講義Ⅳ C (秋学期)**

近世大名家臣団の社会構造

講師 磯田 道史

**授業科目の内容：**

「日本史特殊講義Ⅲ C」と同じ。

---

**日本史特殊講義演習Ⅰ A (春学期)**

教授 三宅 和朗

**授業科目の内容：**

『豊後国風土記』と『肥前国風土記』の講読。両風土記を手がかりに、古代の地方社会の具体像を点検していきたい。

---

**日本史特殊講義演習Ⅰ B (春学期)**

講師 尾上 陽介

**授業科目の内容：**

平信範の日記『兵範記』を講読し、古記録についての理解を深めつつ、転換期の社会を考える。

---

**日本史特殊講義演習Ⅱ A (秋学期)**

教授 三宅 和朗

**授業科目の内容：**

「日本史特殊講義演習Ⅰ A」と同じ。

---

**日本史特殊講義演習Ⅱ B (秋学期)**

講師 尾上 陽介

**授業科目の内容：**

「日本史特殊講義演習Ⅰ B」と同じ。

---

**日本史特殊講義演習Ⅲ A (春学期)**

教授 田代 和生

**授業科目の内容：**

受講者による研究進行状況の報告と修士論文作成に向けての指導を行う。

---

**日本史特殊講義演習Ⅲ B (春学期)**

休講

---

**日本史特殊講義演習Ⅳ A (秋学期)**

教授 田代 和生

**授業科目の内容：**

「日本史特殊講義演習Ⅲ A」と同じ。

---

**日本史特殊講義演習Ⅳ B (秋学期)**

休講

---

**東洋史特殊講義Ⅰ A (春学期)**

『周易』の講読

教授 桐本 東太

**授業科目の内容：**

『周易』の講読を通して、幅広く中国古代文化全般について考えてみたい。

---

**東洋史特殊講義Ⅰ B (春学期)**

移民史研究の新しい方法論について

教授 吉原 和男

**授業科目の内容：**

華僑・華人を含むアジア系移民を対象とする歴史学、人類学、社会学の近年における研究動向を把握して、新しい方法論について検討する。キーワードは「トランスナショナルイズム」、「ディアスポラ」、「グローバルイゼーション」である。

---

**東洋史特殊講義Ⅰ C (春学期)**

休講

---

**東洋史特殊講義Ⅱ A (秋学期)**

『周易』の講読

教授 桐本 東太

**授業科目の内容：**

『周易』の講読を通して、幅広く中国古代文化全般について考えてみたい。

---

**東洋史特殊講義Ⅱ B (秋学期)**

移民史研究の新しい方法論について

教授 吉原 和男

**授業科目の内容：**

「東洋史特殊講義Ⅰ B」と同じ。

---

**東洋史特殊講義Ⅱ C (秋学期)**

休講

---

**東洋史特殊講義Ⅲ A (春学期)**

近代イランの法制改革

講 師 近 藤 信 彰

**授業科目の内容：**

19世紀を通じてなされたイランの法制改革を理想と現実の両面から跡づけ、立憲革命にいたる流れを明らかにする。主にペルシア語史料の講読を行なう。

---

**東洋史特殊講義Ⅲ B (春学期)**

オスマン帝国における宗教と民族

講 師 石 丸 由 美

**授業科目の内容：**

オスマン帝国を特徴づけるものとして、多民族、多宗教世界であることをあげることができる。こうしたオスマン社会の特性を、特に非ムスリム、非トルコの側からみることで、明らかにしていく。

具体的にはトルコ語文献講読を通して、オスマン社会の多民族性、多宗教性を考察する。

---

**東洋史特殊講義Ⅲ C (春学期)**

イスラーム史における政治と宗教

言語文化研究所 准教授 野 元 晋

**授業科目の内容：**

イスラームにおける政治と宗教の関係は一体性がしばしば強調されてきました。しかし歴史的には両者の関係は、預言者ムハンマドのマディーナ（メディナ）の共同体建設以来、諸分派・法学派・神学派・宗教運動の成立、スンナ・シーア両派の伝統の確立など状況を反映しつつ、周辺諸文明の影響をも受け、時代、地域によって多様な変遷を辿ってきています。

この授業では、イスラームの古典期・中世期における政治と宗教の関係を、政治思想史における諸分派と主流派（スンナ派）の論争、さらにスンナ・シーア両派の国家権力への対応、ムスリム国家の他の諸宗教共同体との関係という問題を取り上げて考察していきます。ケーススタディーとしてシーア派（イスマール派）王朝、ファーティマ朝（910～1171）の政治思想を取り上げます。この王朝は少数派（シーア派）の多数派（スンナ派）支配の正当化、また当時確立途上にあったスンナ派の伝統とシーア派との論争、キリスト教、ユダヤ教共同体との関係など、様々な政治制度史・思想史上の資料を豊かに提供しているからです。しかしその他の古典期、中世期におけるムスリム諸王朝の例をも参加者の皆さんとの議論によって目配りしたいと思います。

---

**東洋史特殊講義Ⅳ A (秋学期)**

近代イランの法制改革

講 師 近 藤 信 彰

**授業科目の内容：**

「東洋史特殊講義Ⅲ A」と同じ。

---

**東洋史特殊講義Ⅳ B (秋学期)**

講 師 石 丸 由 美

**授業科目の内容：**

「東洋史特殊講義Ⅲ A」と同じ。

---

**東洋史特殊講義Ⅳ C (秋学期)**

イスラーム史における政治と宗教

言語文化研究所 准教授 野 元 晋

**授業科目の内容：**

基本的には春学期の東洋史特殊講義Ⅲ Cの続編です。イスマール・シーア派王朝のファーティマ朝の政治思想を手がかりにイスラームにおける政治と宗教の問題を考察していきます。この秋学期ではムスリム王朝とイスラームの他の宗教共同体の関係の考察にやや重点が置かれ、特にユダヤ教共同体との関係にスポットをあてたいと思います。

---

**東洋史特殊講義演習Ⅰ A (春学期)**

中国近現代都市社会史

講 師 小 浜 正 子

**授業科目の内容：**

20世紀前半の上海に関する史料を講読し、都市社会について論ずる。

---

**東洋史特殊講義演習Ⅰ B (春学期)**

近代中国の政治と社会

講 師 並 木 頼 寿

**授業科目の内容：**

近・現代中国の歴史をみると、国家としては「清朝」、「中華民国」について「中華人民共和国」が存在して、現在にいたっています。現在の中国では民族主義が強調されますが、その民族主義は近・現代の歴史のなかで形作られてきたものです。同様に、「国家」（国民国家）という存在自体も、歴史のなかで形成されてきて現在にいたっており、また「社会」という概念も、近代に外部からの文化的影響のなかで使用されるようになり、それに応じて実際に社会が発見される、ということがありました。ここには、中国独自の伝統的な社会秩序についての考え方、在り方が、外部からの影響を受けて変化・変容しながら、新たなものを模索してきた経緯が潜んでいます。とくに、清末から中華民国の時期に試行され、その後の革命でいったんは否定されたようにみえることがらの可能性、方向



性に着目しつつ、現在の諸状況とも対比しながら、考えてみたいと思います。

---

### 東洋史特殊講義演習ⅠC（春学期）

エスニシティとナショナリズム

講師 三尾裕子

#### 授業科目の内容：

エスニシティとナショナリズムに関する理論的な研究及び事例研究を主に文化人類学、歴史人類学という角度から行う。

理論的な研究については、エスニシティ、ナショナリズム、トランスナショナリズム、グローバリゼーション、ディアスポラなどについての文化人類学的な基礎的研究を概観し、基礎固めとする。

事例研究では、主に中国系移民を取り上げる。中国系移民の研究に関しては、これまで彼らのアイデンティティの多層性、“華人”ネットワーク（母村と移民先のそれ、“華人”同士のビジネスにおけるそれ）、文化的なトランス・ナショナリズム、グローバル化の中でのコスモポリタン・チャイニーズといった側面が取り上げられがちであるが、本授業では、中国系移民の移住先社会での土着の社会との相互関係にも注意を払い、中国系としての意識が本質化されるプロセス（こうした本質化は、研究者自身が強化している）、あるいは逆にそれが失われていくプロセスについて、考察する。

---

### 東洋史特殊講義演習ⅡA（秋学期）

中国近現代都市社会史

講師 小浜正子

#### 授業科目の内容：

20世紀前半の上海に関する史料を講読し、都市社会史について論ずる。

---

### 東洋史特殊講義演習ⅡB（秋学期）

講師 並木頼寿

#### 授業科目の内容：

「東洋史特殊講義演習ⅠB」と同じ。

---

### 東洋史特殊講義演習ⅡC（秋学期）

エスニシティとナショナリズム

講師 三尾裕子

#### 授業科目の内容：

エスニシティとナショナリズムに関する理論的な研究及び事例研究を主に文化人類学、歴史人類学という角度から行う。

理論的な研究については、エスニシティ、ナショナリズム、トランスナショナリズム、グローバリゼーション、ディアスポラなどについての文化人類学的な基礎的研究

を概観し、基礎固めとする。

事例研究では、主に中国系移民を取り上げる。中国系移民の研究に関しては、これまで彼らのアイデンティティの多層性、“華人”ネットワーク（母村と移民先のそれ、“華人”同士のビジネスにおけるそれ）、文化的なトランス・ナショナリズム、グローバル化の中でのコスモポリタン・チャイニーズといった側面が取り上げられがちであるが、本授業では、中国系移民の移住先社会での土着の社会との相互関係にも注意を払い、中国系としての意識が本質化されるプロセス（こうした本質化は、研究者自身が強化している）、あるいは逆にそれが失われていくプロセスについて、考察する。

---

### 東洋史特殊講義演習ⅢA（春学期）

近現代イスラーム研究（Ⅰ）

講師 飯塚正人

#### 授業科目の内容：

アラブ世界を中心に、スンナ派の近現代イスラーム思想や政治運動・社会運動の歴史的展開を、英語の研究書講読を通して研究する。

---

### 東洋史特殊講義演習ⅢB（春学期）

パン・イスラミズムから考える中東イスラーム世界史

教授 坂本勉

#### 授業科目の内容：

同じ中東イスラーム世界の歴史を研究するといっても大学院生ともなると、当然のことながら各自、専門を持っている。地域、時代、関心の有りようも多様である。しかし、この授業では自分の殻に閉じこもるのではなく、それを越えて中東イスラーム世界とは何か、パン・イスラミズムを手がかりに全体として問うていくことを目標としている。テキストを読み、レジュメに切って発表するというかたちをとるが、授業と議論の内容はたんなる「イズム」の思想的詮索に終わるものではない。受講者それぞれに豊かな中東イスラーム世界のイメージを語ってもらうことがこの授業の最大のねらいである。

---

### 東洋史特殊講義演習ⅢC（春学期）

明清時代の文献研究

教授 山本英史

#### 授業科目の内容：

明清の社会を描いた史料の講読を行い、文献読解の基礎能力を養成する。

---

**東洋史特殊講義演習ⅢD（春学期）**

近代イスラーム史関係の史料講読

教授 坂本 勉

**授業科目の内容：**

トルコ語で書かれた研究書，史料の講読。

---

**東洋史特殊講義演習ⅣA（秋学期）**

近現代イスラームの研究（Ⅱ）

講師 飯塚 正人

**授業科目の内容：**

アラブ世界を中心に，スンナ派の近現代イスラーム思想や政治運動・社会運動の歴史的展開を，英語の研究書講読を通して研究する。

---

**東洋史特殊講義演習ⅣB（秋学期）**

中東イスラーム社会史自由研究

教授 坂本 勉

**授業科目の内容：**

受講者がそれぞれの研究テーマに応じて実際に読み進めている史料を訳出し，それをレジュメに切って紹介するというかたちで授業を進めていくことにしたい。歴史研究を志す者にとって何よりも重要なのは自分の頭で原典史料を解釈し，オリジナルな構想を打ちだしていくことである。この授業ではこれまでの研究史，その蓄積を無視するわけではないが，実証的な事実をまず大事にし，それを踏まえて自分の言葉で歴史を語り，理論について考えていくことをめざしたい。

---

**東洋史特殊講義演習ⅣC（秋学期）**

教授 山本 英史

**授業科目の内容：**

「東洋史特殊講義演習ⅢC」と同じ。

---

**東洋史特殊講義演習ⅣD（秋学期）**

近代イスラーム史関係の史料講読

教授 坂本 勉

**授業科目の内容：**

春学期の「東洋史特殊講義演習ⅢD」を引き継いで近代史に関係するトルコ語史料を講読する。

---

**西洋史特殊講義演習Ⅰ（春学期）**

教授 吉武 憲司

**授業科目の内容：**Guibert de Nogent, *Autobiographie* (Paris, 1981) のラテン語テキストを講読します。

---

**西洋史特殊講義演習Ⅱ（秋学期）**

教授 吉武 憲司

**授業科目の内容：**Guibert de Nogent, *Autobiographie* (Paris, 1981) のラテン語テキストを講読します。

---

**西洋史特殊講義演習ⅢA（春学期）**

教授 神田 順司

**授業科目の内容：**

下記の文献の講読を中心に，フンボルトの思想とプロイセン教育改革との関係について考察する。

---

**西洋史特殊講義演習ⅢB（春学期）**

休講

---

**西洋史特殊講義演習ⅣA（秋学期）**

教授 神田 順司

**授業科目の内容：**

「西洋史特殊講義演習ⅢA」と同じ。

---

**西洋史特殊講義演習ⅣB（秋学期）**

休講

---

**西洋史特殊講義Ⅰ（春学期）**

スペイン近現代政治文化史

准教授 山道 佳子

**授業科目の内容：**

近世（16世紀）から現代（20世紀）にかけて、「スペインの歴史」がどのように形成されたのかというテーマに関するテキストを読んでいきます。歴史叙述，歴史認識の形成，スペインにおける諸ナショナリズムの問題を考えるのはもちろんですが，通史的なテキストを読みながら，各自が関連事項を調べることを通して，スペイン史の基礎知識をつけてもらいたいと思います。当然，スペイン史を専門に研究するために必要な語学力をつけることや，文献や史料の探し方を学ぶことも目標とします。スペイン史で修論を作成する場合には，論文作成のための個別指導も行います。

---

**西洋史特殊講義Ⅱ（秋学期）**

スペイン近現代政治文化史

准教授 山道 佳子

**授業科目の内容：**

春学期の「西洋史特殊講義Ⅰ」の内容を継続。

---

### 西洋史特殊講義Ⅲ（春学期）

初期北米アメリカ史・リーディング・セミナー

教授 大森 雄太郎

#### 授業科目の内容：

初期北米アメリカ史をフィールドとする大学院初級のリーディング・セミナーです。一時史料を読むか、二次文献を読むか、あるいはいずれの場合でもどのような文献を読むかについては、参加メンバーと相談の上で決めます。いずれにせよ文献は英語（むしろアメリカ語）で書かれたものを使用します。一週間のリーディングの要求量は、二次文献であれば100ページ程度です。

---

### 西洋史特殊講義Ⅳ（秋学期）

初期北米アメリカ史・リーディング・セミナー

教授 大森 雄太郎

#### 授業科目の内容：

「西洋史特殊講義Ⅲ」と同じ。

---

### 民族学考古学特殊講義Ⅰ（春学期）

休講

---

### 民族学考古学特殊講義Ⅱ（秋学期）

休講

---

### 民族学考古学特殊講義演習Ⅰ（春学期）

准教授 杉本 智俊

#### 授業科目の内容：

民族学・考古学をテーマとした修士論文の作成指導を行なう。研究会形式で、各自の発表に対して建設的な討論を行い、論文を育てていく。また、自分の研究以外にも視野を広げ、方法論、知識両面での幅を広げることも目標とする。

---

### 民族学考古学特殊講義演習Ⅱ（秋学期）

准教授 杉本 智俊

#### 授業科目の内容：

民族学・考古学をテーマとした修士論文の作成指導を行なう。研究会形式で、各自の発表に対して建設的な討論を行い、論文を育てていく。また、自分の研究以外にも視野を広げ、方法論、知識両面での幅を広げることも目標とする。

---

### 民族学考古学特殊講義演習Ⅲ（春学期）

教授 阿部 祥人

#### 授業科目の内容：

この50年間に膨大な資料を蓄積してきた日本の先史時代研究は、同時に多くの問題点を抱えている。それら今日的な問題点を受講者と共に取り上げ、その解決策・今

後の有効な分析方法について、検討していく。同時に先史文化等の研究者を志す人の論文指導や共同研究を行う。

---

### 民族学考古学特殊講義演習Ⅳ（秋学期）

教授 阿部 祥人

#### 授業科目の内容：

この50年間に膨大な資料を蓄積してきた日本の先史時代研究は、同時に多くの問題点を抱えている。それら今日的な問題点を受講者と共に取り上げ、その解決策・今後の有効な分析方法について、検討していく。同時に先史文化等の研究者を志す人の論文指導や共同研究を行う。

---

### 地理学特殊講義Ⅰ（春学期）

土地の履歴に関する地理学的解析（基礎）

経済学部 教授 松原 彰子

#### 授業科目の内容：

先史時代から今日まで、人間活動の土台となってきた土地の自然環境変化（地形変化、気候変化、植生変化など）、および人間による土地の改変過程について、それぞれを復元するために用いられる地理学的解析方法の基礎を解説する。

講義と実習、野外巡検を組み合わせた形式で行う。

---

### 地理学特殊講義Ⅱ（秋学期）

土地の履歴に関する地理学的解析（応用）

経済学部 教授 松原 彰子

#### 授業科目の内容：

先史時代から今日まで、人間活動の土台となってきた土地の自然環境変化（地形変化、気候変化、植生変化など）、および人間による土地の改変過程について、それぞれを復元するために用いられる地理学的解析方法の具体例を紹介する。

講義と実習、野外巡検を組み合わせた形式で行う。

---

## 国文学専攻

---

### 国文学研究Ⅰ（春学期）

古代の民俗と説話 播磨国風土記の世界

教授 藤原 茂樹

#### 授業科目の内容：

播磨国風土記は三条西家本により残された貴重な記録であるが、広げられた土地の個々の記事は、簡略だが個性の強い性質のものが多い。ここにみる習俗や信仰のあり方は、まれにまったくわが国の文献や習俗に同例を見出さない質をもつものがある。そのことは放り出されたように孤立するわが国古代の地方の記憶にすぎないのか、

時代の進歩によって失われた広がりのある異端だったのか。それを探り当てる手段を現今研究がもちえない場面にでくわすことが少なくない。そのこと自体がこの風土記の最大の魅力と同時に割り切れないまま読み終えてしまう原因ともなっている。播磨国風土記の研究は文献に残された文献以前の記憶の想定を、目前の一本からのみ探求する困難のなかで掘み取っていく作業である。ただ、目前の説話記事は文字の不確かさや記事の位置の錯綜を抱えてある。これまで繰り返されてきた探求と知による改変の衝動に一定の制御をかけながら、記事に意味を見出すかが問われている。この授業でなされることは、意識的な先注の思惟にどのようなフィルターをかけて、原文と対峙できるかを、調査の詳細と考察の綿密をもっておこなうことである。

---

#### 国文学研究Ⅱ（秋学期）

教授 藤原茂樹

#### 授業科目の内容：

「国文学研究Ⅰ」と同じ。

---

#### 国文学研究Ⅲ（春学期）

教授 川村晃生

#### 授業科目の内容：

古典文学と近代文学とを問わず、わが国の文学作品を対象として、自然や環境について、受講者のレポートを中心に考察する。

---

#### 国文学研究Ⅳ（秋学期）

教授 川村晃生

#### 授業科目の内容：

「国文学研究Ⅲ」と同じ。

---

#### 国文学研究Ⅴ（春学期）

和歌読解法演習

教授 岩松研吉郎

#### 授業科目の内容：

新風歌人の定数歌をとりあげる。春・秋学期継続履修のこと。

---

#### 国文学研究Ⅵ（秋学期）

和歌読解法演習

教授 岩松研吉郎

#### 授業科目の内容：

新風歌人の定数歌をとりあげる。春・秋学期継続履修のこと。

---

#### 国文学研究Ⅶ（春学期）

古典資料研究

教授 石川透

#### 授業科目の内容：

古典文学の資料を、写本を翻刻し、読み進めていく。

---

#### 国文学研究Ⅷ（秋学期）

古典資料研究

教授 石川透

#### 授業科目の内容：

古典文学の資料を、写本を翻刻し、読み進めていく。

---

#### 国文学研究Ⅸ（春学期）

近代文学を対象とする論文批判

教授 松村友視

#### 授業科目の内容：

受講者各自が40枚程度の論文を提出・発表し、出席者間の厳密な批判と討議によって、さまざまな角度から詳細に分析・検討する。

---

#### 国文学研究Ⅹ（秋学期）

近代文学を対象とする論文批判

教授 松村友視

#### 授業科目の内容：

受講者各自が40枚程度の論文を提出・発表し、出席者間の厳密な批判と討議によって、さまざまな角度から詳細に分析・検討する。

---

#### 国文学研究Ⅺ（春学期）

源氏物語「賢木」巻を読む

講師 高田祐彦

#### 授業科目の内容：

源氏物語を精読します。本文批判や注釈の比較検討を行うことはもちろん、可能な限り広く文献にあたるとともに、時には新しい研究にも目を配ることによって、高い読解力を身につけることを目的とします。

---

#### 国文学研究Ⅻ（秋学期）

源氏物語「賢木」巻を読む

講師 高田祐彦

#### 授業科目の内容：

源氏物語を精読します。本文批判や注釈の比較検討を行うことはもちろん、可能な限り広く文献にあたって調査考察を重ねるとともに、時には新しい研究にも目を配ることによって、高い読解力を身につけることを目的とします。

---

### 国文学研究ⅩⅢ（春学期）

#### 草双紙概論Ⅰ

---

講 師 佐 藤 悟

#### 授業科目の内容：

赤本、黒本青本、黄表紙、合巻という史的展開を遂げた草双紙について概説する。テキストと挿絵が一体となった草双紙は書物・地本という区分においては地本に属し、出版史において特異な位置を占める。そこで地本とは何かということから議論を行う。また草双紙については子供や女性を対象としたものという誤った観念が未だに通行している。草双紙とは何かと言うことを、小説だけではなく、演劇その他との関係においても論じるつもりである。

---

### 国文学研究ⅩⅣ（秋学期）

#### 草双紙概論Ⅱ

---

講 師 佐 藤 悟

#### 授業科目の内容：

春学期に引き続き、草双紙の概説を行う。今学期は19世紀を中心とした合巻と呼ばれるジャンルについて考察を加える。

慶応義塾大学の書庫には質の高い合巻が多数所蔵されている。それらを実際に使用しながら、それぞれの例について議論を行いたいと考えている。

---

### 国文学研究ⅩⅤ（春学期）

#### 現代日本の文学とメディアを読む

---

講 師 吉 田 司 雄

#### 授業科目の内容：

「1951年のメディア状況」に関して、受講生各自が問題を発見し報告をお願いする。詳しくは教場で説明するが、たとえば翌52年を舞台とする京極夏彦『姑獲鳥の夏』以下の連作シリーズをできるだけ読んでおいてほしい。

---

### 国文学研究ⅩⅥ（秋学期）

#### 現代日本の文学とメディアを読む

---

講 師 吉 田 司 雄

#### 授業科目の内容：

「1952年のメディア状況」に関して、前期に引き続き受講生各自が発見した問題について報告をお願いする。

---

### 国文学研究ⅩⅦ（春学期）

#### 近代文学・注釈の試み

---

講 師 宗 像 和 重

#### 授業科目の内容：

明治・大正期の小説を中心として、近代の文学テキストにも注釈を施すことが珍しくなくなってきた。しかし、どんなに易しくみえる表現や語彙でも、あらためてその

一語一語に立ち止まれば、普段の「読み」がいかに中途半端なものであったか、気づかされることが多い。「注釈」という、言葉の海に溺れる経験を通して、文学テキストの何をどう読むことができるのか、考え直してみたい。とりあげる対象については教室で相談したいが、まずは志賀直哉の「小僧の神様」を考えている。

---

### 国文学研究ⅩⅧ（秋学期）

#### 近代文学・本文生成の研究

---

講 師 宗 像 和 重

#### 授業科目の内容：

文学テキストが読者と出会うためには、新聞や雑誌、単行本などに印刷された個々の本文を必要とする。しかもそれらは、活字の大きさや組み方をはじめ、漢字のいわゆる新旧字体や仮名遣いの違い、ルビなどの処理、さらには誤植の有無にいたるまで、どれ一つとっても同じものはない。原稿や草稿を含めて、近代文学研究で扱うこれらさまざまな本文を検討するとともに、そこから何を読み取ることができるか、内容にわたる綿密な読解を試みる。具体的な対象については教室で相談したい。

---

### 国文学研究ⅩⅧ（春学期）

休 講

---

### 国文学研究ⅩⅨ（秋学期）

休 講

---

### 国文学研究ⅩⅩⅠ（春学期）

#### 中世散文読解法演習

---

教 授 岩 松 研 吉 郎

#### 授業科目の内容：

12～17世紀の散文テキスト諸種につき、調査・分析の演習をおこなう。あわせて、履修者各自の研究主題の発表・討論を随時おこなう。春・秋学期継続履修のこと。

---

### 国文学研究ⅩⅩⅡ（秋学期）

#### 中世散文読解法演習

---

教 授 岩 松 研 吉 郎

#### 授業科目の内容：

12～17世紀の散文テキスト諸種につき、調査・分析の演習をおこなう。あわせて、履修者各自の研究主題の発表・討論を随時おこなう。春・秋学期継続履修のこと。

---

### 国語学研究Ⅰ（春学期）

#### 参考文献・辞書・事典活用法

---

名 誉 教 授 関 場 武

#### 授業科目の内容：

日本の中世・近世文芸を読むための参考文献類、辞書・

事典類の活用法を考える。

---

### 国語学研究Ⅱ（秋学期）

参考文献・注釈辞典の諸相

名誉教授 関 場 武

#### 授業科目の内容：

日本の古典文芸作品を読み解くための参考文献・注釈書を取り上げ、その内容・諸本等につき考察する。その際、書誌学的研究方法、情報整理の仕方についても触れ、受講生諸君の論文作成について助言を与える。

---

### 芸能史Ⅰ（春学期）

教授 野 村 伸 一

#### 授業科目の内容：

東アジア祭祀芸能の歴史について考えます。この講義は春学期、秋学期とひとつながりのものです。

祭祀芸能は、地域共同体および個々のイエの祭祀、儀礼のなかで育まれた思想、価値観の象徴体系であり、身体表現です。その解説は仏教や道教、民俗宗教（巫俗に代表される）についての一定の認識を必要とします。ここでは何よりも国家の枠をはずして、中国、朝鮮、日本の基層に潜む特質を考えていきます。それはすなわち東アジア各地の民衆文化との具体的な接点を探求することに通じます。

芸能表現は必ずしも年表に従って展開しませんが、ここでは歴史的な順序を追って考察していきます。

授業は、講義形式で進めますが、途中で課題を出して、受講生に発表してもらいます。学期中に1回は発表することになります。

---

### 芸能史Ⅱ（秋学期）

日本古代芸能の基礎知識

教授 藤 原 茂 樹

#### 授業科目の内容：

文学研究のための芸能史研究を基準として立てながら、ここでは基礎的な調査報告を行う。

- 一 先行学説の収集と整理
- 二 古代芸能の芸能用語に関する認識の更新

---

### 演劇史Ⅰ（秋学期）

日本の古典演劇

教授 石 川 透

#### 授業科目の内容：

日本の古典演劇について、具体的な作品を取り上げて、さまざまな種類の演劇の姿を考察する。

---

### 演劇史Ⅱ（春学期）

西洋演劇史概説

理工学部 教授 小 菅 隼 人

#### 授業科目の内容：

英語で書かれた西洋演劇史のテキストを輪読します。

---

### 斯道文庫書誌学講座Ⅰ（秋学期）

斯道文庫 教授 川 上 新一郎

#### 授業科目の内容：

主として歌書・物語書の書誌のとり方を解説する。具体的には履修者と相談の上決める。

---

### 斯道文庫書誌学講座Ⅱ（秋学期）

版本研究の実修

斯道文庫 専任講師 住 吉 朋 彦

#### 授業科目の内容：

書物を研究する意義は、本文を吟味し、著作の蔵する理念や知識、感興を歪みなく受け取るためばかりではなく、本文の伝来した実相を確かめ、その本文を生じた状況を推知することにもある。また書物研究のもう一つの意義は、書物の存在を知らしめ、文献上の事実や理念に支持を副えることにもあるが、かえって既成の事実や理念に批判を加えることもある。これらの意義を踏まえ、有効な研究の手段を考えると、書物の在り方を見きわめて整理し、それを積み重ね立体化するための、正確で効率的な技術が必要となる。こうした狙いと技術の組み合わせが、書誌学という方法である。本講座では、まずその書誌学の狙いと技術について概説する。

書誌学は、書誌情報の立体化の方向に従い、蔵書研究、版本研究などの細目を含んでいる。版本とは、本文を木板に彫刻し、紙葉に印刷して順序を整えた書物をいう。和漢書の歴史を見ると、手工を用いた印刷複製術の導入が、書物の社会的役割を一変させたことがわかる。特に近世の東アジアにおける版本流通の過程は、読者の不特定多数化を進行させ、本文の社会性を高める結果をもたらした。そこで特定の本文に着目し、その伝流に添って印刷出版の意義を探ろうとするのが、版本研究の方法である。版本研究を積み重ね、より広い視角を得ようとする場合は、これを版本学と呼ぶ。本講座では、斯道文庫の収蔵する書物を取り上げ、版本研究の実修を行って文献批判の初歩を固め、版本学の可能性を望見したい。取り上げる書物は、相互に関連する版本を分担する必要から、一定の枠組みを設けるが、個々には履修者の専攻等によって考慮したい

---

**斯道文庫書誌学講座Ⅲ（春学期）**

漢籍目録著録法

斯道文庫 教授 山城 喜憲

**授業科目の内容：**

書誌学の基礎的な知識を修得した上で、出来るだけ広く漢籍（中国人の著作）、準漢籍（漢籍に対する日本人の注釈書類）の多様な伝本に接しながら、調査の方法・著録の要領を習得することを目標として、実修を行います。受講者個々の研究状況に応じて、対象書目を選択することも可能です。実修と平行して、日本における漢籍の受容と伝流について概述します。

---

**斯道文庫書誌学講座Ⅳ（秋学期）**

斯道文庫 准教授 高橋 智

**授業科目の内容：**

中国の目録学・版本学の概要

---

**斯道文庫書誌学講座Ⅴ（春学期）**

校べ勘える

斯道文庫 教授 大沼 晴暉

**授業科目の内容：**

書誌学とはどういう学問か、その基盤となる考え方を説明します。

---

**斯道文庫書誌学講座Ⅵ（春学期）**

書誌学入門（写本）

斯道文庫 准教授 佐々木 孝浩

**授業科目の内容：**

文学に限らず、日本の古典籍（特に写本）を対象あるいは材料・資料として研究に用いたいと考える学生に対する講義です。なるべく多くの現物に触れながら、古典籍の知識やその接し方、見方を学びます。

---

**日本漢文学Ⅰ（春学期）**

教授 佐藤 道生

**授業科目の内容：**

平安時代の駢文についての研究

『日本後紀』、『本朝文粹』、『本朝続文粹』などに収められている駢文作品を受講者の会読というかたちで読み進める。

---

**日本漢文学Ⅱ（秋学期）**

教授 佐藤 道生

**授業科目の内容：**

平安時代の駢文についての研究

『日本後紀』、『本朝文粹』、『本朝続文粹』などに収められている駢文作品を受講者の会読というかたちで読み進める。

---

**中日比較文学研究Ⅰ（春学期）**

講師 胡 志昂

**授業科目の内容：**

日本漢詩文は近江朝（六六二～六七一）に勃興し、その後紆余曲折を経ながらも、天平勝宝三年（七五三）に現存最初の漢詩文集『懷風藻』が成立する。時は恰も初唐の高宗から盛唐の玄宗の世に当たる。これは日本が東アジアと共有する漢字文化圏で交流が極めて盛んな時代の結晶であり、万葉集の歌に刺激を与えたのみならず、東アジアの漢詩文学に豊穡さを増す貴重な遺産でもある。この授業は同時代の唐詩との比較を加えつつ、『懷風藻』の詩文を精読していく。

---

**中日比較文学研究Ⅱ（秋学期）**

講師 胡 志昂

**授業科目の内容：**

「中日比較文学研究Ⅰ」と同じ。

---

**日本語学特殊講義Ⅰ（春学期）**

日本語の音声

日本語・日本文化教育センター 教授 野澤 素子

**授業科目の内容：**

本講義では、日本語学習者の音声における誤りの発見と適切な矯正を行うため、日本語教師に求められる日本語の音声の知識と技能について、演習を交えながら概観する。

---

**日本語学特殊講義Ⅱ（秋学期）**

日本語の文法

日本語・日本文化教育センター 教授 野澤 素子

**授業科目の内容：**

日本語を母語としない日本語学習者に対する日本語の実用文法を学び、さらに語用論、対照研究、誤用分析を通して日本語教育を適切に行うための知識、技能を深める。

---

**日本語学特殊講義Ⅲ（春学期）**

言語教授法の歴史・日本語教授法

講師 松岡 弘

**授業科目の内容：**

主にヨーロッパにおける第二言語教育の歴史と主要な教授法の具体的な内容を、現代から17世紀チェコの教育学者・思想家ヤン・アモス・コメンスキー（コメニウス）にまで遡りながら解説し、それらと近現代の日本語教育並びにその教授法との方法的・思想的関連について考えます。

---

**日本語学特殊講義Ⅳ（秋学期）**

日本語教育史・日本事情

講 師 松 岡 弘

**授業科目の内容：**

主に明治以降、国内および海外植民地や占領地での日本語教育で用いられた教科書を中心に取り上げ、同時代の欧州の多言語社会における言語教育事情とも比較しながら、文法や語彙、テーマや内容、教育理念や教授法を分析・検討します。このような戦前期の日本語教育の経験を踏まえ、現在及びこれからの言語教育の中の「日本事情」または「日本文化」のあり方についても考えます。

---

**日本語教育学特殊講義Ⅰ（春学期）**

日本語の談話研究Ⅰ

日本語・日本文化教育センター 准教授 田 中 妙 子

**授業科目の内容：**

会話分析、語用論等、談話研究の基礎知識を学び、日本語教育における会話の指導方法への応用を考える。この観点から、初級日本語教科書の内容について分析・検討も行う。

---

**日本語教育学特殊講義Ⅱ（秋学期）**

日本語の談話研究Ⅱ

日本語・日本文化教育センター 准教授 田 中 妙 子

**授業科目の内容：**

日本語教育における会話能力の育成について、特に初級段階での指導内容・指導方法の検討を行う。実習として会話指導に必要な教材の作成も行う。また、待遇表現についても扱う予定である。

---

**日本語教育学特殊講義Ⅲ（春学期）**

日本語初級文型研究Ⅰ

日本語・日本文化教育センター 教授 村 田 年

**授業科目の内容：**

直接日本語教授法の実践的能力の養成を目標とする。大学レベルの学習者を対象とする初級教材の分析を通じて、言語要素の構築方法ならびに当該レベルの指導上の問題点を概観する。また、教案作成を行うことによって、文型教育を柱とした授業の方法、教材・教具の扱い方を学ぶ。この科目では、初級レベルの前半段階（第1課～第12課あたりまで）に焦点を当てる。

---

**日本語教育学特殊講義Ⅳ（秋学期）**

日本語初級文型研究Ⅱ

日本語・日本文化教育センター 教授 村 田 年

**授業科目の内容：**

日本語教育学特殊講義Ⅲの内容を踏まえた上で、初級後半レベルの教材分析を行い、言語要素の体系的な構築

方法ならびに直接教授法の指導上の問題点を概観する。また、教案作成を通じて、文型教育を柱とした授業の展開方法、教材・教具の扱い方を学ぶと同時に、中・上級レベルへとつながる問題点を考える。この科目では、初級レベルの後半段階（第13課～第28課）に焦点を当てる。

---

**日本語教育学特殊講義Ⅴ（春学期）**

日本語の中・上級文型研究Ⅰ

日本語・日本文化教育センター 教授 野 澤 素 子

**授業科目の内容：**

『日本語で学ぶ日本』第一巻・第二巻 野澤素子編より日本語教育における中・上級文型を取り出し、その意味と成立条件等を誤用分析、対照研究等の視点から考え、中・上級日本語教育における文型の指導上の問題点を概観する。

---

**日本語教育学特殊講義Ⅵ（秋学期）**

日本語の中・上級文型研究Ⅱ

日本語・日本文化教育センター 教授 野 澤 素 子

**授業科目の内容：**

日本語教育学特殊講義Ⅴに続き、『日本語で学ぶ日本』第一巻・第二巻 野澤素子編より日本語教育における中・上級文型を取り出し、その意味と成立条件等を誤用分析、対照研究等の視点から考え、中・上級日本語教育における文型の指導上の問題点を概観する。

---

**日本語教育学特殊講義演習Ⅰ（春学期）**

休 講

---

**日本語教育学特殊講義演習Ⅱ（秋学期）**

休 講

---

**日本語辞書史Ⅰ（春学期）**

古辞書の世界

名誉教授 関 場 武

**授業科目の内容：**

数多くある日本語の辞書・事典、字典について、その編纂の歴史を辿り、辞書・事典のあるべき姿とその活用法を考える。春学期は江戸時代までに編纂・刊行されたものについて検討する。また、秋学期は、明治以降の近・現代の辞書を取り上げ、比較検討を行う。その際、英和・和英、仏和・和仏、日葡など、いくつかの語種と日本語との対訳辞典や語学学習書、索引、文法書も、対象とする。



---

**日本語辞書史Ⅱ（秋学期）**

近・現代の国語・漢和辞典

名誉教授 関 場 武

**授業科目の内容：**

明治期以降の国語辞典・漢和辞典の編纂、普及の様相を辿り、その利用法を考える。

---

**古典語と日本文学Ⅰ（春学期）**

教授 岩 松 研吉郎

**授業科目の内容：**

日本語・日本文化教育に必要な古典語の基礎知識、およびその習得・研究法を整理する。対象とする「(日本)古典語」は、日本語史でいう古代語、および近代語のうち江戸期までのもので書記語の範囲。講義・演習形式を併用してすすめる。

---

**古典語と日本文学Ⅱ（秋学期）**

教授 岩 松 研吉郎

**授業科目の内容：**

日本語・日本文化教育に必要な古典語の基礎知識、およびその習得・研究法を整理する。対象とする「(日本)古典語」は、日本語史でいう古代語、および近代語のうち江戸期までのもので書記語の範囲。講義・演習形式を併用してすすめる。

---

**中国文学専攻**

---

---

**中国文学研究Ⅰ（春学期）**

宮怨詩の変遷

講師 詹 満 江

**授業科目の内容：**

官女の失寵を詠じる宮怨詩は、前漢の武帝のころの司馬相如が陳皇后の代わりに「長門賦」を作って以来、男性詩人によってさまざまに詠じられてきた。盛唐の王昌齡や李白の宮怨詩は従来の典型を踏襲している。しかし、中庸以降、宮怨詩に新たな潮流が生まれてきた。白居易の「陵園妾」など、士大夫の左遷を寓した作品が詠じられるようになったのである。こうした事象はいかなる背景から生じたのであろうか。実際の詩作品を読みつつ検討してみたい。

---

**中国文学研究Ⅱ（秋学期）**

宮怨詩の変遷

講師 詹 満 江

**授業科目の内容：**

「中国文学研究Ⅰ」と同じ。

---

**中国文学研究Ⅲ（春学期）**

教授 杉 野 元 子

**授業科目の内容：**

20世紀の中国文学作品を講読する。テキストについては、受講生と相談のうえ決める。

あわせて、随時受講生の研究主題の発表・検討をおこなう。

---

**中国文学研究Ⅳ（秋学期）**

教授 杉 野 元 子

**授業科目の内容：**

「中国文学研究Ⅲ」と同じ。

---

**中国文学研究Ⅴ（春学期）**

中国古白話文献を読む（変文から明清白話小説）

教授 洪 谷 誉一郎

**授業科目の内容：**

本講はいわゆる古白話文献をあつかう際の基礎知識を習得することを目的として、敦煌変文から宋元平話・明清小説にいたるまでの文学作品を選んで講読します。今年度は敦煌変文・宋・元・明の短篇小説から選んで読む予定。まず、古白話の史的展開の概述を聴講することによってそのアウトラインを理解し、その上で実際に作品を精読し、古白話の特徴や問題点等を把握してもらいます。

作品は輪番で読み進めます。担当者は事前に担当箇所について、テキスト上の問題点・語句の解釈・翻訳等を含めた詳細なレジュメを準備してください。授業時にはそのレジュメに基づいて内容の検討を行います。

---

**中国文学研究Ⅵ（秋学期）**

中国古白話文献を読む（変文から明清白話小説）

教授 洪 谷 誉一郎

**授業科目の内容：**

「中国文学研究Ⅴ」と同じ。

---

**中国文学研究Ⅶ（春学期）**

教授 八 木 章 好

**授業科目の内容：**

『聊齋志異』を読む。

任篤行輯校『全校会注集評聊齋志異』（齊魯書社刊）を用いて、特定の数篇を清人の注評を含めて精読する。

---

**中国文学研究Ⅷ（秋学期）**

教授 八 木 章 好

**授業科目の内容：**

「中国文学研究Ⅶ」と同じ。

---

**中国文学研究Ⅸ（春学期）**

中国中世文学批評史研究

講師 門脇 廣文

**授業科目の内容：**

今年度（2005年度）は、唐の嵇皎然の『詩式』（原本五卷。今本一卷）を読みます。『詩式』は、両漢及び唐詩人の名篇麗句を摘録し、五格・十九体に分けたもので、唐代の詩論の代表的著作です。五巻本の第一巻は、詩歌言論について総論的に論じ、また「五格」のうちの第一格について述べています。「五格」とは、詩の五つの格調を言い、同時にそのランクを表わしています。第二巻以降は、「五格」の内の第二格から第五格について論じています。「五格」は、詩を評価するには典故を用いないものを第一としています。「十九体」は詩の風格を論じたもので、「貞」「忠」「節」「志」「徳」「誠」「悲」「怨」「意」などの表現内容にかかわるものと、「高」「逸」「気」「情」「思」「閑」「達」「力」「静」「遠」などの芸術的な特徴についてのものとに分けられます。皎然は、「十九体」の中では「高」と「逸」とを高く評価しており、「冲淡」や「自然」なる風格を貴んでいます。

---

**中国文学研究Ⅹ（秋学期）**

中国中世文学批評史研究

講師 門脇 廣文

**授業科目の内容：**

「中国文学研究Ⅸ」と同じ。

---

**中国文学研究Ⅺ（春学期）**

李漁研究

名誉教授 岡 晴 夫

**授業科目の内容：**

李漁の作品（戯曲・小説・随筆・尺牘等）の中から適宜選んで講読する。何を取りあげるかについては、受講生と相談のうえ決める。

---

**中国文学研究Ⅻ（秋学期）**

李漁研究

名誉教授 岡 晴 夫

**授業科目の内容：**

「中国文学研究Ⅺ」と同じ。

---

**中国文学研究ⅩⅢ（春学期）**

教授 関 根 謙

**授業科目の内容：**

博士課程、「中国文学特殊研究Ⅰ」と同じ。

---

**中国文学研究ⅩⅣ（秋学期）**

教授 関 根 謙

**授業科目の内容：**

博士課程、「中国文学特殊研究Ⅱ」と同じ。

---

**中国語学研究Ⅰ（春学期）**

中国文法論Ⅰ

講師 内 藤 正 子

**授業科目の内容：**

王力、呂叔湘、高名凱、趙元任等の著作を読みながら、中国語の文法や表現について、ホリスティックに考察してゆきます。

---

**中国語学研究Ⅱ（秋学期）**

中国文法論Ⅱ

講師 内 藤 正 子

**授業科目の内容：**

王力、呂叔湘、高名凱、趙元任等の著作を読みながら、中国語の文法や表現について、ホリスティックに考察してゆきます。

---

**中国語学研究Ⅲ（春学期）**

中国語を言語学的に考える

教授 山 下 輝 彦

**授業科目の内容：**

中国語研究で重要と思われる文献を読み、それについてディスカッションをする。中国語で研究発表をする力を身につけるために議論はすべて中国語で行う。

---

**中国語学研究Ⅳ（秋学期）**

中国語を言語学的に考える

教授 山 下 輝 彦

**授業科目の内容：**

中国語研究で重要と思われる文献を読み、それについてディスカッションをする。中国語で研究発表をする力を身につけるために議論はすべて中国語で行う。

---

**中日比較文学研究Ⅰ（春学期）**

講師 胡 志 昂

**授業科目の内容：**

日本漢詩文は近江朝（六六二～六七一）に勃興し、その後紆余曲折を経ながらも、天平勝宝三年（七五三）に現存最初の漢詩文集『懷風藻』が成立する。時は恰も初唐の高宗から盛唐の玄宗の世に当たる。これは日本が東アジアと共有する漢字文化圏で交流が極めて盛んな時代の結晶であり、万葉集の歌に刺激を与えたのみならず、東アジアの漢詩文学に豊穡さを増す貴重な遺産でもある。この授業は同時代の唐詩との比較を加えつつ、『懷風藻』

の詩文を精読していく。

---

#### 中日比較文学研究Ⅱ（秋学期）

---

講師 胡 志 昂

授業科目の内容：

「中日比較文学研究Ⅰ」と同じ。

### 英米文学専攻

---

#### 中世英語英文学特殊講義ⅠA（春学期）

---

教授 高 宮 利 行

授業科目の内容：

国内外の学会発表、修士・博士論文の準備に必要なディ  
シプリンに関する講義

---

#### 中世英語英文学特殊講義ⅠB（春学期）

---

教授 高 宮 利 行

授業科目の内容：

書物史

---

#### 中世英語英文学特殊講義ⅡA（秋学期）

---

教授 高 宮 利 行

授業科目の内容：

「中世英語英文学特殊講義ⅠA」と同じ。

---

#### 中世英語英文学特殊講義ⅡB（秋学期）

---

教授 高 宮 利 行

授業科目の内容：

「中世英語英文学特殊講義ⅡA」と同じ。

---

#### 中世英語英文学特殊講義演習ⅠA（春学期）

---

教授 松 田 隆 美

授業科目の内容：

Middle English のテキストを精読し、中世研究の方法論  
を実践的に学ぶ。本年度は、14 - 15 世紀のナラティブ作  
品を対象として、特に写本およびヴァージョン間の異同  
に注目しつつ比較研究をおこなう。

---

#### 中世英語英文学特殊講義演習ⅠB（春学期）

---

教授 松 田 隆 美

授業科目の内容：

後期博士課程「中世英文学特殊研究Ⅰ」と併設。

---

#### 中世英語英文学特殊講義演習ⅡA（秋学期）

---

教授 松 田 隆 美

授業科目の内容：

Middle English のテキストを精読し、中世研究の方法論

を実践的に学ぶ。本年度は、14 - 15 世紀のナラティブ作  
品を対象として、特に写本およびヴァージョン間の異同  
に注目しつつ比較研究をおこなう。

---

#### 中世英語英文学特殊講義演習ⅡB（秋学期）

---

教授 松 田 隆 美

授業科目の内容：

後期博士課程「中世英文学特殊研究Ⅱ」と併設。

---

#### 近代英米文学特殊講義Ⅰ（春学期）

---

18 世紀英文学を通じて、近・現代の出発点を確認する

講師 原 田 範 行

授業科目の内容：

イギリス 18 世紀は、詩、小説、伝記、批評など、さ  
まざまな文学ジャンルが、変化・分化・確立してくる時  
代であり、またジャーナリズムや著作権論争も含め、印  
刷出版文化が今日的な相貌を帯び始める時期でもありま  
す。本講義の目的は、こうした 18 世紀の英文学作品を精  
読しながら、作品解釈と研究のための基礎的事項を確認  
し、その方法論を検討していくことにあります。本年度は、  
18 世紀イギリス文壇の大御所、Samuel Johnson の作品を  
中心に、特殊講義Ⅰ（春学期）では、主に韻文（詩、演劇）  
と小説を、特殊講義Ⅱ（秋学期）では、批評と伝記を扱っ  
て行きます。これらの講義や演習を通じて、履修者の皆  
さんは、私たち自身も少なからずその一部を構成してい  
る、近・現代文学と文化の出発点を確認することができ  
ると思います。

---

#### 近代英米文学特殊講義Ⅱ（秋学期）

---

18 世紀英文学を通じて、近・現代の出発点を確認する

講師 原 田 範 行

授業科目の内容：

イギリス 18 世紀は、詩、小説、伝記、批評など、さ  
まざまな文学ジャンルが、変化・分化・確立してくる時  
代であり、またジャーナリズムや著作権論争も含め、印  
刷出版文化が今日的な相貌を帯び始める時期でもありま  
す。本講義の目的は、こうした 18 世紀の英文学作品を精  
読しながら、作品解釈と研究のための基礎的事項を確認  
し、その方法論を検討していくことにあります。本年度は、  
18 世紀イギリス文壇の大御所、Samuel Johnson の作品を  
中心に、特殊講義Ⅰ（春学期）では、主に韻文（詩、演劇）  
と小説を、特殊講義Ⅱ（秋学期）では、批評と伝記を扱っ  
て行きます。これらの講義や演習を通じて、履修者の皆  
さんは、私たち自身も少なからずその一部を構成してい  
る、近・現代文学と文化の出発点を確認することができ  
ると思います。

---

**近代英米文学特殊講義演習 I A (春学期)**

George Saintsbury を読む

講 師 高 田 康 成

**授業科目の内容 :**

近代 (英) 文学研究の草分けとすべき Saintsbury の大著 2 編を読みながら, 20 世紀の批評を振り返って見たいと思います。

---

**近代英米文学特殊講義演習 I B (春学期)**

19 世紀英国小説研究 I

講 師 高 橋 和 久

**授業科目の内容 :**

ヴィクトリア朝長編小説を精読することによりその特質を理解できるようにします。

---

**近代英米文学特殊講義演習 II A (秋学期)**

George Saintsbury を読む

講 師 高 田 康 成

**授業科目の内容 :**

近代 (英) 文学研究の草分けとすべき Saintsbury の大著 2 編を読みながら, 20 世紀の批評を振り返って見たいと思います。

---

**近代英米文学特殊講義演習 II B (秋学期)**

19 世紀英国小説研究 II

講 師 高 橋 和 久

**授業科目の内容 :**

春学期と同じ。

---

**現代英米文学特殊講義 I A (春学期)**

法学部 教 授 武 藤 浩 史

**授業科目の内容 :**

20 世紀イギリス小説の諸相を考察するために, まず今年度は D. H. Lawrence の作品 (*Sons and Lovers*, *The Rainbow*, *Women in Love* など) を読む。彼を軸にすると 20 世紀イギリス小説・文化・歴史はどのように見えるのかといった同時代文脈的な問題と, 英文学研究の急速な変貌の中での個人作家研究の意義・問題・あるべき姿といった若い研究者にとって重要な問題を, 合わせて考えていければと考えている。

---

**現代英米文学特殊講義 I B (春学期)**

The Grotesque and the Gothic: Modes in American Literature

講 師 ナイトン, メアリ・A .

**授業科目の内容 :**

This course will focus on “the grotesque” in the literature and culture of the 19<sup>th</sup> and 20<sup>th</sup>-Century U.S., grappling as well

with its ambiguous definition as a genre or mode of literary discourse too often conflated with “the Gothic.” We will read non-fiction texts in literary and art theory, psychoanalysis, sexology, and history, in addition to fictional works by Poe, Hawthorne, Sherwood Anderson, Flannery O’Connor, William Faulkner, Doris Betts, and others. We will look at films and online exhibits about “freaks” and monsters in American culture, and think about the relationship between what counts as normal and what (or Who) gets rejected as “outside” the norm, or treated as the deformed and/or decadent dark side of the mainstream culture. In the fall semester, we will continue to discuss the mode of the grotesque but begin to focus more on the Gothic mode as well in order to argue for and against the laws of genre and the way such standards exercise their own normalizing force on literary style.

---

**現代英米文学特殊講義 I C (春学期)**

アメリカン・ロマンス再考 I

准教授 大 串 尚 代

**授業科目の内容 :**

アメリカン・ロマンス史を概観する。ロマンスというジャンルがどのようにアメリカという国家概念と結びついているのか。またそれぞれの作家たちはロマンスをどのように利用し, どのような題材をこのジャンルで描いていったのか。春学期は 19 世紀を中心に, アメリカン・ロマンスを歴史的側面から再考する。

---

**現代英米文学特殊講義 II A (秋学期)**

法学部 教 授 武 藤 浩 史

**授業科目の内容 :**

春学期から継続となる。

---

**現代英米文学特殊講義 II B (秋学期)**

The Grotesque and the Gothic: Modes in American Literature

講 師 ナイトン, メアリ・A .

**授業科目の内容 :**

This course will focus on “the grotesque” in the literature and culture of the 19<sup>th</sup> and 20<sup>th</sup>-Century U.S., grappling as well with its ambiguous definition as a genre or mode of literary discourse too often conflated with “the Gothic.” We will read non-fiction texts in literary and art theory, psychoanalysis, sexology, and history, in addition to fictional works by Poe, Hawthorne, Sherwood Anderson, Flannery O’Connor, William Faulkner, Doris Betts, and others. We will look at films and online exhibits about “freaks” and monsters in American culture, and think about the relationship between what counts as normal and what (or Who) gets rejected as “outside” the

norm, or treated as the deformed and/or decadent dark side of the mainstream culture. In the fall semester, we will continue to discuss the mode of the grotesque but begin to focus more on the Gothic mode as well in order to argue for and against the laws of genre and the way such standards exercise their own normalizing force on literary style.

---

#### 現代英米文学特殊講義ⅡC（秋学期）

アメリカン・ロマンス再考Ⅱ

准教授 大串尚代

#### 授業科目の内容：

春学期の議論をふまえた上で、秋学期は19世紀から現代に至る歴史的コンテクストを概観する。主に女性作家に焦点をあて、ロマンスを考えることになるだろう。

---

#### 現代英米文学特殊講義演習ⅠA（春学期）

帝国とモダニズム

教授 河内恵子

#### 授業科目の内容：

イギリスのモダニズム文学を「帝国」という視点から考察する。

---

#### 現代英米文学特殊講義演習ⅠB（春学期）

都市と文学

教授 河内恵子

#### 授業科目の内容：

「現代英文学特殊研究Ⅰ」と併設。

---

#### 現代英米文学特殊講義演習ⅡA（秋学期）

帝国とモダニズム

教授 河内恵子

#### 授業科目の内容：

「現代英米文学特殊講義演習ⅠA」を参照。

---

#### 現代英米文学特殊講義演習ⅡB（秋学期）

都市と文学

教授 河内恵子

#### 授業科目の内容：

「現代英文学特殊研究Ⅱ」と併設。

---

#### 英語学特殊講義ⅠA（春学期）

Elementary Old English

教授 スカヒル, ジョン・デミエン

#### 授業科目の内容：

This course introduces the pronunciation, spelling and grammar of Old English through reading simple prose.

---

#### 英語学特殊講義ⅠB（春学期）

言語人類学

教授 唐須教光

#### 授業科目の内容：

意味論を扱います。

---

#### 英語学特殊講義ⅠC（春学期）

認知文法研究

講師 西村義樹

#### 授業科目の内容：

文法と意味の関係をめぐる諸問題を扱った Lyons (1977) の三つの章は、これらの問題に対してこの著者ならではの（三十年近くが経過した今日でも全く古びていない）優れた見通しを与えてくれるのみならず、現代の認知言語学の特徴的な考え方の多くを先取りしている。今年度は、この卓越した議論を導きの糸として文法と意味との関係を認知言語学（とりわけ認知文法）の立場から多角的に考察する。検討する問題には、文法性（grammaticality）と有意味性（meaningfulness）の関係、文法カテゴリー（名詞、動詞など）の意味的な基盤、使役性（causativity）と他動性（transitivity）、意味役割、文法関係などが含まれることになる。各々の問題に関して、それを扱った認知言語学（および場合によっては他の理論）の代表的な研究も紹介する予定である。認知言語学に関する専門的な予備知識は前提とせず、必要に応じて基本的な概念や道具立ての説明を行う。基本文献リストは初回に配布する。

---

#### 英語学特殊講義ⅠD（春学期）

動詞意味論一格 (Case) や意味役割の理論を中心に一

経済学部 教授 杉岡洋子

#### 授業科目の内容：

近年の動詞意味論研究のめざましい成果の中から、動詞の意味が、その補語の統語構造でのあらわれ方をどのように決定しているのか、という問題について、さまざまな理論的アプローチやトピック（下記参照）を論じます。さらに、課題や発表、議論などを通して、データの観察と分析の技法を学びます。

---

#### 英語学特殊講義ⅠE（春学期）

Chomsky on Language, Democracy, and Education 1

言語文化研究所 准教授 北原久嗣

#### 授業科目の内容：

言語、民主主義、教育に関するチョムスキーのインタビュー、講演、また論文を読む。

---

**英語学特殊講義 I F (春学期)**

言語の認知科学

言語文化研究所 教授 大津 由紀雄

**授業科目の内容:**

言語の認知科学の主要論点のいくつかをとりあげ、文献を読んだり、議論したりする。認知言語学の講義ではないので誤解のないよう。受講予定者は第一回目の講義に必ず出席のこと。やむをえない都合で出席できない場合は、必ず事前に担当者に連絡のこと。

---

**英語学特殊講義 I G (春学期)**

認知語用論の研究

名誉教授 西山 佑 司

**授業科目の内容:**

われわれは言葉を使って情報を伝達するが、そこで用いられた言葉の意味は、伝達内容という点ではきわめて不完全である。人間は、なぜかくも不完全な言葉を用いて意図を伝達できるのか、言葉によって伝達される内容は何か、を論じる。とくに、言葉自体の意味、言葉によって明示的に伝達される部分、非明示的に伝達される部分などの区別は何か、メタファーやアイロニー、メトニミーなどの解釈はいかにして生じるか、詩的言語の解釈は何か、という問題を現代の認知語用理論として注目されている関連性理論 (Relevance Theory) の立場から論じる。

---

**英語学特殊講義 I H (春学期)**

Beowulf

教授 スカヒル, ジョン・デミエン

**授業科目の内容:**

This course will combine close reading of part of *Beowulf* with a study of the poem as a whole, paying particular attention to metre, paleography and Germanic legend.

---

**英語学特殊講義 II A (秋学期)**

Elementary Old English

教授 スカヒル, ジョン・デミエン

**授業科目の内容:**

In this course, we shall read Old English prose and verse from a variety of genres.

---

**英語学特殊講義 II B (秋学期)**

教授 唐 須 教 光

**授業科目の内容:**

意味論を扱う。

---

**英語学特殊講義 II C (秋学期)**

認知文法研究

講師 西村 義樹

**授業科目の内容:**

文法と意味の関係をめぐる諸問題を扱った Lyons (1977) の三つの章は、これらの問題に対してこの著者ならでの (三十年近くが経過した今日でも全く古びていない) 優れた見通しを与えてくれるのみならず、現代の認知言語学に特徴的な考え方の多くを先取りしている。今年度は、この卓越した議論を導きの糸として文法と意味との関係を認知言語学 (とりわけ認知文法) の立場から多角的に考察する。検討する問題には、文法性 (grammaticality) と有意味性 (meaningfulness) の関係、文法カテゴリー (名詞、動詞など) の意味的な基盤、使役性 (causativity) と他動性 (transitivity)、意味役割、文法関係などが含まれることになろう。各々の問題に関して、それを扱った認知言語学 (および場合によっては他の理論) の代表的な研究も紹介する予定である。認知言語学に関する専門的な予備知識は前提とせず、必要に応じて基本的な概念や道具立ての説明を行う。基本文献リストは初回に配布する。

---

**英語学特殊講義 II D (秋学期)**

経済学部 教授 杉岡 洋子

**授業科目の内容:**

「英語学特殊講義 I D」の内容を継続します。

---

**英語学特殊講義 II E (春学期)**

Chomsky on Language, Democracy, and Education 2

言語文化研究所 准教授 北原 久嗣

**授業科目の内容:**

「英語学特殊講義 I E」の内容を継続します。

---

**英語学特殊講義 II F (秋学期)**

言語の認知科学

言語文化研究所 教授 大津 由紀雄

**授業科目の内容:**

「英語学特殊講義 I F」の継続

---

**英語学特殊講義 II G (秋学期)**

認知語用論の研究

名誉教授 西山 佑 司

**授業科目の内容:**

われわれは言葉を使って情報を伝達するが、そこで用いられた言葉の意味は、伝達内容という点ではきわめて不完全である。人間は、なぜかくも不完全な言葉を用いて意図を伝達できるのか、言葉によって伝達される内容は何か、を論じる。とくに、言葉自体の意味、言葉によって明示的に伝達される部分、非明示的に伝達される部分

などの区別は何か、メタファーやアイロニー、メトニミーなどの解釈はいかにして生じるか、詩的言語の解釈は何か、という問題を現代の認知語用理論として注目されている関連性理論 (Relevance Theory) の立場から論じる。

---

#### 英語学特殊講義ⅡH (秋学期)

Beowulf

教授 スカヒル, ジョン・デミエン

#### 授業科目の内容:

This course will combine close reading of part of *Beowulf* with a study of the poem as a whole, paying particular attention to metre, paleography and Germanic legend.

---

#### 英語学特殊講義演習Ⅰ (春学期)

Informed Argument

教授 アーマー, アンドルー J.

#### 授業科目の内容:

This course is primarily designed for students who are preparing to write M.A. dissertations. It will focus on the techniques required to produce a logical, concise presentation of an academic argument. After receiving any necessary instruction in the theory and practice of English rhetoric, students will be expected to present papers for discussion in class.

---

#### 英語学特殊講義演習Ⅱ (秋学期)

Informed Argument

教授 アーマー, アンドルー J.

#### 授業科目の内容:

This course is primarily designed for students who are preparing to write M.A. dissertations. It will focus on the techniques required to produce a logical, concise presentation of an academic argument. After receiving any necessary instruction in the theory and practice of English rhetoric, students will be expected to present papers for discussion in class.

---

#### 英語史特殊講義演習Ⅰ (春学期)

史的資料による英語の通時的研究

講師 小倉 美知子

#### 授業科目の内容:

MS Junins 11 の詩のうち、昨年度 *Genesis* を読んだので、今年度前半は *Exodus* と *Christ and Satan* を読む。特に写本に問題のある箇所をこたわって、どこまでが可能な解釈かを検討しながら精読をする。

---

#### 英語史特殊講義演習Ⅱ (秋学期)

史的資料による英語の通時的研究

講師 小倉 美知子

#### 授業科目の内容:

Exeter Book 中の *Guthlac* を読む。Roberts (1979) 版を用いて ASPR 版との読みの違いを比較したい。

---

#### 米文学特殊講義Ⅰ (春学期)

アメリカ文学思想史

教授 巽 孝之

#### 授業科目の内容:

旧来の文学史的言説を意識しながらアメリカ文学思想史の可能性を考える。

---

#### 米文学特殊講義Ⅱ (秋学期)

アメリカ文学思想史

教授 巽 孝之

#### 授業科目の内容:

旧来の文学史的言説を意識しながらアメリカ文学思想史の可能性を考える。

---

#### 米文学特殊講義演習Ⅰ (春学期)

文学理論再訪

講師 折島 正司

#### 授業科目の内容:

Jonathan Culler, *The Literary in Theory* (Stanford UP, 2007) と同書で言及される著作のうちいくつかを読み、吟味されない前提と化しつつある理論的諸概念を再検討する。また、文学理論の時代以降の文学研究を歴史的に再検討する。

---

#### 米文学特殊講義演習Ⅱ (秋学期)

文学理論再訪

講師 折島 正司

#### 授業科目の内容:

Jonathan Culler, *The Literary in Theory* (Stanford UP, 2007) と同書で言及される著作のうちいくつかを読み、吟味されない前提と化しつつある理論的諸概念を再検討する。また、文学理論の時代以降の文学研究を歴史的に再検討する。

---

#### 比較文学Ⅰ (春学期)

小説はどのように書かれているか

講師 菅原 克也

#### 授業科目の内容:

比較文学研究の1つのありかたとして、文学作品を広く一般的な観点から分析、考察するという態度がある。春学期は、小説という文学形式について、その思想やメッ

セージの側からではなく、「かたち」の側から読んでゆく  
とどのようなことが分かるか、あるいは、小説とはどのよ  
うな書かれ方をしているか、ということを考えてみたい。  
テキストの構造に着目する様々な批評理論を参照しつつ、  
具体的な小説作品を「かたち」の面から読み解いてみる  
ことにする。例は主に英米文学と日本文学から引く。

---

### 比較文学Ⅱ（秋学期）

日本近代詩における欧米文学の影響

講師 菅原克也

#### 授業科目の内容：

秋学期は、実証的な比較文学研究の主たる対象となる  
影響研究を紹介する。具体的には、明治期以降の日本の  
近代詩の成立において、欧米の文学がどのような影響を  
与え、日本の近代詩をどのように方向づけていったのか  
を歴史的に跡づける。主なテキストは、日本語と英語の  
ものを用いるが、一部フランス語とドイツ語のテキスト  
も扱う。ただし、フランス語とドイツ語の知識は必須で  
はない。

---

### 古典文学ⅠA（春学期）

神話と図像Ⅰ

教授 西村太良

#### 授業科目の内容：

ギリシア神話は実際には様々な文学作品の中に題材と  
して用いられるばかりでなく、膨大な量の図像の形でも  
表現されている。この2つの媒体の相互関係の諸相につ  
いて具体的な例をとり上げて検討したい。

---

### 古典文学ⅠB（春学期）

教授 中川純男

#### 授業科目の内容：

アリストテレスの『詩学』を読み、その作品論をとお  
して、ギリシア悲劇についての作品論を考える。毎回『詩  
学』のテキストを読み進む。ギリシア語テキスト、ある  
いは最低二ヶ国語の近代語訳（日本語訳を含む）を比較  
対照しつつ読解することが求められる。

---

### 古典文学ⅡA（秋学期）

神話と図像Ⅱ

教授 西村太良

#### 授業科目の内容：

図像の形で表現された神話について、関連したテキス  
ト、資料に基づいて検討する。

---

### 古典文学ⅡB（秋学期）

教授 中川純男

#### 授業科目の内容：

アリストテレスの『詩学』を読み、その作品論をとお  
して、ギリシア悲劇についての作品論を考える。毎回『詩  
学』のテキストを読み進む。ギリシア語テキスト、ある  
いは最低二ヶ国語の近代語訳（日本語訳を含む）を比較  
対照しつつ読解することが求められる。

---

### 文芸批評史Ⅰ（春学期）

教授 巽孝之

#### 授業科目の内容：

文学批評理論はきわめて学際的な分野である。現代に  
限っても、ロシア・フォルマリズムや新批評、脱構築、ひ  
いては構造主義から新歴史主義やポスト・コロニアリズ  
ム、クイア・リーディングへ至る歴史において、文学批  
評は何よりも自らの属する枠組み自体をたえまなく再検  
討し、その結果、今日では文学史と文化史を切り離して  
考えることはできなくなっている。そこには、いかなる  
文芸批評史の流れが作用していたのかを、根本に立ち戻っ  
て考え直す。

---

### 文芸批評史Ⅱ（秋学期）

教授 巽孝之

#### 授業科目の内容：

文芸批評史Ⅰの応用篇。

---

### 言語学特殊講義Ⅰ（春学期）

日本語の意味論研究

名誉教授 西山佑司

#### 授業科目の内容：

主として日本語表現を材料にして意味論の問題を検討  
するが、必要に応じて他の言語との比較もおこなう。

---

### 言語学特殊講義Ⅱ（秋学期）

日本語の意味論研究

名誉教授 西山佑司

#### 授業科目の内容：

「言語学特殊講義Ⅰ」と同じ。

---

## 独文学専攻

---

### ドイツ文学研究Ⅰ（春学期）

ゲーテ時代研究Ⅷ

名誉教授 柴田陽弘

#### 授業科目の内容：

「ゲーテを読む」



- 1 ゲーテ時代の精神
- 2 ゲーテとロマン派
- 3 ゲーテとアレクサンダー・フォン・フンボルト
- 4 ゲーテとヘルダー
- 5 ゲーテ自然学と文学 etc.

### ドイツ文学研究Ⅱ（秋学期）

ゲーテ時代研究ⅩⅧ

名誉教授 柴田陽弘

#### 授業科目の内容：

「ゲーテを読む」

- 1 ゲーテ時代の精神
- 2 ゲーテとロマン派
- 3 ゲーテとアレクサンダー・フォン・フンボルト
- 4 ゲーテとヘルダー
- 5 ゲーテ自然学と文学 etc.

### ドイツ文学研究Ⅲ（春学期）

休講

### ドイツ文学研究Ⅳ（秋学期）

休講

### ドイツ文学研究Ⅴ（春学期）

ドイツ語教育研究Ⅲ

経済学部 教授 境 一三

#### 授業科目の内容：

参加者の外国語学習の経験を踏まえ、21世紀のドイツ語学習・教育のあるべき姿を探ります。内容は以下の通りです。

- 1) 外国語教育の歴史を言語教育政策を視野に入れつつ概観する。
- 2) 第2言語習得論を概観する。

### ドイツ文学研究Ⅵ（秋学期）

ドイツ語教育研究Ⅳ

経済学部 教授 境 一三

#### 授業科目の内容：

春学期に続き、21世紀のドイツ語学習・教育のあるべき姿を探ります。内容は以下の通りです。

- 1) 教授法と教材の関係を探る。
- 2) 教材を作成する（紙ベースの教材、オンライン教材）。
- 3) 教材の活用方法を考える（授業中、授業外）。
- 4) 授業運営を研究する。

### ドイツ文学演習Ⅰ（春学期）

Germanistische Propädeutik

教授 フュルンケース, ヨーゼフ

#### 授業科目の内容：

Das Schreiben von Examensarbeiten, z.B. Magisterarbeiten, will gelernt und geübt sein. Es genügt nicht, das Thema zu bedenken, die Werke zu lesen, die Literatur zu konsultieren, den eigenen Interpretationsideen zu folgen. Es geht auch darum, sich den Standards und Normen zu stellen, die mit dem Anspruch auf wissenschaftliches Schreiben verbunden sind. Germanistische Propädeutik will hier gezielt Hilfen anbieten.

Examenskandidaten wird die Möglichkeit gegeben, den Fortschritt ihrer Arbeiten durch konstruktive Kritik kontinuierlich überprüfen zu lassen.

### ドイツ文学演習Ⅱ（秋学期）

Germanistische Propädeutik

教授 フュルンケース, ヨーゼフ

#### 授業科目の内容：

Das Schreiben von Examensarbeiten, z.B. Magisterarbeiten, will gelernt und geübt sein. Es genügt nicht, das Thema zu bedenken, die Werke zu lesen, die Literatur zu konsultieren, den eigenen Interpretationsideen zu folgen. Es geht auch darum, sich den Standards und Normen zu stellen, die mit dem Anspruch auf wissenschaftliches Schreiben verbunden sind. Germanistische Propädeutik will hier gezielt Hilfen anbieten.

Examenskandidaten wird die Möglichkeit gegeben, den Fortschritt ihrer Arbeiten durch konstruktive Kritik kontinuierlich überprüfen zu lassen.

### ドイツ文学演習Ⅲ（春学期）

講師 ループレヒター, ヴァルター

#### 授業科目の内容：

Skandaldiskurse in der Wiener Moderne.

In der österreichischen Kulturgeschichte gab und gibt es auffällig viele Skandale. Vor allem in der Wiener Moderne wurden wichtige Werke auf allen Gebieten der Kunst zu Anlässen von heftigen verbalen und tätlichen Auseinandersetzungen. In diesem Seminar geht es um zwei Dinge:

1. die Untersuchung von Werken, die große Skandale ausgelöst haben. Als Beispiele werden folgende Werke vorgestellt.
 

Malerei:	Die Universitätsbilder von Gustav Klimt
Literatur:	Der Reigen von Arthur Schnitzler
Musik:	1. und 2. Streichquartett von Arnold Schönberg
Architektur:	Das Haus am Michaelerplatz von Adolf Loos

2. die Untersuchung von Argumenten der Streitparteien, mit denen die Werke angegriffen bzw. verteidigt wurden.

Anhand der Analyse der diskursiven Formationen um die skandalösen Ereignisse sollen neben der Vorstellung repräsentativer Werke der Epoche auch das kulturelle Klima, die wichtigsten sozialen und politischen Gruppierungen sowie die ideologischen Positionen in Wien um 1900 beleuchtet werden.

Die Materialien zu diesem Seminar werden in Kopien verteilt.

Regelmäßige Teilnahme und aktive Mitarbeit sind erforderlich.

---

#### ドイツ文学演習Ⅳ（秋学期）

講師 ループレヒター, ヴァルター

授業科目の内容:

「ドイツ文学演習Ⅲ」と同じ。

---

#### ドイツ文学演習Ⅴ（春学期）

Paul Celan 研究

教授 大宮 勸一郎

授業科目の内容:

詩人パウル・ツェランは難解という評判と、特定の歴史的出来事の表現者という先入見とに埋もれている。どちらも間違った見方ではないが、むしろそれで全てが片付くわけではない。いずれにしてもツェランを読む場合大事なのは、一語一語、あるいは一音一音、さらには一文字一文字読んでゆく、という基礎的作業であろう。この授業はその練習である。

---

#### ドイツ文学演習Ⅵ（秋学期）

Paul Celan 研究

教授 大宮 勸一郎

授業科目の内容:

「ドイツ文学演習Ⅴ」の続きです。

詩人パウル・ツェランは難解という評判と、特定の歴史的出来事の表現者という先入見とに埋もれている。どちらも間違った見方ではないが、むしろそれで全てが片付くわけではない。いずれにしてもツェランを読む場合大事なのは、一語一語、あるいは一音一音、さらには一文字一文字読んでゆく、という基礎的作業であろう。この授業はその練習である。

---

#### ドイツ語学研究Ⅰ（春学期）

教授 中山 豊

授業科目の内容:

ドイツ語学における最近の研究論文を講読し、参加者には各テーマについての Referat を行ってもらいます。

---

#### ドイツ語学研究Ⅱ（秋学期）

教授 中山 豊

授業科目の内容:

ドイツ語学における最近の研究論文を講読し、参加者には各テーマについての Referat を行ってもらいます。

---

#### ドイツ語学研究Ⅲ（春学期）

中高ドイツ語入門

教授 香田 芳樹

授業科目の内容:

中高ドイツ語は 1050 年頃から 1500 年頃までにドイツ中西部や上部ドイツで話されていた言葉です。『ニーベルンゲンの歌』や『トリスタンとイゾルデ』、『パルチヴァール』といった珠玉の作品はすべてこれによって書かれています。この演習では、中高ドイツ語の初級文法を簡単に解説しながら、ドイツ中世の文学作品を原典で少しずつ読んでいきます。ドイツ語の古型に触れることで、言葉の発展史も勉強できるでしょう。現代ドイツ語の知識を使えば、古語もそれほど苦勞せずに読みとれるようになる喜びを実感して下さい。新しい（古い？）言葉にふれば、いにしへのゲルマン人の心意気もきっと身近になるはずです。

---

#### ドイツ語学研究Ⅳ（秋学期）

中高ドイツ語入門

教授 香田 芳樹

授業科目の内容:

春学期に引き続き、中高ドイツ語を学んでいきます。初級文法のおさらいをした後で、秋学期では少し背伸びをして、『トリスタンとイゾルデ』を原文で読んでみましょう。

---

#### ドイツ語学演習Ⅰ（春学期）

Die literarische Übersetzung

訪問講師（招聘） ドゥッペルータカヤマ, メヒティルド

授業科目の内容:

“Weltliteratur” und internationale literarische Auszeichnungen wie der Nobelpreis wären nicht möglich ohne Übersetzungen. Doch diese Tatsache, nämlich dass Übersetzer als Literaturvermittler tätig sind, wird häufig ignoriert bzw. erst dann thematisiert, wenn sie negative Schlagzeilen machen.

In dieser Veranstaltung stehen zunächst historische Aspekte des literarischen Übersetzens im Mittelpunkt; darauf aufbauend werden Übersetzungstheorien und Übersetzungsmethoden behandelt. Kurzreferate der Teilnehmer sollen Einzelaspekte vorstellen.

---

### ドイツ語学演習Ⅱ（秋学期）

Autoren und Übersetzer

訪問講師（招聘） ドゥッペルータカヤマ、メヒティルド

#### 授業科目の内容：

Fortsetzung der Veranstaltung "Die literarische Übersetzung".  
Thema ist das Verhältnis zwischen Autoren und ihren Übersetzern und die Frage, inwieweit Übersetzer selbst bzw. ihre Tätigkeit in literarischen Texten thematisiert werden.  
Dazu werden Beispiele aus deutschen und ins Deutsche übersetzten Texten gelesen und analysiert.

---

### 比較文学Ⅰ（春学期）

小説はどのように書かれているか

講師 菅原克也

#### 授業科目の内容：

比較文学研究の1つのありかたとして、文学作品を広く一般的な観点から分析、考察するという態度がある。春学期は、小説という文学形式について、その思想やメッセージの側からではなく、「かたち」の側から読んでゆくどのようなことが分かるか、あるいは、小説とはどのような書かれ方をしているか、ということを考えてみたい。テキストの構造に着目する様々な批評理論を参照しつつ、具体的な小説作品を「かたち」の面から読み解いてみることにする。例は主に英米文学と日本文学から引く。

---

### 比較文学Ⅱ（秋学期）

日本近代詩における欧米文学の影響

講師 菅原克也

#### 授業科目の内容：

秋学期は、実証的な比較文学研究の主たる対象となる影響研究を紹介する。具体的には、明治期以降の日本の近代詩の成立において、欧米の文学がどのような影響を与え、日本の近代詩をどのように方向づけていったのかを歴史的に跡づける。主なテキストは、日本語と英語のものを用いるが、一部フランス語とドイツ語のテキストも扱う。ただし、フランス語とドイツ語の知識は必須ではない。

---

### 古典文学ⅠA（春学期）

神話と図像Ⅰ

教授 西村太良

#### 授業科目の内容：

ギリシア神話は実際には様々な文学作品の中に題材として用いられるばかりでなく、膨大な量の図像の形で表現されている。この2つの媒体の相互関係の諸相について具体的な例をとり上げて検討したい。

---

### 古典文学ⅠB（春学期）

教授 中川純男

#### 授業科目の内容：

アリストテレスの『詩学』を読み、その作品論をとおして、ギリシア悲劇についての作品論を考える。毎回『詩学』のテキストを読み進む。ギリシア語テキスト、あるいは最低二カ国語の近代語訳（日本語訳を含む）を比較対照しつつ読解することが求められる。

---

### 古典文学ⅡA（秋学期）

神話と図像Ⅱ

教授 西村太良

#### 授業科目の内容：

図像の形で表現された神話について、関連したテキスト、資料に基づいて検討する。

---

### 古典文学ⅡB（秋学期）

教授 中川純男

#### 授業科目の内容：

アリストテレスの『詩学』を読み、その作品論をとおして、ギリシア悲劇についての作品論を考える。毎回『詩学』のテキストを読み進む。ギリシア語テキスト、あるいは最低二カ国語の近代語訳（日本語訳を含む）を比較対照しつつ読解することが求められる。

---

### 文芸批評史Ⅰ（春学期）

教授 巽孝之

#### 授業科目の内容：

文学批評理論はきわめて学際的な分野である。現代に限っても、ロシア・フォルマリズムや新批評、脱構築、ひいては構造主義から新歴史主義やポスト・コロニアリズム、クイア・リーディングへ至る歴史において、文学批評は何よりも自らの属する枠組み自体をたえまなく再検討し、その結果、今日では文学史と文化史を切り離して考えることはできなくなっている。そこには、いかなる文芸批評史の流れが作用していたのかを、根本に立ち戻って考え直す。

---

### 文芸批評史Ⅱ（秋学期）

教授 巽孝之

#### 授業科目の内容：

文芸批評史Ⅰの応用篇。

---

### 言語学特殊講義Ⅰ（春学期）

日本語の意味論研究

名誉教授 西山佑司

#### 授業科目の内容：

主として日本語表現を材料にして意味論の問題を検討

するが、必要に応じて他の言語との比較もおこなう。

---

### 言語学特殊講義Ⅱ（秋学期）

日本語の意味論研究

名誉教授 西山 佑 司

#### 授業科目の内容：

「言語学特殊講義Ⅰ」と同じ。

## 仏文学専攻

---

### 中世仏語仏文学特殊講義Ⅰ（春学期）

中世フランス語入門（1）

教授 川口 順 二

#### 授業科目の内容：

13世紀の散文を使って、中世フランス語への入門をしますが、これは同時に中世文学への入門でもあります。

---

### 中世仏語仏文学特殊講義Ⅱ（秋学期）

中世フランス語入門（2）

教授 川口 順 二

#### 授業科目の内容：

春学期に学習した中世フランス語の知識を広げて、12世紀韻文を取り上げ、聖杯伝説の最初のテキストであるChrestien de TroyesのPercevalを読んでいきます

---

### 中世仏語仏文学特殊講義演習Ⅰ（春学期）

16世紀の仏語と文学

教授 荻野 安 奈

#### 授業科目の内容：

16世紀の散文作品を読み、当時のフランス語に慣れることから始めます。

---

### 中世仏語仏文学特殊講義演習Ⅱ（秋学期）

16世紀文学と近・現代

教授 荻野 安 奈

#### 授業科目の内容：

16世紀作品を続けて読むなり、ラブレールを試金石として近・現代の作家を読むなり、出席者の希望次第です。

---

### 近代仏語仏文学特殊講義Ⅰ（春学期）

モダニズムとその周辺

法学部 准教授 笠井 裕 之

#### 授業科目の内容：

1913年から14年に書かれてコクトーの絵入り小説『ボトマック』、同じ時期に構想された未完のバレエ『ダヴィデ』、そのアイデアをサティ、ピカソとの共同作業のなかで発展させた1917年の『バラード』など、第一次大戦

前夜から数年間のコクトーの活動について、作品と資料を読みながら考えます。

---

### 近代仏語仏文学特殊講義Ⅱ（秋学期）

モダニズムとその周辺

法学部 准教授 笠井 裕 之

#### 授業科目の内容：

春学期の授業の続きです。アポリネールの「視覚詩」や舞台作品（『ティレジアスの乳房』）にも触れる予定です。

---

### 近代仏語仏文学特殊講義演習Ⅰ（春学期）

古典フランス語入門Ⅰ

教授 片木 智 年

#### 授業科目の内容：

古典フランス語の入門です。ラシーヌについて、「人間の言語においてこれほど美しい詩句」が書かれたことはないといったのはジードで、悲劇『アンドロマック』をして世界最高の戯曲といったのは浅利慶太です。この時代のフランス語は現代にいたるまで様々な作家のお手本となり、フランス人学生はみんな学校で一通りの作品を学びます。文字通り「クラシック」な教養となっているのです。したがって、フランス文化に親しみたい、あるいは将来的にフランス語・文学の専門家への道を考えているといった方に開かれた演習であり、現代フランス語さえできればよいという方には無益な努力を強いられる辛いだけの授業です。なお、授業では現代語つづりに書き直した古典悲劇の抜粋を題材としますが、徐々に16、7世紀のエディションも紹介していきます。

---

### 近代仏語仏文学特殊講義演習Ⅱ（秋学期）

古典フランス語入門Ⅱ

教授 片木 智 年

#### 授業科目の内容：

前期の授業の続きです。前期で古典フランス語の入門を終えた方、もしくはすでにその知識を持っている方が履修可能です。授業で扱われる資料は当時のフランス語そのまま（現代語つづりに直していないもの）です。人文劇、バロック劇を通じてどんな風にフランスの演劇＝幻想産業が立ち上がってきたかを通史的に追っていくことになるでしょう。

---

### 現代仏文学特殊講義Ⅰ（春学期）

Explication de texte

訪問准教授 ブランクール、ヴァンサン

#### 授業科目の内容：

- Ce cours a pour objectif d'entraîner les étudiants à la pratique de l'explication de texte littéraire. L'accent sera mis sur les spécificités techniques de cet exercice. Les

étudiants auront à présenter oralement durant le semestre une ou deux explications de texte.

- **Thème du semestre de printemps: Le surréalisme mis en récit.** A partir d'extraits d'œuvres de Raymond Queneau, *Odile*, Louis Aragon, *Aurélien*, et Michel Leiris, *L'âge d'homme*, nous nous intéresserons à la mise en récit de l'expérience dada et surréaliste par des écrivains qui en furent des acteurs, sous la forme romanesque ou du récit autobiographique.

---

#### 現代仏文学特殊講義Ⅱ（秋学期）

Explication de texte

訪問准教授 ブランクール, ヴァンサン

#### 授業科目の内容：

- Ce cours a pour objectif d'entraîner les étudiants à la pratique de l'explication de texte littéraire. L'accent sera mis sur les spécificités techniques de cet exercice. Les étudiants auront à présenter oralement durant le semestre une ou deux explications de texte.
- **Corpus choisi pour le semestre d'automne: Quelques figures de la poésie du XXème siècle.** Ce cours sera l'occasion de découvrir quelques poète majeurs du XXème siècle, période particulièrement féconde dans le domaine poétique. Nous étudierons des textes de Pierre Reverdy, Paul Eluard, Jules Supervielle, Yves Bonnefoy, André du Bouchet, Guillevic... Il s'agira plus d'un « parcours-découverte » que d'une exploration systématique de la richesse exceptionnelle de la création poétique au XXème siècle.

---

#### 現代仏文学特殊講義演習Ⅰ（春学期）

文学と身体の表象

教授 小倉孝誠

#### 授業科目の内容：

身体はわれわれにとってもっとも根源的な与件のひとつだが、意識や感覚をつうじてそれを把握するしかたは多様で複雑だ。この講義では、その身体が文学作品のなかでどのように描かれ、どのような意味づけをされてきたかを、さまざまなテクストを読みながら考察する。具体的には、次のような主題をとりあげる。

- 1 女性の身体をめぐる神話と幻想
- 2 感覚と文学：におい、音の表象
- 3 文化的・社会的テクストとしての病い（コレラ、結核、エイズなど）
- 4 《顔》の記号学

---

#### 現代仏文学特殊講義演習Ⅱ（秋学期）

文学と身体の表象

教授 小倉孝誠

#### 授業科目の内容：

春学期の続き。

---

#### 仏語仏文学特殊講義演習Ⅰ（春学期）

休講

---

#### 仏語仏文学特殊講義演習Ⅱ（秋学期）

休講

---

#### 仏語仏文学特殊講義演習Ⅲ（春学期）

人造美女の系譜

名誉教授 立仙順朗

#### 授業科目の内容：

ヴィリエ・ド・リラダンの『未来のイヴ』を読みながら、なぜ19世紀後半にこのような小説が書かれたか、人造美女の問題を中心にすえて考察します。

---

#### 仏語仏文学特殊講義演習Ⅳ（秋学期）

人造美女の系譜（続き）

名誉教授 立仙順朗

#### 授業科目の内容：

ヴィリエ・ド・リラダンの『未来のイヴ』の後半を読みながら、なぜ19世紀後半にこのような小説が書かれたか、人造美女の問題を中心にすえて考察します。同時代の作家、ゴーティエ、ボードレール、マラルメ、ヴェルレーヌなどとの関連も取り上げます。

---

#### 仏語仏文学特殊講義演習Ⅴ（春学期）

教授 牛場暁夫

#### 授業科目の内容：

「プルーストとフロベール」

プルーストはフロベールから影響を受けているが、従来指摘されてこなかった側面に注目し、論じたい。

---

#### 仏語仏文学特殊講義演習Ⅵ（秋学期）

教授 牛場暁夫

#### 授業科目の内容：

「プルーストとフロベール」

春学期の継続。

「プルーストとバシェラル」についても論じたい。

---

**古典文学 I A (春学期)****神話と図像 I**

教授 西村 太良

**授業科目の内容 :**

ギリシア神話は実際には様々な文学作品の中に題材として用いられるばかりでなく、膨大な量の図像の形で表現されている。この2つの媒体の相互関係の諸相について具体的な例をとり上げて検討したい。

---

**古典文学 I B (春学期)**

教授 中川 純男

**授業科目の内容 :**

アリストテレスの『詩学』を読み、その作品論をとおして、ギリシア悲劇についての作品論を考える。毎回『詩学』のテキストを読み進む。ギリシア語テキスト、あるいは最低二カ国語の近代語訳（日本語訳を含む）を比較対照しつつ読解することが求められる。

---

**古典文学 II A (秋学期)****神話と図像 II**

教授 西村 太良

**授業科目の内容 :**

図像の形で表現された神話について、関連したテキスト、資料に基づいて検討する。

---

**古典文学 II B (秋学期)**

教授 中川 純男

**授業科目の内容 :**

アリストテレスの『詩学』を読み、その作品論をとおして、ギリシア悲劇についての作品論を考える。毎回『詩学』のテキストを読み進む。ギリシア語テキスト、あるいは最低二カ国語の近代語訳（日本語訳を含む）を比較対照しつつ読解することが求められる。

---

**言語学特殊講義 I (春学期)****日本語の意味論研究**

名誉教授 西山 佑司

**授業科目の内容 :**

主として日本語表現を材料にして意味論の問題を検討するが、必要に応じて他の言語との比較もおこなう。

---

**言語学特殊講義 II (秋学期)****日本語の意味論研究**

名誉教授 西山 佑司

**授業科目の内容 :**

「言語学特殊講義 I」と同じ。

---

**図書館・情報学専攻**

---

**情報学特殊講義 I (春学期)**

教授 田村 俊作

**授業科目の内容 :**

Rayward W.B. "The development of library and information science." *The Study of Information*, ed. by F. Machlup; U. Mansfield. New York, Wiley, 1983, p.343-363 および関連文献を講読することを通じて、図書館情報学の歴史、「図書館学」と「情報学」、関連分野、最近の動向とその背景などについて考えたい。

---

**情報学特殊講義 II (秋学期)**

教授 田村 俊作

**授業科目の内容 :**

昨年度に続き Rubin, R.E. *Foundations of Library and Information Science*. 2nd ed. Neal Schuman, 2004 の講読を通じて、図書館情報学の諸領域とその動向について考えてみたい。

---

**情報学特殊講義 III (秋学期)**

教授 田村 俊作

**授業科目の内容 :**

三田メディアセンターとの連携の下に、図書館利用者サービスの実施に係わる諸問題を、実習を交え実際に即して検討するインターンシップ科目である。

---

**情報学特殊講義 IV (秋学期)**

休講

---

**情報学特殊講義演習 I (春学期)**

教授 田村 俊作

**授業科目の内容 :**

図書館情報サービスに関連する諸問題について、論文作成の指導を行う。

---

**情報学特殊講義演習 II (秋学期)**

教授 田村 俊作

**授業科目の内容 :**

情報学特殊講義 I に引き続き、図書館情報サービスに関連する諸問題について、論文作成の指導を行う。

---

**情報メディア特殊講義Ⅰ（春学期）**

---

教授 上田 修一

**授業科目の内容：**

情報メディアに関する認識を深めるとともに新しいアプローチの方向を探ります。

---

**情報メディア特殊講義Ⅱ（秋学期）**

---

教授 上田 修一

**授業科目の内容：**

情報メディアに関する認識を深めるとともに新しいアプローチの方向を探ります。

---

**情報メディア特殊講義Ⅲ（春学期）**

---

学術コミュニケーションの電子化

教授 倉田 敬子

**授業科目の内容：**

学術コミュニケーションに対する電子化の影響に関して、最近出版されたテキストの講読と議論を通して考えていく。

---

**情報メディア特殊講義Ⅳ（秋学期）**

---

学術コミュニケーションとオープンアクセス

教授 倉田 敬子

**授業科目の内容：**

学術コミュニケーションにおいて現在話題になっているオープンアクセス運動に関して、その動向と意義を検討するために、オープンアクセスに関する図書の輪読と討論を行う。概念と動向理解のために、適宜必要な資料や情報を提供する。

---

**情報メディア特殊講義演習ⅠA（春学期）**

---

教授 上田 修一

**授業科目の内容：**

情報メディア、情報検索、学術情報などにかかわる研究指導を行います。

---

**情報メディア特殊講義演習ⅠB（春学期）**

---

情報メディアに関する研究会

教授 倉田 敬子

**授業科目の内容：**

情報メディアに関する調査研究の実践的な指導を行います。研究テーマの設定、基本文献の講読と主要な内容の発表、調査計画、調査の実施、成果の発表を行ってまいります。

---

**情報メディア特殊講義演習ⅡA（秋学期）**

---

教授 上田 修一

**授業科目の内容：**

情報メディア、情報検索、学術情報などにかかわる研究指導を行います。

---

**情報メディア特殊講義演習ⅡB（秋学期）**

---

情報メディアに関する研究会

教授 倉田 敬子

**授業科目の内容：**

情報メディア特殊講義Ⅰで行った調査研究のまとめを行うとともに、修士論文作成に向けての指導を行う。

---

**情報検索特殊講義Ⅰ（春学期）**

---

教授 岸田 和明

**授業科目の内容：**

情報検索の基本的な理論や技法を、文献の講読を通じて身に付けることを目的とします。

---

**情報検索特殊講義Ⅱ（秋学期）**

---

教授 岸田 和明

**授業科目の内容：**

情報検索システムの実装の方法、およびそのシステムの性能を評価・検証するための検索実験の方法を身に付けることを目的とします。

---

**情報検索特殊講義Ⅲ（春学期）**

---

名誉教授 細野 公男

**授業科目の内容：**

情報検索手法、情報検索システム、資料のデジタル化に関わる基本的な考え方・アプローチや問題点、さらに現在話題になっているトピックを取り上げます。

---

**情報検索特殊講義Ⅳ（秋学期）**

---

名誉教授 細野 公男

**授業科目の内容：**

「情報検索特殊講義Ⅲ」で取り上げた話題を種々の側面からさらに展開します。

---

**情報検索特殊講義演習Ⅰ（春学期）**

---

休講

---

**情報検索特殊講義演習Ⅱ（秋学期）**

---

休講

---

### 情報システム特殊講義Ⅰ（秋学期）

高等教育システムと大学・学術図書館

教授（有期） 三 浦 逸 雄

#### 授業科目の内容：

現在、さまざまな形で進行している大学改革に大学図書館はどのように対応すべきなのか、またデジタル時代に大学図書館は生き残っていけるのであろうか。あたらしい時代における図書館員にはいかなる知識や技能が求められているのであろうか。このような問題意識から大学・学術図書館にかかわる諸問題を高等教育システムという広いコンテキストの中で、構造的に検討する。さらに日米比較という視点から歴史的・制度的な考察も加える。

---

### 情報システム特殊講義Ⅱ（春学期）

情報サービスにおける図書館と公文書館（アーカイヴズ）

名誉教授 高 山 正 也

#### 授業科目の内容：

出版という大量複製技術が確立するまで、図書館とアーカイヴズは一体でした。電子的記録が盛んになった現在、カナダのように、図書館とアーカイヴズを再統合した国も出現しています。そこで、出版物と文書、図書館とアーカイヴズの類似点・相違点を把握することで、図書館とアーカイヴズ、更には情報サービスのより深い理解を目指します。

---

### 情報システム特殊講義Ⅲ（秋学期）

休 講

---

### 情報システム特殊講義Ⅳ（秋学期）

図書館の〈公共性〉

教授 糸 賀 雅 児

#### 授業科目の内容：

今年度も図書館＝無料貸本屋批判や図書館民営化論を受けて、図書館がもつ〈公共性〉とは何かを、引き続き考えることにします。

館種を問わず、多くの図書館には公的な資金が投入されていますし、「無料の原則」も貫かれています。船橋市立図書館での蔵書廃棄事件をめぐる一昨年最高裁判決は、司書による選書や廃棄という行為に一定の〈公共性〉を認めています。また、図書館資料の複製に関しても、著作権法第31条は図書館における著作者の権利制限を認めています。これらは、図書館が〈公共性〉を有していることの端的な表れと考えることができます。

その一方で、図書館経営に民間活力の導入が叫ばれ、業務のアウトソーシングはもとより、運営面での住民（利用者）参加や大学図書館の地域開放が自明とされる時代です。図書館をはじめとする各種の公共施設のあり方や公共政策の実施過程への住民の関与 public involvement の

考え方は、広く浸透しているように見えます。

そこでこの授業では、ハーバーマスの「公共圏」ないし「公共空間」に依拠しながら、現代日本における図書館の〈公共性〉の再構築を試みることにします。

---

### 情報システム特殊講義演習Ⅰ（春学期）

教授 糸 賀 雅 児

#### 授業科目の内容：

修士論文の執筆に向けて、テーマの選択、研究の進め方、論文執筆の技術的な助言などを、逐次行なっていきます。

---

### 情報システム特殊講義演習Ⅱ（秋学期）

教授 糸 賀 雅 児

#### 授業科目の内容：

修士論文の執筆に向けて、テーマの選択、研究の進め方、論文執筆の技術的な助言などを、逐次行なっていきます。

---

### 調査研究法Ⅰ（春学期）

図書館・情報学の基本的な研究方法を学ぶ

教授 糸 賀 雅 児

#### 授業科目の内容：

図書館・情報学の基本的な研究方法について学びます。国内外の具体的な研究事例をもとに、主な研究方法の概要、意義、限界などを検討する予定ですが、特に「統計的方法」について、有意差検定の基本的な考え方が修得できることを目的とします。また、図書館・情報学の主要な専門雑誌についても、それぞれの特徴を理解してもらいたいと考えています。

---

### 調査研究法Ⅱ（秋学期）

休 講

---

### 情報分析論Ⅰ（春学期）

教授 田 村 俊 作

#### 授業科目の内容：

図書館・情報学の最近の海外研究論文の中から履修者各自が選択したものについて、その概要を発表し、全員で討議します。秋学期の情報分析論Ⅱとあわせて継続して履修することを原則とします。

---

### 情報分析論Ⅱ（秋学期）

教授 田 村 俊 作

#### 授業科目の内容：

情報分析論Ⅰと同じ内容です。Ⅰとあわせて継続して履修することを原則とします。



## 情報資源管理特殊講義Ⅰ（秋学期）

図書館マネジメントの諸問題

教授 糸賀雅児

### 授業科目の内容：

公共図書館や大学図書館のマネジメントのあり方について最新の知識を身につけるとともに、可能な限り具体的な事例に即して検討し、個々の図書館の状況に応じた対処法や解決策を探り出すことがねらいです。なおテーマに応じて、外部の専門家を特別招聘講師に迎える予定です。今年度は、以下のような事項を用意していますが、履修者の要望も聞きながらこの中から3つの事項を選ぶことにします。

- ・非営利組織におけるマーケティングのあり方
- ・図書館の経営評価
- ・図書館の危機管理（利用者モラル低下への対応）
- ・図書館における専門職の養成と研修
- ・図書館業務におけるICTの活用
- ・図書館業務委託における要求水準書の作成

## 情報資源管理特殊講義Ⅱ（春学期）

大学図書館の運営

教授（有期） 三浦逸雄

### 授業科目の内容：

現在、大学生の学力低下、少子化による入学者数の減少傾向、生涯学習の拡大による学生層の多様化、情報化の進展による学習機会の拡大、財政逼迫による大学経営の悪化など、大学をめぐる内外の環境は大きく変化している。このような状況に直面して大学図書館が大学の使命を達成するためにどのような役割を果たすことが出来るかが厳しく問われている。とりわけ情報技術の進展と電子情報源の拡大により21世紀に大学図書館が生き残っていくための課題は大きいといえる。このような問題認識に基づいて大学図書館の運営をめぐる様々な問題について日米比較をまじえながら検討する。講義は受講者の問題意識とクロスするような形で進める予定である。

## 情報資源管理特殊講義Ⅲ（春学期）

公共図書館の経営管理上の諸問題

教授 糸賀雅児

法学部 教授 大山耕輔

講師 熊谷弘志

### 授業科目の内容：

公共図書館の経営管理上の諸問題を取り上げて、その解決に向けた方策を互いに検討します。今年度は大きく次の三つのテーマを用意しています。

- (1) 国と自治体のガバナンス変化と行政責任（大山担当）
- (2) 図書館業務のアウトソーシング（指定管理者制度、

PFI、等）（熊谷 担当）

- (3) 教育基本法改正と公立図書館（糸賀 担当）

これらの他にも以下のようなテーマが考えられますので、履修者の要望も最初の授業でお聞かせください。

- ・司書の養成と研修のあり方
- ・住民参加とボランティア
- ・行政評価と図書館評価
- ・公共図書館における危機管理
- ・子ども読書推進計画の実態
- ・各種課題解決支援サービス（ビジネス支援、子育て支援、等）
- ・レファレンス・サービスの普及戦略
- ・図書館と学校の連携・協力
- ・国の図書館行政・図書館政策の動向
- ・図書館利用促進のための情報リテラシー教育

## 情報資源管理特殊講義Ⅳ（秋学期）

講師 平野美恵子

### 授業科目の内容：

資料組織化に関わる目録、分類、件名の現状について、問題点を整理し、今後のあり方を探る。

## 情報資源管理特殊講義Ⅴ（秋学期）

休講

## 情報資源管理特殊講義Ⅵ（秋学期）

休講

## 情報資源管理特殊講義Ⅶ（春学期）

休講

## 情報資源管理特殊講義Ⅷ（秋学期）

休講

## 情報資源管理特殊講義Ⅸ（秋学期）

情報検索

教授 岸田和明

### 授業科目の内容：

インターネットの普及に伴い、理論的にも、実用的にも、情報検索およびそのシステムは多様化しています。この講義では、情報検索に関わる諸側面を、その原理から実際まで、幅広く学んでいきます。

## 情報資源管理特殊講義Ⅹ（秋学期）

教授 田村俊作

### 授業科目の内容：

レファレンス・サービスの提供およびサービスの運営

に関わる事項について、実際に即して検討します。それにより、レファレンス・ライブラリアンとしての知識・技能の向上をめざします。

---

#### 情報資源管理特殊講義ⅩⅠ（春学期）

---

講師 池内 淳

##### 授業科目の内容：

図書館情報学の調査研究を行う際に必要とされる基本的な情報リテラシーを修得するとともに、電子図書館サービスに関連する基礎的な技術や知識について、講義と演習を行います。

---

#### 情報資源管理特殊講義ⅩⅡ（秋学期）

---

講師 安形 輝

##### 授業科目の内容：

前半では図書館サービスを提供するために必要な情報技術・ネットワーク技術を取り上げ、先進的な事例の紹介やインターネット上で情報サービスを展開するさいの基盤となる技術や規格の解説などを行います。後半は、履修者の関心ある技術を応用し、実際にウェブ上の情報サービスを構築する小規模な演習を行います。なお、履修人数に応じてグループ分けを行うことがあります。

---

#### 情報資源管理特殊講義ⅩⅢ（秋学期）

---

休 講

---

#### 情報資源管理特殊講義ⅩⅣ（春学期）

---

休 講

---

#### 情報資源管理特殊講義ⅩⅤ（春学期）

---

休 講

---

#### 情報資源管理特殊講義ⅩⅥ（春学期）

---

教授 上田 修一

##### 授業科目の内容：

この科目では、大学図書館の専門的業務について専門家を招いて、セミナー、あるいはワークショップ形式の授業を行います。

---

#### 情報資源管理特殊講義ⅩⅦ（春学期）

---

休 講

---

#### 情報資源管理特殊講義ⅩⅧ（春学期）

---

学術論文の書き方

教授 倉田 敬子

##### 授業科目の内容：

学術論文の書き方および成果の発表に関して、講義と演習を行い、最終的に修士論文や学会発表ができるよう

なスキルを身につけることを目標とする。

---

#### 情報資源管理特殊講義演習Ⅰ A（春学期）

---

教授 上田 修一

##### 授業科目の内容：

大学図書館と学術情報に関する基本的問題を扱います。また、論文指導を行います。この科目は、「情報検索特殊研究Ⅴ」との併設です。

---

#### 情報資源管理特殊講義演習Ⅰ B（春学期）

---

教授 田村 俊作

##### 授業科目の内容：

レファレンスサービスを中心とする利用者サービスをテーマに、院生の論文指導をします。

---

#### 情報資源管理特殊講義演習Ⅰ C（春学期）

---

教授 糸賀 雅児

##### 授業科目の内容：

修士論文の執筆に向けて、テーマの選択、研究の進め方、論文執筆の技術的な助言などを、逐次行なっていきます。主要な指導領域は、公共図書館政策、公共図書館経営、図書館の測定・評価などを中心とした公共図書館の諸問題になりますが、その他のテーマについては、その都度検討させていただきます。

---

#### 情報資源管理特殊講義演習Ⅱ A（秋学期）

---

教授 上田 修一

##### 授業科目の内容：

大学図書館と学術情報に関する基本的問題を扱います。また、論文指導を行います。この科目は、「情報検索特殊研究Ⅵ」との併設です。

---

#### 情報資源管理特殊講義演習Ⅱ B（秋学期）

---

教授 田村 俊作

##### 授業科目の内容：

レファレンスサービスを中心とする利用者サービスをテーマに、Ⅰ Bに引き続き院生の論文指導をします。

---

#### 情報資源管理特殊講義演習Ⅱ C（秋学期）

---

教授 糸賀 雅児

##### 授業科目の内容：

情報資源管理特殊講義演習Ⅰ Cに引き続いて、修士論文の執筆に向けたテーマの選択、研究の進め方、論文執筆の技術的な助言などを、逐次行なっていきます。

---

情報資源管理特殊講義演習Ⅲ（春学期）

抄読会

---

教授 倉田敬子

授業科目の内容：

毎回3人程度の受講生に図書館情報学分野の最新の論文に関して読んできたものを発表してもらい、出席者全員で討論を行う。

---

情報資源管理特殊講義演習Ⅳ（秋学期）

抄読会

---

教授 倉田敬子

授業科目の内容：

毎回3人程度の受講生に図書館情報学分野の最新の論文に関して読んできたものを発表してもらい、出席者全員で討論を行う。

## 博士課程設置科目

### 哲学・倫理学専攻

#### 哲学特殊研究Ⅰ（春学期）

教授 飯田 隆  
准教授 エアトル, ヴォルフガング

##### 授業科目の内容：

「哲学原典研究Ⅰ」と同じ。

#### 哲学特殊研究Ⅱ（秋学期）

教授 飯田 隆

##### 授業科目の内容：

「哲学原典研究Ⅱ」と同じ。

#### 哲学特殊研究Ⅲ（春学期）

教授 斎藤 慶典  
講師 荒金 直人

##### 授業科目の内容：

Emmanuel Levinas と Jacques Derrida によって提起された「他者」にかかわる問題を、彼らの原著にあたりながら議論します。昨年度に引きつづき、Jacques Derrida, *Psyché—Inventions de l'autre* (Galilée, 1987) 所収の論考からいくつかを読みつつ、議論を重ねたいと思います。なお、時間割表に掲載されている授業時間は暫定的なものですので、受講希望者はガイダンス時に担当者に確認してください。

#### 哲学特殊研究Ⅳ（秋学期）

教授 斎藤 慶典  
講師 荒金 直人

##### 授業科目の内容：

「哲学特殊研究Ⅲ」と同じ。

#### 哲学特殊研究演習Ⅰ（春学期）

教授 中川 純男

##### 授業科目の内容：

修士課程の「哲学原典研究Ⅲ」と共通。講義内容は修士課程の項、参照。

#### 哲学特殊研究演習Ⅰ（春学期）

古典的世界観

教授 西脇 与作

##### 授業科目の内容：

昨年に続き、古典力学を基礎にして作られた古典的世

界観を多面的に検討する。

#### 哲学特殊研究演習Ⅱ（秋学期）

教授 中川 純男

##### 授業科目の内容：

修士課程の「哲学原典研究Ⅲ」と共通。講義内容は修士課程の項、参照。

#### 哲学特殊研究演習Ⅱ（秋学期）

古典的世界観

教授 西脇 与作

##### 授業科目の内容：

昨年に続き、古典力学を基礎にしてつくられた古典的世界観を多面的に検討する。

#### 哲学特殊研究演習Ⅲ（春学期）

教授 岡田 光弘

##### 授業科目の内容：

論理学を専門とする学生に対して論理学関係の研究論文の作成の指導を演習形式で行う。

#### 哲学特殊研究演習Ⅳ（秋学期）

教授 岡田 光弘

##### 授業科目の内容：

論理学を専門とする学生に対して論理学関係の研究論文の作成の指導を演習形式で行う。

#### 倫理学特殊研究Ⅰ（春学期）

教授 谷 寿美

##### 授業科目の内容：

ロシア・ソフィオロジーの文献を講読する。扱う思想家はP. フロレンスキー、S. ブルガーコフら。

#### 倫理学特殊研究Ⅱ（秋学期）

教授 谷 寿美

##### 授業科目の内容：

「倫理学特殊研究Ⅰ」と共通

#### 倫理学特殊研究Ⅲ（春学期）

近世倫理学の基盤

教授 山内 志朗

##### 授業科目の内容：

デカルトの『省察』をラテン語テキストとフランス語テキストの両方を使用して読解していく。ラテン語とフランス語によるテキスト読解力を身につけると共に、倫理学の基礎概念の背景を考察する。

---

**倫理学特殊研究Ⅳ（秋学期）**

近世倫理学の基盤

教授 山内志朗

**授業科目の内容：**

「倫理学特殊研究Ⅲ」の続講。

---

**倫理学特殊研究演習ⅠA（春学期）**

倫理学の諸問題

教授 樽井正義

教授 谷寿美

教授 山内志朗

准教授 エアトル, ヴォルフガング

准教授 柘植尚則

准教授 奈良雅俊

**授業科目の内容：**

倫理学専攻のすべての教員と大学院生が参加し、学生による報告と全員による討論という形で授業を行う。学生は、論文の作成に向けた中間発表を行い、その成果を論文として提出することが求められる。

---

**倫理学特殊研究演習ⅠB（春学期）**

ヘーゲル法哲学研究

教授 樽井正義

**授業科目の内容：**

G. W. F. Hegel: Grundlinien der Philosophie des Rechts oder Naturrecht und Staatswissenschaft im Grundriss. 1821 を講読する。昨年度の講読分について簡略に復習したうえで、今回は Abstractes Recht を対象とする。

---

**倫理学特殊研究演習ⅡA（秋学期）**

教授 樽井正義

教授 谷寿美

教授 山内志朗

准教授 エアトル, ヴォルフガング

准教授 柘植尚則

准教授 奈良雅俊

**授業科目の内容：**

「倫理学特殊研究演習ⅠA」と同じ。

---

**倫理学特殊研究演習ⅡB（秋学期）**

社会哲学・生命倫理学研究

教授 樽井正義

**授業科目の内容：**

履修者が設定する生命倫理学の個別課題について、基本文献の講読とレポートの報告・討論を通じて、論文作成指導を行う。

---

**美学美術史学専攻**

---

**美学特殊研究Ⅰ（春学期）**

古典詩論研究1

講師 藤田一美

**授業科目の内容：**

古代哲学における文藝の位置を確認するために主としてプラトンの『国家』やアリストテレスの『詩学』や『弁論術』を注釈を用いながら細かく読んでゆきます。

なお、古典語未習者の参加を認めます。場合によっては日本語文献を主たるテキストとして用います。

---

**美学特殊研究Ⅱ（秋学期）**

古典詩論研究2

講師 藤田一美

**授業科目の内容：**

春学期につづき、古代哲学における文藝の位置を確認するために主としてプラトンの『国家』やアリストテレスの『詩学』や『弁論術』を注釈を用いながら細かく読んでゆきます。

なお、古典語未習者の参加を認めます。場合によっては日本語文献を主たるテキストとして用います。

---

**美学特殊研究演習Ⅰ（春学期）**

エルンスト・ブロッホと表現主義美術

教授 前田富士男

**授業科目の内容：**

近現代美術の問題点を、エルンスト・ブロッホの論考を基盤に討議する。あわせて同時代の色彩論も検討する。

---

**美学特殊研究演習Ⅱ（秋学期）**

エルンスト・ブロッホと表現主義美術

教授 前田富士男

**授業科目の内容：**

エルンスト・ブロッホの論考を基盤に、ドイツ表現主義美術の諸問題を検討する。あわせて同時代の色彩論も検討する。

---

**美術史特殊研究Ⅰ（春学期）**

休講

---

**美術史特殊研究Ⅱ（秋学期）**

休講

---

**美術史特殊研究演習Ⅰ（春学期）**

---

教授 林 温

**授業科目の内容：**

東洋・日本美術史学を研究する方法論について考えたいと思います。

---

**美術史特殊研究演習Ⅱ（秋学期）**

---

教授 林 温

**授業科目の内容：**

「美術史特殊研究演習Ⅰ」と同じ。

---

**美術史特殊研究演習Ⅲ（春学期）**

---

イタリア・ルネサンス研究

教授 末 吉 雄 二

**授業科目の内容：**

Poetry on Art—Renaissance to Romanticism—, Edited by Thomas Frangenberg, Shaun Tyas Donington, 2003

から、まず履修者全員で

To Loosen the Tongue of Mute Poetry: Giorgione's Self-Portrait 'as David' as a Paragone Demonstration, Paul Holberton を読む。

履修者は続いて、各自の研究テーマに応じて同書の他の論文を読み、内容を要約して報告し、全員で論文の観点や問題点などを検討する。

---

**美術史特殊研究演習Ⅳ（秋学期）**

---

イタリア・ルネサンス研究

教授 末 吉 雄 二

**授業科目の内容：**

Poetry on Art—Renaissance to Romanticism—, Edited by Thomas Frangenberg, Shaun Tyas Donington, 2003 から履修者各自の研究テーマに近い論文を選び、その内容を要約・検討して発表する。

---

**美術史特殊研究演習Ⅴ（春学期）**

---

コロキウム

教授 前 田 富士男  
教授 大 石 昌 史  
教授 末 吉 雄 二  
教授 遠 山 公 一  
教授 林 温  
教授 三 宅 幸 夫  
教授 美 山 良 夫  
准教授 内 藤 正 人  
准教授 西 川 尚 生**授業科目の内容：**

博士課程は、各自の専門的研究を深めるとともに、ひろく近似した研究主題や隣接する学問領域の方法論など

にふれ、互いに切磋琢磨して、自分自身の観点、問題提起、対象分析、作品解釈、論証、表現方法などをたえず改善し、磨きあげるコースにはかならない。この授業は、本専攻が美学・日本東洋美術史・西洋美術史・音楽史から構成される特性をふまえ、博士課程院生と教員の全員が参加し、各回、院生の口頭研究発表をもとに討議をおこなう（ときに教員、招聘講師の発表もある）。

---

**美術史特殊研究演習Ⅵ（秋学期）**

---

コロキウム

教授 前 田 富士男  
教授 大 石 昌 史  
教授 末 吉 雄 二  
教授 遠 山 公 一  
教授 林 温  
教授 三 宅 幸 夫  
教授 美 山 良 夫  
准教授 内 藤 正 人  
准教授 西 川 尚 生**授業科目の内容：**

博士課程は、各自の専門的研究を深めるとともに、ひろく近似した研究主題や隣接する学問領域の方法論などにふれ、互いに切磋琢磨して、自分自身の観点、問題提起、対象分析、作品解釈、論証、表現方法などをたえず改善し、磨きあげるコースにはかならない。この授業は、本専攻が美学・日本東洋美術史・西洋美術史・音楽史から構成される特性をふまえ、博士課程院生と教員の全員が参加し、各回、院生の口頭研究発表をもとに討議をおこなう（ときに教員、招聘講師の発表もある）。

---

**音楽学特殊研究Ⅰ（春学期）**

---

音楽学の実践

教授 三 宅 幸 夫

**授業科目の内容：**

「音楽学特殊研究」は博士論文を書くための研究会です。受講生の選択した研究題目にしたがって、口頭発表、質疑応答、そして意見交換をおこないます。

---

**音楽学特殊研究Ⅱ（秋学期）**

---

音楽学の実践

教授 三 宅 幸 夫

**授業科目の内容：**

「音楽学特殊研究Ⅰ」（春学期）と同じ。

---

**音楽学特殊研究演習Ⅰ（春学期）**

音楽学の口頭発表と論文執筆

教授 三宅幸夫

**授業科目の内容：**

「音楽学特殊研究演習」は博士論文を書くための研究会です。受講生の選択した研究題目にしたがって、具体的に学会における口頭発表、および学会誌への投稿についてサポートします。

---

**音楽学特殊研究演習Ⅱ（秋学期）**

音楽学の口頭発表と論文執筆

教授 三宅幸夫

**授業科目の内容：**

「音楽学特殊研究演習Ⅰ」（春学期）と同じ。

---

**史学専攻**

---

---

**日本史特殊研究Ⅰ（春学期）**

教授 三宅和朗

**授業科目の内容：**

日本古代史の諸問題に関して、史料や論文を通して具体的に検討していきたい。

---

**日本史特殊研究Ⅱ（秋学期）**

教授 三宅和朗

**授業科目の内容：**

「日本史特殊研究Ⅰ」と同じ。

---

**日本史特殊研究Ⅲ（春学期）**

教授 田代和生

**授業科目の内容：**

博士論文作成のための指導を行う。受講者個々の研究発表を中心に、近世史研究についての諸問題を討論する。史料収集・調査の方法や分析、整理法、さらに専門誌への発表を前提とする論文指導も行う。

---

**日本史特殊研究Ⅳ（秋学期）**

教授 田代和生

**授業科目の内容：**

「日本史特殊研究Ⅲ」と同じ。

---

**日本史特殊研究演習Ⅰ（春学期）**

教授 長谷山 彰

**授業科目の内容：**

受講者による研究報告をもとに、日本古代史上の諸問題について検討する。

---

**日本史特殊研究演習Ⅱ（秋学期）**

教授 長谷山 彰

**授業科目の内容：**

「日本史特殊研究演習Ⅰ」と同じ。

---

**日本史特殊研究演習Ⅲ（春学期）**

休講

---

**日本史特殊研究演習Ⅳ（秋学期）**

休講

---

**東洋史特殊研究ⅠA（春学期）**

教授 山本英史

**授業科目の内容：**

受講者が各自行っている研究について報告をしてもらい、発表能力の鍛錬に努めるとともに、研究論文執筆に関する指導も併せて行う。

---

**東洋史特殊研究ⅠB（春学期）**

タイにおける華人社会の歴史

教授 吉原和男

**授業科目の内容：**

受講者の現地調査報告に関連した研究文献や史料の講読を行う。

---

**東洋史特殊研究ⅡA（秋学期）**

教授 山本英史

**授業科目の内容：**

受講者が各自行っている研究について報告をしてもらい、発表能力の鍛錬に努めるとともに、研究論文執筆に関する指導も併せて行う。

---

**東洋史特殊研究ⅡB（秋学期）**

タイにおける華人社会の歴史

教授 吉原和男

**授業科目の内容：**

春学期と同じです。

---

**東洋史特殊研究演習Ⅰ（春学期）**

近代イスラーム史関係の史料講読

教授 坂本 勉

**授業科目の内容：**

トルコ語で書かれた研究書、史料の講読。

---

**東洋史特殊研究演習Ⅱ（秋学期）**

近代イスラーム史関係の史料講読

教授 坂本 勉

**授業科目の内容：**

春学期の「東洋史特殊研究演習Ⅰ」を引き継いで近代史にかかわるトルコ語史料を講読する。

---

**西洋史特殊研究演習ⅠA（春学期）**

若きマルクスにおけるヘーゲル受容の研究

教授 神田 順司

**授業科目の内容：**

若きマルクスはヘーゲルの思想をどう理解しどう受容したのか、あるいはどう誤解しどう批判したのか。本演習ではマルクスの「ヘーゲル法哲学批判」を取り上げ、そのヘーゲル受容の特徴と限界を同時代的コンテキストに即して分析する。参加者はヘーゲル法哲学およびフォイエルバッハ、バウアー、ガンズなどの思想について多少なりとも予備知識を持っていることが望ましい。

---

**西洋史特殊研究演習ⅠB（春学期）**

初期北米アメリカ史・リサーチ・セミナー

教授 大森 雄太郎

**授業科目の内容：**

初期北米アメリカ史をフィールドとする大学院上級のリサーチ・セミナーです。隔週にセミナー・ペーパーの提出を要求します。それをうけて隔週にディスカッションを行います。西洋史学専攻後期博士課程の学生で、初期北米アメリカ史の博士論文を書く学生を対象とします。

---

**西洋史特殊研究演習ⅡA（秋学期）**

教授 神田 順司

**授業科目の内容：**

春学期に同じ。

---

**西洋史特殊研究演習ⅡB（秋学期）**

初期北米アメリカ史・リサーチ・セミナー

教授 大森 雄太郎

**授業科目の内容：**

初期北米アメリカ史をフィールドとする大学院上級のリサーチ・セミナーです。隔週にセミナー・ペーパーの提出を要求します。それをうけて隔週にディスカッションを行います。西洋史学専攻後期博士課程の学生で、初期北米アメリカ史の博士論文を書く学生を対象とします。

---

**西洋史特殊研究演習Ⅲ（春学期）**

休講

---

**西洋史特殊研究演習Ⅳ（秋学期）**

休講

---

**民族学考古学特殊研究Ⅰ（春学期）**

准教授 杉本 智俊

**授業科目の内容：**

民族学・考古学をテーマとした博士論文の作成指導を行なう。研究会形式で、各自の発表に対して建設的な討論を行い、論文を育てていく。また、自分の研究以外にも視野を広げ、方法論、知識両面での幅を広げることも目標とする。

---

**民族学考古学特殊研究Ⅱ（秋学期）**

准教授 杉本 智俊

**授業科目の内容：**

民族学・考古学をテーマとした博士論文の作成指導を行なう。研究会形式で、各自の発表に対して建設的な討論を行い、論文を育てていく。また、自分の研究以外にも視野を広げ、方法論、知識両面での幅を広げることも目標とする。

---

**民族学考古学特殊研究演習Ⅰ（春学期）**

教授 阿部 祥人

**授業科目の内容：**

この50年間に膨大な資料を蓄積してきた日本の先史時代研究は、同時に多くの問題点を抱えている。それら今日的な問題点を受講者と共に取り上げ、その解決策・今後の有効な分析方法について、検討していく。同時に先史文化等の研究者を志す人の論文指導や共同研究を行う。

---

**民族学考古学特殊研究演習Ⅱ（秋学期）**

教授 阿部 祥人

**授業科目の内容：**

この50年間に膨大な資料を蓄積してきた日本の先史時代研究は、同時に多くの問題点を抱えている。それら今日的な問題点を受講者と共に取り上げ、その解決策・今後の有効な分析方法について、検討していく。同時に先史文化等の研究者を志す人の論文指導や共同研究を行う。

---

**国文学専攻**

---

---

**国文学特殊研究Ⅰ（春学期）**

教授 藤原 茂樹

**授業科目の内容：**

歌謡と信仰の研究



---

**国文学特殊研究Ⅱ（秋学期）**

---

教授 藤原茂樹

**授業科目の内容：**

歌謡と信仰の研究

---

**国文学特殊研究Ⅲ（春学期）**

---

休講

---

**国文学特殊研究Ⅳ（秋学期）**

---

休講

---

**国文学特殊研究Ⅴ（春学期）**

---

教授 岩松研吉郎

**授業科目の内容：**

院政期の寺社巡礼記、寺社縁起もしくは説話・物語とその関連資料をよみながら、中世文芸の基盤を検討する。研究史・研究方法に留意しつつ、履修者各自の研究主題の発表・討論を随時まじえつつすすめる。

春・秋学期継続履修のこと。

---

**国文学特殊研究Ⅵ（秋学期）**

---

教授 岩松研吉郎

**授業科目の内容：**

院政期の寺社巡礼記、寺社縁起もしくは説話・物語とその関連資料をよみながら、中世文芸の基盤を検討する。研究史・研究方法に留意しつつ、履修者各自の研究主題の発表・討論を随時まじえつつすすめる。

春・秋学期継続履修のこと。

---

**国文学特殊研究Ⅶ（春学期）**

---

休講

---

**国文学特殊研究Ⅷ（秋学期）**

---

休講

---

**国文学特殊研究Ⅸ（春学期）**

---

統一テーマに基づく論文の相互批判

教授 松村友視

**授業科目の内容：**

年間の共通テーマにもとづく論文発表の形式で進める。テーマおよび具体的手順については履修者との合議によって決定する。

---

**国文学特殊研究Ⅹ（秋学期）**

---

統一テーマに基づく論文の相互批判

教授 松村友視

**授業科目の内容：**

年間の共通テーマにもとづく論文発表の形式で進める。

テーマおよび具体的手順については履修者との合議によって決定する。

---

**国語学特殊研究Ⅰ（春学期）**

---

参考文献・辞書・事典活用法

名誉教授 関場 武

**授業科目の内容：**

日本の中世・近世文芸を読むための参考文献類、辞書・事典類の活用法を考える。

---

**国語学特殊研究Ⅱ（秋学期）**

---

参考文献・注釈辞典の諸相

名誉教授 関場 武

**授業科目の内容：**

日本の古典文芸作品を読み解くための参考文献・注釈書を取り上げ、その内容・諸本等につき考察する。その際、書誌学的研究方法、情報整理の仕方についても触れ、受講生諸君の学位論文作成について助言を与える。

---

**中日比較文学特殊研究Ⅰ（春学期）**

---

講師 胡 志 昂

**授業科目の内容：**

日本漢詩文は近江朝（六六二～六七一）に勃興し、その後紆余曲折を経ながらも、天平勝宝三年（七五三）に現存最初の漢詩文集『懷風藻』が成立する。時は恰も初唐の高宗から盛唐の玄宗の世に当たる。これは日本が東アジアと共有する漢字文化圏で交流が極めて盛んな時代の結晶であり、万葉集の歌に刺激を与えたのみならず、東アジアの漢詩文学に豊穡さを増す貴重な遺産でもある。この授業は同時代の唐詩との比較を加えつつ、『懷風藻』の詩文を精読していく。

---

**中日比較文学特殊研究Ⅱ（秋学期）**

---

講師 胡 志 昂

**授業科目の内容：**

「中日比較文学特殊研究Ⅰ」と同じ。

---

**中国文学専攻**

---

---

**中国文学特殊研究Ⅰ（春学期）**

---

中国30年代都市のメディアと文学

教授 関根 謙

**授業科目の内容：**

20年代後期から30年代の都市を風靡した文学雑誌を読んでいく。今期は昨年にひきつづき、「新月」を読み進める。

---

### 中国文学特殊研究Ⅱ（秋学期）

中国 30 年代都市のメディアと文学

教授 関根 謙

#### 授業科目の内容：

「中国文学特殊研究Ⅰ」と同じ。

---

### 中国文学特殊研究Ⅲ（春学期）

教授 渋谷 誉一郎

#### 授業科目の内容：

修士課程の「中国文学研究Ⅴ」と同じ。

---

### 中国文学特殊研究Ⅳ（秋学期）

教授 渋谷 誉一郎

#### 授業科目の内容：

修士課程の「中国文学研究Ⅵ」と同じ。

---

### 中国文学特殊研究Ⅴ（春学期）

講師 門脇 廣文

#### 授業科目の内容：

修士課程の「中国文学研究Ⅸ」と同じ。

---

### 中国文学特殊研究Ⅵ（秋学期）

講師 門脇 廣文

#### 授業科目の内容：

修士課程の「中国文学研究Ⅹ」と同じ。

---

### 中国文学特殊研究Ⅶ（春学期）

李漁研究

名誉教授 岡 晴 夫

#### 授業科目の内容：

李漁の作品（戯曲・小説・随筆・尺牘等）の中から適宜選んで講読する。何を取りあげるかについては、受講生と相談のうえ決める。

---

### 中国文学特殊研究Ⅷ（秋学期）

李漁研究

名誉教授 岡 晴 夫

#### 授業科目の内容：

「中国文学特殊研究Ⅶ」と同じ。

---

### 中国語学特殊研究Ⅰ（春学期）

教授 山下 輝彦

#### 授業科目の内容：

中国語研究で重要と思われる文献を読み、それについてディスカッションをする。中国語で研究発表をする力を身につけるために議論はすべて中国語で行う。

---

### 中国語学特殊研究Ⅱ（秋学期）

教授 山下 輝彦

#### 授業科目の内容：

「中国語学特殊研究Ⅰ」と同じ。

---

### 中日比較文学特殊研究Ⅰ（春学期）

講師 胡 志 昂

#### 授業科目の内容：

日本漢詩文は近江朝（六六二～六七一）に勃興し、その後紆余曲折を経ながらも、天平勝宝三年（七五三）に現存最初の漢詩文集『懷風藻』が成立する。時は恰も初唐の高宗から盛唐の玄宗の世に当たる。これは日本が東アジアと共有する漢字文化圏で交流が極めて盛んな時代の結晶であり、万葉集の歌に刺激を与えたのみならず、東アジアの漢詩文学に豊穡さを増す貴重な遺産でもある。この授業は同時代の唐詩との比較を加えつつ、『懷風藻』の詩文を精読していく。

---

### 中日比較文学特殊研究Ⅱ（秋学期）

講師 胡 志 昂

#### 授業科目の内容：

「中日比較文学特殊研究Ⅰ」と同じ。

## 英米文学専攻

---

### 中世英文学特殊研究Ⅰ（春学期）

教授 松田 隆 美

#### 授業科目の内容：

中世研究の様々な方法論を示唆する近年の文献を読んで、批判的に検討する。

---

### 中世英文学特殊研究Ⅱ（秋学期）

教授 松田 隆 美

#### 授業科目の内容：

中世研究の様々な方法論を示唆する近年の文献を読んで、批判的に検討する。

---

### 中世英文学特殊研究演習Ⅰ（春学期）

教授 高宮 利 行

#### 授業科目の内容：

中世後期からルネサンスにかけてのイギリスの書物史の諸相を扱う演習。前年度からの続き。

---

**中世英文学特殊研究演習Ⅱ（秋学期）**

---

教授 高宮 利行

**授業科目の内容：**

「中世英文学特殊研究演習Ⅰ」と同じ。

---

**近代英文学特殊研究Ⅰ（春学期）**

---

商学部 教授 英 知 明

**授業科目の内容：**

写本時代の中世からシェイクスピアが活躍したエリザベス朝にかけての最新の書誌学研究について、論文及び研究書を輪読して考察を深める。また学会における優れた研究発表のための研鑽の場と位置づけ、リサーチの質の向上とプレゼンテーション能力の養成も行う。

---

**近代英文学特殊研究Ⅱ（秋学期）**

---

商学部 教授 英 知 明

**授業科目の内容：**

「近代英文学特殊研究Ⅰ」の内容を継続して行う。

---

**近代英文学特殊研究演習Ⅰ（春学期）**

---

*Sir Gawain and the Green Knight* 講読

教授 高宮 利行

**授業科目の内容：**

Tolkien も *The Lord of the Rings* の執筆に影響を受けたアーサー王ロマンスの傑作を4年かけて講読します。本年度は第4部分を読みます。

---

**近代英文学特殊研究演習Ⅱ（秋学期）**

---

*Sir Gawain and the Green Knight* 講読

教授 高宮 利行

**授業科目の内容：**

「近代英文学特殊研究演習Ⅰ」と同じ。

---

**現代英文学特殊研究Ⅰ（春学期）**

---

都市と文学

教授 河内 恵子

**授業科目の内容：**

都市は文学にいかなる影響を与えてきたのか。文学は都市をどのように描いてきたのか。Ackroyd のテキストを出発点に、都市と文学の相互作用について考えてみたい。

---

**現代英文学特殊研究Ⅱ（秋学期）**

---

都市と文学

教授 河内 恵子

**授業科目の内容：**

「現代英文学特殊研究Ⅰ」を参照

---

**現代英文学特殊研究演習Ⅰ（春学期）**

---

教授 高宮 利行

教授 松田 隆美

教授 河内 恵子

**授業科目の内容：**

学会発表に関する情報検索の discipline を身につけさせる演習。

---

**現代英文学特殊研究演習Ⅱ（秋学期）**

---

教授 高宮 利行

教授 松田 隆美

教授 河内 恵子

**授業科目の内容：**

「現代英文学特殊研究演習Ⅰ」と同じ。

---

**米文学特殊研究Ⅰ（春学期）**

---

教授 巽 孝之

**授業科目の内容：**

博士号請求論文執筆中の者を中心に、論文作成法を徹底指導する。その結果出来上がる論文は、あらゆる意味で模範的でなくてはならない。仮に模範を根底から転覆する方法論を採るものであっても、それは例外ではない。博士1年には年間50冊程度の代表的批評書・研究書を課し、年間2本の英文レポート(2,000～2,500語程度)提出を要求する。博士2年には全国規模の学会での発表に向けた計画を立てさせる。最終的には、博士3年の段階にて、レフェリー制度を持つ内外の代表的学術誌の審査をゆうに通過する高水準の論文が輩出することを望む。学位論文をいかに一冊の研究書にまとめあげ出版するか、その際の具体的な編集技術についても、根本的に再検討する。

---

**米文学特殊研究Ⅱ（秋学期）**

---

教授 巽 孝之

**授業科目の内容：**

博士号請求論文執筆中の者を中心に、論文作成法を徹底指導する。その結果出来上がる論文は、あらゆる意味で模範的でなくてはならない。仮に模範を根底から転覆する方法論を採るものであっても、それは例外ではない。博士1年には年間50冊程度の代表的批評書・研究書を課し、年間2本の英文レポート(2,000～2,500語程度)提出を要求する。博士2年には全国規模の学会での発表に向けた計画を立てさせる。最終的には、博士3年の段階にて、レフェリー制度を持つ内外の代表的学術誌の審査をゆうに通過する高水準の論文が輩出することを望む。学位論文をいかに一冊の研究書にまとめあげ出版するか、その際の具体的な編集技術についても、根本的に再検討する。

---

### 米文学特殊研究演習Ⅰ（春学期）

---

教授 巽 孝之

#### 授業科目の内容：

文学研究と文化研究の交差する地点を扱った古典的著作に親しむ。テキストは追って指示する。

---

### 米文学特殊研究演習Ⅱ（秋学期）

---

教授 巽 孝之

#### 授業科目の内容：

文学研究と文化研究の交差する地点を扱った古典的著作に親しむ。テキストは追って指示する。

---

### 英語学特殊研究Ⅰ（春学期）

---

教授 唐 須 教 光

#### 授業科目の内容：

言語人類学を扱います。

---

### 英語学特殊研究Ⅱ（秋学期）

---

教授 唐 須 教 光

#### 授業科目の内容：

言語人類学を扱う。

---

### 英語学特殊研究演習Ⅰ（春学期）

---

Beowulf

教授 スカヒル、ジョン・デミエン

#### 授業科目の内容：

This course will combine close reading of part of *Beowulf* with a study of the poem as a whole, paying particular attention to metre, paleography and Germanic legend.

---

### 英語学特殊研究演習Ⅱ（秋学期）

---

Beowulf

教授 スカヒル、ジョン・デミエン

#### 授業科目の内容：

This course will combine close reading of part of *Beowulf* with a study of the poem as a whole, paying particular attention to metre, paleography and Germanic legend.

## 独 学 専 攻

---

### ドイツ文学特殊研究Ⅰ（春学期）

---

ゲーテ時代研究XVIII

名誉教授 柴 田 陽 弘

#### 授業科目の内容：

「ゲーテを読む」

- 1 ゲーテ時代の精神

- 2 ゲーテとロマン派

- 3 ゲーテとアレキサンダー・フォン・フンボルト

- 4 ゲーテとヘルダー

- 5 ゲーテ自然学と文学 etc.

---

### ドイツ文学特殊研究Ⅱ（秋学期）

---

ゲーテ時代研究XVIII

名誉教授 柴 田 陽 弘

#### 授業科目の内容：

「ゲーテを読む」

- 1 ゲーテ時代の精神

- 2 ゲーテとロマン派

- 3 ゲーテとアレキサンダー・フォン・フンボルト

- 4 ゲーテとヘルダー

- 5 ゲーテ自然学と文学 etc.

---

### ドイツ文学特殊研究Ⅲ（春学期）

---

休 講

---

### ドイツ文学特殊研究Ⅳ（秋学期）

---

休 講

---

### ドイツ文学特殊研究Ⅴ（春学期）

---

中世キリスト教文化の諸相

教授 香 田 芳 樹

#### 授業科目の内容：

近代ヨーロッパ人の精神性の出発点となったルネサンス、宗教改革、人文主義といった運動はすべて中世に対する反逆と位置づけることができます。しかし中世はこれらによって否定されてしまったのでは決してありません。ルネサンス以降もヨーロッパは、中世という逃れがたい強い桎梏に対し不断に自己主張を繰り返しながら発展してきました。その意味で中世は、ヨーロッパの精神史を学ぶ上で避けて通ることのできない問題を提起している時代だといえます。この演習では特に中世後期のキリスト教思想に焦点を当てて、その現代的意義を問い直したいと思います。修道院文化、異端問題、神秘思想、教会改革運動、終末論についての文学的ドキュメントや論文を読むことで、12－14世紀のキリスト教の抱えた問題点を明らかにし、その現代に対するアクチュアリティを考えたいと思います。

---

### ドイツ文学特殊研究Ⅵ（秋学期）

---

中世キリスト教文化の諸相

教授 香 田 芳 樹

#### 授業科目の内容：

内容は「ドイツ文学特殊研究Ⅴ」を参照。

---

### ドイツ文学特殊演習 I (春学期)

Ästhetik des Zuschauers

教授 フュルンケース, ヨーゼフ

#### 授業科目の内容 :

Der Ästhetik des Zuschauers bleibt in der heutigen Medienkultur, so scheint es, eine kulturpolitische Zerreiprobe nicht erspart: einerseits die audiovisuelle Medien-(An-)Ästhetik und die Bilderfluten von massenhaftem Infotainment und Kommerz, andererseits die ästhetische Distanz von Wahrnehmungsexperten, die sich und den anderen beim Zuschauen noch zuschauen. „Schiffbruch mit Zuschauer“ – Blumenbergs Ausführungen zu dieser paradigmatischen „Daseinsmetapher“ erlauben indes, so scheint mir, einen medienanthropologischen Brückenschlag. Ausgehend von einer epikuräischen Lukrez- Passage („De rerum natura II“) stellt Blumenberg das Glück der ästhetischen Distanz durch ihre Entlastungsleistung von diversen Unheilerwartungen und Schmerzdrohungen heraus. Diese Entlastungsfunktion ermöglicht dem Zuschauer, dem schrecklichen „Schiffbruch“ vom sicheren Ufer aus zuzuschauen, dabei zwar nicht den Untergang der anderen Unglücklichen, doch aber die eigene Distanz dazu – zu genießen. „Wer mehr sieht, trägt mehr Last.“ Ästhetik und Moral des Zuschauers kommen letztlich zwar nicht im Mitleid, wohl aber in der (Selbst-)Sorge überein: Nicht nur Medien-(An-)Ästhetik und Anästhesie, vielmehr alle (Experten-)Vorsorge, alle Risiko-Kalkulationen eines florierenden Versicherungswesens zielen auf den Gewinn von entlastender Distanz ab, bezeichnen damit zugleich – fatale? – Strategien der Schmerzvermeidung.

Von Blumenbergs „Daseinsmetapher“ ausgehend soll im Seminar versucht werden, eine medienanthropologische „Ästhetik des Zuschauers“ zu skizzieren.

---

### ドイツ文学特殊演習 II (秋学期)

Ästhetik des Zuschauers

教授 フュルンケース, ヨーゼフ

#### 授業科目の内容 :

Der Ästhetik des Zuschauers bleibt in der heutigen Medienkultur, so scheint es, eine kulturpolitische Zerreiprobe nicht erspart: einerseits die audiovisuelle Medien-(An-)Ästhetik und die Bilderfluten von massenhaftem Infotainment und Kommerz, andererseits die ästhetische Distanz von Wahrnehmungsexperten, die sich und den anderen beim Zuschauen noch zuschauen. „Schiffbruch mit Zuschauer“ – Blumenbergs Ausführungen zu dieser paradigmatischen „Daseinsmetapher“ erlauben indes, so scheint mir, einen medienanthropologischen Brückenschlag. Ausgehend von einer epikuräischen Lukrez- Passage („De rerum natura II“)

stellt Blumenberg das Glück der ästhetischen Distanz durch ihre Entlastungsleistung von diversen Unheilerwartungen und Schmerzdrohungen heraus. Diese Entlastungsfunktion ermöglicht dem Zuschauer, dem schrecklichen „Schiffbruch“ vom sicheren Ufer aus zuzuschauen, dabei zwar nicht den Untergang der anderen Unglücklichen, doch aber die eigene Distanz dazu – zu genießen. „Wer mehr sieht, trägt mehr Last.“ Ästhetik und Moral des Zuschauers kommen letztlich zwar nicht im Mitleid, wohl aber in der (Selbst-)Sorge überein: Nicht nur Medien-(An-)Ästhetik und Anästhesie, vielmehr alle (Experten-)Vorsorge, alle Risiko-Kalkulationen eines florierenden Versicherungswesens zielen auf den Gewinn von entlastender Distanz ab, bezeichnen damit zugleich – fatale? – Strategien der Schmerzvermeidung.

Von Blumenbergs „Daseinsmetapher“ ausgehend soll im Seminar versucht werden, eine medienanthropologische „Ästhetik des Zuschauers“ zu skizzieren.

---

### ドイツ文学特殊演習 III (春学期)

18 世紀ドイツ思想研究

講師 渡邊直樹

#### 授業科目の内容 :

Gotthold Ephraim Lessing の Die Erziehung des Menschengeschlechts を読みつつ, 啓蒙主義時代の宗教に関する理念を考察します。

---

### ドイツ文学特殊講習 IV (秋学期)

18 世紀ドイツ思想研究

講師 渡邊直樹

#### 授業科目の内容 :

G.E.Lessing : Die Erziehung des Menschengeschlechts に関して次の研究文献を随時参照しつつ考察します。

John H. Smith : Lessings didaktisch-dialektisches Testament für uns, »die wir itzt leben«; oder : How »Erziehung« Makes a Difference.

Horst Turk : *Erziehung des Menschengeschlechts* – Verzögerung oder Beschleunigung?

Arno Schilson : Denken als Dialog und »produktive Rezeption« –Über die Lektüre von Lessings *Erziehung des Menschengeschlechts*–

---

### ドイツ文学特殊演習 V (春学期)

Paul Celan 研究

教授 大宮勸一郎

#### 授業科目の内容 :

詩人パウル・ツェランは難解という評判と, 特定の歴史的出来事の表現者という先入見とに埋もれている。どちらも間違った見方ではないが, むろんそれで全てが片

付くわけではない。いずれにしてもツェランを読む場合大事なのは、一語一語、あるいは一音一音、さらには一文字一文字読んでゆく、という基礎的作業であろう。この授業はその練習である。

#### ドイツ文学特殊演習Ⅵ（秋学期）

Paul Celan 研究

教授 大宮 勘一郎

授業科目の内容：

「ドイツ文学特殊演習Ⅴ」の続きです。

詩人パウル・ツェランは難解という評判と、特定の歴史的出来事の表現者という先入見とに埋もれている。どちらも間違った見方ではないが、むしろそれで全てが片付くわけではない。いずれにしてもツェランを読む場合大事なのは、一語一語、あるいは一音一音、さらには一文字一文字読んでゆく、という基礎的作業であろう。この授業はその練習である。

#### ドイツ語学特殊研究Ⅰ（春学期）

教授 中山 豊

授業科目の内容：

ドイツ語学における最近の研究論文を講読し、参加者には各テーマについての Referat を行ってもらいます。

#### ドイツ語学特殊研究Ⅱ（秋学期）

教授 中山 豊

授業科目の内容：

ドイツ語学における最近の研究論文を講読し、参加者には各テーマについての Referat を行ってもらいます。

## 仏文学専攻

#### 中世仏文学特殊研究Ⅰ（春学期）

文献解読、学会発表・博士論文などの準備

教授 川口 順二

授業科目の内容：

受講者と相談して決めます。

#### 中世仏文学特殊研究Ⅱ（秋学期）

文献解読、学会発表・博士論文などの準備

教授 川口 順二

授業科目の内容：

受講者と相談して決めます。

#### 近代仏文学特殊研究Ⅰ（春学期）

教授 小倉 孝誠

授業科目の内容：

取りあげるテーマとテキストは、受講生と相談のうえ決定します。

#### 近代仏文学特殊研究Ⅱ（秋学期）

教授 小倉 孝誠

授業科目の内容：

取りあげるテーマとテキストは、受講生と相談のうえ決定します。

#### 近代仏文学特殊研究演習Ⅰ（春学期）

『百科全書』研究

名誉教授 鷲見 洋一

授業科目の内容：

近年充実のめざましい『百科全書』研究の流れに倣って、基本文献を丁寧に読破することを目的とする。春学期は Marie Leca-Tsiomis, *Ecrire l'Encyclopédie* を取り上げる。

#### 近代仏文学特殊研究演習Ⅱ（秋学期）

『百科全書』研究

名誉教授 鷲見 洋一

授業科目の内容：

近年充実のめざましい『百科全書』研究の流れに倣って、基本文献を丁寧に読破することを目的とする。春学期に続いて、Marie Leca-Tsiomis, *Ecrire l'Encyclopédie* を取り上げる。

#### 現代仏文学特殊研究Ⅰ（春学期）

休講

#### 現代仏文学特殊研究Ⅱ（秋学期）

休講

#### 現代仏文学特殊研究演習Ⅰ（春学期）

ブルーストとマラルメ

教授 牛場 暁夫

授業科目の内容：

「ブルーストとマラルメ」

論叢集「Marcel Proust 5」（レットル・モデルヌ ミナール社）に2006年に掲載された上記の仏語論文の執筆までの過程について語ります。

いかに発想が得られたか、先行研究に敬意を払いつつどうそれを引用したか、テキストや書簡や草稿や他の研究をどう扱ったか、時代背景をどう考慮したか、またレフェリー付の学術雑誌で論文がどう評価されたか、など

について話します。

---

### 現代仏文学特殊研究演習Ⅱ（秋学期）

ブルーストとマラルメ

教授 牛場 暁夫

#### 授業科目の内容：

春学期の延長で同様のことを行ないます。

---

### 仏語学特殊研究Ⅰ（春学期）

Cours de dissertation française

訪問准教授（招聘） ブランクール、ヴァンサン

#### 授業科目の内容：

Ce cours sera consacré à la pratique de la dissertation littéraire. Au long du trimestre, les étudiants se verront proposer plusieurs sujets de dissertation qui seront préparés en classe en commun à travers la lecture de textes relatifs au sujet tirés de la littérature française ainsi que d'extraits de la littérature critique. Les sujets proposés seront pour la plupart tirés des annales du Concours des Bourses du Gouvernement Français.

Ce cours doit être considéré comme une opportunité offerte aux étudiants de rédiger en langue française sur des questions de littérature générale. Les aspects techniques de l'exercice spécifique que constitue la dissertation feront l'objet d'une attention particulière.

---

### 仏語学特殊研究Ⅱ（秋学期）

Cours de dissertation française

訪問准教授（招聘） ブランクール、ヴァンサン

#### 授業科目の内容：

Ce cours sera consacré à la pratique de la dissertation littéraire. Au long du trimestre, les étudiants se verront proposer plusieurs sujets de dissertation qui seront préparés en classe en commun à travers la lecture de textes relatifs au sujet tirés de la littérature française ainsi que d'extraits de la littérature critique. Les sujets proposés seront pour la plupart tirés des annales du Concours des Bourses du Gouvernement Français.

Ce cours doit être considéré comme une opportunité offerte aux étudiants de rédiger en langue française sur des questions de littérature générale. Les aspects techniques de l'exercice spécifique que constitue la dissertation feront l'objet d'une attention particulière.

## 図書館・情報学専攻

---

### 情報学特殊研究Ⅰ（春学期）

学術コミュニケーションに関する研究指導

教授 倉田 敬子

#### 授業科目の内容：

学術コミュニケーションに関する博士論文指導を行う。

---

### 情報学特殊研究Ⅱ（秋学期）

学術コミュニケーションに関する研究指導

教授 倉田 敬子

#### 授業科目の内容：

学術コミュニケーションに関する博士論文指導を行う。

---

### 情報学特殊研究Ⅲ（春学期）

抄読会

教授 糸賀 雅児

#### 授業科目の内容：

参加者がそれぞれの研究関心にもとづいて図書館・情報学分野の最新の学術論文一点を選び、論文の要旨を紹介し、論評を加えます。その上で、各発表に対して参加者全員で討議します。毎回3人程度の発表を予定しています。

---

### 情報学特殊研究Ⅳ（秋学期）

抄読会

教授 糸賀 雅児

#### 授業科目の内容：

参加者がそれぞれの研究関心にもとづいて図書館・情報学分野の最新の学術論文一点を選び、論文の要旨を紹介し、論評を加えます。その上で、各発表に対して参加者全員で討議します。毎回3人程度の発表を予定しています。

---

### 情報学特殊研究Ⅴ（春学期）

教授 田村 俊作

#### 授業科目の内容：

図書館情報サービスに関する諸問題の検討と、論文作成の指導を行う。なお、本科目は「情報資源管理特殊講義演習ⅠB」との併設である。

---

### 情報学特殊研究Ⅵ（秋学期）

教授 田村 俊作

#### 授業科目の内容：

「情報学特殊研究Ⅴ」に引き続き、図書館情報サービス

に関する諸問題の検討と、論文作成の指導を行う。なお、本科目は「情報資源管理特殊講義演習ⅡB」との併設である。

---

#### 情報学特殊研究Ⅶ（春学期）

抄読会

教授 倉田敬子

#### 授業科目の内容：

毎回3人程度の受講生に図書館情報学分野の最新の論文に関して読んできたものを発表してもらい、出席者全員で討論を行う。なお、本科目は「情報資源管理特殊講義演習Ⅲ」との併設である。

---

#### 情報学特殊研究Ⅷ（秋学期）

抄読会

教授 倉田敬子

#### 授業科目の内容：

毎回3人程度の受講生に図書館情報学分野の最新の論文に関して読んできたものを発表してもらい、出席者全員で討論を行う。なお、本科目は「情報資源管理特殊講義演習Ⅳ」との併設である。

---

#### 情報メディア特殊研究Ⅰ（春学期）

教授 上田修一

#### 授業科目の内容：

図書館・情報学をテーマとする学位論文のための研究指導を行います。

---

#### 情報メディア特殊研究Ⅱ（秋学期）

教授 上田修一

#### 授業科目の内容：

図書館・情報学をテーマとする学位論文のための研究指導を行います。

---

#### 情報メディア特殊研究Ⅲ（春学期）

教授 田村俊作

#### 授業科目の内容：

図書館情報サービスに関連する諸問題の検討と、論文作成の指導を行う。

---

#### 情報メディア特殊研究Ⅳ（秋学期）

教授 田村俊作

#### 授業科目の内容：

「情報メディア特殊研究Ⅲ」に引き続き、図書館情報サービスに関連する諸問題の検討と、論文作成の指導を行う。

---

#### 情報メディア特殊研究Ⅴ（春学期）

学術コミュニケーションに関する研究指導

教授 倉田敬子

#### 授業科目の内容：

学術コミュニケーションに関する博士論文指導を行う。

---

#### 情報メディア特殊研究Ⅵ（秋学期）

学術コミュニケーションに関する研究指導

教授 倉田敬子

#### 授業科目の内容：

学術コミュニケーションに関する博士論文指導を行う。

---

#### 情報検索特殊研究Ⅰ（春学期）

名誉教授 細野公男

#### 授業科目の内容：

情報検索および資料デジタル化の発展に大きな影響を及ぼすと思われる理論や情報環境を取り上げます。

---

#### 情報検索特殊研究Ⅱ（秋学期）

名誉教授 細野公男

#### 授業科目の内容：

「情報検索特殊研究Ⅰ」と同様です。

---

#### 情報検索特殊研究Ⅲ（春学期）

休講

---

#### 情報検索特殊研究Ⅳ（秋学期）

教授 田村俊作

#### 授業科目の内容：

三田メディアセンターとの連携の下に、図書館の経営・サービスに関する特定の問題を、実習を交え実際に即して研究するインターシップ科目である。

---

#### 情報検索特殊研究Ⅴ（春学期）

教授 上田修一

#### 授業科目の内容：

図書館・情報学をテーマとする学位論文のための研究指導を行います。

この科目は、「情報資源管理特殊講義演習ⅠA」との併設です。

---

#### 情報検索特殊研究Ⅵ（秋学期）

教授 上田修一

#### 授業科目の内容：

図書館・情報学をテーマとする学位論文のための研究指導を行います。

この科目は、「情報資源管理特殊講義演習ⅡA」との併設です。



---

情報システム特殊研究Ⅰ（春学期）

アーカイヴズ学と図書館・情報学の比較研究

名誉教授 高山正也

授業科目の内容：

アーカイヴズ論，特に記録連続特論の形式過程をたどり，その理論的特質や公文書館運営上の問題点と図書館・情報学における類縁事項との関係を中心に研究する。

---

情報システム特殊研究Ⅱ（秋学期）

アーカイヴズ学と図書館・情報学の比較研究

名誉教授 高山正也

授業科目の内容：

日本におけるアーカイヴ，公文書館と図書館の実態を把握し，その将来計画と問題点を究明する。

---

情報システム特殊研究Ⅲ（春学期）

教授 糸賀雅児

授業科目の内容：

博士論文の執筆に向けて，テーマの選択，研究の進め方，論文執筆の技術的な助言などを，逐次行っていきます。

---

情報システム特殊研究Ⅳ（秋学期）

教授 糸賀雅児

授業科目の内容：

博士論文の執筆に向けて，テーマの選択，研究の進め方，論文執筆の技術的な助言などを，逐次行っていきます。

---

情報システム特殊研究Ⅴ（春学期）

博士論文の研究指導

教授 糸賀雅児

授業科目の内容：

博士論文の執筆に向けて，テーマの選択，研究の進め方，論文執筆の技術的な助言などを，逐次行っていきます。

---

情報システム特殊研究Ⅵ（秋学期）

博士論文の研究指導

教授 糸賀雅児

授業科目の内容：

博士論文の執筆に向けて，テーマの選択，研究の進め方，論文執筆の技術的な助言などを，逐次行っていきます。

## 慶應義塾大学国際センター 在外研修プログラム

全学部および研究科に在籍している学生を対象に、夏季および春季休業中に海外で在外研修プログラムを開講しています。

これは、外国語による講義およびディスカッションのほか、大学内の寮生活などを初めとする多彩な諸活動を通して、さまざまな異文化交流を体験することで、国際性豊かな学生を育成することを目的としています。

短期間に質の高い充実した内容が盛り込まれていますので、海外生活体験をしたい方、外国語によるコミュニケーション能力向上を期待する方、将来長期の留学を考えている方などにとって、ふさわしい講座といえるでしょう。

ここに記載のあるもののほか、韓国の名門大学で英語により韓国の政治・経済・社会・文化を学ぶ「延世大学春季講座」も新たに開講しました。形態は原則として、往復とも大学手配の航空便による団体旅行形式で、本学の教職員が同行する講座もあります。

また、現地への出発前には事前研修を実施します。(事後研修を実施する場合があります。)

なお、プログラムは、自然災害、戦争、航空機等交通機関にかかわる事故並びに前記以外の人為的、不慮不可抗力による事故などのために中止する可能性があることをあらかじめご了承ください。

問合せ先 三田国際センター

URL: <http://www.ic.keio.ac.jp/index.html> 「海外に関心のある塾生へ」の「短期プログラム」

詳細や変更は、随時ホームページ等で発表します。

夏季講座ガイダンス	4月4日(水) 矢上 11-41 教室	12:00~13:00	4月5日(木) 三田 526 教室	10:45~12:15
	4月4日(水) 藤沢 Ω11 教室	16:10~17:40	4月5日(木) 日吉 J29 教室	17:00~18:30

夏夏季講座オンラインレジストレーション期限: 4月10日(火) 予定

夏季講座募集期間: 4月11日(水), 12日(木) 一次合格発表: 4月19日(木) (予定)

面接審査: 4月21日(土) (予定)

夏季講座選考結果発表: 4月27日(金) (予定)

### ① 慶應義塾大学 — ケンブリッジ大学ダウニングコレッジ夏季講座

ケンブリッジ大学は、オックスフォード大学と並ぶ英国の名門校で、美しいキャンパスは勉学に最適な環境にあります。

授業は英語による講義、ケンブリッジ大学在籍生を交えてのディスカッション、エッセイの作成・提出を中心としており、ケンブリッジ大学の教員が指導にあたります。

[現地研修期間] 2007年8月6日(月)~9月5日(水) (予定) 5月~7月に事前研修を2回程度行います。

[研修内容] 講義(午前)、ケンブリッジ大生(TA: Teaching Assistant)を交えてのディスカッション(午後)。エッセイ作成・提出(週末)。

[開講予定科目] ※6科目の中から3科目を選択して履修。

English Literature, British Art, Ancient Greece and Western Civilization, Astronomy: Unveiling the Universe, The Science of Chaos, Evolution and Behavior (Zoology).

[単位数]

4単位 ※本講座の科目は、卒業に必要な単位として認められることがあります。その扱いは各学部・研究科によって異なりますので各自確認をしてください。

[募集人数] 60名

### ② 慶應義塾大学 — ウィリアム・アンド・メアリー大学夏季講座

ウィリアム・アンド・メアリー大学は、米国東海岸ヴァージニア州ウィリアムズバーグにあり、教育・研究で高い評価を得ている州立大学です。創立は1693年で、アメリカではハーバード大学について古い歴史を誇っています。

本講座は、毎年定められるテーマに沿った英語による講義、グループワーク、フィールドワーク、プレゼンテーション等で構成されています。

また、大学内での寮生活や、講演会、ワシントンDC近郊の家庭でのホームステイ等を通じ、さまざまな異文化交流を体験することができます。

[現地研修期間] 2007年7月27日(金)~8月14日(火) 4月下旬より事前研修(6回程度)、帰国後には事後研修(1回)を行います。

[研修内容]

ウィリアム・アンド・メアリー大学の教員による講義および質疑応答、ダイアログクラス、ウィリアム・アンド・メアリー大生をまじえてのグループワーク、フィールドワーク、プレゼンテーション、ワシントンDC近郊の家庭でのホームステイなど。

[単位数]

4単位 ※本講座の科目は、卒業に必要な単位として認められることがあります。その扱いは各学部・研究科によって異なりますので各自確認をしてください。

[募集人数] 40名

### ③ 慶應義塾大学 — ワシントン大学夏季講座

ワシントン大学はアメリカ北西部ワシントン州シアトルにある 1861 年に創立した歴史のある学校で、ワシントン州最大の大学です。豊かな自然に恵まれたキャンパスはとてんで大きく美しく、緑が多い環境の中で落ち着いて学業に専念することができます。

「環境」を多面的な視点から学ぶ講義・ワークショップとディスカッションのほか、フィールドトリップ、ワシントン大学の学外施設を利用した実地自然体験宿泊旅行などをバランスよく配置しています。

〔現地研修期間〕2007 年 8 月 22 日(水)～9 月 13 日(木) 5 月～7 月に事前研修を 2 回程度行います。

〔研修内容〕講義／ワークショップ、ディスカッション、フィールドワーク、プレゼンテーション

体験宿泊旅行：レーニア山、エコロジーウォーク(森林学)、フライデー・ハーバー・ラボ(海洋学)

〔単位数〕4 単位 ※本講座の科目は、卒業に必要な単位として認められることがあります。その扱いは各学部・研究科によって異なりますので各自確認をしてください。

〔募集人数〕30 名

### ④ 慶應義塾大学 — 西安交通大学中国語・中国文化夏季講座(学部生対象)

西安交通大学は、工学、医学のみならず文学、法学まで 9 つの学科を擁する国家教育部直属の総合重点大学で 2006 年に創立 110 周年を迎えました。国際交流も幅広く行っており、中国で最も早く留学生を受け入れ始めた大学の 1 つです。

〔現地研修期間〕2007 年 8 月 30 日(木)～9 月 17 日(月)(予定)

〔研修内容〕中国語授業、中国文化講義、太極拳などのアクティビティ、中国の大学生との交流活動、西安市の名所旧跡の見学

〔単位数〕2 単位(予定) ※本講座の科目は、卒業に必要な単位として認められることがあります。その扱いは各学部によって異なりますので各自確認をしてください。

〔募集人数〕15 名(学部生対象)

### ⑤ 慶應義塾大学 — パリ政治学院春季講座

パリ政治学院は、フランスのエリート養成機関『グランゼコール』の 1 つで、フランス現大統領のシラク氏をはじめ、歴代の政界・財界の著名人の母校として大変有名です。

本講座は、加盟国の増大により拡大する EU の政治・社会・財政・文化の問題のみならず、EU 対アジアや EU 対米国の関係など、様々なテーマを取り扱う非常に中身の濃いプログラムになっています。

プログラム期間中に、各自が決めた研究テーマに沿ってエッセイを書き、プログラム修了時には、パリ政治学院からディプロマが授与されます。また、最終週にはベルギーの首都ブリュッセルにある EU の諸機関を実際に訪問し、EU の組織に対する理解を深める機会が設けられています。

講義はすべて英語で行われますが、午後にはフランス語の授業もありますので、2 カ国語を同時にマスターできるのもこの講座の魅力となっています。

プログラムの詳細は、10 月ごろ国際センターホームページで発表します。

〔現地研修 2006 年度参考〕2007 年 2 月 16 日～2007 年 3 月 17 日

〔講義内容 2006 年度参考〕共通ブロックと、選択ブロックの中から 2 つの計 3 ブロックを履修。

共通ブロック

“Europe: what are we talking about?”

講義例)

“The History of Europe: Once upon a time...”

“Contemporary history and institutions of Europe”

“The values of the Europeans”

“The European identities”

“The economies performances of European economies”

“European welfare states and the dynamics of generations”

“Democracy at the European level”

“National political parties in Europe: Do they have a European vision?”

選択ブロック

“Economics of the Euro area”

“Europe and its external relations”

“Migration and identities”

単位取得：4 単位(卒業に必要な単位として認められることがあります。ただし、次年度春学期設置科目として認定の為、参加時に最終学年の場合は対象外となります。)

定員：20 名

## 国際センター設置講座

国際研究講座ならびに日本研究講座受講希望者へ

国際センターでは、外国および日本の文化や社会、国際関係を理解するための英語による講座を開講しています。本年度国際研究講座で取り扱う国／地域は、アジア・オセアニア、北米・南米、ヨーロッパからアフリカにおよぶほか、国際社会、異文化理解をうながす講座もあります。一方日本研究講座では、社会、経済、ビジネス、政治をはじめ歴史、文学、芸術、思想・宗教など幅広い側面から日本を探求します。

海外からの外国人留学生と共に英語で学ぶ授業としてユニークなものであり、学問を通しての国際交流の場として日本人学生の積極的な参加を歓迎します。

なお、本講座の履修単位の取り扱いは各学部・研究科により異なりますので、所属する学部・研究科の履修案内に従ってください。

1. 対象 大学学部生、大学院生、ならびに別科生（原則として新入生を除く）
2. 単位 各科目2単位  
（なお、医学部・医学研究科および法務研究科ではすべての授業科目が履修の対象となりません）

### 3. 手続方法

履修申告をしてください。国際センターに出向く必要はありません。

学部・大学院が設置主体の科目については、学部・大学院の登録番号を使用してください。

所属する学部・研究科で履修対象とならない場合は、三田、日吉の国際センターで相談してください。

4. 受講料 無料
5. 掲示 休講などの連絡事項は、三田の国際センター掲示板に掲示されます。

### 6. WEBSITE

この講義要綱には、各科目の概要（Course Description）しか掲載していません。「教科書」「参考書」「毎週の計画」「コメント」「成績評価方法」等については以下のWEBSITEを参照してください。

<http://www.ic.keio.ac.jp/iccourse/index.html>

2007年度 国際研究講座 (2007-2008 International Studies Courses)

Offered by:	Semester	Day	Slot	Course Title	Lecturer
地域研究(アジア・オセアニア) Area Study: Asia, Oceania					
法 F(Law)	春 Spring	月 Mon	3	現代東南アジア論特殊研究 I SPECIAL STUDY OF CONTEMPORARY SOUTH EAST ASIA 1	山本 信人 Yamamoto, Nobuto
	春 Spring	火 Tue	3	オーストラリアの歴史 STUDIES IN AUSTRALIAN HISTORY	デイ, デイヴィッド Day, David
	春 Spring	水 Wed	3	現代中国社会学 CONTEMPORARY CHINESE SOCIETY	ファーラー, グラシア Farrer, Gracia
	春 Spring	木 Thu	4	アジアの音楽 LISTENING TO ASIA	ホッフマン, T・M Hoffman, T.M.
法研 GS(Law)	春 Spring	水 wed	3	日韓関係の政治 (*) THE POLITICS OF KOREA-JAPAN RELATIONS (*)	リ, ジョンフン Lee Jung-Hoon
法研 GS(Law)	秋 Fall	月 Mon	4	国際政治論特殊研究 (*) SPECIAL COLLOQUIUM ON INTERNATIONAL RELATIONS (*)	山本 信人 Yamamoto, Nobuto
	秋 Fall	月 Mon	5	東南アジア世界の諸相 WORLD OF SOUTHEAST ASIA	野村 亨 Nomura, Toru
	秋 Fall	水 wed	5	開発と社会変容 DEVELOPMENT AND SOCIAL CHANGE	倉沢愛子 Kurasawa, Aiko
	秋 Fall	木 Thu	3	アジア諸国におけるビジネスマネジメント BUSINESS MANAGEMENT IN ASIAN COUNTRIES	トビン, ロバート I. Tobin, Robert I.
	秋 Fall	金 Fri	5	現代インド事情 INDIA TODAY	西村 祐子 Nishimura, Yuko
地域研究(北米・南米) Area Study: North America, South America					
	春 Spring	火 Tue	5	世界政治におけるラテンアメリカ LATIN AMERICA IN WORLD POLITICS	アントリネス, マリオ Antolinez, Mario
	春 Spring	金 Fri	4	アメリカ研究: アメリカの歴史・文化と外交政策 AMERICAN STUDIES	ウィリアムス, ムケーシュ Williams, Mukesh
法研 GS(Law)	春 Spring	火 Tue	4	アメリカの東アジア政策 (*) UNITED STATES FOREIGN POLICY TOWARD EAST ASIA (*)	ジャヌジ, フランク Jannuzi, Frank
	秋 Fall	火 Tue	5	カナダという国とカナダの国際的な役割 CANADA AND ITS INTERNATIONAL ROLE	イエローリーズ, ジェームズ Yellowlees, James
	秋 Fall	水 Wed	3	地域文化論(アメリカ) AREA STUDIES (THE UNITED STATES)	奥田 暁代 Okuda, Akiyo
地域研究(ヨーロッパ・ロシア) Area Study: Europe, Russia					
	春 Spring	金 Fri	3	ウクライナとロシア UKRAINE AND RUSSIA	ナコルチェフスキー, アンドリイ Nakorchevski, Andriy
	秋 Fall	木 Thu	5	ドイツ文化と社会 GERMAN CULTURE AND SOCIETY	ワニェク, ヤクリーン Waniek, Jacqueline
法研 GS(Law)	秋 Fall	木 Thu	5	プロジェクト科目II・欧州統合 (*) PROJECT 2: SEMINAR ON EUROPEAN INTEGRATION (*)	田中 俊郎 Tanaka, Toshiro 細谷 雄一 Hosoya, yuuichi
経済 F(Economics)	秋 Fall	木 Thu	5	EU-JAPAN ECONOMIC RELATIONS	林 秀毅 Hayashi, Hideki
地域研究(アフリカ) Area Study: Africa					
	春 Spring	金 Fri	4	アフリカン イシューズ: アフリカにおける近代と危機の意味 AFRICAN ISSUES: THE MEANING OF MODERNITY AND CRISES IN AFRICA	近藤 英俊 Kondo, Hidetoshi
	秋 Fall	火 Tue	4	グローバルヴィレッジ構築に向けて BUILDING THE GLOBAL VILLAGE	フリードマン, デビッド Freedman, David
国際社会 Global Community					
	春 Spring	火 Tue	4	国際協力の実態 THE ACTUAL WORLD OF INTERNATIONAL COOPERATION	バンバン, ルディアント Bambang, Rudyanto
	春 Spring	水 Wed	5	国際人権法 INTERNATIONAL HUMAN RIGHTS LAW	細谷 明子 Hosotani, Akiko
	春 Spring	木 Thu	3	ヘルスケア組織論 NGOS, NPOS AND CBOS	カストロ ヴァスケス, ヘナロ Castro-Vazquez, Genaro
	春 Spring	金 Fri	3	国際コミュニケーション INTERNATIONAL COMMUNICATION	伊藤 陽一 Ito, Youichi
	秋 Fall	水 Wed	4	国際関係 INTERNATIONAL RELATIONS	セツト, アフターブ Seth, Aftab
	秋 Fall	木 Thu	3	現代の国際問題と国連の役割 CONTEMPORARY GLOBAL ISSUES AND THE ROLE OF THE UNITED NATIONS	マリク, ラビンダー Malik, Rabinder
	秋 Fall	金 Fri	4	国際開発協力論 INTERNATIONAL DEVELOPMENT COOPERATION	後藤 一美 Goto, Kazumi

2007年度 国際研究講座 (2007-2008 International Studies Courses)

Offered by:	Semester	Day	Slot	Course Title	Lecturer
国際経済・ビジネス Global Economy, Global Business					
商 F(Business&Commerce)	春 Spring	水 Wed	1	産業史各論(科学技術政策史) HISTORY OF SCIENCE AND TECHNOLOGY POLICY	ルイス, ジョナサン Lewis, Jonathan
	春 Spring	木 Thu	4	グローバルビジネスにおける革新と戦略 INNOVATION AND STRATEGY IN GLOBAL BUSINESS	トビン, ロバート I. Tobin, Robert I.
商研 GS(Business&Commerce)	春 Spring	木 Thu	4	会計学 (*) ACCOUNTING (*)	伊藤 眞 Ito, Makoto
商研 GS(Business&Commerce)	秋 Fall	火 Tue	2	金融特論 (*) ADVANCED STUDY OF FINANCE (*)	深尾 光洋 Fukao, Mitsuhiro
商研 GS(Business&Commerce)	秋 Fall	木 Thu	5	国際経済 (*) INTERNATIONAL ECONOMY (*)	小島 明 Kojima, Akira
文化・異文化理解 Culture/Cross-cultural Understanding					
	春 Spring	月 Mon	5	歴史としての文学 LITERATURE AS HISTORY	チャンドラ, エリザベス Chandora, Elizabeth
	春 Spring	水 Wed	6	文化・文化適応とアイデンティティ CULTURE, CULTURAL ADJUSTMENT, AND IDENTITY	横川 真理子 yokokawa mariko
	秋 Fall	月 Mon	5	比較映画論 VISIONS OF THE PAST	エインジ, マイケル Ainge, Michael W.
	秋 Fall	水 wed	5	異文化と自己理解 CULTURE AND THE UNCONSCIOUS	ショールズ, ジョセフ Shaules, Joseph

特に記載が無いものは国際センター設置科目。Unless otherwise indicated, classes are offered by the International Center.

(\*この科目は、学部生履修不可(This course is a graduate level course, and is not open to undergraduate students.)

2007年度 日本研究講座 (2007-2008 Japanese Studies Courses)

Offered by:	Semester	Day	Slot	Course Title	Lecturer
文化 Culture					
	春 Spring	月 Mon	4	美術を「よむ」- 日本美術史入門 INTRODUCTION TO THE ARTS OF JAPAN	村井 則子 Murai, Noriko
	春 Spring	月 Mon	6	日本の話しことばと言外の意味 LANGUAGE BEYOND GRAMMER	キム, アジョン Kim, Angela A-Jeoung
	春 Spring	水 Wed	3	夢のあと THE AFTERMATH OF DREAMS	アーマー, アンドルー Armour, Andrew
	春 Spring	水 wed	4	20世紀の日本と欧米の小説 TWENTIETH-CENTURY JAPANESE AND WESTERN SHORT FICTION	レイサイド, ジェイムス Raeside, James M.
	秋 Fall	水 Wed	3	日本の文学 JAPANESE LITERATURE	アーマー, アンドルー Armour, Andrew
	秋 Fall	水 Wed	6	日本語の話しことばと言外の意味 LANGUAGE BEYOND GRAMMER	キム, アジョン Kim, Angela A-Jeoung
	秋 Fall	木 Thu	6	アートワークショップ/日本のアートと文化 ARTS/ ART WORKSHOP THROUGH CROSS-CULTURAL EXPERIENCE	菱山 裕子 Hishiyama, Yuko
理工研 GS(Science&Tech)	秋 Fall	金 Fri	2	科学技術文化特論 (*) (矢上 開講)	ドゥウルフ, チャールズ
	秋 Fall	金 Fri	2	SCIENCE, TECHNOLOGY AND CULTURE (*) (Yagami Campus)	De Wolf, Charles
思想・宗教 Thought, Religion					
	秋 Fall	火 Tue	3	日本キリスト教史 CHRISTIANITY IN JAPANESE HISTORY	ボールハチェット, ヘレン Ballhatchet, Helen
	秋 Fall	金 Fri	3	日本の宗教: 救済の探求 RELIGIONS IN JAPAN : IN SEARCH OF SALVATION	ナコルチェフスキー, アンドリイ Nakorchevski, Andriy
歴史 History					
	秋 Fall	月 Mon	4	近代日本の対外交流史 MODERN HISTORY OF DIPLOMATIC AND CULTURAL RELATIONS BETWEEN JAPAN AND THE WORLD	太田 昭子 Ohta, Akiko
	秋 Fall	火 Tue	5	政策決定, 歴史的記憶, 人種から見る明治期日本外交 JAPANESE DIPLOMACY IN THE MEIJI ERA	飯倉 章 Iikura, Akira
社会 Society					
	春 Spring	月 Mon	3	異文化コミュニケーション1 INTERCULTURAL COMMUNICATION 1	手塚 千鶴子 Tezuka, Chizuko
	春 Spring	火 Tue	3	英国と米国のマスコミに描かれた日本 JAPAN IN THE FOREIGN IMAGINATION	キンモンズ, アール Kinmonth, Earl H.
	春 Spring	木 Thu	4	日本人の心理学(1) JAPANESE PSYCHOLOGY IN CONTEMPORARY JAPAN (1)	手塚 千鶴子 Tezuka, Chizuko
	春 Spring	木 Thu	5	新市民社会論 IN SEARCH OF NEW CIVIC SOCIETIES	ボックマン, デイヴ 西村 祐子 Bockmann, David Nishimura, Yuko
	秋 Fall	月 Mon	3	異文化コミュニケーション2 INTERCULTURAL COMMUNICATION 2	手塚 千鶴子 Tezuka, Chizuko
	秋 Fall	月 Mon	5	家族の近代 THE FAMILY IN HISTORICAL PERSPECTIVE	ノッター, デビット Notter, David
	秋 Fall	火 Tue	4	多民族社会としての日本 MULTIETHNIC JAPAN	柏崎 千佳子 Kashiwazaki, Chikako
	秋 Fall	木 Thu	4	日本人の心理学(2) JAPANESE PSYCHOLOGY IN CONTEMPORARY JAPAN (2)	手塚 千鶴子 Tezuka, Chizuko
経済・ビジネス Economy, Business					
	春 Spring	火 Tue	5	日本企業の経営戦略と管理手法 CORPORATE STRATEGIES, MANAGEMENT SYSTEMS AND PRACTICES IN JAPAN	稲葉 エツ Inaba, Etsu
商 F(Business&Commerce)	春 Spring	火 Tue	4	日本における外資系企業 FOREIGN COMPANIES IN JAPAN	ハリス, グレアム Harris, Graham
商研 GS(Business&Commerce)	春 Spring	木 Thu	5	ジャパニーズ・エコノミー JAPANESE ECONOMY	小島 明 Kojima, Akira
	春 Spring	木 Thu	6	日本のビジネスマネジメント MANAGEMENT IN JAPAN	ハギリアン, パリッサ Haghirian, Parissa
	春 Spring	金 Fri	5	日本の経済システムとその特殊性 STRUCTURE, POLICIES AND ETHOS OF THE JAPANESE ECONOMIC SYSTEM	伊藤 規子 Ito, Noriko
	秋 Fall	月 Mon	6	日本経済の展望 ECONOMIC SURVEY OF CONTEMPORARY JAPAN	市川 博也 Ichikawa, Hiroya
	秋 Fall	木 Thu	4	国際経営比較 INTERNATIONAL COMPARISON OF MANAGEMENT SYSTEMS	吉田文一 Yoshida, Fumikazu
	秋 Fall	金 Fri	3	日本の経営 JAPANESE SOCIETY AND BUSINESS	梅津 光弘 Umezumi, Mitsuhiro
法律 Law					
	秋 Fall	金 Fri	5	日本法の制度と実態 INTRODUCTION TO JAPANESE LAW	小林 節 Kobayashi, Setsu

特に記載が無いものは国際センター設置科目。Unless otherwise indicated, classes are offered by the International Center.

(\*)この科目は、学部生履修不可(This course is a graduate level course, and is not open to undergraduate students.)

## 国際研究講座 (INTERNATIONAL STUDIES)

---

現代東南アジア論特殊研究 I

(Spring)

SPECIAL STUDY OF CONTEMPORARY SOUTH EAST ASIA I

山本 信人

法学部教授

Nobuto Yamamoto

Professor, Faculty of Law

---

### Sub Title:

The Chinese in Modern Southeast Asia

### Course Description:

This seminar aims to look at how conventional scholarship on Southeast Asia constructed the Chinese in terms of economic activities, religion, gender and subethnicity, and how new trends of studies address novel aspects of Chinese identities and activities in local, regional, global and transnational contexts. We will concentrate on one book on the Chinese in Southeast Asia.

---

歴史としての文学

(Spring)

LITERATURE AS HISTORY

チャンドラ, エリザベス

国際センター講師

Elizabeth Chandra

Lecturer, International Center

---

### Sub Title:

The Colonial Experience

### Course Description:

This course will consider issues in historiography, particularly the use of literature as history. Filling in the gaps in the so-called conventional historiography, literature provides what institutional libraries, judicial/criminal proceedings, church records, civil registry, and state archives fail to preserve. More important, it has the capacity to represent the fine curves of a political landscape, the nuances of cultural connotations, the minute features in social relations, and the complexity of human emotions.

The colonial experience is precisely a context that calls for such "sensitive" historical inquiries due to the cultural gap between our Western intellectual tradition and the colonized people's particular schemes of culture. The fact that most written records from the colonial period were produced by and speak from the point of view of "power" further complicates historical reconstruction of the experience. In this course we will read novels and short story written by colonial agents and colonized persons, and attempt to catch glimpses on its "micro sites" as diverse and intimate as domestic order, sexual exchange, gossip, humor, paranoia, and melancholia.

---

オーストラリアの歴史

(Spring)

STUDIES IN AUSTRALIAN HISTORY

デイ, デイヴィッド

国際センター講師

David Day

Lecturer, International Center (Honorary Associate, History Program, LaTrobe University)

---

### Sub Title:

Claiming a Continent: The history of Australia, 1788–2006

### Course Description:

The course will examine how Europeans asserted legal ownership to the continent of Australia before proceeding over the following two centuries to buttress that legal claim with claims of effective and moral ownership. Like many other societies across the world, European Australians struggled to make land that was fruitfully occupied by its original inhabitants, in this case the Aborigines, as their own. That struggle continues even today, with Australia still being shaped by the problematic circumstances of its origins and the ongoing struggle to become secure in its possession of the continent.

---

国際協力の実態

(Spring)

THE ACTUAL WORLD OF INTERNATIONAL COOPERATION

バンバン, ルディアント

国際センター講師 (和光大学准教授)

Bambang Rudyanto

Lecturer, International Center (Associate Professor, Wako University)

---

### Sub Title:

Experience-based International Cooperation

### Course Description:

The course on International Cooperation is based on the experiences of the lecturer, who worked at the United Nations(UNCRD), the Japanese ODA Institution (JBIC), the International Organization on Disaster Reduction (ADRC), and a private international consultant company. The contents are practical, with specific issues such as community based development, the impact from the Sumatra tidal wave, the use of Information Technology(IT) as



development tools, and other trendy topics. The course is a multi-disciplinary field.

The students are encouraged to have discussion in the class, and there will be some activities outside class. Some audio-visual material will be also presented.

---

世界政治におけるラテンアメリカ

(Spring)

LATIN AMERICA IN WORLD POLITICS

アントリネス, マリオ

国際センター講師

Mario Antolinez

Lecturer, International Center

---

**Course Description:**

The countries of Latin America and the Caribbean form a vast and complex part of the Western Hemisphere. Although the strategic geopolitical relevance of the region has been recognized, Latin American values and attitudes regarding politics, business and life in general remain profoundly misunderstood, if not totally unknown by many. Not surprisingly, what people think they know about the region is based on unfair stereotypes and generalizations generated by some dramatic event covered by the world media.

Thus, the main objective of this course is to foster a greater understanding of the region's realities. The course is designed as a multidisciplinary study focusing on Latin American politics, economics and foreign policy, and it is divided in two parts. Part I deals with the main features of Latin America as a region, while Part II consists mainly of a country-by-country approach.

---

産業史各論 (科学技術政策史)

(Spring)

HISTORY OF SCIENCE AND TECHNOLOGY POLICY

ルイス, ジョナサン

商学部講師

Jonathan Lewis

Part-time Lecturer, Faculty of Business and Commerce

---

**Course Description:**

This course provides an overview of science and technology policy, from government, enterprise and broader social perspectives. It introduces some key research and presents a variety of case studies from the field on information technology.

I use both Japanese and English in the lecture.

---

現代中国社会

(Spring)

CONTEMPORARY CHINESE SOCIETY

ファーラー, グラシア

国際センター講師

Gracia Liu Farrer

Lecturer, International Center

---

**Course Description:**

This course surveys the post-1978 Chinese society, focusing on social issues under the market reform and conditions of increasingly globalized economy. China's transition to a market-oriented society has effected fundamental changes in the lives of its citizens. Topics include regional economic disparities, changing patterns of employment and unemployment, gender inequality, and both internal and international migration. We will ask: How are women and men faring differently in China's new labor market and workplaces? Are rural peasants and the emerging underclass of urban laid-off workers being left behind by market transition? How are minorities faring in China's transition? How does the emerging digital divide play into the dichotomies of east-west and urban-rural in China? What is the plight of millions of "floaters" migrating into China's cities, with minimal legal rights and protections? How has the one-child policy affected women, children, and society in China? The objectives of the course are 1) to offer exposure to a broad overview of social issues in contemporary China, and 2) to familiarize students with available resources for learning about Chinese society. The class will combine lectures, academic readings, narrative accounts, films, and discussions.

---

国際人権法

(Spring)

INTERNATIONAL HUMAN RIGHTS LAW

細谷明子

国際センター講師

Akiko Hosotani

Lecturer, International Center

---

**Sub Title:**

Issues, procedures, and advocacy strategies regarding the promotion and protection of human rights worldwide

**Subject of the class:**

Students will study five different aspects of international human rights including:

- (1) Procedures for implementing international human rights involving state reporting to treaty bodies; individual complaints; thematic, country rapporteurs, and other U.N. emergency procedures for dealing with gross violations; humanitarian intervention; criminal prosecution and procedures for compensating victims; diplomatic intervention; state v. state complaints; litigation in domestic courts; the work of

- nongovernmental organizations; etc.
- (2) Major international institutions including the human rights treaty bodies; the U.N. Commission on Human Rights and its Sub-Commission on the Promotion and Protection of Human Rights; the U.N. Security Council; international criminal tribunals; the International Criminal Court; U.N. field operations authorized by the U.N. Security Council or under the authority of the U.N. High Commissioner for Human Rights; the Inter-American Commission on and Court of Human Rights; the European Court of Human Rights and other parts of the European human rights system; the U.N. High Commissioner for Refugees; and the International Labor Organization
  - (3) Human rights situations in various countries such as South Africa, Iran, Myanmar, East Timor, Kosovo, Cambodia, former Yugoslavia, the Democratic Republic of Congo, Japan, the United States, Europe, Sudan, Ghana, and India
  - (4) Substantive human rights problems related to the rights of the child, economic rights, the right to development, torture and other ill-treatment, minority rights, the right to a free and fair election, human rights in armed conflict, crimes against humanity, arbitrary killing, indigenous rights, self-determination, discrimination against women, the rights of refugees, etc.
  - (5) Learning methods such as advising a client, role-playing, the dialogue methods, drafting, and advocacy in litigation

文化・文化適応とアイデンティティ

(Spring)

CULTURE, CULTURAL ADJUSTMENT, AND IDENTITY

横川真理子

国際センター講師

Mariko Muro Yokokawa

Lecturer, International Center

**Sub Title:**

文化がコミュニケーションと相互理解に与える影響 How communication and understanding are affected by culture

**Course Description:**

This course examines the impact of cultural values and beliefs, the process of cultural adjustment, the formation of cultural identity, and the relationship between language and culture. Third Culture Kids (Global Nomads) and returnees will be studied along with other topics related to culture, cultural adjustment, and communication across cultures.

In addition to the readings, students will be given opportunities to discuss critical incidents on instances of cultural misunderstanding, do role plays, as well as do presentations on ethnographic studies of their choice. The instructor will provide basic guidelines on how to conduct ethnographic (observational) research.

ヘルスケア組織論

(Spring)

NGOS, NPOS AND CBOS

カストロ ヴァスケス, ヘナロ

国際センター講師

Genaro Castro-Vázquez

Lecturer, International Center

**Sub Title:**

The provision of health care

**Course Description:**

Throughout the world the provision of health care is labour intensive. The functioning of national systems for health care and improvement around the globe depends upon financial capital, enlightened political leadership, hospitals, equipment and medicines.

However, the single most important factor in determining the success of healthcare delivery is the workforce: the clinical and non-clinical staff members that are in direct contact with the recipients of health care services. The knowledge and skills, attitudes and motivation of healthcare workers can make or break even the most carefully designed system. Equipment and medicines are necessary to improve the productivity and effectiveness of health professionals; but without the professionals little if any health improvement at all is possible.

Non-governmental Organisation (NGO) to mean any grouping of people who have a common mission to meet a particular need in their society or community, and are not formed or controlled by government. Throughout the world groups of people identify needs in their communities which government institutions are either not designed to meet or which government institutions are unable to meet because of the unavailability of resources, and the government having other priorities. This is particularly the case in poor countries. It does, however, happen that private citizens are compelled to organize themselves to meet certain needs because government is not willing to address these needs, even where resources may be available. This happens in oppressive regimes and dictatorships of various kinds. So, an NGO may address a need which is normally not a concern of government, but NGO's address needs which in a normal society should be addressed by government.

アジアの音楽

(Spring)

LISTENING TO ASIA

ホッフマン, T・M

国際センター講師

T. M. Hoffman

Lecturer, International Center

**Sub Title:**

Sounds Divine and Mundane in Nature, Language and Music

**Course Description:**

We will become familiar with the sound culture of Asia, focusing on the various natural environments, languages and musics in the region with a view to discovering both distinctions and universalities that may also aid us in understanding other disciplines and regions. From their origins in classical India, Greece and China and evolution in other places and times, we will trace influences of sound in health, religion, society, politics, and material worlds of traditional and contemporary culture. Examining principles and examples of instruments, rhythm, melody, improvisation and composition, we will approach music as both art and science, and discuss its interface with mathematics and linguistics. We will try to be aware of cultural and economic development, regional identity and globalization, and gender and other factors facing the makers and consumers of sound culture, and recognize East-West and North-South exchanges that have shaped our respective musical and linguistic identities.

We will begin with a survey of the nature of sound and its use as a means of communication and expression, then travel through the sound cultures of Asia with the aid of audio-visual materials, live music demonstrations, and whatever other resources are available. Students will find opportunities for active participation, and to share their perceptions and experiences in class.

グローバルビジネスにおける革新と戦略

(Spring)

INNOVATION AND STRATEGY IN GLOBAL BUSINESS

トビン, ロバート I.

商学部教授

Robert I. Tobin

Professor, Faculty of Business and Commerce

**Course Description:**

This course examines successful innovations in global organizations-including market-changing products, inventive approaches to leadership and work, synergy between technology and product development, and the crafting, implementing and executing of business strategy. Ideas, customers, leadership, technology, markets, and talent are all part of the mix when companies innovate and craft business strategy—and will be examined in this course.

Students will develop the skills and tools that are critical for inventing and utilizing new business concepts, re-inventing old ones, and making innovation part of their lives.

The course will be conducted seminar-style with lecture-discussions, student group presentations, case studies, video segments, experiential class activities, and research assignments.

Open to enrolled undergraduate and graduate students only.

ウクライナとロシア

(Spring)

UKRAINE AND RUSSIA

ナコルチェフスキー, アンドロイ

文学部教授

Andriy Nakorchevski

Professor, Faculty of Letters

**Sub Title:**

Two Histories

**Course Description:**

During this course we will discuss two different approaches to what is usually interpreted as a common history of Ukraine and Russia. We will challenge the so called “standard” interpretation of historical events common to both countries and will discuss how contrasting could be approaches of different people to one and the same historical episode or personality. We will see how contemporary politics influence interpretation of events in the past and to what extent a current situation is determined by so called “historical memory”. Hopefully, in the end will get better understanding of what is going on in Ukraine and Russia now and what we can expect in the future.

At least some preliminary knowledge of Ukrainian and Russian history is required.

国際コミュニケーション

(Spring)

INTERNATIONAL COMMUNICATION

伊藤陽一

国際センター講師

Youichi Ito

Lecturer, International Center

**Sub Title:**

Studies on information and culture that flow beyond national borders

**Course Description:**

This course deals with problems, theories and policies regarding information culture and language that flow beyond national borders.

## AMERICAN STUDIES

ウィリアムス, ムケーシュ

国際センター講師

Mukesh K. Williams

Lecturer, International Center

**Sub Title:**

American History, Culture and Foreign Policy

**Course Description:**

**Rationale:** After the collapse of the Soviet Union in 1991 the United States emerged as the most important nation in the world. Every nation has some kind of relationship with the United States, which is either profitable or unprofitable. No nation can ignore the United States or fail to understand American history, culture and foreign policy. Most nations therefore include American Studies within their academic, bureaucratic and administrative orientation. Since the nineteenth century nation states especially America have tried to define key words and ideas relating to freedom, welfare, civil rights, sovereignty, representation, democracy and religion to create a composite intellectual and political culture. The American Studies Program will introduce students to the inter-disciplinary study of American history, culture and foreign policy and help them to understand how Americans and non-Americans think about America.

**Course Outline:** The course will introduce 4 modules, each module containing a big idea namely:

1. Nation and Narration: constructs the Pocahontas story/myth; human arrival in North America; Native American life; the Americas, West Africa and Europe on the eve of contact; American industrial heritage; the work of Samuel Slater in the late eighteenth and early nineteenth centuries in Pawtucket in constructing industrial America.
2. Immigration and Cultural Change: 'Old' and 'New' immigration; the world of the immigrants; a new working class; the limits of mobility and ethnic diversity; the Chinese Exclusion Act; new forms of leisure and mass entertainment; the American Dream; 1965 Immigration Policy; multiculturalism and identity politics.
3. National and International Identities: Reconstructing World War II, American neutrality and the road to war; post-war economic boom, the rise of consumer society; the crabgrass frontier; the Baby Boom; the birth of television and the influence of advertising; roles of women and *The Feminine Mystique*; the Korean War; the arms race; the Red Scare and McCarthyism; the early civil rights movement; teen rebellion and rock 'n roll; the media and Vietnam War; rise of CNN.
4. American Foreign Policy—Neutrality to Involvement (1865-1917); Early American isolationism, moral foreign policy; postwar naval/air supremacy (1920-2004), manifest destiny, American unilateralism, America as the policeman of the world, clash of civilization and war on terror.

The course will help students to confront the contradictions and inherent tensions in the American narrative without the false hope of an easy solution. We will not fail to discuss democratic aspirations, concepts of justice, American solidarity/Christian and Islamic divide and evolving nations of national identity. Along the way we would also question the methods and perspectives by which we study our subject by asking some of the following questions:

- a) How do Americans think of themselves as a nation and the rest of the world? And how do people from other nations think about America? (Samuel Huntington, *The Clash of Civilization*; radical evil/Christian good; liberal/democratic frameworks—Richard Bernstein, *Radical Evil*)
- b) How is space constructed in the lives of individuals in America? How changes brought in by pre-industrial, industrial and post-industrial societies reconstituted the lives of people in the U.S.? (Vertical/horizontal expansion; notions of bigness/assertion; David Reisman, *The Lonely Crowd*; national parks—European signatures/Native American erasures—Yosemite and Yellowstone National Park)
- c) What are the popular methods of understanding the culture and society of America? (Clifford Geertz and others)
- d) How do we imagine the past and its effects on social and cultural representation? (Hayden White, Stuart Hall and David Hollinger)
- e) How do the concepts of American unilateralism and manifest destiny define American foreign policy?
- f) Is the rise of the modern West a pure or impure concept? (Chris Bayly and Bernal)

**Aims:** The students will get an opportunity to:

1. acquire presentation and negotiation skills
2. learn new concepts, methods and vocabulary
3. understand stereotypes of knowledge, reason/critical thinking, culture, gender and politics (bias, manipulation, prejudice, discrimination and hegemony)
4. synthesize diverse opinions and perspectives from within and outside America
5. develop skills to write/think purposefully and strategically
6. acquire the habit to pursue knowledge independently and scientifically

## AFRICAN ISSUES: THE MEANING OF MODERNITY AND CRISES IN AFRICA

近藤 英俊

国際センター 講師 (関西外国語大学准教授)

Hidetoshi Kondo

Lecturer, International Center (Associate Professor, Kansai Gaidai University)

**Sub Title:**

Illness and Medicine in Modern Africa

**Course Description:**

Children, who are emaciated with protruding bellies and fly-infested faces, are crying for food, or worse, already motionless in their mothers' arms. For many, such a shocking scene is typically associated with Africa. This popular imagery has its origin in mass media that are often sensationalistic as to African coverage. The truth is that Africa is the continent of wonderfully rich and diverse cultures, where people live their vibrant everyday life. Yet, from this, it does not immediately follow that Africa is a trouble-free region. Just as Japan and other industrial countries have many social problems, Africa does have critical issues to be pursued.

This course is intended to explore some of the major problems that Africa is currently facing. This year we will focus on the issues of medicine and illness in contemporary Africa. Using wide range of academic disciplines, we will explore the social and cultural aspects of medicine and illness in Africa. Thus, the topics we deal with include: (1) complexity and flow of medical cultures, (2) social relations and power in medicine, (3) capitalism, the state and medicine, (4) development and decline of bio-medicine, (5) traditional medicine and professionalisation, (6) religion as medicine, (7) cultural understandings and social consequences of AIDS pandemic.

## WORLD OF SOUTHEAST ASIA

野村 亨

総合政策学部教授

Toru Nomura

Professor, Faculty of Policy Management

**Sub Title:**

Understanding Contemporary &amp; Historical Aspects

**Course Description:**

In this class, students are exposed to contemporary as well as historical aspect of Southeast Asia. The information acquired in this lecture will surely be quite useful for those who want to be engaged in business in this fast-developing region.

## VISIONS OF THE PAST

エインジ, マイケル W.

経済学部准教授

Michael W. Ainge

Associate Professor, Faculty of Economics

**Sub Title:**

Representing History on Film

**Course Description:**

Films about the past are often dismissed by historians as trifles. In this course, we will consider the conventions of various styles of representing history on film, including American forms such as Hollywood Historical Drama and Documentary, as well as other styles from other countries. Close readings of historical texts and of the filmed versions of those events will provide a window into the strengths and limitations of both media. We will consider whether representing the historical past on film necessitates simplification, distortion and/or falsification of the facts? How about the case of post-colonial societies struggling to retrieve lost or obscured histories? How does film effect memory, both collective and personal? These and other questions will constitute the core of our discussions.

## BUILDING THE GLOBAL VILLAGE

フリードマン, デビッド

環境情報学部教授

David Freedman

Professor, Faculty of Environment and Information Studies

**Sub Title:**

日本とサブ-サハラン アフリカ地域

**Course Description:**

HTTP:// [WWW.SFC.KEIO.AC.JP/SOUTHAFRICA/](http://WWW.SFC.KEIO.AC.JP/SOUTHAFRICA/)

In an increasingly connected world, there are no specialty areas. Integration into a growing global economy encompasses both economic and trans-economic issues. At the Davos World Economic Forum 2001, the term "culturomics" was coined to define how various intellectual disciplines need to

combine in order to offer a fuller world view. This course will be an introduction for students interested in issues affecting global governance and Africa. Through a series of lectures offered by ambassadors and embassy officials from the S.A.D.C. group, (<http://www.mbendi.co.za/orsadc.htm>) students will explore the variety of links diplomatic, educational, economic and cultural that tie Japan to contemporary Africa.

The course will focus the geo-political area of southern Africa, and the issues that such regions face as they plan seek to integrate their local economies and to connect to the “global village.” Speakers from the various embassies of the S.A.D.C. group will be invited to speak on the theme of global economy, culture and change and the impact of Japanese policies within the region.

As the countries of sub-Saharan Africa attempt to formulate policies in areas such as HIV care and education, sustainable development, conflict management and the growth of open societies, these policies connect with similar policies and issues around the world. Japan has made aid for African nations and support for the New Partnership for Africa’s Development a major part of its international policy. Two years ago at the third Tokyo International Conference on African Development Japanese Prime Minister Junichiro Koizumi pledged \$1 billion for education and health care in Africa making Japan one of the major aid donors for Africa. This government interest has led to a variety of efforts to make the connections between southern Africa and Japan more multi-dimensional, and include both large-scale and small scale investment, tourism and educational connections and N.G.O. endeavors. ([http://www.ajf.gr.jp/old/english/ajf\\_update.htm](http://www.ajf.gr.jp/old/english/ajf_update.htm))

Each student will be expected to join a study group that will focus one of the African countries represented by the speakers. The groups will research and present on the ties and programs between their focus country and Japan. As a final project, each group will present a tentative plan to further develop the connections between Japan and their research country.

---

カナダという国とカナダの国際的な役割

(Fall)

CANADA AND ITS INTERNATIONAL ROLE

イエローリーズ, ジェームズ

国際センター講師 (カナダ日本連盟日本代表)

James Yellowlees

Lecturer, International Center (Director-Japan, Canadian Education Alliance)

---

**Sub Title:**

Canada’s Vast Potential

**Course Description:**

We will learn about the various key aspects of Canada as a nation, including the history, economy, society and international role of Canada. It is an interactive class so participants will be expected to contribute each class.

---

地域文化論 (アメリカ)

(Fall)

AREA STUDIES (THE UNITED STATES)

奥田暁代

法学部教授

Akiyo Okuda

Professor, Faculty of Law

---

**Sub Title:**

Multicultural History of The United States

**Course description:**

One in three Americans is now a member of a minority group. The heated national debate on how government should respond to illegal immigration reveals the country’s anxiety about the changing face of America. Yet the United States has always been multiracial/multicultural and indeed shaped by the presence of diverse groups. The objective of this course is to promote the student’s understanding of American history and culture by exploring the diverse experiences of these “minorities” in the United States. The approach is primarily historical and assumes that the culture we describe as American derives its special characteristics from the presence of multiracial/ multicultural Americans. Emphasis will be placed on contemporary public issues as well as on historical events. We will examine specifically the continuities and changes in the lives of Native Americans, African Americans, Japanese Americans, and Mexican Americans, and see how their experiences relate to the history of the United States. By means of discussion, lectures, reading, writing, and class presentation, this course will provide new insights and perspectives into American history and culture.

---

国際関係

(Fall)

INTERNATIONAL RELATIONS

セット, アフターブ

慶應義塾大学グローバルセキュリティ研究所教授

Aftab Seth

Professor, Keio University Global Security Research Center

---

**Sub Title:**

A view from a practitioner

**Course Description:**

This series will cover a wide range of subject:

Civilisational cross fertilization, The Cold War, South Asia where one sixth of humanity resides, the vital questions arising from attempts being made to bring about integration at Track I and Track II levels, the increasing role being played by NGOs and civil society in harmonising divergences on a range of issues, the vibrant country Vietnam its troubled past and its bright future, and related topics. These lectures will be presented in the context of

35 years spent by the lecturer, in the practice of Diplomacy, 7 of which were as a Consul General, in charge of post which is a sub office of an Embassy and 11 years as an Ambassador to 3 countries, Greece, Vietnam and Japan.

---

開発と社会変容

(Fall)

DEVELOPMENT AND SOCIAL CHANGE

倉沢 愛子

経済学部教授

Aiko Kurasawa

Professor, Faculty of Economics

---

**Sub Title:**

Effect of Development Policy and Social Change at Grass-roots Community in Indonesia

**Course Description:**

I will describe social changes brought by rapid and heavy development policy, taking a case of Indonesia. My analysis is based on field research in two sites (one urban and another rural) where I have been watching since 1996. I will focus on changes on such aspects as human relations within the community, flow of information and changes in communication mode, religious piety, life-style etc. I will show you video which I recorded at the research sites.

Through this course first of all I want you to get clear image on people's life in a relatively "unknown" world, and so doing, to reconsider such questions as what is "development" and what is "prosperity. Does economic development really bring you prosperity and happiness? Critical analysis and evaluation are most welcome.

---

異文化と自己理解

(Fall)

CULTURE AND THE UNCONSCIOUS

シヨールズ, ジョセフ

国際センター講師

Joseph Shaules

Lecturer, International Center

---

**Sub Title:**

Looking for the hidden roots of cultural difference

**Course Description:**

Culture has two sides, a visible side — food, clothing, architecture — and a hidden side of unconscious beliefs, values and assumptions. In this course we will learn the story of the discovery of hidden culture. We will explore culture's unconscious influence over us, and see how hidden cultural difference creates conflict in relationships and communication. This will involve learning hidden patterns of cultural difference related to things like: time, personal space, cooperation, independence, fairness, equality, emotion. Students will discuss their intercultural experiences, share their opinions and give presentations. The ultimate goal of this course is a deeper self-understanding.

---

アジア諸国におけるビジネスマネジメント

(Fall)

BUSINESS MANAGEMENT IN ASIAN COUNTRIES

トビン, ロバート I.

商学部教授

Robert I. Tobin

Professor, Faculty of Business and Commerce

---

**Course Description:**

This course focuses on strengthening your understanding of the major issues and challenges involved in the leadership of businesses in Asia. There will be a special focus on business strategy and the styles of management of firms headquartered in Japan, North America and Europe.

Among the topics will be the unique political, economic, social and cultural influences on managing Asian operations, issues related to corporate governance and ownership, entrepreneurship and strategy.

The course will be conducted seminar-style with presentations and discussions based on assigned readings, case studies, video segments, projects, experiential class activities, case studies and research assignments.

Open to enrolled undergraduate and graduate students only.

---

現代の国際問題と国連の役割

(Fall)

CONTEMPORARY GLOBAL ISSUES AND THE ROLE OF THE UNITED NATIONS

マリク, ラビンダー

国際センター講師

Rabinder N. Malik

Lecturer, International Center

---

**Sub-title:**

Multi-disciplinary approach to the study of major global issues that confront the world community in the 21st century, and the role of the United Nations and International Organizations in addressing these issues

**Course Description:**

A critical review and assessment will be undertaken of the origin and present condition of the major global issues and how these are being addressed by the national governments and the international community. Special attention will be paid to the role of the United Nations and other International Organizations as a tool of global governance in addressing these issues. We shall also explore ideas and concepts of peace and security, human rights, coexistence among peoples of different cultures and other critical global issues such as poverty eradication, environmental degradation, aging society and gender issues.

The objective of the course is to enable the students to gain a better understanding of the world around them as well as about the role of the United Nations so that they are able to evaluate current and future international trends and formulate their own well thought-out opinions based on facts. The course would help enhance the trans-cultural literacy and competence of the students and it should enable them to interact with confidence with peoples of different cultural backgrounds and orientations in an interdependent and interlinked world. Group discussions will be an important part of the course, which will be conducted in English. The course is open to students from all faculties.

---

ドイツ文化と社会	(Fall)
GERMAN CULTURE AND SOCIETY	
ワニェク, ヤクリーン	国際センター講師
Jacqueline Waniek	Lecturer, International Center

---

**Sub Title:**

Introduction to German culture, educational and political system, and historical challenges

**Course Description:**

The objective of this course is an introduction to the history, social, political and educational systems of Germany. Emphasis will be placed on contemporary public issues such as the German reunification, Germany's role in the international community and Germany's aging society. By means of discussions, lectures, reading, writing and class presentations, students will reflect the German national character with that of contemporary Japanese.

---

EU - JAPAN ECONOMIC RELATIONS	(Fall)
林 秀毅	経済学部講師
Hideki Hayashi	Part-time Lecturer, Faculty of Economics

---

**Course Description:**

This course is offered in English. The goal is to broaden and deepen students' knowledge in EU-Japan relations, with emphasis on the economic aspects.

Whole lecture is divided into two parts: in part 1, each lecture will be based on different chapters of Gilson (2000) and in part 2, the national economy of EU countries and its relations with Japan will be discussed. Related statistics and case studies are also introduced in both parts.

In each lecture, Powerpoint will be used for exposition. For reference, the lecture materials for 2006 can be viewed at

[http://ocw.dmc.keio.ac.jp/j/economics/02A-009\\_j/index.html](http://ocw.dmc.keio.ac.jp/j/economics/02A-009_j/index.html)

As it is expected to be a small class, active questions and comments by students are welcome.

At the end of each lecture, the topic to be discussed the following week will be announced. Students are supposed to submit a report on one of the questions and submit it at the beginning of the next lecture.

---

国際開発協力論	(Fall)
INTERNATIONAL DEVELOPMENT COOPERATION	
後藤一美	国際センター講師 (法政大学教授)
Kazumi Goto	Lecturer, International Center (Professor, Hosei University)

---

**Course description:**

The twenty-first century is an era of global governance. The realm of contemporary international relations has seen the commencement of new political attempts to gradually reform existing systems in complex governance with different players and multi-tiered networks for the creation of a convivial global society, in which the common values of peace, prosperity and stability are pluralistically shared, overcoming the risks of asymmetry and tit-for-tat sequences. In this new political initiative towards an unknown world, there are some critical challenges, including the pursuit of public goals in the international community and of effective measures to reach them. In the new world of international development cooperation, aid donors and aid recipients have different dreams yet lie in the same bed with a dynamic and tense relationship. By reviewing frontline efforts in international development cooperation with a view towards sustainable growth and poverty reduction from the perspective of cooperation policies, this course is intended to provide some basic foundations and applications for the management of international development cooperation with students that are interested in the main issues of poverty and development in the developing regions, and that wish to be involved in the world of international development cooperation in the future. Several guest speakers shall be invited from international aid agencies.



**Sub Title:**

Religion, Politics, Gender, and Civic Engagement

**Course Description:**

This course is aimed at describing India from post-modern perspective. In this course, participants will study how India's 'modernity' was created by British colonization and what are the problems of India Today. We will also study how religion, politics, and gender relations intertwine very closely and affect people's daily lives. In the latter part of this course, we will also study the roles of India's NGOs. We will study caste, class, kinship and gender from the post modern perspective. We will learn the cultural difference between the North, the South, the East and the West. We will also cover issues surrounding 'dowry' problems in India. Students are encouraged to raise questions in each lectures and actively participate. Participants will also learn the basics of essay writing.

## UNITED STATES FOREIGN POLICY TOWARD EAST ASIA

ジャヌジ, フランク 法学研究科特別研究講師

Frank S. Jannuzi Part-time Assistant Professor, Graduate School of Law

**Sub Title:**

An Insider's View

**Course Outline:**

This course will examine the key trends in U.S. foreign policy toward East Asia beginning with the Vietnam War and proceeding to President Nixon's strategic opening to China in 1972, and ending with the first and second North Korean nuclear crises. The course will examine how the White House, State Department, CIA, the military, Congress, think tanks, non-governmental organizations, and the private sector all play a role in shaping U.S. foreign policy.

Students will trace the evolution of U.S. foreign policy toward East Asia from the Cold War and the "strategic triangle" to the present era of globalization. The course will reveal the inner workings of the U.S. government foreign policy establishment. We will pay particular attention to U.S.-China relations. The role of the U.S.-Japan Alliance will be woven into our analysis of America's shifting goals and priorities in East Asia.

Classes will include some lecture material, but will primarily be devoted to group discussion, examination of case studies.

Pre-requisites: Students should already be familiar with the broad sweep of United States foreign policy in the 20th Century, as well as basic concepts of international affairs.

Requirements: Class participation. One paper examining an instance when the U.S. shifted its policies on an East Asian interest and explaining how and why the shift took place.

## THE POLITICS OF KOREA-JAPAN RELATIONS

リ, ジョンフン 法学研究科特別研究講師

Jung-Hoon Lee Part-time Assistant Professor, Graduate School of Law

**Sub Title:**

The Diplomatic Normalization and Beyond

**Course Description:**

This course aims to give an introductory survey of Korean-Japanese relations, with special reference to the post-1945 period. Course discussions will inevitably touch on some of the major historical events, particularly the colonial period (1910-1945), but the focus will remain on the analysis of post-colonial affairs. The diplomatic normalization process, as such, is treated as one of the most important developments since Korea's independence, linking the past and the present. Within the broader framework of the bilateral relationship, each country's political culture, foreign policy decision-making, socio-economic background, and pertinent international relations will also be examined closely. Towards the end of the course, it is hoped that the students will have acquired a sound understanding not only of this complex bilateral relations, but also of the dynamics of domestic political developments.

Accounting

伊藤 眞 商学研究科教授

Makoto Ito Professor, Graduate School of Business and Commerce

**Course Description:**

International Accounting Standards (IASs) issued by the International Accounting Standards Committee (IASC), and International Financial Reporting Standards (IFRSs) issued by International Accounting Standards Board (IASB), which had been restructured from IASC, have been making their presence felt around the world recent years. IASB has been and is continuing to study accounting issues and prepares new and improves IFRSs and improve IASs under the conversion projects with FASB of U.S. and ASB of Japan.

Some multinational enterprises, whose headquarters are located in Europe, have been preparing their consolidated financial statements in compliance with IFRSs (including IASs) for purpose of cross-boarder security offerings and listings on foreign

securities offering.

All enterprises, which are domiciled and listed in the European Union, are required to report in accordance with IFRSs from year 2005. Many countries require the listed enterprises to use IFRs, or are taking steps to harmonize their national accounting standards with IFRSs with some modifications to allow for local environment. In this course, we will study the history of IAS, IASC and IASB briefly, then Framework for the Preparation and Presentation of Financial Statements, and some significant accounting standards, such as IAS39 “Financial Instruments: Recognition and Measurement” and IAS12 “Income Taxes”, which will be compared with the US Generally Accepted Accounting Principles (US GAAP) and Japanese GAAP, when necessary.

After the first session of introduction to IFRSs, each student will be assigned in advance to report on a Standard, followed by discussion, case studies and my supplementary explanation or comments.

---

国際政治論特殊研究

(Fall)

SPECIAL COLLOQUIUM ON INTERNATIONAL RELATIONS

山本 信人

法学部教授

Nobuto Yamamoto

Professor, Faculty of Law

---

**Sub Title:**

Revisiting (South/East) Asian Regionalism

**Course Description:**

This seminar will look at the transformations and dynamisms of Asian regionalism in the context of US hegemony after the World War II. We will concentrate on the below three books as textbooks. All will be available at the library (on the reserve selves).

---

金融特論

(Fall)

ADVANCED STUDY OF FINANCE

深尾光洋

商学部教授

Mitsuhiro Fukao

Professor, Faculty of Business and Commerce

---

**Course Description:**

Corporate Governance and Financial System

The governance structure of limited liability companies that stipulates the relationship among the management, stockholders, creditors, employees, suppliers and customers is important in determining the performance of the economy. Although the OECD countries are generally characterized as market economies, there are considerable differences among these countries in the organizational structure of the economy.

One of the major aims of this course is to understand the institutional differences in corporate-governance structures of companies in major industrial countries including the United States, Japan, Germany, France and the United Kingdom. The differences in the corporate-governance structure have a number of implications for the performance of companies. For example, the cost of capital and the effective use of human resources would be affected by this structure.

In recent years, the deepening international integration of economic activities has heightened awareness of cross-country differences in corporate-governance structure and putting strong pressures for convergence in some aspects of corporate governance systems. The course will also survey these trends.

1. General Concept

Fukao, Mitsuhiro, *Financial Integration, Corporate Governance, and the Performance of Multinational Companies*, Brookings, 1995.

2. Hostile Takeovers

Shleifer, Andrei, and Lawrence H. Summers, “Breach of Trust in Hostile Takeovers,” in *Corporate Takeovers: Causes and Consequences*, edited by Alan J. Auerbach, University of Chicago Press, 1988.

Roe, Mark J. “Takeover Politics,” in *Dear Decade*, edited by M. Blair, 1993.

3. Elements of Governance

Kaplan, Steven N., “Top Executive Rewards and Firm Performance: A Comparison of Japan and the United States,” *JPE*, Vol. 102, No.3, June 1994

Christine Pochet, “Corporate Governance and Bankruptcy: a Comparative Study,” IAE de Toulouse working paper 2002-152, June 2002.

Naoto Osawa, Kazushige Kamiyama, Koji Nakamura, Tomohiro Noguchi, and Eiji Maeda, “An Examination of Structural Changes in Employment and Wages in Japan,” Bank of Japan Monthly Bulletin, August 2002.

Black, Bernard, “Creating Strong Stock Market by Protecting Outside Shareholders,” remarks at OECD/KDI conference on Corporate Governance in Asia: A Comparative Perspective, Seoul, March 3-5, 1999.

Jamie Carroll, Robin Cowels, Glenn Davice, Sarah Diehl and Sergio Schuchner, Board Practices/Board Pay 2005, IRRC, 2005.

William C. Powers, Jr., Raymond S. Troubh, and Herbert S. Winokur, Jr., "Report of Investigation by the special investigative committee of the board of directors of Enron corp.," February, 2002.

#### 4. Financial System

Fukao, Mitsuhiro, "Japanese Financial Instability and Weaknesses in the Corporate Governance Structure," *Seoul Journal of Economics*, Vol.11, No.4, 1998.

Mitsuhiro Fukao, "Weakening Market and Regulatory Discipline in Japanese Financial System," a paper presented at the conference on "Market Discipline: The Evidence across Countries and Industries," cosponsored by the Bank for international Settlements and Federal Reserve Bank of Chicago, October 30-November 1, 2003.

Grading will be based on the term paper and class participation.

The topic of the term paper has to be related to the content of the class. For example:

Comparison of governance structures among some countries, Governance structure of government owned companies and private companies, Issues related to bankruptcy procedures, Security exchange law and governance system, Incentive mechanism for directors, Banking problems and deposit insurance system.

---

プロジェクト科目 II・欧州統合

(Fall)

#### PROJECT 2: SEMINAR ON EUROPEAN INTEGRATION

田中俊郎	ジャン・モネ チェア教授
Toshiro Tanaka	Professor, Jean Monnet Chair
細谷雄一	法学部准教授
Yuichi Hosoya	Associate Professor, Faculty of Law

#### Course Description:

The European Union strives to establish a new order in Europe. While the EU attempts to deepen its construction through the Maastricht Treaty, the Amsterdam Treaty, the Nice Treaty and the Treaty establishing a Constitution for Europe, it has enlarged its scope to South and East, from 15 to 27 member states by January 2007..

This year, the seminar will focus on the enlargement and the deepening of the EU, trying to shed more lights on the historical development, to analyze its problems and outline future perspectives on the subject.

---

国際経済

(Fall)

#### International Economy

小島明	商学研究科教授
Akira Kojima	Professor, Graduate School of Business and Commerce

#### Course Description:

The class covers various international economic policy issues including trade, Investment (foreign direct investment), foreign exchange policy, WTO process, FTAs (Free Trade Agreements), regional integration, competitiveness issue, economic development strategy and so on.

Students will be put in the very front line of policy debate of international economy. Real voices of policy makers, business leaders and scholars will often be given to the students through recorded tapes and videos. As I have good many chances to participate to many important international policy debates, the student can be given the chance of sharing such experiences of mine. Practical, as well as theoretical approach will be introduced.

# 日本研究講座 (Japanese Studies)

---

異文化コミュニケーション 1

(Spring)

INTERCULTURAL COMMUNICATION 1

手塚千鶴子

日本語・日本文化教育センター教授

Chizuko Tezuka

Professor, Center for Japanese Studies

---

**Sub title:**

Seen from Japanese communication patterns

**Course Description:**

This course has three interrelated purposes. The first is to help students learn some essential elements of Japanese psychology and culture, and their implications for communication patterns of Japanese people both among themselves and in intercultural settings. The second is to help students to examine both difficulties/challenges and excitements/joys of intercultural communication by learning key concepts and issues of intercultural communication. The third is to facilitate both Japanese and international students' on-going intercultural communication both by increasing self-awareness of how their respective cultures affect their communication patterns and by arranging them to learn to work together successfully on group projects which will serve as testing grounds for their intercultural communication.

---

美術を「よむ」—日本美術史入門

(Spring)

INTRODUCTION TO THE ARTS OF JAPAN

村井則子

国際センター講師

Noriko Murai

Lecturer, International Center

---

**Sub Title:**

Introduction to Modern Japanese Art and Visual Culture

**Course Description:**

This course explores the history of Japanese art from the mid-nineteenth century to the present. Visual culture has played a central role in providing the modern Japan with a cultural, social, and psychological identity. We will study the significance of modernity and modernism in different media including painting, sculpture, photography, and architecture. We will also consider issues related to gender, imperialism, and commodity consumption in the context of visual representation.

---

日本語の話しことばと言外の意味

(Spring) / (Fall)

LANGUAGE BEYOND GRAMMAR

キム, アジョン

日本語・日本文化教育センター専任講師

Angela A-Jeoung Kim

Assistant Professor, Center for Japanese Studies

---

**Sub title:**

Expressing 'something else' beyond information — markers and functions in spoken Japanese

**Course Description:**

Mastering the grammar of a particular language does not guarantee a successful communication with a native speaker of that language. This is because language does not only function as a conveyance of information, but also has other functions such as expressing the language user's attitude/emotions. The objective of this course is to encourage a more profound understanding of the functions of language that exist beyond referential meaning, with particular attention given to markers and their uses in Japanese. An understanding of this aspect of language, and the function of particular markers, will lead to a deeper understanding of communication in Japanese in general. This course comprises three main parts: (i) general review of the non-referential function of language; (ii) the case of English briefly reviewing markers such as *you know* and *like*; and (iii) the case of Japanese which will include markers such as *ne, yo, -janai, doose, datte, maa, nan(ka), mono, no, yappari* etc.

---

英国と米国のマスコミに描かれた日本

(Spring)

JAPAN IN THE FOREIGN IMAGINATION

キンモンズ, アール H.

国際センター講師 (大正大学教授)

Earl H. Kinmonth

Lecturer, International Center (Professor, Taisho University)

---

**Description:**

This course examines foreign (primarily Anglo-American) views of Japan, both contemporary and historical. Materials used and discussed range from Hollywood films to academic works by Ivy League professors. Knowing the common and often highly distorted images of Japan and the Japanese, both positive and negative, presented in foreign mass media and popular culture is important to both Japanese and foreign students. These images have been and continue to be significant in Japan's diplomatic and economic relations with other countries. Moreover, the mechanisms that distort the

foreign view of Japan also work to distort the Japanese view of foreign countries. Teaching students how to recognize distorted images of foreign countries and peoples is a major goal of this course.

---

日本における外資系企業  
FOREIGN COMPANIES IN JAPAN

(Spring)

ハリス, グレアム

商学部講師

Graham Harris

Lecturer, Faculty of Business and Commerce

---

**Sub Title:**

Foreign Companies in Japan — a Success or a Failure ?

**Course Description:**

This course will explain the role of foreign companies in Japan since the Meiji Restoration, through the “Bubble era” and up to the present day. Students will learn the reasons why foreign companies choose Japan; to what degree they have been successful; and to what extent foreign investment is good for Japan.

---

日本企業の経営戦略と管理手法

(Spring)

CORPORATE STRATEGIES, MANAGEMENT SYSTEMS AND PRACTICES IN JAPAN

稲葉エツ 国際センター講師 (財団法人貿易研修センター人材育成部長)

Etsu Inaba Lecturer, International (Center Director, Human Resource Development Department, Institute for International Studies and Training)

---

**Sub title:**

Understanding key success factors for developing and implementing corporate strategies

**Course Description:**

Objectives:

1. This course tries to identify key success factors of linking corporate strategies with the management systems and practices. Using case studies and discussion, we will look at the micro level management strategies and practices.
2. The course also tries to develop analytical as well as discussion/presentation skills in students.

Description:

Under the increasingly global economy, companies are constantly reviewing their strategies and management practices to meet the new challenges. It is recognized that the competitiveness of corporations includes their ability to modify and change, as the environment changes, their management systems and practices.

The course offers the opportunity to understand the linkage between corporate strategies and management systems which are supporting the strategies. In-depth understanding of selected companies in Japan as “best practice” will be pursued through case studies, company visits and student's own research.

Basic frameworks will be provided during the course. Each student is expected to develop individual list of key success factors of implementing strategies through management practices, based on the case studies used during the course.

Classes are conducted in English. Discussions and information sharing will also take place through e-mails. Both undergraduate and graduate level students are welcome.

---

夢のあと

(Spring)

THE AFTERMATH OF DREAMS

アーマー, アンドルー

文学部教授

Andrew Armour

Professor, Faculty of Letters

---

**Sub title:**

Medieval Japanese literature

**Course Description:**

In “The Trail of Genji” last year, I focused on that 11th-century masterpiece of Japanese literature known as *Genji monogatari*. This year we will progress into the Kamakura and Muromachi periods, examining medieval literary developments against the often tumultuous historical background. The rise of the military caste is reflected in the war tales such as *Heike monogatari*, which stand in sharp contrast to the court literature of the previous Heian period and to medieval meditative works such as the *Hôjôki*, and the simple *setsuwa* tales enjoyed by the general populace. We will also trace the major developments in drama and poetry. Many of the works introduced in this course are available in translation.

## TWENTIETH-CENTURY JAPANESE AND WESTERN SHORT FICTION

レイサイド, ジェイムス

法学部教授

James Raeside

Professor, Faculty of Law

**Sub title:**

Comparative Readings

**Course Description:**

In these classes we will attempt to understand something of the nature of Japanese fiction writing by comparative close reading of Japanese texts with those by Western (European and American) writers. Evidence of influence and assimilation may be observable from West to East, particularly in the early years of the 20<sup>th</sup> century, but in all cases we will attempt to identify both what is distinctive, and what the different literary traditions have in common. By close reading and comparative analysis we should be afforded some useful insights into Japanese prose fiction writing — particularly that of the short story.

Each class will focus on a pair of texts: one by a Japanese and one by a Western writer. The texts chosen will be relatively short, wherever possible complete short stories. All texts will be discussed on the basis of their English language translation, although students who are able to read the originals are welcome to add this knowledge to the discussion. In any case, it is imperative to the functioning of the class that all participants make time to read the set texts beforehand. Only those who have made this effort will be able to participate usefully in the discussion. Those who do not feel their English ability is adequate to reading several pages of English each week should not take this class.

## JAPANESE PSYCHOLOGY IN CONTEMPORARY JAPAN(1)

手塚千鶴子

日本語・日本文化教育センター教授

Chizuko Tezuka

Professor, Center for Japanese Studies

**Sub title:**

Conflict Management

**Course Description:**

This course is designed to explore how Japanese manage interpersonal conflict both among themselves as well as in interaction with foreigners, and its implications for Japanese society which is becoming more multicultural in this accelerated globalization age. Though a Western notion of conflict claims that conflict is inevitable yet not necessarily bad, the Japanese society has been described to believe in its self-image as a conflict-free society and to abhor and avoid interpersonal conflicts as any cost. With this apparent contrast in mind, students will learn characteristics of Japanese conflict management strategies, their cultural and social psychological background, and the challenges for both Japanese and foreigners in trying to creatively deal with intercultural conflicts. And students will be asked to take some psychological measures related to conflict for self-understanding.

## IN SEARCH OF NEW CIVIC SOCIETIES

ボックマン, デイヴ

国際センター講師 (コンサルタント)

Dave Bockmann

Lecturer, International Center (Consultant)

西村祐子

国際センター講師 (駒澤大学教授)

Yuko Nishimura

Lecturer, International Center (Professor, Komazawa University)

**Sub title:**

How citizen's grassroots organizations attempt to alter the relationships of power.

**Course Description:**

"Civic society" refers to the participation of individuals and voluntary (non-governmental) organizations in the political and the public sectors, including governmental decision making. In this sense, civic society is well established in the U.S., less so in Japan where only recently local governments have begun to collaborate with grassroots citizen organizations in the public sphere. The term is also used by critics of "globalization" to refer to grassroots resistance to the flow of human, financial, resource and power capital throughout the global economy.

In this course, we will examine civic society from several angles, globally and locally. We will look at how civic engagement (in the U.S., for example) includes struggles by minorities, women and the poor to alter the relationships of power, as well as non-confrontational community improvement and protection projects. We also examine the growing civic society in Japan. In the spring term, the course will focus on community organizing and civic society building in the U.S. We will examine the role of community organizations in the civil rights movement, the women's movement and the environmental movements of the 1960s and 70s and how a strong tradition of community building has since evolved.

JAPANESE ECONOMY

小島 明

商学研究科教授

Akira Kojima

Professor, Graduate School of Business and Commerce

**Course Description:**

Japan's economic performance and policy debate in post war period up to now is covered with global economy perspective. Issues such as management practices, financial big-bang, foreign direct investment (FDI), bad loan problems, exchange rate, demographic change, system reforms are all discussed with preferably active participation of students. Students can have real exposure to the most current policy debate amongst specialist through Video and tapes etc.

MANAGEMENT IN JAPAN

ハギリアン, パリッサ

国際センター講師 (上智大学専任講師)

Parissa Haghirian

Lecturer, International Center (Assistant Professor, Sofia University)

**Sub Title:**

The Kaisha in the 21st Century

**Course Description:**

The course introduces the characteristics of the Japan as a place of business and the main aspects of Japanese management. The course starts with a theory lecture on culture and its relevance for international management and business communication. After this an overview of the modern Japanese business environment is given. Major points of discussion are the most prominent aspects of Japanese management, such as production management, distribution as well as human resource and knowledge management within Japanese corporations.

The course aims to:

- provide an overview of the modern Japanese business environment
- explain the most important social concepts in Japanese society and their relevance for Japanese management and Japanese business culture
- discuss the most prominent aspects of Japanese management, such as production management, distribution and management activities within a Japanese corporation
- present the latest developments in the Japanese management environment

STRUCTURE, POLICIES AND ETHOS OF THE JAPANESE ECONOMIC SYSTEM

伊藤 規子

商学部准教授

Noriko Ito

Associate Professor, Faculty of Business and Commerce

**Course Description:**

This course aims to help participants as introductory guidance to understand the Japanese economic system with its heavy Government involvement, specific company customs (which seemed to have worked fine during the high growth era), vested interests and social norms/behaviours. The sessions will (A) cover parts of the text book, '*Arthritic Japan*' which is useful in explaining the postwar Japanese economic system and its problems also some changes the Japanese have been facing recently, (B) involve students with some group discussions or presentations on various themes with additional journal articles, (C) show several illustrative videos and (D) have at least two special one-off guest speakers who will talk about their experiences in dealing with the Japanese business environment (all speeches will be given in English). The lecturer may sometimes explain several concepts from the microeconomics' point of view whenever necessary to make it easy for the non-economics based student to understand the textbook and articles. The articles used in the sessions are most likely to be from *The Economist*, *The Japan Times* and *Japan Spotlight*. A specific website address will be announced in the first session.

INTERCULTURAL COMMUNICATION 2

手塚千鶴子

日本語・日本文化教育センター教授

Chizuko Tezuka

Professor, Center for Japanese Studies

**Sub title:**

Identity of Japanese Sojourners

**Course Description:**

The first purpose is to help students learn how Japanese people have been experiencing exciting as well as confusing encounters with cultures different from their own and how such cross cultural encounters in and outside of Japan have been affecting their sense of identity and communication



styles as an individual (and as people) from the times of Japan's First Opening to the world in the late Edo Period up to the present from the three perspectives: history, cultural adjustment, and intercultural communication, utilizing case studies. The second purpose is to help both Japanese and international students who are brought together to Mita campus by the globalization and internationalization to make best use of this class to communicate effectively through discussion and other student-centered activities.

---

近代日本の対外交流史

(Fall)

MODERN HISTORY OF DIPLOMATIC AND CULTURAL RELATIONS BETWEEN JAPAN AND THE WORLD

太田昭子

法学部教授

Akiko Ohta

Professor, Faculty of Law

---

**Course Description:**

The course aims to provide an introductory and comprehensive view of the history of diplomatic and cultural relations between Japan and the World in the latter half of the nineteenth century and early twentieth century. A basic knowledge of Japanese history is desirable, but no previous knowledge of this particular subject will be assumed. A small amount of reading will be expected each week.

---

家族の近代

(Fall)

THE FAMILY IN HISTORICAL PERSPECTIVE

ノッター, デビット

経済学部准教授

David Notter

Associate Professor, Faculty of Economics

---

**Course Description:**

In this course we will examine the family in historical and sociological perspective. The emphasis will be on "modern" family arrangements in nineteenth- and twentieth-century America, but some consideration will also be given to the family in Japan and Europe, and modern family arrangements will also be compared and contrasted with traditional family arrangements. The course will be organized thematically in accordance with the stages of the life course: childhood; adolescence; marriage; and old age.

---

日本経済の展望

(Fall)

ECONOMIC SURVEY OF CONTEMPORARY JAPAN

市川博也

国際センター講師 (上智大学教授)

Hiroya Ichikawa

Lecturer, International Center (Professor, Sophia University)

---

**Course Description:**

This course is prepared for students who are not familiar with Japanese economy. The course will examine the post-war Japan Model in order to understand the contemporary economic issues. Topics include the problems related to an aging population, the social security system, widening income disparity, burden of government debt, competition policy, and deregulation, corporate governance, and other important topics facing the contemporary Japanese economy. The roots of recent instability in the financial system, and the effectiveness of current government economic policies will be discussed. Students are expected to discuss current economic and financial news in each class. Seminar type.

---

日本キリスト教史

(Fall)

CHRISTIANITY IN JAPANESE HISTORY

ポールハチェット, ヘレン

経済学部教授

Helen Ballhatchet

Professor, Faculty of Economics

---

**Sub Title:**

A case study of cross-cultural contact

**Course Description:**

Christianity in Japan presents us with a number of paradoxes. For example, although the majority of Japanese today choose Christian-style weddings, the actual number of Christians amounts to less than one per cent of the total population (as opposed to 25 per cent in its close cultural neighbour, South Korea). This 'failure' contrasts with the relatively greater growth of Christianity in the late sixteenth and early seventeenth centuries, even though the total number of missionaries was much smaller and the linguistic and logistical barriers greater. Perhaps the greatest paradox occurred after Christianity was virtually eliminated through an increasingly severe campaign of persecution from 1614 onwards. Small groups in isolated communities succeeded in preserving recognisably Christian beliefs and practices. However, many of these groups refused to accept the authority of Roman Catholic missionaries when they returned to Japan in the second half of the nineteenth century.

In the course we will consider these and other issues, using a combination of primary and secondary materials. By studying the activities and ideas of missionaries, Japanese Christians, and Japanese who did not become Christian, student will gain general understanding of the dynamics of cross-

cultural contact. They will also learn about the nature of history through interpreting primary materials and studying different approaches to the history of Christianity in Japan.

---

多民族社会としての日本	(Fall)
MULTIETHNIC JAPAN	
柏崎千佳子	経済学部准教授
Chikako Kashiwazaki	Associate Professor, Faculty of Economics

---

**Course Description:**

This course introduces students to 'multiethnic Japan'. Although Japanese society is often portrayed as ethnically homogeneous, its members include diverse groups of people such as the Ainu, Okinawans, *zainichi* Koreans, and various 'newcomer' immigrants. In this course, students will learn about minority groups in Japan and their relations with the majority 'Japanese' population. The goal of this course is to acquire basic knowledge and analytic tools to discuss issues concerning ethnic relations in Japan and elsewhere.

---

政策決定, 歴史的記憶, 人種から見る明治期日本外交	(Fall)
JAPANESE DIPLOMACY IN THE MEIJI ERA	
飯倉 章	国際センター講師 (城西国際大学教授)
Akira Iikura	Lecturer, International Center (Professor, Josai International University)

---

**Sub Title:**

Decision-making, historical memory and race

**Course Description:**

This course aims to examine Japanese diplomacy in the Meiji era from diverse angles and provide students with some new perspectives on the historical events in the period such as the triple intervention, the Anglo-Japanese alliance, and the Russo-Japanese War. Students will gain an understanding of Japanese diplomacy in the Meiji era and learn how to analyze historical events through decision-making theories, historical memory, and the concept of race.

---

日本の文学	(Fall)
JAPANESE LITERATURE	
アーマー, アンドルー	文学部教授
Andrew Armour	Professor, Faculty of Letters

---

**Course Description:**

This course is intended to cover the history of Japanese literature from earliest times up to the modern era. Starting with the writing system, we will trace the conspicuous developments in poetry, prose and drama through the Nara, Heian, Kamakura, Muromachi and Edo periods. Included are such works as the *Manyōshū*, *Genji monogatari*, *Heike monogatari*, *Oku-no-hosomichi* and *Sonezaki shinjū*.

---

日本人の心理学 (2)	(Fall)
JAPANESE PSYCHOLOGY IN CONTEMPORARY JAPAN (2)	
手塚千鶴子	日本語・日本文化教育センター教授
Chizuko Tezuka	Professor, Center for Japanese Studies

---

**Sub title:**

'Amae' Reconsidered

**Course description:**

This course is designed to reconsider comprehensively the concept of 'Amae' which was first introduced as a key concept for understanding Japanese psychology by Dr. Doi, as the Japanese society itself has undergone a considerable change under the influence of the globalization since then, and because there has been the accumulated theoretical, speculative or empirical research including cross cultural one which shows the existence of *Amae* outside of Japan. Therefore, this course will explore answers to the following questions: 1) is *Amae* still a key concept for understanding Japanese psychology?, 2) how the expression and satisfaction of *Amae needs* is transformed in contemporary Japan, 3) to what extent and in what form *Amae* is found among people across cultures, and 4) what kind of challenges and/or benefits this Japanese concept can give to those people who do not find the exact equivalent in their mother tongues.

---

国際経営比較：日米企業を中心に

(Fall)

INTERNATIONAL COMPARISON OF MANAGEMENT SYSTEMS

吉田文一

国際センター講師（産業能率大学教授）

Fumikazu Yoshida

Lecturer, International Center (Professor, Sanno University)

---

**Sub Title:**

Pros and Cons of Japanese and American Management Systems

**Course Description:**

This course aims to clarify the differences between the Japanese management system and the American system. Over the last two decades, the appraisal of Japanese management has fallen sharply from a high level during the 1980s, while the evaluation of American management has risen equally sharply. In particular, in the “post-bubble” period in Japan, there is a strong tendency to criticise the domestic management system, and praise American-style management nationwide. This raises a major question: how can the appraisal of a well-established management system change so uncritically in a stable and peaceful society? We will discuss this issue in order to understand the significance of management systems. Based on this understanding, we examine the current issues that both systems face today.

---

アートワークショップ／日本のアートと文化

(Fall)

ARTS / ART WORKSHOP THROUGH CROSS-CULTURAL EXPERIENCE

菱山裕子

国際センター講師

Yuko Hishiyama

Lecturer, International Center

---

**Sub Title:**

With a focus on Japanese Art

**Course Description:**

Course Description:

This is a course designed to provide both international and Japanese students who are interested in art from comparative culture or intercultural communication perspectives with student-centered learning experience of Japanese art. Thus students in this course will engage in diverse activities both in and outside of class within this multicultural student body. The activities include workshops, field trips, and research. The goal of this workshop is to give students a firm grounding in cultural, social, historical, and practical aspects of art in contemporary Japan.

Final Project:

After accumulating various experiences in Japan, students make a self-portrait in any media in 2D, 3D or as an installation.

---

日本の宗教：救済の探求

(Fall)

RELIGIONS IN JAPAN: IN SEARCH OF SALVATION

ナコルチェフスキー、アンドロイ

文学部教授

Andriy Nakorchevski

Professor, Faculty of Letters

---

**Course Description:**

In this course I would like to introduce main religious teachings existed in Japan from old times and up to our days. First of all we will try to define what religion is, why there are so many different religious traditions and what they have in common. Then we will discuss most of religions either been originated or introduced to Japan using a lot of video materials and different shrines and temples mostly in the vicinity of Mita campus. This is an introductory courses and no preliminary knowledge of the subject is necessary.

---

日本の経営

(Fall)

JAPANESE SOCIETY AND BUSINESS

梅津光弘

商学部准教授

Mitsuhiro Umezu

Associate Professor, Faculty of Business and Commerce

---

**Course Description:**

Goal:

In this course, we will analyse contemporary Japanese society and business from an ethical perspective.

Through lecture and case discussion, I would like to find a balancing point of culturally contextualized management and globally acceptable norms for future international business. Also, I would like to discuss the strong points of Japanese Style Management which could be transferable to other cultures, and the weak points which would be universally unacceptable.

Method:

First, I will highlight the historical and theoretical aspects fundamental to analyzing Japanese society and business from an ethical perspective. Then I will assign you to read short cases which describe recent incidents that have caused public controversy both in Japan and elsewhere.

## INTRODUCTION TO JAPANESE LAW

小林 節

法学部教授

Setsu Kobayashi

Professor, Faculty of Law

**Course Description:**

1. Outline of Japanese Legal System
  - (1) Constitutional Law
  - (2) Civil Law
  - (3) Commercial Law & Corporation Law
  - (4) Security Exchange Law
  - (5) Bank Law
  - (6) Real Estate Law
  - (7) Intellectual Property
  - (8) Civil Procedure
  - (9) Labor Law
  - (10) Criminal Law
  - (11) Criminal Procedure
  
2. How to associate with Japanese People and Legal Professions on Legal Matters
  - (1) Characteristics of Japanese People
  - (2) Attitude of Japanese Officials and Lawyers
    - ① Administration
    - ② Judges and Public Prosecutors
    - ③ Attorneys and Law Firms
  - (3) Clients
  - (4) Taboos
  - (5) Languages

## SCIENCE, TECHNOLOGY AND CULTURE (Yagami Campus)

ドゥウルフ, チャールズ

理工学部教授

Charles De Wolf

Professor, Faculty of Science and Technology

**Sub Title:**

Science in Cross-Cultural Perspective

**Course Description:**

The leitmotif of this course is the question of how our perceptions of and approaches to science are influenced both by the Zeitgeist and by the particular culture in which we have grown up. How, for example, is the "evolution controversy" in America a peculiarly "American" phenomenon? How is it that Japanese scientists and engineers appear to be (on the whole) remarkably indifferent to ideological issues? Other topics include :( 1) what is a proper or possible subject of scientific inquiry. To what extent, for example, can the study of language be considered "scientific"? (2) What is the appropriate role of scientists in matters political and social? In addition to the primary goals discussed above, it is hoped that this course will enable non-Japanese students to have a better understanding of Japanese history and culture through a cross-cultural approach to the philosophy of science. Students are strongly encouraged to participate actively, discussion being preferred to "lecturing."

## アート・センター設置講座

アート・センターはこれまでに、身体表現・美術・環境デザイン・音楽・評論にまたがる四つのアート・アーカイヴ、すなわち土方巽、瀧口修造、ノグチ・ルーム、油井正一のアーカイヴを構築してきました。本講座は、その実績をふまえ、また世界のアート・アーカイヴの実践活動を参照しつつ、アート・アーキヴィストの養成およびリカレント的な教育を目的として開設されました。アート・アーキヴィストとは、美術資料の収集・保存・調査・研究・公開・普及を目的とする学芸員の活動にくわえ、対象とする資料の範囲を音楽、演劇、舞踊、身体表現、文学などの芸術領域とし、またデジタル情報化を中心に知的財産、公共財、社会受容の視点から資料の研究と活用を行う専門家です。現代社会は、文化活動を支える創造的なコンテンツ・デザインを要請しています。この講座は、そうした求めに対応しうる新しいアーキヴィスト概念を追究し、人材の育成をめざします。

### 1. 履修上の取り扱い

慶應義塾大学大学院生が対象です。受講資格・条件等はありませんが、履修の取り扱いについて各研究科の履修案内で確認の上、履修申告をしてください。

### 2. ガイダンス

履修希望者は、4月7日（土）13:00～13:30（513番教室）に出席してください。秋学期にはガイダンスは行いません。

#### アート・アーカイヴ特殊講義（春学期）2単位

文学部 教授 前田 富士男  
アート・センター 准教授（有期） 渡部 葉子  
講師 上崎 千

#### 授業科目の内容：

講義，講読，討論を行う。

#### テキスト：

適宜指示する。

#### 参考書：

『Booklet 06 ジェネティック・アーカイヴ・エンジン——デジタルの森で踊る土方巽』慶應義塾大学アート・センター，2000年。

#### 授業の計画：

- ① 基本概念の検討（ミュージアム，アーカイヴ，造形（美術工芸）資料，音響資料，書写資料ほか）
- ② 制度としてのアーカイヴ論（博物館法・文化財保護法・著作権法関連，IT環境など）
- ③ 芸術資料論（収集・保存・調査・公開の方法，システム論，情報化の手法，データベース概念）
- ④ 価値概念の検証（情動的価値と芸術的価値，文化情報と公共性デザイン）

#### 履修者へのコメント：

履修希望者は、ガイダンスおよび初回の授業には必ず出席すること。アート・アーカイヴ特殊講義演習（秋学期）とあわせて履修するのが望ましい。

#### 成績評価方法：

レポートによる評価ならびに平常点

#### アート・アーカイヴ特殊講義演習（秋学期）2単位

文学部 教授 前田 富士男  
アート・センター 准教授（有期） 渡部 葉子  
講師 上崎 千

#### 授業科目の内容：

ケース・スタディ，実習，討論を行う。

#### テキスト：

適宜指示する。

#### 参考書：

適宜指示する。

#### 授業の計画：

- ① 芸術資料調査（資料の分類，形状，性質の検討，調書作成法，データ化手法）
- ② 研究アーカイヴ特殊資料論（制作関連資料，二次資料の運用，造形系資料・音響系資料・身体表現系資料・言語系資料の分類）
- ③ ケース・スタディ（絵画資料，楽譜資料，書写資料，写真資料，動画像資料，録音資料）
- ④ アート・アーカイヴの設計と構築と運用

#### 履修者へのコメント：

原則として10名程度とする。履修希望者がこれを大きく超える場合には履修者数を制限するので、ガイダンスおよび春学期初回の授業には必ず出席すること。アート・アーカイヴ特殊講義（春学期）とあわせて履修するのが望ましい。

#### 成績評価方法：

レポートによる評価ならびに平常点

## デジタルメディア・コンテンツ（DMC）統合研究機構設置講座

デジタルメディア・コンテンツ統合研究機構（DMC機構）は、2004年7月に文部科学省科学技術振興調整費の戦略的研究拠点育成プログラムに採択され、設立された組織です。デジタルコンテンツの創造と流通を通して環境の整備と大学のシステム改革・制度改革を行い、社会の流れを変えることを目的としています。

設立後の1年間でDMC機構は、（1）研究員の年俸を50%増減まで変動可能とする年俸制の制定、（2）海外在住の研究員の任用、（3）高度な技術を持つ技術専門職を登用するための専門員制度の導入など、いくつかの制度改革を行いました。教育環境においては、学生が動画を使ったレポートを提出する時代を想定し、コンテンツと表現力が重視される時代を慶應義塾が先導できるよう、メディア環境を対応させていくことを目指しています。そして来たるべき“コンテンツの時代”において、シナリオを持ったコンテンツの創造と流通ができるように、各キャンパスにデジタルコンテンツ工房と呼ばれる拠点を設置しました。

またDMC機構は、北米・欧州・アジアにもいくつかの拠点を整備しています。世界中の多くの連携機関との共同研究を行なうことで、国際的研究活動も展開します。海外拠点においては、国際的な人材育成を目指した国際インターンシップ制度の導入も検討中です。デジタルコンテンツは分野・領域を問わず必要とされる異分野が融合されたものであります。総合大学として、国際的人材が育成できる教育プログラムの検討も進めていきます。

各キャンパスの工房では、コンテンツ作成を可能にする設備とサービスが展開されています。一人一人が快適にデジタルコンテンツを作成し、安心して利用できるようなメディア環境を整備することで、デジタルコンテンツがより身近な存在になることを願っています。そしてコンテンツの利用が、また別の新しいコンテンツの創造につながるようなサイクルを生み出すシステムへ成長させていきたいと思えます。

ネットワーク環境、デジタル環境がめまぐるしく進歩していく中で、デジタルコンテンツの世界には無限の可能性が広がります。しかし、デジタルコンテンツに関する著作権の問題やセキュリティ（安全性）の確保など、まだまだ課題もたくさんあります。それらの課題に取り組み、実験的試みを繰り返しながら、社会に貢献できる研究成果を生み出すための体制を築きたいと考えています。

DMC機構は研究体制の再編や制度改革を繰り返しながら5年間のプロジェクトを通して大きな研究成果をあげるとともに、科学技術振興調整費による支援終了後の組織の財政的自立を視野にいれ、知の創造と流通を通じた社会貢献と国際社会への人材の創出を目指します。

本年度は次ページ以降の3講座を開設いたします。

# 「クリエイティブエコノミ論」(金 正勲)

開講時限：2007年度 秋学期 木5限

科目コード：／2単位

カテゴリ：(大学院)

開講場所：三田キャンパス

授業形態：ディスカッション

## 1. 目的・内容

本授業では、知識情報社会の次の社会経済ステージとして注目される創造経済（Creative Economy）について、その歴史的な文脈を踏まえ、学際的な観点から考察を行うことを目的とする。授業はその週の Readings を事前に読むことを前提に、ディスカッション形式で進める。受講者は、積極的にディスカッションに参加し、synthesis paper を作成することで創造経済に関する自分独自の視点を構築する。

## 2. 授業形式・形態

輪読とディスカッション

## 3. 授業スケジュール

下記の文献を輪読し、討論することで、創造経済の多面的な側面について理解を深める。

### 第1回 オリエンテーション

概要説明（全体の構成、達成目標と運営方針、成績評価の基準）

### 第2回 創造性（1）

Required Reading:

茂木 健一郎（2005）－脳と創造性

Optional Readings:

－Paul Romer(1993)－Ideas and Things

### 第3回 創造性（2）

Required Reading:

－Mihaly Csikszentmihalyi(2000)－Creativity

Optional Readings:

－Robert Sternberg(1999)－Handbook of Creativity

### 第4回 創造階層の台頭（1）

Required Reading:

－Richard Florida(2002)－The Rise of Creative Class

Optional Readings:

－Thomas Friedman(2005)－The World Is Flat

### 第5回 創造階層の台頭（2）

Required Reading:

－Richard Florida(2002)－The Rise of Creative Class

Optional Readings:

－David Brooks(2000)－Bobos in Paradise

### 第6回 市場、企業組織、ネットワーク

Required Reading:

－Walter Powell(1989)－Neither Market nor Hierarchy: Network Forms of Organization

Optional Readings:

－Henry Mintzberg(1979)－The Essence of Structure

#### 第7回 経験経済

Required Reading:

-Joseph Pine III & James Gilmore(1998)-The Experience Economy

Optional Readings:

-Daniel Pink(2005)-A Whole New Mind: Moving from the Information Age to the Conceptual Age

#### 第8回 文化産業と文化政策

Required Reading:

-David Hesmondhalgh(2002)-The Cultural Industries

Optional Readings:

-Andy Pratt(2005)-Cultural industries and cultural policy: an oxymoron?'

#### 第9回 創造産業と創造産業政策

Required Reading:

-Terry Flew(2002)-Beyond Ad Hockery: Defining Creative Industries

Optional Readings:

-Stuart Cunningham(2004)-The Creative Industries After Cultural Policy

#### 第10回 創造経済

Required Reading:

-John Howkins(2001)-The Creative Economy

Optional Readings:

-Shalini Venturelli(2002)-From the Information Economy to the Creative Economy

#### 第11回 学生推薦の Reading (1)

#### 第12回 学生推薦の Reading (2)

#### 第13回 全体のまとめ

### 4. 評価方法

Class Discussion への貢献度 (50%)

Synthesis Paper (50%)

### 5. 履修条件

なし

### 6. 受入予定人数

### 7. 最低受入人数を超えた場合の選考方法

### 8. 参考文献

3を参照

### 9. 関連プロジェクト

なし

### 10. 課題

Readings に関する Synthesis Paper

### 11. 連絡先

メールアドレス : kim@dmc.keio.ac.jp



12. 研究室ホームページ

なし

13. 来期の研究プロジェクトのテーマ予定

なし

14. その他・留意事項

なし

「メディア融合政策論」(中村 伊知哉・金 正勲)

開講時限：2007年度 春学期 木3限

科目コード：／2単位

カテゴリ：(大学院)

開講場所：三田キャンパス

授業形態：講義と討論

1. 主題と目標／授業の手法など

ネットワークの高度化により、通信ネットワークがIP化・ブロードバンド化し、放送ネットワークがデジタル化・双方向化されると、今までの情報の形態や伝送媒体の違いによる産業間の区分は無意味になる。それにより、今まで別々の領域であった放送と通信が融合し、法制度も統合されることになる。本講義では、こうしたメディア部門における技術、産業構造、サービス様式、消費形態におけるパラダイムシフトに対応するための、メディア融合政策の在り方について考えることを目的とする。授業は、講義、ゲストレクチャー、そして討論によって構成される。

2. 教材・参考文献

毎回の授業においてハンドアウトを配布する。とくに教科書のような教材は用いないが、この授業の参考になる文献については、第1回目に紹介する。それ以外にも必要があれば、適宜紹介する。

3. 授業計画

第1回 オリエンテーション

概要説明(全体の構成、達成目標と運営方針、成績評価の基準)

第2回 メディア融合と情報通信政策

講師によるレクチャー

第3回 メディア融合時代の通信政策①

ゲスト(総務省)によるレクチャーと討論

第4回 メディア融合時代の通信政策②

ゲスト(産業界)によるレクチャーと討論

第5回 メディア融合時代の放送政策①

ゲスト(総務省)によるレクチャーと討論

第6回 メディア融合時代の放送政策②

ゲスト(産業界)によるレクチャーと討論

- 第7回 メディア融合時代の著作権制度①  
ゲスト（文化庁）によるレクチャーと討論
- 第8回 メディア融合時代の著作権制度②  
ゲスト（産業界）によるレクチャーと討論
- 第9回 メディア融合時代のコンテンツ政策①  
ゲスト（内閣知財本部）によるレクチャーと討論
- 第10回 メディア融合時代のコンテンツ政策②  
ゲスト（産業界）によるレクチャーと討論
- 第11回 メディア融合時代の利用政策①  
ゲスト（経済産業省）によるレクチャーと討論
- 第12回 メディア融合時代の利用政策②  
ゲスト（産業界）によるレクチャーと討論
- 第13回 パネルディスカッションと総括

**4. 提出課題・試験・成績評価の方法など**

- 出席（30%）
- 討論への貢献度（30%）
- レポート（40%）

**5. 履修上の注意・その他**

なし

**6. 前提となる知識（科目名等）**

なし

**7. 履修者数制限（予定人数および制限方法）**

履修人数を制限しない。

**8. 授業 URL**

なし

**9. 学生が準備するソフト・機材**

なし

**10. 授業に関する連絡先**

メールアドレス：kim@dmc.keio.ac.jp

# 「DMC エンタテインメント・コンテンツ・プロデュース論」(稲蔭 正彦・岸 博幸)

2007年度 春学期 木6限

科目コード：／2単位

カテゴリ：(大学院)

開講場所：三田キャンパス

授業形態：講義

## 1. 主題と目標/授業の手法など

我が国は、コンテンツ立国を目指している。しかし、20世紀型のコンテンツジャンル及びそのビジネスモデルは、国際競争力において優位な立場にない。本授業は、ユビキタス社会における21世紀型の新しいコンテンツジャンルの可能性を探り、プロデュースをしていくために必要な要素を学ぶ。プロジェクトマネージメント、法務、財務、マーケティングをはじめ、最先端デジタル技術やネットワーク技術を活用したコンテンツビジネスについて考えていく。

## 2. 教材・参考文献

なし

## 3. 授業計画

### 第1回 プロデューサー論 4月12日

本授業のオーバービューとして、授業の概要説明を行う。その後、ビジネスモデル、技術、政策等の重要性を説明した上で、エンタテインメント・コンテンツのプロデューサーに不可欠な資質や、商品開発、リクープ等の基礎的な知識についての整理を行う。

### 第2回 エンタテインメント・コンテンツの現状と将来展望 4月19日

様々なエンタテインメント・コンテンツの現状を、海外との比較等を交えて概観する。その際、伝統文化等の新たなコンテンツの可能性についても検討するとともに、21世紀における新しいエンタテインメント・コンテンツ領域の可能性をメディアの変遷やライフスタイルの変化などを踏まえた観点から考察する。

### 第3回 メディアの現状と将来展望 4月26日

テレビ等の従来型メディアとインターネット等の新たなメディアの双方について、その現状を、海外との比較等を交えて概観し、21世紀におけるメディアの望ましい姿を展望する。

### 第4回 プロジェクト・ケーススタディ 5月10日

この授業でのケース・スタディの対象となる3つのエンタテインメント・コンテンツのプロジェクト案を紹介し、学生のグループ分けを行い、担当のプロジェクトを決める。担当となったプロジェクトに関して、以降、それぞれのグループ毎に具体的な企画、プレゼンテーションを実施してゆき、本授業内にて発表を行う。

### 第5回 コンテンツ・プロデュースの基礎(1) 5月17日

コンテンツのプロデュースに必要な最低限の知識であるファイナンス、アカウントティングなどについてオーバービューを行い、基礎知識を習得する。

### 第6回 コンテンツ・プロデュースの基礎(2) 5月24日

コンテンツのプロデュースに必要な最低限の知識であるマーケティング、法務などについて、オーバービューを行い、基礎知識を習得する。

### 第7回 コンテンツの発掘、見極め方 5月31日

プロデューサーにとって、コンテンツの原石を発掘しその可能性を見極めることは重要である。具体的な成功事例を参考にしながら、プロデューサーのコンテンツに対する目利きのポイントを紹介する。

#### 第8回 企画プレゼンテーション 6月7日

提示された課題に対するプロデュースの企画案のプレゼンテーションを行うとともに、それに基づくディスカッションを行い、更なる論点を掘り下げていく。

#### 第9回 プロジェクトマネジメント 6月14日

コンテンツ・プロデュースの実行段階において重要であるとともに、プロジェクトの成否に大きな影響を及ぼすエンタテイメント・コンテンツのプロジェクトマネジメントに関して、具体的な事例を参考に知識を深めてゆく。

#### 第10回 IT・コンテンツ政策の方向性と関連する法律の現状 6月21日

政府のIT政策、コンテンツ政策の現状と問題点を分析するとともに、関連する法律の体系を整理し、通信と放送の融合の方向性や、21世紀の日本におけるコンテンツの重要性等についての理解を深める。

#### 第11回 コンテンツ関連の技術の動向（1） 6月28日

先端コンピュータグラフィックス、ミックスドリアリティ及びバーチャルリアリティなどの視覚技術に加え、ユーザーがコンテンツを操作をするインタラクショナルデザインのための諸技術など、次世代のコンテンツを設計することを考慮した関連技術に関する理解を深める。

#### 第12回 コンテンツ関連の技術の動向（2） 7月5日

ネットワークは、コンテンツ流通のパラダイムシフトをもたらしはじめている。p2pの問題と可能性、IPマルチキャスト、移動体通信、超高速インターネットなどの技術に関する理解を深める。

#### 第13回 最終プレゼンテーション 7月12日

提示された課題に対するプロデュースの最終提案をプレゼンテーションする。プレゼンテーションにおいては、実際のビジネスのように、内容、実効性、プレゼン能力などを多角的に評価してゆく。

#### 4. 提出課題・試験・成績評価の方法など

コンテンツ企画の課題発表と企画書による成績評価

#### 5. 履修上の注意・その他

なし

#### 6. 前提となる知識（科目名等）

なし

#### 7. 履修者数制限（予定人数および制限方法）

履修人数を制限しない。

#### 8. 授業 URL

なし

#### 9. 学生が準備するソフト・機材

なし

#### 10. 授業に関する連絡先

inakage@sfc.keio.ac.jp

# 他大学大学院との相互科目履修に関する協定

慶應義塾大学大学院文学研究科修士課程および学習院大学大学院人文科学研究科博士前期課程における相互科目履修に関する協定書

昭和48年12月1日締結  
平成14年11月1日改正

## 記

**第1条** 両研究科の学生は、昭和49年4月より、相互に相手側研究科設置科目を修士課程または博士前期課程在学中に計8単位を限度として履修することができる。

**第2条** 第1条に該当する学生は大学院交流学生と称する。

**第3条** 第1条に規定する履修科目については、受入側研究科はその学則にもとづいて成績を評価し、単位を認定して相手側研究科に通知する。相手側研究科は修士課程または博士前期課程の単位としてこれを認めるものとする。

**第4条** 相手側研究科の設置科目を履修する学生は自己の属する研究科指導教員の承認をうけ、かつ相手側研究科の担当教員の許可をうけなければならない。ただし、担当教員は学生数その他の都合からこれを許可しないことがある。

**第5条** 本制度の運用について協議の必要を生じた時は、直ちに両研究科間で協議し、常に円滑な運用と将来の発展に努力するものとする。

**第6条** 本制度は昭和47年度および48年度を試行期間として、昭和47年4月より実施してきたものであるが、昭和49年4月より正規に発足させるものである。

**第7条** 本制度に関する内規は別に定める。

## 附 則

この協定は昭和48年12月1日から施行する。

## 附 則 (平成14年11月1日)

この協定は平成15年4月1日から施行する。

以 上

慶應義塾大学大学院文学研究科および早稲田大学大学院文学研究科の修士課程における相互科目履修に関する協定書

昭和48年12月1日締結  
平成14年11月1日改正

## 記

**第1条** 両研究科の学生は、昭和49年4月より、相互に相手側研究科設置科目を修士課程在学中に計8単位を限度として履修することができる。

**第2条** 第1条に該当する学生は大学院交流学生と称する。

**第3条** 第1条に規定する履修科目については、受入側研究科はその学則にもとづいて成績を評価し、単位を認定して相手側研究科に通知する。相手側研究科は修士課程の単位としてこれを認めるものとする。

**第4条** 相手側研究科の設置科目を履修する学生は自己の属する研究科指導教員の承認をうけ、かつ相手側研究科の担当教

員の許可をうけなければならない。ただし、担当教員は学生数その他の都合からこれを許可しないことがある。

**第5条** 本制度の運用について協議の必要を生じた時は、直ちに両研究科間で協議し、常に円滑な運用と将来の発展に努力するものとする。

**第6条** 本制度は昭和47年度および48年度を試行期間として、昭和47年4月より実施してきたものであるが、昭和49年4月より正規に発足させるものである。

**第7条** 本制度に関する内規は別に定める。

## 附 則

この協定は昭和48年12月1日から施行する。

## 附 則 (平成14年11月1日)

この協定は平成15年4月1日から施行する。

以 上

(単位互換協定)

慶應義塾大学大学院文学研究科と早稲田大学大学院教育学研究科の学生交流に関する協定書

慶應義塾大学大学院文学研究科と早稲田大学大学院教育学研究科は、教育の一層の充実を目指して、両大学大学院研究科の学生が受入大学大学院研究科の授業科目を履修することについて協定を締結する。

(受 入)

**第1条** 両大学大学院研究科は、受入大学大学院研究科の授業科目の履修および単位の修得を希望する学生を、相互に受け入れることができる。

2 学生を受け入れるための手続は、別に定める。

(受入学生の身分)

**第2条** 両大学大学院研究科は、前条によって受け入れる学生を交流学生と称する。

(学生数)

**第3条** 当該年度の交流学生数は、原則として両大学大学院研究科双方同数とする。

(履修期間)

**第4条** 交流学生の履修期間は、当該学生の履修科目の設置期間とする。

(履修科目の範囲および単位数)

**第5条** 交流学生が履修できる授業科目および単位数は、別に定める。

(履修方法・単位の授与・成績評価等)

**第6条** 交流学生の履修方法、単位の授与および成績評価等については、受入大学の大学院研究科の定めるところによる。

2 交流学生が修得した単位の認定に関わる事項は、当該学生の所属する大学の大学院研究科が定めるところによる。

(学費等)

**第7条** 交流学生の学費等は、相互に徴収しないものとする。

(覚 書)

**第8条** 本協定書の実施に必要な事項について定めるために、覚書を締結する。

(その他)

**第9条** 本協定書は、双方の署名によって発効し、2003年4月1日より実施する。ただし、発効日より3年を経過した後に見直しを行う。

2002年12月1日

#### 慶應義塾大学大学院文学研究科と早稲田大学大学院教育学研究科の学生交流に関する覚書

慶應義塾大学大学院文学研究科と早稲田大学大学院教育学研究科は、「慶應義塾大学大学院文学研究科と早稲田大学大学院教育学研究科の学生交流に関する協定書」(2002年12月1日付)に基づき本覚書を締結する。

##### 1. 対象者

両大学大学院研究科に在学する修士課程正規学生を対象とする。

##### 2. 申請および承認手続

交流学生として科目の履修を希望する学生は、所定の申請手続をとり、所属大学大学院研究科の指導教員の承認を受け、受入大学の大学院研究科の履修希望科目担当教員の許可を得るものとする。

##### 3. 履修可能科目および単位数

- (1) 交流学生が履修できる授業科目は、学生を受け入れる大学の大学院研究科が定め、それぞれ相手大学の大学院研究科へ通知する。
- (2) 交流学生が履修できる単位数の上限は、在学中8単位とする。

##### 4. 施設利用の便宜

交流学生が履修に必要な施設・設備の利用については、便宜を供与する。

##### 5. 学費等

協定第7条の学費の内訳は、授業料・施設費・演習料・実験実習費等とする。

##### 6. その他

本覚書に定めるもののほか、本協定の実施に関し必要な事項は、両大学大学院研究科の協議によって定める。

2002年12月1日

#### 慶應義塾大学大学院文学研究科※哲学専攻(哲学・倫理学分野)および上智大学大学院哲学研究科における大学院特別聴講生制度に関する協定

※平成13年度新生より哲学専攻が哲学・倫理学専攻に改組されました。

1. 慶應義塾大学大学院文学研究科※哲学専攻(哲学・倫理学分野)および上智大学大学院哲学研究科に在籍する学生が、研究上の必要により相手側研究科設置の授業科目の履修を希望する場合、所属研究科の定める範囲内で履修することができる。
2. 第1項に該当する学生は大学院特別聴講生と称する。
3. 定められた手続きを経て、相手側研究科生の履修申込みを受けたときは、当該研究科は正規の授業に支障のないかぎり、履修を許可する。
4. 履修が許可された科目については、受入側研究科は相手側

研究科の学則に基づいて、成績を評価し、単位を認定して相手側研究科に通知する。相手側研究科は修士課程の単位としてこれを認めるものとする。但し、後期博士課程の学生については、聴講のみとし、単位・成績の認定は行わないこととする。

5. 本制度に関する諸手続は別に定める。

6. 本制度に関する内規は別に定める。

7. 本制度の実施に関する変更は両研究科間の協議により行うものとする。

##### 附 則

本制度は1995年4月1日より施行する。

#### 大学院特別聴講生制度に関する諸手続について

1. 大学院特別聴講生届(所属大学の学事担当部署にあり)に必要な事項を記入して、指導教員の承認をうける。次に相手校に赴き、講義担当者の当該授業に出席して承認を受けた後、相手校学事担当部署へ提出すること。
2. 履修が許可された場合、指定の期間内に各学事担当部署窓口にて特別聴講生届用紙本人控と引換えに特別聴講生証を交付する。
3. 相手校の授業科目の履修を希望する場合は、履修決定以前の聴講の段階でも必ず講義担当者の許可を得ること。
4. 万一、履修を途中でやめるようなときは、速やかに講義担当者、相手校学事担当部署および所属大学の学事担当部署に連絡すること。
5. 相手校の授業に関する連絡事項は、所属大学に掲示するので充分注意すること。

# 関係規程抜粋

文学研究科在籍者に特に関わりの深い規程について抜粋してありますので、履修要項と合わせて参照してください。なお、大学院学則については、入学時に配付する慶應義塾大学大学院学則を参照してください。

## 〈1 学 位〉

- 1-1 学位規程（抜粋）
- 1-2 学位の授与に関する内規

## 〈2 奨 学 金〉

- 2-1 大学院奨学規程
- 2-2 小泉信三記念大学院特別奨学金規程
- 2-3 小泉信三記念大学院特別奨学金規程施行細則

## 〈3 授業料減免〉

- 3-1 授業料等減免規程
- 3-2 留学期間中の学費の取り扱いに関する規程

## 〈4 そ の 他〉

- 4-1 大学院在学期間延長者取扱い内規
- 4-2 大学院在学期間延長者並びに年度途中の修了者に対する在学科  
その他の学費に関する取扱い内規

学位請求論文製本表紙見本

# 1 学 位

## 1-1 学位規程 (抜粋)

昭和31年2月17日制定  
平成19年2月6日改正

(目的)

**第1条** 本規程は、慶應義塾大学学部学則（大正9年5月5日制定）および慶應義塾大学大学院学則（大正9年5月5日制定）に規定するもののほか、慶應義塾大学が授与する学位について必要な事項を定めることを目的とする。

(学位)

**第2条** ① 本大学において授与する学位は次のとおりとする。

### 1 学 士

#### 文 学 部

##### 人文社会学科

哲学専攻	学士 (哲学)
倫理学専攻	学士 (哲学)
美学美術史学専攻	学士 (美学)
日本史学専攻	学士 (史学)
東洋史学専攻	学士 (史学)
西洋史学専攻	学士 (史学)
民族学考古学専攻	学士 (史学)
国文学専攻	学士 (文学)
中国文学専攻	学士 (文学)
英米文学専攻	学士 (文学)
独文学専攻	学士 (文学)
仏文学専攻	学士 (文学)
図書館・情報学専攻	学士 (図書館・情報学)
社会学専攻	学士 (人間関係学)
心理学専攻	学士 (人間関係学)
教育学専攻	学士 (人間関係学)
人間科学専攻	学士 (人間関係学)

経済学部 学士 (経済学)

法 学 部 学士 (法学)

商 学 部 学士 (商学)

医 学 部 学士 (医学)

#### 理工学部

機械工学科	学士 (工学)
電子工学科	学士 (工学)
応用化学科	学士 (工学)
物理情報工学科	学士 (工学)
管理工学科	学士 (工学)
数理科学科	
数学専攻	学士 (理学)
統計学専攻	学士 (工学)
物理学科	学士 (理学)
化学科	学士 (理学)
システムデザイン工学科	学士 (工学)
情報工学科	学士 (工学)
生命情報科	学士 (理学) または 学士 (工学)

総合政策学部 学士 (総合政策学)

環境情報学部 学士 (環境情報学)

看護医療学部 学士 (看護学)

### 2 修 士

#### 文学研究科

哲学・倫理学専攻	修士 (哲学)
美学美術史学専攻	修士 (美学)
史学専攻	修士 (史学)
国文学専攻	修士 (文学) または 修士 (日本語教育学)

中国文学専攻	修士 (文学)
英米文学専攻	修士 (文学)
独文学専攻	修士 (文学)
仏文学専攻	修士 (文学)
図書館・情報学専攻	修士 (図書館・情報学)

#### 経済学研究科

修士 (経済学)

#### 法学研究科

修士 (法学)

#### 社会学研究科

修士 (社会学)

修士 (心理学)

修士 (教育学)

#### 商学研究科

修士 (商学)

#### 医学研究科

修士 (医科学)

#### 理工学研究科

基礎理工学専攻 修士 (理学) または

修士 (工学)

総合デザイン工学専攻 修士 (理学) または

修士 (工学)

開放環境科学専攻 修士 (工学)

#### 経営管理研究科

修士 (経営学)

#### 政策・メディア研究科

政策・メディア専攻 修士 (政策・メディア)

#### 健康マネジメント研究科

看護・医療・スポーツ

マネジメント専攻 修士 (看護学) または

修士 (健康マネジメント学)

### 3 博 士

#### 文学研究科

哲学・倫理学専攻	博士 (哲学)
美学美術史学専攻	博士 (美学)
史学専攻	博士 (史学)
国文学専攻	博士 (文学)
中国文学専攻	博士 (文学)
英米文学専攻	博士 (文学)
独文学専攻	博士 (文学)
仏文学専攻	博士 (文学)
図書館・情報学専攻	博士 (図書館・情報学)

#### 経済学研究科

博士 (経済学)

#### 法学研究科

博士 (法学)

#### 社会学研究科

社会学専攻 博士 (社会学)

心理学専攻 博士 (心理学)

教育学専攻 博士 (教育学)

#### 商学研究科

博士 (商学)

#### 医学研究科

博士 (医学)

#### 理工学研究科

基礎理工学専攻 博士 (理学) または

博士 (工学)

総合デザイン工学専攻 博士 (理学) または

博士 (工学)



開放環境科学専攻	博士（工学）
経営管理研究科	博士（経営学）
政策・メディア研究科	
政策・メディア専攻	博士（政策・メディア）
健康マネジメント研究科	
看護・医療・スポーツ マネジメント専攻	博士（看護学）または 博士（健康マネジメント学）

#### 4 専門職学位

法務研究科	
法務専攻	法務博士（専門職）

② 前項第3号に定めるほか博士（学術）の学位を授与することができる。

（学士学位の授与要件）

**第2条の2** 学士の学位は、大学を卒業した者に与えられる。

（修士学位の授与要件）

**第3条** 修士の学位は、大学院前期博士課程を修了した者に与えられる。

（課程による博士学位の授与要件）

**第4条** 博士の学位は、大学院博士課程を修了した者に与えられる。

（論文による博士学位の授与要件）

**第5条** 博士の学位は、研究科委員会の承認を得て学位論文を提出して論文の審査に合格し、かつ大学院博士課程の修了者と同等以上の学識があることを確認（以下「学識の確認」という。）された者に与えられる。

（専門職学位の授与要件）

**第5条の2** 専門職学位は、専門職大学院の課程を修了した者に与えられる。

（学識の確認の特例）

**第6条** ① 大学院博士課程における教育課程を終え、学位論文を提出しないで退学した者のうち、退学の日から起算して研究科委員会が定める年限以内に論文による博士学位を申請した者については、研究科委員会が適当と認めた場合、学識の確認の一部もしくはすべてを行わないことができる。

② 学位論文以外の業績および経歴の審査によって、研究科委員会が学識の確認の一部もしくはすべてを行う必要がないと認めた場合には、当該審査をもって学識の確認の一部もしくはすべてに代えることができる。

（課程による学位の申請）

**第7条** ① 第3条の規定に基づき修士学位を申請する者は、学位論文3部を指導教授を通じて当該研究科委員会に提出するものとする。

② 第4条の規定に基づき博士学位を申請する者は、学位申請書に学位論文3部および所定の書類を添え、指導教授を通じて当該研究科委員会に提出するものとする。

（論文による学位の申請）

**第8条** 第5条の規定に基づき博士学位を申請する者は、学位申請書に学位論文3部および所定の書類を添え、その申請する学位の種類を指定して、学長に提出しなければならない。

（審査料）

**第9条** 第5条の規定に基づき博士学位を申請する者に対する審査料は、次のとおりとする。

1 本大学大学院博士課程の教育課程を終え学位論文を提出しないで退学した者	50,000円
2 本大学学士、修士または専門職の学位を与えられた者で前号の定め以外の者	70,000円
3 前2号のいずれにも該当しない者	100,000円

4 本塾専任教職員である者	20,000円
	（医学研究科については40,000円）

（審査ならびに期間）

**第10条** ① 修士および博士の学位論文の審査ならびにこれに関連する試験等の合否は、当該研究科委員会が判定する。

② 博士の学位論文の審査ならびにこれに関連する試験および学識の確認等は、論文受理後1年以内に終了するものとする。

**第11条** 研究科委員会は、学位論文の審査ならびにこれに関連する試験等を行うために、関係指導教授および関連科目担当教授2名以上からなる審査委員会（主査および副査）を設置しこれに当たらせる。ただし、必要がある場合は准教授または専任講師・講師（非常勤）等を特に審査委員会に加えることができる。

（審査結果の報告・判定方法）

**第12条** ① 審査委員会は、論文審査の要旨ならびに試験の成績等を記録して研究科委員会に報告し、かつ、その意見を開陳する。

② 研究科委員会は、委員の3分の2以上の出席により成立し、その3分の2以上の賛同をもって学位論文の審査ならびに試験の合否を決定する。

③ 前項の議決は、無記名投票をもって行う。

（学位授与）

**第13条** ① 修士または博士の学位は、研究科委員会において学位論文の審査ならびに試験に合格した者に対し、学長が当該研究科委員会の報告に基づき学位を授与する。

② 専門職学位は、当該研究科の修了要件を満たした者に対し、学長が当該研究科委員会の報告に基づき授与する。

（学位論文要旨の公表）

**第14条** 本大学は博士の学位を授与したとき、当該博士の学位を授与した日から3月以内にその論文の内容の要旨および論文審査の結果の要旨を公表する。

（学位論文の公表）

**第15条** 博士の学位を授与された者は、当該博士の学位の授与を受けた日から1年以内にその論文を印刷公表し「慶應義塾大学審査学位論文」と明記するものとする。ただし、学位の授与を受ける前にすでに印刷公表したときはこの限りではない。

（学位の表示）

**第16条** 学位の授与を受けた者が学位の名称を用いるときは、学位の後にこれを授与した本大学名を「（慶應義塾大学）」と付記するものとする。

（学位の取消）

**第17条** 不正の方法により学位の授与を受けた事実が判明したとき、または学位を得た者がその名誉を汚辱する行為があったときは、当該研究科委員会および大学院委員会の議を経てその学位を取消すものとする。

（学位記および書類）

**第18条** 学位記および学位授与申請関係書類の様式は、別表1から別表5までのとおりとする。

（規程の改廃）

**第19条** この規程の改廃は、大学院委員会の議を経て学長が行う。ただし、第2条第1項第1号および第2条の2については大学評議会の議を経てこれを行う。

#### 附 則

① この規程は平成18年5月30日から施行する。

〔以下省略〕

## 1-2 学位の授与に関する内規

昭和59年3月16日制定  
平成12年5月16日改正

**第1条** 慶應義塾大学学位規程第13条（学位授与）に関する取扱いは、この内規の定めるところによる。

**第2条** 論文博士の学位授与および博士課程単位修得退学者で再入学しない者に対する課程博士の学位授与に関しては、次の通り行うものとする。

- 1 学位授与日は、研究科委員会の議決日とする。
- 2 研究科委員会が学位論文審査合格を議決した日以降、「学位取得証明書」を発行できるものとする。
- 3 学位の授与手続きは、次の通りとする。  
イ 研究科委員会の合否判定議決に基づき、研究科委員長はその結果を速やかに学長に報告する。  
ロ 学長は、研究科委員長の報告に基づき合格者に学位を授与する。
- 4 学位記は、学位授与式において授与する。

**第3条** 修士の学位授与および博士課程に在学している者に対する課程博士の学位授与に関しては、前第2条第3号と同様の手続きを経て、当該年度末（3月23日）をもって学位を授与する。

② 前項の規定にかかわらず、修士課程においてあらかじめ研究科委員会の承認を得て、学位論文を提出締切期日までに提出せず次年度も引き続き在学している者が、研究科委員会の特に認めた期日までに学位論文を提出し課程修了を認定された場合には、春学期末日をもって学位を授与することができる。

③ 第1項の規定にかかわらず、後期博士課程（医学研究科にあっては博士課程）に在学する者で、大学院学則第109条第3項のただし書（医学研究科については同条第4項のただし書）の適用を受け、春学期末日をもって課程修了を認定された場合には、当該春学期末日をもって学位を授与することができる。

④ 前項の規定にかかわらず後期博士課程（医学研究科にあっては博士課程）に在学する者で、大学院学則第109条第3項のただし書（医学研究科については同条第4項のただし書）の適用を受け、在学する年度途中において特に課程修了を認定された場合には、認定された日をもって学位を授与することができる。

⑤ 第1項の規定にかかわらず、「大学院在学期間延長者取扱い内規」により在学する者が、春学期末日をもって課程修了を認定された場合には、当該第1学期末日をもって学位を授与することができる。

⑥ 前項の規定にかかわらず、「大学院在学期間延長者取扱い内規」により在学する者が、在学する年度途中において、特に課程修了を認定された場合には、認定された日をもって学位を授与することができる。

⑦ 学位記は、学位授与式において授与する。

**第4条** 学長は、学位を授与した者の氏名その他必要事項を取りまとめて、年2回大学院委員会の各委員に報告しなければならない。

**第5条** この内規の改廃は、大学院委員会の議を経て学長が行う。

附 則（平成12年5月16日）

**第1条** この内規は、平成12年4月1日から実施する。

**第2条** この内規の改廃は、大学院委員会の議を経て学長が行う。

## 2 奨学金

### 2-1 大学院奨学規程

平成2年4月13日制定  
平成6年2月4日改正  
平成10年4月21日改正  
平成17年6月3日改正

#### 第1章 総 則

（根拠）

**第1条** 慶應義塾大学は、慶應義塾大学大学院学則（大正9年5月5日制定。以下「大学院学則」という。）第16節奨学制度に基づき、貸費および給費の奨学制度を置く。

（奨学金の種類・金額）

**第2条** ① 奨学金の種類は、次のとおりとする。

- 1 貸費奨学金（無利子） 修士課程（前期博士課程）学生対象（ただし、外国人留学生を除く。）
- 2 給費奨学金 後期博士課程（以下「博士課程」という。）学生、医学研究科博士課程学生、私費外国人留学生対象

② 前項に定める奨学金の年額は、次のとおりとする。

- |                   |          |
|-------------------|----------|
| 1 文、経済、法、社会、商学研究科 | 400,000円 |
| 2 医学、経営管理研究科      | 600,000円 |
| 3 理工学、政策・メディア研究科  | 500,000円 |

#### 第2章 貸 費 生

（資格）

**第3条** 貸費生の資格は、大学院修士課程の学生（ただし、外国人留学生を除く。）とし、次の条件を備えていなければならない。

- 1 研究の意欲を持ち、経済的に修学が困難であること。
- 2 学業成績・人物共に優秀で健康であること。
- 3 原則として、修士課程1年生であること。

（期間）

**第4条** 貸費の期間は、大学院学則に定める修士課程標準修業年限の2か年とする。ただし、修士課程2年生が貸費生に採用された場合は、1か年とする。

（申請）

**第5条** 貸費を受けようとする者は、所定の申請書に学業成績証明書、健康診断書および連帯保証人等の所得証明書を添えて、学生総合センターに申請するものとする。

（選考）

**第6条** 貸費生は、第3条の条件により選考する。

（決定）

**第7条** 前条による選考は、別に定める大学院奨学委員会（以下「委員会」という。）において行い、塾長がこれを決定する。（家計急変者に対する救済措置等）

**第8条** 天災その他の災害および家計支持者の死亡、失職等のため家計が急激に変化し、学費の納入が困難になった者等若干名については、第3条第3号の規定にかかわらず、貸費生として追加採用することができる。

（誓約書）

**第9条** 貸費生として決定された者は、所定の誓約書を連帯保証人と連署の上、学生総合センターに提出しなければならない。

（身分等変更の届出）

**第10条** 貸費生は、次の各号に該当する場合は、直ちに学生総合センターに届け出なければならない。ただし、本人の病氣・

死亡などの場合は、連帯保証人が代わって届け出なければならない。

- 1 休学、留学、就学、退学
- 2 本人および連帯保証人の氏名、住所、その他重要事項の変更

(貸与の休止)

**第11条** 委員会は、貸費生が休学・留学した場合、その間貸費生の資格を休止することができる。

(貸与の復活)

**第12条** 前条の規定により貸費生の資格を休止された者が、休止の理由となったものが消滅した場合、委員会は、申請により貸与を復活することができる。ただし、休止された時から3か年を経過したときは、この限りではない。

(失格)

**第13条** 委員会が次の各号により不適格と認めた場合、貸費生はその資格を失う。

- 1 大学院学則に基づく退学、停学の場合
- 2 申請書および提出書類の記載内容に虚偽があった場合
- 3 正当な理由がなく第10条に定める届け出を怠った場合
- 4 その他貸費生として不適当と認められた場合

(貸与の辞退)

**第14条** 貸費生は、いつでも貸与を辞退することができる。この場合には、連帯保証人と連署の届出書を、学生総合センターに提出しなければならない。

(貸与金借用証書の提出)

**第15条** 貸費生が次の各号に該当する場合は、貸与金借用証書に貸与金返還総額等を記載し、連帯保証人および保証人と連署の上、学生総合センターに提出しなければならない。連帯保証人および保証人の使用する印鑑については、印鑑証明を必要とする。

- 1 貸与期間が満了した場合
- 2 貸与を期間中に辞退した場合
- 3 第13条による失格の場合

(貸与金の返還)

**第16条** ① 貸与金の返還は、原則として貸与が終了した年の12月から毎年1回の年賦とし、貸与年数の4倍の年数以内に全額を返還するものとする。ただし、貸与金はいつでも繰り上げ返還することができる。

② 第13条による失格者については、貸与金の全額を直ちに返還しなければならない。

(返還猶予)

**第17条** ① 貸費生であった者が次の各号に該当する場合には、委員会は、本人の申請により貸与金の返還を猶予することができる。

- 1 災害または疾病により返済が困難となった場合
- 2 貸与期間終了後、引き続き修士課程に在学している場合
- 3 修士課程修了後、博士課程進学を目指している場合

② 前項の規定にかかわらず、委員会は、その理由が相当であると認めるときは、申請により貸与金の返還を猶予することができる。

③ 返還猶予期間は1か年とするが、返還猶予の理由が存続する場合は、第1項第3号に基づく場合を除いて、申請により1年ごとに延長することができる。ただし、原則として3か年を越えて延長することはできない。

(返還免除)

**第18条** ① 貸費生であった者が次の各号に該当する場合には、委員会は、本人または連帯保証人の申請により、貸与金

の全部または一部の返還を免除することができる。

- 1 博士課程に進学し、学位を取得した場合、あるいは博士課程に3年以上在学して所定の単位を取得し退学した場合。ただし、博士課程を途中で退学した者については免除を認めない。
  - 2 貸与金返還完了前に死亡した場合。この場合には、連帯保証人または相続人は、死亡時から6か月以内に、貸与金返還免除申請書を、死亡診断書または戸籍抄本を添えて、学生総合センターに提出しなければならない。
- ② 前項の規定にかかわらず、委員会は、その理由が相当であると認めるときは、申請により貸与金の全部または一部の返還を免除することができる。

### 第3章 給費生

(資格)

**第19条** 給費生の資格は、大学院博士課程学生および私費外国人留学生とし、次の条件を備えていなければならない。

- 1 研究の意欲を持ち、経済的に修学が困難であること。
- 2 学業成績・人物共に優秀で健康であること。

(期間)

**第20条** 給費の期間は、1か年とする。引き続き給費を希望する場合、再申請は妨げないが、3か年（医学研究科は4か年）を超えて給費を受けることはできない。

(申請)

**第21条** 給費を受けようとする者は、所定の申請書に、学業成績証明書、健康診断書および連帯保証人等の所得証明書を添えて、学生総合センターに申請するものとする。

(選考)

**第22条** 給費生は、第19条の条件により選考する。

(決定)

**第23条** 前条による選考は、委員会において行い、塾長がこれを決定する。

(身分等変更の届出)

**第24条** 給費生は、次の各号に該当する場合は、直ちに学生総合センターに届け出なければならない。ただし、本人の病気・死亡などの場合は、連帯保証人が代わって届け出なければならない。

- 1 休学、留学、退学
- 2 本人および連帯保証人の氏名、住所、その他重要事項の変更

(失格)

**第25条** 委員会が次の各号により不適格と認めた場合、給費生はその資格を失う。

- 1 大学院学則に基づく休学、退学、停学の場合
- 2 申請書および提出書類の記載内容に虚偽があった場合
- 3 正当な理由がなく前条に定める届け出を怠った場合
- 4 その他給費生として不適当と認められた場合

(返還)

**第26条** ① 給費生が前条の規定により給費生としての資格を失った場合は、すでにその年度に給付された金額の全部または一部を返還しなければならない。委員会は、この場合の返還方法を、審査の上定める。

② 前項の規定にかかわらず、次の各号に該当する場合は、委員会は、申請によりすでに給付された奨学金の全部または一部の返還を免除することができる。

- 1 死亡した場合
- 2 前条第1号の規定により、給費生として資格を失った場合

(事務)

**第27条** 本制度の運営事務は、学生総合センターの所管とする。

(規定の改廃)

**第28条** この規程の改廃は、委員会の議を経て、塾長が行う。

**附 則**

- ① この規程は、平成3年4月1日から施行し、平成3年度大学院課程入学から適用する。
- ② この規程の制定により、昭和52年4月12日制定、同年4月1日施行の慶應義塾大学大学院奨学規程は、これを旧・慶應義塾大学大学院奨学規程とする。
- ③ 平成3年3月31日以前の課程入学者については、旧・慶應義塾大学大学院奨学規程を適用する。

**附 則** (平成6年2月4日)

この規程は、平成6年4月1日から施行する。

**附 則** (平成10年4月21日)

- ① この規程は、平成10年4月1日から施行する。
- ② 平成3年3月31日以前の課程入学者については、旧・慶應義塾大学大学院奨学規程を適用する。
- ③ 平成10年4月1日以後の修士課程(前期博士課程)第1学年入学者については、本規程第3条から第18条を適用しない。
- ④ 平成10年4月1日以後の修士課程(前期博士課程)入学者を、本規程第2条第1項第2号および第19条の対象に加えるものとする。

**附 則** (平成17年6月3日)

この規程は、平成17年6月3日から施行する。

## 2-2 小泉信三記念大学院特別奨学金規程

昭和52年4月12日制定

昭和54年7月27日改正

平成14年5月1日改正

平成16年3月15日改正

**第1条** 小泉信三記念奨学金規程(昭和52年4月12日制定)第2条第1号に基づき、研究者の養成を目的として大学院に特別奨学金による奨学研究生を置く。

**第2条** 奨学研究生は、学部第4学年に在学し大学院への進学を志願する学生、または大学院に在学する学生の中から、これを選考する。

**第3条** 奨学研究生の選考は、各研究科委員会の推薦により、小泉基金運営委員会の議を経て学長がこれを決定する。

**第4条** 奨学研究生には特別奨学金として、月額30,000円を給付し、その期間は1年とする。ただし、審査の上、この期間を更新することができる。

**第5条** この特別奨学金規程に関する事務は、研究支援センター本部が担当する。

**第6条** この規程に関する細則は別に定める。

**附 則**

- ① この規程は、昭和52年4月1日から施行する。
- ② 現行小泉信三記念大学院特別奨学金規程は旧・小泉信三記念大学院特別奨学金規程とする。

**附 則** (昭和54年7月27日)

この規程は、昭和54年9月1日から施行する。

**附 則** (平成14年5月1日)

この規程は、平成14年5月1日から施行する。

**附 則** (平成16年3月15日)

この規程は、平成16年3月15日から施行する。

## 2-3 小泉信三記念大学院特別奨学金規程施行細則

昭和52年4月12日制定

昭和54年7月27日改正

平成14年5月1日改正

平成16年3月15日改正

**第1条** 小泉基金運営委員会委員長は、毎年奨学研究生を公募する。

**第2条** 奨学研究生は、大学院に在学し、次に掲げる各号の条件を備えていなければならない。

- 1 学業成績・人物共に優秀であること
- 2 将来、研究者たり得る資質ありと認められること
- 3 健康であること

**第3条** 奨学研究生を志望する者は、次の書類を整えて、保証人連署の上、研究支援センター本部に提出しなければならない。

- 1 願 書
- 2 履歴書
- 3 成績証明書 大学学部1年から申請時までの成績証明書
- 4 健康診断書

**第4条** 各研究科委員会は、奨学研究生を志望した者について審議し、順位を付して小泉基金運営委員会に推薦しなければならない。

**第5条** 奨学研究生は、次の理由により身分に変更を生じた場合は、保証人連署の上、直ちに学長に届け出なければならない。

- 1 休学・復学・退学
- 2 本人および保証人の身分・住所その他重要事項の変更。ただし、本人が病気・死亡等の場合は、保証人が代って届け出なければならない。

**第6条** 小泉基金運営委員会が、次の理由により不適格と認められた場合は、奨学研究生としての資格を失うものとし、すでに支給した奨学金の全部もしくは一部を返還させることがある。

- 1 この奨学金設定の趣旨に反し、かつ塾生としての本分にもとる行為があった場合
- 2 提出書類に虚偽の記載をした場合
- 3 正当な理由なく前条に定める届け出を怠った場合

**第7条** 奨学研究生が退学した場合は、給付を打ち切るものとする。

**附 則**

- ① この細則は、昭和52年4月1日から施行する。
- ② 現行小泉信三記念大学院特別奨学金規程施行細則は旧・小泉信三記念大学院特別奨学金規程施行細則(昭和43年3月26日制定)とする。

**附 則** (昭和54年7月27日)

この細則は、昭和54年9月1日から施行する。

**附 則** (平成14年5月1日)

この細則は、平成14年5月1日から施行する。

**附 則** (平成16年3月15日)

この細則は、平成16年3月15日から施行する。

### 3 授業料減免

#### 3-1 慶應義塾大学授業料等減免規程

平成元年 7 月 18 日制定  
平成 16 年 7 月 27 日改正

(目的)

**第 1 条** 慶應義塾大学は、疾病・傷害によって授業を長期にわたり休学している学部学生ならびに大学院生で、経済上授業料等(大学院にあつては在学科等。以下「授業料等」という。)の納入が著しく困難な学生に対し、審査のうえ、一定の期間授業料等を減免することができる。

(対象)

- 第 2 条** ① 減免を受けようとする者は、1 年以上の長期にわたり入院または通院している者ならびに自宅療養をしている者で、休学の 2 年目以降の者でなければならない。
- ② 母国において兵役義務により休学する者。この場合に限り 1 年目から減免する。
- ③ 法務研究科(法科大学院)については別に定める。

(申請)

**第 3 条** 前条に該当する者が減免を申請する場合は、所定の申請書に休学許可書、診断書ならびに家計支持者の所得を証明する書類を添えて、学生総合センター長に提出しなければならない。

(減免額)

- 第 4 条** ① 減免を認められた者の減免額は、文科系学部・同大学院研究科については授業料等の半額、医学部・同大学院研究科、理工学部・同大学院研究科、総合政策学部、環境情報学部、大学院政策・メディア研究科および看護医療学部については授業料等の半額および実験実習費の半額とする。なお、経済学研究科、法学部政治学科、理工学研究科、総合政策学部、環境情報学部、大学院政策・メディア研究科および看護医療学部は、休学期間が 6 か月毎のため減免額も半年分の半額とする。
- ② 正課または課外活動中の事故による傷害で休学している場合、その事由を斟酌し、減免額を全額とすることができる。
- ③ 母国において兵役義務により休学する場合は、当該休学期間の授業料等の全額を免除する。

(審査)

**第 5 条** 第 1 条による審査は、大学学部生については大学奨学委員会、大学院生については大学院奨学委員会が行い、塾長が決定する。

(減免の取消し)

**第 6 条** 休学者が虚偽の申請その他不正の方法で減免を受けた場合には、減免の措置を取り消すとともに、すでに減免を受けた授業料等の全部または一部を納入させることができる。

(就学の届出)

**第 7 条** 休学者が就学した時は、速やかに書面をもってその旨学生総合センター長に届け出なければならない。

(規程の改廃)

**第 8 条** この規程の改廃は、大学奨学委員会ならびに大学院奨学委員会の議を経て、塾長が決定する。

(所管)

**第 9 条** この規程の運営事務は、学生総合センターの所管とする。

附 則 (平成 16 年 7 月 27 日)

この規程は、平成 17 年 4 月 1 日から施行する。

#### 3-2 留学期間中の学費の取り扱いに関する規程

平成元年 5 月 23 日制定  
平成 12 年 5 月 30 日改正

**第 1 条** 慶應義塾大学学部学則(大正 9 年 5 月 5 日制定)第 153 条および慶應義塾大学大学院学則(大正 9 年 5 月 5 日制定)第 124 条により外国の大学に留学する学生(以下「留学生」という。)の学費に関する取り扱いは、この規程の定めるところによる。

**第 2 条** 留学期間中の学費の取り扱いは、次のとおりとする。

- 1 留学の始まる日(以下「留学開始日」という。)の属する年度の学費は納入するものとする。ただし、留学の奨励を図るため、別に定めるところにより、留学に要する経費の一部を補助することがある。
- 2 留学の延長が認められ、その許可された延長期間が留学開始日から起算して 1 年 6 か月以上 2 年以内(医学研究科博士課程は 2 年 6 か月以上 3 年以内)の場合は、留学開始日から 1 年(医学研究科博士課程は 2 年)を経過した日の属する年度の授業料(在学科)および実験実習費の半額を免除する。
- 3 留学の再延長が認められ、その許可された延長期間が留学開始日から起算して 2 年 6 か月以上 3 年以内(医学研究科博士課程は 3 年 6 か月以上 4 年以内)の場合は、留学開始日から 2 年(医学研究科博士課程は 3 年)を経過した日の属する年度の授業料(在学科)および実験実習費の半額を免除する。

**第 3 条** 前条にかかわらず、大学院在学中に私費により留学する場合は別に定める。

**第 4 条** 留学生が留学の許可を取り消された場合は、その間に免除した学費の一部または全額を納入させることがある。

**第 5 条** この規程の適用に当たり疑義を生じた場合は、その都度塾長が決定する。

**第 6 条** この規程の改廃は、塾長がこれを決定する。

附 則 (平成 12 年 5 月 30 日)

この規程は、平成 12 年 4 月 1 日から施行する。

#### 3-3 大学院生が私費により留学した場合の学費の取り扱いに関する内規

平成 18 年 3 月 24 日制定

**第 1 条** 「留学期間中の学費の取り扱いに関する規程」第 3 条については、この内規の定めるところによる。

**第 2 条** 大学院生が私費により留学した場合の学費の取り扱いは次のとおりとする。

(取扱単位)

- 1 留学期間は学期(春学期・秋学期)を単位として取り扱う。

(対象学期)

- 2 減免の対象となる学期とは留学により在学しなかった学期とする。

(減免額)

- 3 前項で減免の対象となった学期の属する年度の在学科および実験実習費について、年額の 4 分の 1 を各学期において免除する。

(減免期間)

4 免除される期間は最長6学期までとする。ただし、留学期間中に交換または奨学金による留学が含まれる場合は、その期間に該当する学期を含んで6学期までとする。

**第3条** この内規の改廃は、大学院委員会の議を経て塾長がこれを決定する。

#### 附 則

- ① この内規は平成18年4月1日から施行する。
- ② この内規は、留学開始日が平成18年4月1日以降の者に適用する。
- ③ この内規の施行前、すでに留学を許可され留学している者の学費については、「留学期間中の学費の取り扱いに関する規程」第2条第1項～3項を適用する。

## 4 その他

### 4-1 大学院在学期間延長者取扱内規

昭和59年3月16日制定

**第1条** 本塾大学大学院後期博士課程（医学研究科にあっては博士課程）において、当該課程修了要件のうち学位論文の審査並びに最終試験を除き所定の教育課程を終えた後、引続き博士学位取得のために在学する者の取扱いは、この内規の定めるところによる。

**第2条** 在学期間延長を希望する者は、指導教授の許可を得て研究科委員会に「在学期間延長許可願」を提出し、承認を得なければならない。

**第3条** 研究科委員会は、研究継続の必要性等在学を延長する十分な理由があると認め、かつ教育並びに研究に支障のない場合、大学院学則第128条に定める在学最長年限を超えない範囲で引続き1年間（4月1日～翌年3月31日）の在学を許可できるものとする。

**第4条** 在学期間延長者が延長期間終了後も引続き在学を希望するときには、新たに「在学期間延長許可願」を提出し、研究科委員会の承認を得なければならない。

**第5条** 学則定員その他の理由から延長が認められない場合は、大学院学則第153条に定める研究生として受け入れることができる。

#### 附 則

**第1条** この内規は、昭和59年4月1日から施行する。

**第2条** この内規は、昭和58年度以降に医学研究科博士課程に入学した者並びに昭和60年度以降に後期博士課程に入学または進学した者に適用する。

**第3条** 附則第2条の規定にかかわらず、博士課程所定単位修得退学者に対して課程による学位論文提出年限を「博士学位に関する内規」に沿って定めている研究科に在学する者については、昭和59年4月1日からこの内規を適用することができる。

**第4条** この内規の改廃は、大学院委員会の議を経て学長が行う。

### 4-2 大学院在学期間延長者並びに年度途中の修了者に対する在学科その他の学費に関する取扱内規

昭和59年3月30日制定  
平成8年3月8日改正

**第1条** 本塾大学大学院において「学位の授与に関する内規」第3条第2項若しくは第3項により第1学期末日をもって課程修了する者の学費は、次の通りとする。

- 1 在学科（毎年）  
大学院学則第131条に定める金額の2分の1に相当する額
- 2 施設設備費（毎年）  
大学院学則第131条に定める金額
- 3 実験実習費（毎年）  
大学院学則第132条に定める金額

**第2条** 本塾大学大学院後期博士課程（医学研究科にあっては博士課程）において「大学院在学期間延長者取扱内規」による在学期間延長者の学費は、次の通りとする。

- 1 在学科（毎年）  
大学院学則第131条に定める金額の4分の3
- 2 施設設備費（毎年）  
免除
- 3 実験実習費（毎年）  
大学院学則第132条に定める金額

② 在学期間延長者が「学位の授与に関する内規」第3条第4項および第5項により年度途中の日をもって課程修了する場合の在学科は、その課程修了の日が第1学期末日までの者に限り前項に定める金額の2分の1に相当する額。

**第3条** 「大学院在学期間延長者取扱内規」第5条による研究生は、大学院学則第153条第2項に定める登録料を免除し、初年度に限り選考料を徴収しない。

#### 附 則

**第1条** この内規は、平成8年4月1日から施行する。

**第2条** この内規の修士課程に係る本則第1条については、昭和59年4月1日から適用する。

**第3条** この内規の後期博士課程（医学研究科にあっては博士課程）に係る本則第2条および第3条については、昭和58年度以降に医学研究科博士課程に入学した者並びに昭和60年度以降に後期博士課程に入学または進学した者に適用する。

② 前項の規定にかかわらず、博士課程所定単位修得退学者に対して課程による学位論文提出期限を「博士学位に関する内規」に沿って定めている研究科に在学する者については、昭和59年4月1日からこの内規を適用することができる。

**第4条** この内規の改廃は、塾長が決定する。

# 学位請求論文製本表紙見本

(1) 表紙

〇〇論文 平成〇年度 (20〇〇)
論 題
慶應義塾大学 大学院 文学研究科 〇〇〇専攻 〇〇〇分野
氏 名

(2) 背表紙

	} 1.0 cm
20〇〇	
	} 1.0 cm
〇 〇 論文	
	} 1.0 cm
論  題	
氏  名	} 5.0~6.0 cm

## 塾生、保護者・保証人の方々にかかわる個人情報の取扱い

- 1 義塾の学生・生徒・児童等の主な個人情報は、次のとおりです。
  - ① 塾生本人の氏名・住所・電話番号・生年月日・出身校等
  - ② 保護者・保証人の氏名・住所・電話番号(自宅および緊急連絡先)・本人との続柄等
  - ③ 塾生等の学籍・成績・健康診断・在学中のその他の活動履歴情報、寄付金・慶應カードの申し込みデータなど
  
- 2 個人情報を取り扱うに当たっては、あらかじめ利用目的を特定し、明示いたします。特定した利用目的以外には利用しません。また、利用目的を変更する場合は、本人に通知するか、義塾のホームページへの掲載、所定掲示板への掲示等により公表いたします。
  
- 3 個人情報は、以下の諸業務遂行のために利用します。
  - ① 入学手続および学事に関する管理、連絡および手続
  - ② 学生生活全般に関する管理、連絡および手続き
  - ③ 大学内の施設・設備利用に関する管理、連絡および手続
  - ④ 寄付金、維持会・慶應カードの募集等に関する書類発送およびその他の連絡
  - ⑤ 本人および保護者・保証人に送付する各種書類の発送
  - ⑥ 卒業後の刊行物の発送、評議員選挙および寄付金・維持会・慶應カードの募集等に関する各種書類送付とこれらに付随する事項
  
- 4 上記3の業務のうち、一部の業務を慶應義塾から当該業務の委託を受けた受託業者において行います。業務委託に当たり、受託業者に対して委託した業務を遂行するために必要となる範囲で、個人情報を提供することがあります。
  
- 5 三田会または同窓会から要請があったときは、当該三田会または同窓会に所属する者の個人情報を当該組織の活動に必要な範囲で提供することがあります。
  
- 6 慶應義塾は、上記3～5の利用目的の他には、特にお断りする場合を除いて個人情報を利用もしくは第三者への提供をいたしません。ただし、法律上開示すべき義務を負う場合や、塾生本人または第三者の生命、身体、財産その他の権利利益を保護するために必要であると判断できる場合、その他緊急の必要があり個別の承諾を得ることができない場合には、例外的に第三者に個人情報を提供することがあります。
  
- 7 慶應義塾の個人情報保護に関する規程は、URL(<http://www.keio.ac.jp/kojinjoho/kojinjoho-toriatukai>)でご覧頂くことができます。



# 三田キャンパス構内マップ

